盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅳ

－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成 13 ～ 18 年度発掘調査①－

台太郎遺跡

２０１２．９

独立行政法人 都市再生機構
盛岡市・盛岡市教育委員会

盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅳ

－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成 13 ～ 18 年度発掘調査①－

台太郎遺跡

２０１２．９

独立行政法人 都市再生機構
盛岡市・盛岡市教育委員会

序

盛岡市は，東北地方の東部を南北に縦断する北上川と，その支流である雫石川・中津川が合流する地点に中心市街地が形成され，北に雄大な岩手山と姫神山を望む，岩手県の県庁所在地です。その骨格は，約 400 年前に南部氏により築城された盛岡城を中心とした城下町であり，藩政そして県政の中心として，また交通の要衝として栄えてきました。

近年の盛岡市は，平成 4 年 4 月に南に隣接する都南村と，平成 18 年 1 月に北に隣接する玉山村と合併し，人口約 30 万人，面積約 886 平方キロメートルという北東北の拠点都市となるとともに，平成 20 年 4 月には中核市へ移行しました。

この中心市街地の南西部，雫石川の南に広がる田園地帯に職住近接の新市街地を形成しようというのが「盛南開発構想」で，全体計画の約 7 割にあたる 313.5 ヘクタールを整備するのが「盛岡南新都市開発整備事業」です。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で，平成 3 年 12 月に事業認可，土地区画整理事業の整備手法により平成 7 年 11 月より着工されています（愛称「ゆいとぴあ盛南」）。

それに伴い，当該区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地 17 遺跡，計約 90 ヘクタールのうち，整備事業によって消滅を余儀なくされる遺跡の発掘調査を，平成 5 年度から当市教育委員会と公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行い，本年度が野外調査の最終年度となっており，発掘調査報告書作成を現在も継続しているところであります。

本報告書は，当市教育委員会が平成 13 年度から 18 年度に実施した発掘調査のうち，台太郎遺跡の調査成果について報告するものです。区画整理事業は現在も継続中ではありますが，市民の皆様をはじめ，各学校や教育機関・研究者等の方々に，当該地域の歴史を知るためにご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが，発掘調査を実施するにあたり，多大なるご協力やご指導を賜りました都市再生機構岩手都市開発事務所ならびに岩手県教育委員会生涯学習文化課，公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに対し深く感謝申し述べると共に，発掘調査にご理解とご協力をいただきました地権者各位ならびに地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 24 年 9 月

盛岡市教育委員会

教育長　千葉　仁一

例　言

1　本書は、岩手県盛岡市本宮・下鹿妻・向中野・北飯岡・飯岡新田・南仙北に所在する盛南地区遺跡群において,「盛岡南新都市開発整備事業（通称:盛南開発)」及び関係事業に伴い平成 13 年度から 18 年度に実施した発掘調査の報告書である。なお,「盛南地区遺跡群」の名称については，事業区域内に所在する計 17 遺跡を包括する総称として使用し，本書ではそのうち台太郎遺跡の調査成果を報告する。

2　本書の編集及び刊行事務は盛岡市遺跡の学び館が行い，執筆作業を津嶋知弘が担当した。

3　遺構平面位置は，日本測地系　平面直角座標Ｘ系を座標変換した調査座標で表示した。

・調査座標軸は，日本測地系第Ｘ系に準じる

・調査座標原点

台太郎遺跡　　Ｘ -35,500.000　Ｙ +26,500.000　→　ＲＸ ± 0　ＲＹ ± 0

4　高さは，標高値をそのまま使用した。

5　土層断面図は堆積のしかたを重視し，線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

層名の記号は次のとおりとした。

記　号	
遺構堆積土	Ａ～Ｉ層
竪穴住居カマド崩壊土	Ｊ層
竪穴住居カマド構築土	Ｋ層
床構築土	Ｌ層
地形形成堆積土（遺物包含層含む）	Ｉ（ローマ数字）～層

6　遺構記号は次のとおりとした。

記　号			
竪穴住居跡	ＲＡ	溝跡	ＲＧ
建物跡	ＲＢ	配石･集石遺構	ＲＨ
柱列跡	ＲＣ	井戸跡	ＲＩ
土坑	ＲＤ	土器埋設	ＲＰ
竪穴状遺構	ＲＥ	古墳･円形周溝ほか	ＲＸ
焼土遺構	ＲＦ	土坑墓ほか	ＲＺ

7　遺構番号は，県埋文センター調査遺構番号との整合を図り，以下のとおりとした。

本調査精査遺構：3 桁または 4 桁の遺跡内連続番号（基本的に県埋文センター調査遺構番号に連続，一部欠番あり）

8　遺構平面図の線種は次のとおりとした。

検出	実線 ――――――
推定	破線 － － － － － － －
時期差	一点鎖点 ― ・ ― ・ ― ・ ―

9　古代の竪穴住居跡のカマド方向は，カマド本体中心（炊き口）から煙道先端（煙出し）を結んだ線の方向の傾きとした。

10　古代の土器区分は，土師器・須恵器・あかやき土器に分類した。「あかやき土器」の名称は，ロクロ使用の酸化煙焼成土器（坏類，甕類，鉢）に使用し，ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は「土師器」に分類した。

11　古代の土器の実測図作成については，坏類は口縁部残存 1/4 以上かつ底部まで残存するもの，甕類は口縁部残存 1/4 以上かつ体部以下まで残存するものを基本とし，必要に応じて破片実測も行った。また拓本は，須恵器甕類のタタキ目等器面調整が確認できるものとした。

13　発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は，盛岡市遺跡の学び館で保管している。

14　当該調査の一部については，現地説明会資料等により報告しているものもあるが，本書の記載内容をもって訂正する。

「盛岡南新都市開発整備事業」及び関係事業に係る発掘調査報告書 (平成 24 年 9 月現在)

＜公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（本報告）＞

1995 年 3 月『本宮熊堂 B 遺跡第 1 次発掘調査報告書 - 盛南開発事業関連遺跡発掘調査 -』第 226 集

1996 年 3 月『小幅遺跡第 2 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業 -』第 244 集

1996 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 7 年度)』第 246 集〔小幅遺跡 6 次〕

1996 年 11 月『小幅遺跡第 4 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 265 集

1997 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 8 年度)』第 266 集〔宮沢遺跡 4 次 , 本宮熊堂 A 遺跡 7 次〕

1998 年 3 月『小幅遺跡第 5 次・第 7 次発掘調査報告書 - 盛岡西バイパス建設事業関連発掘調査 -』第 267 集

1998 年 3 月『大宮北遺跡・本宮熊堂 A 遺跡発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 265 集〔大宮北遺跡 4 次，本宮熊堂 A 遺跡 6 次〕

1998 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 9 年度)』第 282 集〔稲荷遺跡 3 次 , 野古 A 遺跡 9 次 ･10 次〕

1999 年 3 月『熊堂 B 遺跡第 5 次・台太郎遺跡第 16 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 293 集

1999 年 1 月『本宮熊堂 B 遺跡第 4 次・鬼柳 A 遺跡第 4 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 308 集

1999 年 3 月『台太郎遺跡第 15 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 309 集

1999 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 10 年度)』第 311 集〔飯岡才川遺跡 2 次〕

2000 年 1 月『向中野館遺跡第 3 次・小幅遺跡第 10 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 388 集

2000 年 3 月『向中野館遺跡第 4 次・小幅遺跡第 11 次・台太郎遺跡第 19 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 321 集

2000 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 11 年度)』第 340 集〔小幅遺跡 13 次 ･14 次〕

2001 年 3 月『台太郎遺跡第 22 次発掘調査報告書 - 盛岡東警察署警察官待機宿舎建設事業関連発掘調査 -』第 365 集

2001 年 3 月『台太郎遺跡第 18 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 369 集

2001 年 3 月『台太郎遺跡第 26 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 416 集

2002 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 12 年度)』第 370 集〔鬼柳 A 遺跡 7 次 , 本宮熊堂 B 遺跡 9 次 ･11 次 , 小幅遺跡 15 次 ･16 次 , 飯岡才川遺跡 4 次〕

2002 年 2 月『熊堂 B 遺跡第 10 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 377 集

2002 年 3 月『飯岡才川遺跡第 3 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 393 集

2002 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 13 年度）』第 397 集〔台太郎遺跡 36 次 , 細谷地遺跡 6 次〕

2003 年 3 月『台太郎遺跡第 23 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 415 集

2003 年 3 月『台太郎遺跡第 35 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 417 集

2003 年 3 月『台太郎遺跡第 44 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 422 集

2003 年 3 月『細谷地遺跡発掘調査報告書 - 第 4･5 次調査 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査』第 414 集

2003 年 3 月『飯岡沢田遺跡第 3 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 418 集

2003 年 3 月『飯岡沢田遺跡第 5 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 419 集

2003 年 3 月『野古 A 遺跡第 12 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 420 集

2003 年 3 月『野古 A 遺跡第 15 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 421 集

2003 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 14 年度）』第 423 集〔矢盛遺跡 4 次 , 稲荷遺跡 5 次〕

2004 年 2 月『矢盛遺跡第 3 次・熊堂 B 遺跡発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 451 集

2004 年 3 月『本宮熊堂 A 遺跡第 17 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 453 集

2004 年 3 月『細谷地遺跡第 8 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 454 集

2004 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 15 年度）』第 455 集〔稲荷遺跡 6 次 , 本宮熊堂 B 遺跡 19 次 , 台太郎 50 次 ･52 次 , 野古 A 遺跡 19 次 ･20 次，飯岡才川遺跡 5 次 ･6 次 , 細谷地遺跡 7 次〕

2004 年 12 月『本宮熊堂 B 遺跡第 13･15･20 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 467 集

2005 年 2 月『本宮熊堂 B 遺跡第 18 次発掘調査報告書 - 国道 46 号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査 -』第 458 集

2005 年 2 月『台太郎遺跡第 51 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 468 集

2005 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 16 年度）』第 469 集〔稲荷遺跡 8･9 次 , 台太郎遺跡 53 次 , 矢盛遺跡 5 次〕

2005 年 12 月『矢盛遺跡第 6 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 488 集

2006 年 2 月『飯岡沢田遺跡第 9･10 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 489 集

2006 年 2 月『本宮熊堂 A 遺跡第 24 次・本宮熊堂 B 遺跡第 25 次発掘調査報告書 - 一般国道 46 号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査 -』第 470 集

2006 年 3 月『台太郎遺跡第 54 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 486 集

2006 年 3 月『本宮熊堂 B 遺跡第 27 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 487 集

2006 年 3 月『平成 17 年度発掘調査報告書』第 490 集〔宮沢遺跡 11 次 , 本宮熊堂 B 遺跡 30 次 ･31 次〕

2007 年 2 月『飯岡才川遺跡第 8･9 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 494 集

2007 年 3 月『細谷地遺跡第 9 次・第 10 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 500 集

2007 年 2 月『野古 A 遺跡第 23･24･29 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 501 集

2007 年 3 月『本宮熊堂 A 遺跡第 26･29 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 502 集

2007 年 3 月『向中野館遺跡第 5･6 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 503 集

2007 年 2 月『向中野館遺跡第 7･8 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 504 集

2008 年 1 月『飯岡才川遺跡第 12 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 515 集

2008 年 1 月『矢盛遺跡第 10･11 次・向中野館遺跡第 9 次・台太郎遺跡第 58 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 516 集

2008 年 2 月『飯岡才川遺跡第 7･13 次・細谷地遺跡第 12 次・矢盛遺跡第 9 次発掘調査報告書 - 一般国道 46 号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査 -』第 508 集

2008 年 2 月『細谷地遺跡第 13 次・第 14 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 513 集

2008 年 2 月『細谷地遺跡第 15 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 514 集

2008 年 3 月『平成 19 年度発掘調査報告書』第 524 集〔細谷地遺跡 18 次 , 矢盛遺跡 14 次〕

2009 年 2 月『矢盛遺跡第 12･13 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 534 集

2009 年 2 月『細谷地遺跡第 16･17 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査 -』第 535 集

2009 年 3 月『平成 20 年度発掘調査報告書』第 546 集〔飯岡才川遺跡 15 次 , 矢盛遺跡 20 次 , 焼野遺跡 1･2 次〕

2009 年 12 月『矢盛遺跡第 18･19 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 -』第 555 集

2010 年 2 月『細谷地遺跡第 19･20 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 -』第 556 集

2010 年 3 月『細谷地遺跡第 10･11 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 -』第 557 集

2010 年 3 月『平成 21 年度発掘調査報告書』第 571 集〔矢盛遺跡 25･26 次〕

2011 年 3 月『細谷地遺跡第 24・25 次 向中野館遺跡第 12・13 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 -』第 577 集

2011 年 2 月『矢盛遺跡第 23・24 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 -』第 578 集

2011 年 3 月『台太郎遺跡第 66 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 -』第 579 集

2011 年 2 月『飯岡才川遺跡第 16 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 -』第 580 集

2012 年 3 月『矢盛遺跡第 27 次・野古Ａ遺跡第 30 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 -』第 594 集

2012 年 3 月『細谷地遺跡第 26 次発掘調査報告書 - 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 -』第 596 集

2012 年 3 月『平成 23 年度発掘調査報告書』第 603 集〔矢盛遺跡 29 次〕

＜盛岡市教育委員会＞

1998 年 3 月『盛岡市埋蔵文化財調査年報 - 平成 5･6 年度 -』〔南仙北遺跡 12･13･14 次〕

2002 年 3 月『盛岡市内遺跡群 - 平成 13 年度発掘調査報告 -』〔台太郎遺跡 40・41 次〕

2005 年 3 月『盛岡市内遺跡群 - 平成 15 年度 ･16 年度発掘調査報告 -』〔台太郎遺跡 55 次〕

2007 年 3 月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ - 盛岡南新都市開発整備事業平成 5 ～ 12 年度発掘調査① - 大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳Ａ遺跡』〔大宮北遺跡 8・9 次，小幅遺跡 8・12・17 次，宮沢遺跡 5 次，鬼柳Ａ遺跡 5 次〕

2009 年 3 月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅱ - 盛岡南新都市開発整備事業平成 5 ～ 12 年度発掘調査② - 稲荷遺跡・本宮熊堂Ａ遺跡・本宮熊堂Ｂ遺跡・野古Ａ遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・南仙北遺跡』〔稲荷遺跡 1･1 次補足，本宮熊堂Ａ遺跡 2･2 次補足，本宮熊堂Ｂ遺跡 3･3 次補足 ･8･11 次，飯岡沢田遺跡 1・2 次，飯岡才川遺跡 1 次，向中野館遺跡第 1･2 次，細谷地遺跡 2 次，矢盛遺跡 2 次，南仙北遺跡 15 ～ 17･22 ～ 24･27･28･30 ～ 32･35 次〕

2010 年 11 月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ - 盛岡南新都市開発整備事業平成 5 ～ 12 年度発掘調査③ - 台太郎遺跡』〔台太郎遺跡 9 ～ 14・17・20・21・24・25・27 ～ 34 次〕

2012 年 5 月『台太郎遺跡 -「フローラルアベニュー向中野」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 -』〔台太郎遺跡 73 次〕

目　次

第１章　経過

第１節　調査の経過 …… 1
第２節　発掘調査作業の経過 …… 2
第３節　資料整理作業の経過 …… 2
第４節　調査体制 …… 4

第２章　遺跡群の位置と環境

第１節　地理的環境 …… 6
第２節　歴史的環境 …… 8

第３章　調査成果

第１節　遺跡の立地 …… 9
第２節　調査内容 ……15

(1) 第 37 次調査（平成 13 年度）……15
(2) 第 38 次調査（平成 13 年度）……16
(3) 第 39 次調査（平成 13 年度）……17
(4) 第 42 次調査（平成 13 年度）……27
(5) 第 43 次・43 次補足調査
（平成 13・14 年度）……28
(6) 第 45 次調査（平成 14 年度）……29
(7) 第 46 次調査　（平成 14 年度）……48
(8) 第 47 次調査　（平成 14 年度）……49
(9) 第 48 次調査　（平成 14 年度）……50
(10) 第 49 次調査（平成 14 年度）……50
(11) 第 56 次調査（平成 17 年度）……50
(12) 第 57 次調査（平成 17 年度）……50

第４章　総括

1.調査のまとめ ……58

表
図
写真図版
抄録

表　目　次

挿表 1　台太郎遺跡調査一覧表〔平成 13 ～ 18 年度〕 … 3
第 1 表　第 39 次調査ピット計測表 …… 65
第 2 表　第 45 次調査ピット計測表（1） …… 66
第 3 表　第 45 次調査ピット計測表（2） …… 67
第 4 表　第 45 次調査ピット計測表 …… 68
第 5 表　第 37 次調査出土土器観察表 …… 69
第 5 表　第 39 次調査出土土器観察表（1） …… 69
第 7 表　第 39 次調査出土土器観察表（2） …… 70
第 8 表　第 39 次調査出土遺物観察表 …… 70
第 9 表　第 42 次調査出土土器観察表 …… 70
第 10 表　第 45 次調査出土土器観察表（1）…… 71
第 11 表　第 45 次調査出土土器観察表（2）…… 72
第 12 表　第 45 次調査出土遺物観察表…… 73
第 13 表　第 46 次調査出土土器観察表…… 73
第 14 表　第 46 次調査出土遺物観察表…… 73
第 15 表　第 57 次調査出土土器観察表…… 74
第 16 表　第 57 次調査出土土器観察表…… 74
第 17 表　第 39 次調査出土陶磁器観察表…… 75
第 18 表　第 45・46・57 次調査出土古銭観察表…… 75
第 19 表　竪穴住居跡一覧表 …… 76

図　目　次

挿図 1　盛南地区遺跡群位置図 …… 7
挿図 2　台太郎遺跡位置図 …… 10
挿図 3　台太郎遺跡全体図 …… 11
第 1 図　第 37 次調査区全体図 …… 79
第 2 図　第 37 次調査 RA523 竪穴住居跡…… 80
第 3 図　第 37 次調査 RD959 ～ 963 土坑，
RG403・404 溝跡 …… 81
第 4 図　第 39 次調査区全体図 …… 82
第 5 図　第 39 次調査 RA524・527 竪穴住居跡 …… 83
第 6 図　第 39 次調査 RA525 竪穴住居跡…… 84
第 7 図　第 39 次調査 RA526 竪穴住居跡…… 85
第 8 図　第 39 次調査 RA528 竪穴住居跡…… 86
第 9 図　第 39 次調査 RA529・531・533 竪穴住居跡，
SF062 焼土遺構 …… 87
第 10 図　第 39 次調査 RA530・532 竪穴住居跡…… 88
第 11 図　第 39 次調査 RA534 竪穴住居跡 …… 89
第 12 図　第 39 次調査 RA535 竪穴住居跡 …… 90
第 13 図　第 39 次調査 RB043 掘立柱建物跡 …… 91
第 14 図　第 39 次調査 RD964・970 土坑，RG042・410・
411・421・422 溝跡，ピット …… 92
第 15 図　第 39 次調査 RD966・967・968 土坑，RG042・
408・409・410・414・415・416・417・418・
420・423 溝跡，ピット…… 93
第 16 図　第 39 次調査 RD972 土坑，RG042・405・406・
415・419・420・423・424 溝跡，ピット …… 94
第 17 図　第 39 次調査 RG042・423 溝跡，ピット…… 95
第 18 図　第 39 次調査 RD971・973 土坑，
RG042・423 溝跡，ピット …… 96
第 19 図　第 39 次調査 RD965・969・972 土坑，RG407・
412・413・424 溝跡，ピット …… 97
第 20 図　第 39 次調査土坑・溝跡断面図…… 98
第 21 図　第 39 次調査ピット断面図…… 99
第 22 図　第 42 次調査区全体図…… 100
第 23 図　第 45 次調査区全体図…… 101

第 24 図　第 45 次調査区西半部全体…… 102
第 25 図　第 45 次調査区東半部全体図…… 103
第 26 図　第 45 次調査 RA565a・b・c 竪穴住居跡（1） 104
第 27 図　第 45 次調査 RA565a・b・c 竪穴住居跡（2） 105
第 28 図　第 45 次調査 RA565d 竪穴住居跡 …… 106
第 29 図　第 45 次調査 RA566 竪穴住居跡 …… 107
第 30 図　第 45 次調査 RA567 竪穴住居跡 …… 108
第 31 図　第 45 次調査 RA568 竪穴住居跡 …… 109
第 32 図　第 45 次調査 RA569a・b 竪穴住居跡 …… 110
第 33 図　第 45 次調査 RA570a・b 竪穴住居跡 …… 111
第 34 図　第 45 次調査 RA571 竪穴住居跡 …… 112
第 35 図　第 45 次調査 RA572 竪穴住居跡 …… 113
第 36 図　第 45 次調査 RA573・574・577 竪穴住居跡 114
第 37 図　第 45 次調査 RA575 竪穴住居跡 …… 115
第 38 図　第 45 次調査 RA576 竪穴住居跡 …… 116
第 39 図　第 45 次調査 RB049 掘立柱建物跡・
RC003 柱列跡 …… 117
第 40 図　第 45 次調査 RB050・051 掘立柱建物跡…… 118
第 41 図　第 45 次調査 RB052・053 掘立柱建物跡…… 119
第 42 図　第 45 次調査 RE057・059 竪穴状遺構…… 120
第 43 図　第 45 次調査 RE058 竪穴状遺構 …… 121
第 44 図　第 45 次調査 RE060 竪穴状遺構 …… 122
第 45 図　第 45 次調査 RD1079・1080・1081・1098・
1099 土坑，RG042・467・468 溝跡，ピット 123
第 46 図　第 45 次調査 RD1077・1078・1084・1085・
1100・1104・1105・1107・1111・1113 土坑，
RG424W・467・469・470・472・475・476・
477 溝跡，ピット …… 124
第 47 図　第 45 次調査 RD1086・1101・1114 土坑，
RG471・472 土坑，ピット …… 125
第 48 図　第 45 次調査 RD1087・1088・1093・1095・
1106・1108・1109・1110 土坑，RG473 溝跡，
ピット …… 126
第 49 図　第 45 次調査 RG424W 溝跡，ピット …… 127
第 50 図　第 45 次調査 RD1089・1090・1091・1092・
1094・1096・1097・1102・1103・1112 土坑，
RG474 溝跡，ピット …… 128
第 51 図　第 45 次調査土坑・溝跡断面図…… 129
第 52 図　第 45 次調査溝跡・ピット断面図…… 130
第 53 図　第 45 次調査ピット断面図…… 131
第 54 図　第 46 次調査区全体図…… 132
第 55 図　第 46 次調査 RA578 竪穴住居跡 …… 133
第 56 図　第 46 次調査 RA579 竪穴住居跡 …… 134
第 57 図　第 56 次調査区全体図・RD2004 土坑 …… 135
第 58 図　第 57 次調査区全体図…… 136
第 59 図　第 57 次調査 RA614・618 竪穴住居跡…… 137
第 60 図　第 57 次調査 RA615 竪穴住居跡 …… 138
第 61 図　第 57 次調査 RA616 竪穴住居跡 …… 139
第 62 図　第 57 次調査 RA617 竪穴住居跡 …… 140
第 63 図　第 57 次調査 RA619 竪穴住居跡 …… 141
第 64 図　第 57 次調査 RB054・055 掘立柱建物跡…… 142
第 65 図　第 57 次調査 RD2005 ～ 2010 土坑 …… 143
第 66 図　第 57 次調査 RG520・521 溝跡…… 144
第 67 図　第 57 次調査 RG520 ～ 524 溝跡 …… 145
第 68 図　第 57 次調査ピット（1）…… 146
第 69 図　第 57 次調査ピット（2）…… 147
第 70 図　第 37 次調査 RA523 出土土器 …… 148
第 71 図　第 39 次調査 RA525 出土土器 …… 149
第 72 図　第 39 次調査 RA528 出土土器（1） …… 150
第 73 図　第 39 次調査 RA528 出土土器（2） …… 151
第 74 図　第 39 次調査 RA535 出土土器 …… 152
第 75 図　第 39 次調査 RA534 出土土器（1） …… 153
第 76 図　第 39 次調査 RA534 出土土器（2） …… 154
第 77 図　第 39 次調査 RD971・RG042 出土土器 …… 154
第 78 図　第 39 次調査 RA524・526・529・533 出土土器 155
第 79 図　第 39 次調査出土土製品…… 155
第 80 図　第 39 次調査出土鉄製品…… 156
第 81 図　第 42 次調査 RG440・441 出土土器…… 157
第 82 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（1） …… 158
第 83 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（2） …… 159
第 84 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（3） …… 160
第 85 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（4） …… 161
第 86 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（5） …… 162
第 87 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（6） …… 163
第 88 図　第 45 次調査 RA566・567 出土土器…… 164
第 89 図　第 45 次調査 RA569・570 出土土器…… 165
第 90 図　第 45 次調査 RA571・572 出土土器…… 166
第 91 図　第 45 次調査 RA573・575 出土土器…… 167
第 92 図　第 45 次調査 RD1077・1086・1089・1092・
1094・1108，RG424・468・471 出土土器… 168

第 93 図　第 45 次調査出土土製品・鉄製品…… 169
第 94 図　第 46 次調査 RA578 出土土器 …… 170
第 95 図　第 46 次調査 RA578・579 出土土器…… 171
第 96 図　第 46 次調査出土土製品・鉄製品…… 171
第 97 図　第 57 次調査 RA614・615・616・619
出土土器 …… 172
第 98 図　第 57 次調査 RA617 出土土器 …… 173
第 99 図　第 57 次調査 RD2006・2008・2009 出土土器 174
第 100 図　第 57 次調査出土土製品・石製品 …… 174
第 101 図　第 39 次調査出土陶磁器 …… 175
第 102 図　第 39 次調査出土陶器 …… 176
第 103 図　第 45 次調査出土古銭 …… 177
第 104 図　第 46 次調査出土古銭 …… 177
第 105 図　第 57 次調査出土古銭 …… 177

写真図版目次

第 1 図版　盛南開発地区航空写真（北から）…… 181
第 2 図版　台太郎遺跡第 37 次調査 …… 182
調査区北西部全景（南西から）
調査区南東部全景（西から）
RA523 竪穴住居跡（南東から）
第 3 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（1）…… 183
調査区全景（北から）
調査区全景（垂直）
第 4 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（2）…… 184
RA524 竪穴住居跡（東から）
RA525 竪穴住居跡（北西から）
RA525 竪穴住居跡カマド付近（西から）
第 5 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（3）…… 185
RA526 竪穴住居跡（北東から）
RA528 竪穴住居跡（西から）
RA528 竪穴住居跡遺物出土状況（西から）
第 6 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（4）…… 186
RA529 竪穴住居跡（西から）
RA529 竪穴住居跡遺物出土状況（南から）
RA530 竪穴住居跡（南東から）
第 7 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（5）…… 187
RA534 竪穴住居跡（南東から）
RA534 竪穴住居跡遺物出土状況（南から）
RA535 竪穴住居跡（東から）
第 8 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（6）…… 188
RG042E 堀跡（東から）
RG042E 溝跡断面（西から）
RG042W 溝跡断面（南から）
第 9 図版　台太郎遺跡第 42 次調査 …… 189
調査区全景（東から）
RA546 竪穴住居跡焼土・貯蔵穴（北西から）
RG440 溝跡・RD983 土坑（南から）
第 10 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（1）…… 190
調査区全景（南から）
調査区全景（垂直）
第 11 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（2）…… 191
RA565 竪穴住居跡（南から）
RA565a 竪穴住居跡カマド付近（南東から）
RA565 竪穴住居跡床構築土内遺物出土状況
第 12 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（3）…… 192
RA566 竪穴住居跡（南東から）
RA567 竪穴住居跡（東から）
RA568 竪穴住居跡（東から）
第 13 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（4）…… 193
RA569 竪穴住居跡（北から）
RA570 竪穴住居跡（南から）
RA571 竪穴住居跡（西から）
第 14 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（5）…… 194
RA572 竪穴住居跡（南から）
RA573 竪穴住居跡（南西から）
RA573 竪穴住居跡遺物出土状況（南西から）
第 15 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（6）…… 195
RA574 竪穴住居跡（南から）
RA575 竪穴住居跡（南から）
RA576 竪穴住居跡（南西から）

第 16 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（7）…… 196
RE060 竪穴状遺構（東から）
RB049 掘立柱建物跡（東から）
RB052 掘立柱建物跡（北から）
第 17 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（8）…… 197
RG042 堀跡（南から）
RG042 堀跡断面（北から）
RA424W 堀跡（北から）
第 18 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（9）…… 198
RG424W 堀跡断面（北から）
RG424E 堀跡（西から）
RG424E 堀跡断面（西から）
第 19 図版　台太郎遺跡第 46 次調査…… 199
調査区全景（北西から）
RA578 竪穴住居跡（南東から）
RA579 竪穴住居跡（北西から）
第 20 図版　台太郎遺跡第 56 次調査…… 200
調査区全景（南から）
RD2004 土坑（西から）
RD2004 土坑断面（南から）
第 21 図版　台太郎遺跡第 57 次調査（1）…… 201
調査区全景（南から）
調査区全景（北から）
第 22 図版　台太郎遺跡第 57 次調査（2）…… 202
RA614 竪穴住居跡（北東から）
RA615 竪穴住居跡（南から）
RA617 竪穴住居跡（東から）
第 23 図版　台太郎遺跡第 57 次調査（3）…… 203
RA619 竪穴住居跡（西から）
RD2009 土坑（北西から）
RD2009 土坑袋状ピット
第 24 図版　台太郎遺跡第 57 次調査（4）…… 204
RB054 掘立柱建物跡（北から）
RB055 掘立柱建物跡（東から）
第 25 図版　台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（1）…… 205
第 26 図版　台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（2）…… 206
第 27 図版　台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（3）…… 207
第 28 図版　台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（4）…… 208
第 29 図版　台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（5）…… 209
第 30 図版　台太郎遺跡第 42 次調査出土土器…… 210
第 31 図版　台太郎遺跡第 45 次調査出土土器（1）…… 211
第 32 図版　台太郎遺跡第 45 次調査出土土器（2）…… 212
第 33 図版　台太郎遺跡第 45 次調査出土土器（3）…… 213
第 34 図版　台太郎遺跡第 45 次調査出土土器（4）…… 214
第 35 図版　台太郎遺跡第 46 次調査出土土器（1）…… 215
第 36 図版　台太郎遺跡第 46 次調査出土土器（2）…… 216
第 37 図版　台太郎遺跡第 57 次調査出土土器…… 217
第 38 図版　台太郎遺跡出土刻書土器・墨書土器 …… 218
第 39 図版　台太郎遺跡出土土製品・石製品・鉄製品　219
第 40 図版　台太郎遺跡出土陶磁器 …… 220
第 41 図版　台太郎遺跡出土古銭 …… 221

第１章　経過

第１節　調査の経過

「盛岡南新都市開発整備事業」は，北東北の中核都市および岩手県の県都として担うべき都市機能の充実を図るため，旧城下町から発展して形成された既存の中心市街地南西部に新市街地を開発整備し，既成市街地・盛岡駅西口地区（旧国鉄跡地）・盛岡南地区を結ぶ「軸状都心」を形成することで，都市構造をよりよく改めようと策定された土地区画整理事業である。

平成２年９月に岩手県･盛岡市･都南村（現盛岡市，平成４年４月合併）の３者が，地域振興整備公団（以下「公団」と呼ぶ，現独立行政法人都市再生機構）に対して事業申請を行い，公団は実施計画を作成，翌平成３年 12 月に当時の建設大臣および国土庁長官から実施許可が下り，事業が開始された。

埋蔵文化財の取り扱いについては，昭和 50 年の国土庁長官・建設省からの行政指導に則して，公団と岩手県・盛岡市・都南村は「覚書」，およびその「確認書」において以下のように文書を取り交わしている。

「盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書」（平成３年 12 月 11 日）　記の７（3）

県，市及び村は，環境の保全及び文化財の保護につき，協力して所要の調整を行い，事業の推進を図るものとする。

「盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書の確認書」（平成３年 12 月 11 日）　記の５

「覚書」の記の７の（3）の文化財保護における埋蔵文化財発掘調査について，国庫補助事業及び公共施設管理者負担金の対象となる都市計画道路に係る敷地の調査については，公団が県，市及び村に委託するものとし，その他の敷地については市及び村において調査するものとする。

このため，県，市及び村は，土地区画整理事業の認可までに，公団からの委託分を含めた埋蔵文化財発掘調査計画を立案し，これを県，市，村及び公団で確認の上，他機関への委託を含めた調査の実施に必要な体制を確保することにより，事業の円滑な推進を図るものとする。

なお，事業のスケジュールが調査実施者の都合により遅延した場合には，県，市及び村は，適切な方策を講ずるものとする。

上記に基づく協議の結果，遺跡の要調査範囲を確定する試掘確認調査を市教育委員会が実施し，その結果を受けての本調査を市,村及び公団から委託を受けて財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」と呼ぶ）が実施することとなった。

しかし，本調査対象面積が広大であることから，平成 10 年度以降は市教育委員会も本調査の実施を開始。平成 11 年度以降は市教育委員会も公団と受委託契約を締結し，県埋文センターと市教育委員会の両者が調整を図りながら本調査を実施することで，現在に至っている。

第２節　発掘調査作業の経過

盛岡南新都市開発整備事業にともなう埋蔵文化財の発掘調査は，平成５年度から継続して実施されている。

土地区画整理事業の工事計画や進捗にあわせて，埋蔵文化財包蔵地の範囲確認や遺構密度を確認するための試掘確認調査を実施し，その成果を受けて効率的な本調査が実施できるよう調整を行っている。しかし，地権者との交渉や農地補償等の問題から，埋蔵文化財包蔵地範囲の全域について，試掘確認調査を実施することは現実的に不可能であり，状況に即した対応を行っている。

本書で報告の対象としている台太郎遺跡の平成 13 ～ 18 年度の調査成果の概要は，挿表 1 のとおりである。

第３節　資料整理作業の経過

当市教育委員会が，本事業の本調査を始めたのは，平成 10 年度からである。また平成 11 年度からは公団と発掘調査の受委託契約を締結し，公団施工範囲（都市計画道路分）の本調査も実施してきた。この際は，予算措置の問題や職員体制が十分でないことを考慮して，年度ごとの発掘調査報告書の刊行は断念することとし，報告書刊行は事業の進捗を見ながら順次まとめて行うものとし，年度内はその基礎となる資料整理作業のみを行っていた。

平成 12 年 12 月 24 日未明，市立厨川小学校敷地内にあった文化財調査室にて火災が発生し，昭和 30 年建設の老朽化した木造 2 階建ての旧校舎は全焼した。市教育委員会では昭和 57 年度から文化財調査室として埋蔵文化財の資料整理･収蔵保管の拠点として使用してきた場所である。当然，本事業の発掘調査成果（図面･写真･出土資料の一部）も収蔵されており，罹災により調査成果の完全復元はきわめて難しい状況となった。市教育委員会は，文化庁の指導及び補助事業の採択を受け，埋蔵文化財の調査研究・収蔵管理・普及活用を目的として，新たな拠点となる埋蔵文化財センターとして，博物館施設が集積する本宮地区の盛岡市中央公園内に「盛岡市遺跡の学び館」を建設，平成 16 年 6 月に開館した。その間も，本事業にともなう発掘調査と資料整理作業，および罹災資料の復元作業を継続して行い，現在に至っている。

本事業関連遺跡発掘調査報告書を刊行するにあたり，以下の指針をもって実施することとしている。

①平成 5 ～ 12 年度の発掘調査に係る罹災資料について，速やかに再整理と報告書刊行を行う。
②平成 5 ～ 12 年度発掘調査報告書は，膨大な量の資料が罹災したこともあり，1 冊の報告書として報告することは現実的に困難なため，数遺跡ごとに分冊刊行することで年次計画を立て優先的に報告する。
③平成 13 年度以降事業終了年度までの調査成果は，上記報告書刊行の進捗状況を見ながら，数遺跡または数年度ずつをまとめて分冊とし，報告する。

上記のうち，指針①②については平成 22 年度までに計 3 分冊として刊行を完了している。本報告書は，指針③に基づく通算 4 分冊目（平成 13 ～ 18 年度調査 2 分冊のうち 1 分冊目）の報告書である。

挿表 1　台太郎遺跡発掘調査一覧表〔平成 13 ～ 18 年度〕

遺跡名	略号	次数	年度	調査方法	所在地	面積（㎡）	調査期間	遺構・遺物	調査原因	調査主体	報告書
台太郎	ODT	35	H13	本調査	向中野字向中野 37-2 他	4,394	2001.4.17 ～ 2001.8.2	奈良時代竪穴住居跡 5，平安時代竪穴住居跡 10，古代土坑 4・溝跡 11・竪穴 1	土地区画整理（盛南開発）	県埋文	県 417 集
		36	H13	本調査	向中野字向中野 37-3 他	290	2001.5.22 ～ 2001.6.5	ピット 4	土地区画整理（盛南開発）	県埋文	県 397 集
		37	H13	本調査	向中野字向中野 20-1 他	872	2001.5.28 ～ 2001.6.22	奈良時代竪穴住居跡 1, 古代以降土坑 5・溝跡 2	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		38	H13	本調査	向中野字向中野 15-2,3-4	309	2001.6.1 ～ 2001.6.15	なし	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		39	H13	本調査	向中野字向中野 20-1 他	1,302	2001.8.1 ～ 2001.11.2	奈良・平安時代竪穴住居跡 12・土坑 10・溝跡 18・焼土遺構 1，中世掘立柱建物跡 1・堀跡 2，近世以降溝跡 1	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		40	H13	本調査	向中野字八日市場 41-2	300	2001.8.1 ～ 2001.9.19	平安時代竪穴住居跡 3，古代土坑 2・溝跡 10，近世以降竪穴 1・土坑 2・ピット	個人住宅新築	市教委	H13 遺跡群
		41	H13	本調査	向中野字八日市場 45-9	220	2001.8.2 ～ 2001.9.19	奈良時代竪穴住居跡 4，平安時代竪穴住居跡 2，古代土坑 3・溝跡 5，ピット	個人住宅新築	市教委	H13 遺跡群
		42	H13	本調査	向中野字八日市場 28-4	123	2001.11.26 ～ 2001.12.12	平安時代竪穴住居跡 1・土坑 2・溝跡 2	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		43	H13	本調査	向中野字向中野 22 他	112	2001.11.26 ～ 2001.12.12	なし	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		44	H14	本調査	向中野字八日市場 41-1	2,907	2002.4.9 ～ 2002.8.5	古墳時代末～奈良時代竪穴住居跡 11・竪穴 1・土坑 7，平安時代竪穴住居跡 9・掘立柱建物跡 2・土坑 4・溝跡 20，中世以降掘立柱建物跡 3・土坑 26・堀跡 1・溝跡 3・焼土 2・竪穴 1・ピット	土地区画整理（盛南開発）	県埋文	県 422 集
		43 補	H14	本調査	向中野字向中野 22 他	42	2002.4.22	なし	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		45	H14	本調査	向中野字八日市場 30-2,31-1	1,618	2002.5.7 ～ 2002.8.9	平安時代竪穴住居跡 13，古代竪穴状遺構 4，古代以降土坑 36，溝跡 11，中世堀跡 2・掘立柱建物跡 5・掘立柱列跡 1	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		46	H14	本調査	向中野字向中野 35-2 他	334	2002.10.11 ～ 2002.11.12	奈良時代竪穴住居跡 2	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		47	H14	試掘確認	向中野 2 丁目 1-7	184（対象 842）	2002.11.6	なし	アパート新築	市教委	本書
		48	H14	試掘保存	向中野 2 丁目 5-8・9	326（対象 2,068）	2002.11.21 ～ 2002.11.22	古代竪穴住居跡・土坑・溝跡	店舗新築	市教委	本書
		49	H14	試掘確認	向中野 1 丁目 17-2 の一部	49（対象 541）	2002.12.24 ～ 2002.12.25	なし	アパート新築	市教委	本書
		50	H15	本調査	向中野字向中野 37-5 他	540	2003.6.2 ～ 2003.11.10	古代土坑 2・溝跡 2	土地区画整理（盛南開発）	県埋文	県 455 集
		51	H15	本調査	向中野字八日市場 8-4 他	6,616	2003.4.11 ～ 2003.11.10	縄文時代晩期竪穴住居跡 4・竪穴 2，奈良・平安時代竪穴住居跡 22・竪穴 3・土坑 65・溝跡 29・井戸跡 1・焼土 1	土地区画整理（盛南開発）	県埋文	県 468 集
		52	H15	本調査	向中野字八日市場 7-1 他	595	2003.8.1 ～ 2003.9.3	平安時代竪穴 1・溝跡 8	国道 46 号盛岡西バイパス建設	県埋文	県 455 集
		53	H16	本調査	向中野字向中野 37-3 他	240	2004.5.6 ～ 2004.6.2	古代溝跡 5・土坑 1	土地区画整理（盛南開発）	県埋文	県 469 集
		54	H16	本調査	向中野字向中野 19 他	5,052	2004.4.12 ～ 2004.8.6	古墳～奈良時代竪穴住居跡 4・土坑 2，平安時代竪穴住居跡 9・竪穴 4・土坑 10・溝跡 17，中世堀跡 1	土地区画整理（盛南開発）	県埋文	県 486 集
		55	H16	本調査	向中野字向中野 35-26	203	2004.6.7 ～ 2004.7.9	古墳時代末～奈良時代竪穴住居跡 1，中世～近世溝跡 2，中世～近代の土坑 12，近世竪穴 1，近世～近代溝跡 2，中世以降の掘立柱列 1，ピット	個人住宅新築	市教委	H16 遺跡群
		56	H17	本調査	向中野字向中野 20-2 他	50（対象 160）	2005.6.20 ～ 2005.6.21	平安時代土坑 1	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		57	H17	本調査	向中野字向中野 9 他	1,047	2005.6.6 ～ 2005.8.5	平安時代竪穴住居跡 6・土坑 1，近世以降掘立柱建物跡 2・土坑 5・溝跡 5・ピット	土地区画整理（盛南開発）	市教委	本書
		58	H18	本調査	向中野字向中野 40-16 他	3,945	2006.8.7 ～ 2006.11.24	奈良時代竪穴住居跡 10，平安時代竪穴住居跡 1，中世掘立柱建物跡 4・堀跡 2，時期不詳掘立柱建物跡 10・土坑 16・溝跡 14・ピット	土地区画整理（盛南開発）	県埋文	県 516 集

第４節　体制

〔委 託 者〕 地域振興整備公団（～平成 16 年 6 月），独立行政法人都市再生機構（平成 16 年 7 月～）
〔調査主体〕 盛岡市教育委員会
〔事 務 局〕 盛岡市教育委員会事務局文化課（～平成 18 年度），歴史文化課（平成 19 年度～）
〔調　　査〕 盛岡市教育委員会事務局文化課文化財係（～平成 15 年度），
　　盛岡市遺跡の学び館（平成 16 年度～）
〔助　　言〕 文化庁，岩手県教育委員会，公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〔協　　力〕 発掘調査，資料整理，報告書編集にあたり，地権者及び地元関係者の方々，そして多くの県内外文化財関係職員の方々より多大なる協力を得た。記して感謝申し上げる。

〔発掘調査担当者（本書掲載分）〕

台太郎遺跡　第 37 次調査（平成 13 年度）　今野公顕
第 38 次調査（平成 13 年度）　今野公顕
第 39 次調査（平成 13 年度）　三浦陽一・今野公顕
第 42 次調査（平成 13 年度）　三浦陽一
第 43 次調査（平成 13 年度）　三浦陽一
第 43 次補足調査（平成 14 年度）　三浦陽一
第 45 次調査（平成 14 年度）　三浦陽一・今野公顕・佐々木亮二
第 46 次調査（平成 14 年度）　三浦陽一
第 47 次調査（平成 14 年度）　花井正香
第 48 次調査（平成 14 年度）　花井正香
第 49 次調査（平成 14 年度）　花井正香
第 56 次調査（平成 17 年度）　今野公顕
第 57 次調査（平成 17 年度）　今野公顕・齋藤麻紀子

盛岡市教育委員会文化財保護関係職員（平成 24 年度）

教 育 長　千葉　仁一

教育部長　佐藤　義見

教育次長　柴田　道明

歴史文化課（事務局）

参事・課長事務取扱	田山浩充
主幹兼課長補佐	
（埋蔵文化財担当 , 兼務）	千田和文
主幹兼課長補佐	袖上　寛
副主幹（文化財・史跡担当）	大沼信忠
主査（兼務）	吉田　尚
文化財主査（兼務）	室野秀文
文化財主査	菊地幸裕
文化財主査（兼務）	津嶋知弘
文化財主査（兼務）	神原雄一郎
学芸主査	岡　　聰
主任（兼務）	江本敦史
文化財主任	権頭祐子
文化財主任	今野公顕
文化財主任（兼務）	花井正香
文化財主任（兼務）	佐々木亮二
主事	寺島幸子
文化財調査員	渡邉久美子
文化財調査員	米沢　綾
文化財調査員	福島　茜
事務嘱託	齊藤晃大

遺跡の学び館（施設）

館長事務取扱（兼務）	田山浩充
主幹兼館長補佐	千田和文
主査	吉田　尚
文化財主査	室野秀文
文化財主査	津嶋知弘
文化財主査	神原雄一郎
主任	江本敦史
文化財主任	佐々木亮二
文化財調査員	佐々木紀子
文化財調査員	三品花菜子
文化財調査員	川下里美
学芸調査員	山岸佳澄
学芸調査員	山野友海

第2章　遺跡群の位置と環境

第１節　地理的環境

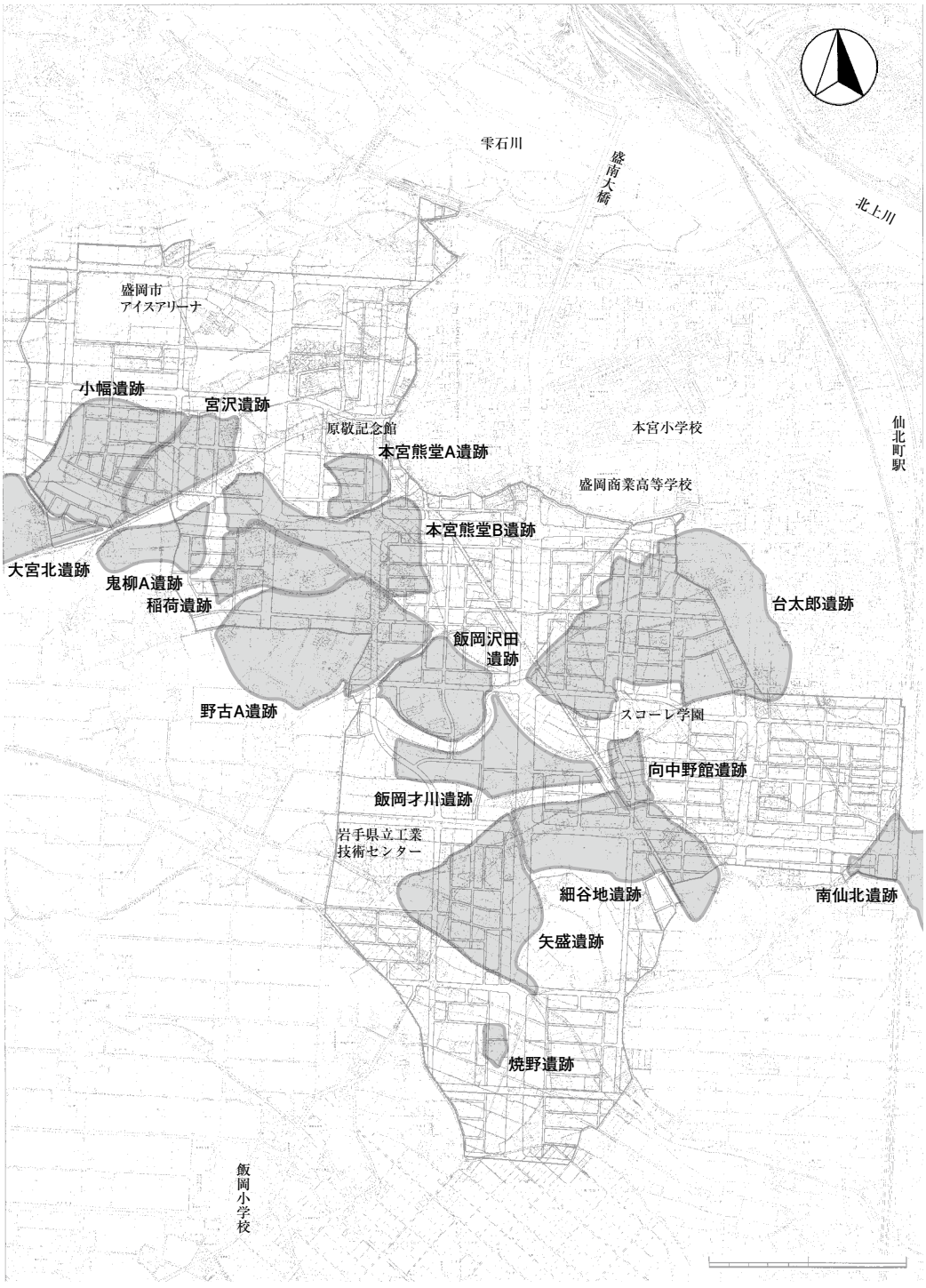
盛岡市は岩手県の中央部に位置する。平成４年４月に南に隣接する都南村と，平成 18 年１月に北に隣接する玉山村と合併し，人口 298,572 人（平成 22 年国勢調査人口速報値），面積 886.47㎢の県庁所在地である。平成 20 年４月には中核市へ移行している。

現在，市街地南西部の 313.5ha を対象に「盛岡南新都市開発整備事業」に係る土地区画整理事業が実施されている。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で，平成３年 12 月に事業認可を受け，平成７年 11 月より着工している。これにともない，事業区域内の埋蔵文化財発掘調査を平成４年度から県埋文センターと市教育委員会が実施している。

「盛南地区遺跡群」は，盛岡南新都市開発整備事業区域内に所在する計 17 遺跡，大宮北遺跡・小幅遺跡・宮沢遺跡・鬼柳Ａ遺跡・稲荷遺跡・本宮熊堂Ａ遺跡・本宮熊堂Ｂ遺跡・野古Ａ遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・台太郎遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・焼野遺跡・夕覚遺跡・南仙北遺跡が該当し，盛岡市本宮字大宮，本宮４丁目・６丁目・７丁目，向中野１丁目・２丁目・３丁目・５丁目，北飯岡１丁目，本宮字野古，下鹿妻字北，向中野字野原・字細谷地・字鶴子・字幅，飯岡新田２地割・３地割・４地割，南仙北２丁目に所在する（挿図 1）。なお所在地名は，土地区画整理事業完了地区の住居表示整備により，平成 23 年２月，平成 24 年２月に旧字名から変更となっており，平成 25 年２月にも一部の変更が予定されている。

盛岡は，岩手県から宮城県を南流する北上川に中津川・雫石川・簗川といった支流の合流点である北上盆地の北端にあり，本遺跡群は，北上川の西岸とその支流である雫石川の南岸に広がる沖積段丘上に立地する。雫石川は奥羽山脈から東流し，鳥泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦付近（市内上太田）で急激に流路を狭められ，その狭窄部を抜け北上盆地に入り，北上川と合流する。雫石川の北岸には岩手山を供給源とする火山砕石流堆積物と火山灰層がのる台地が発達していることにより，狭窄部以東の南岸に流路転換が顕著に見られ，沖積段丘（砂礫段丘）が発達している。

沖積段丘は，水成砂礫層を基底とし，その上に水成シルト層，そして表土が覆っている。基本層はおおむねこの３層に分類されるが，砂礫層の上面高をはじめ、それぞれの層相･層厚は地点によって大きく異なる。また，このシルト層は旧河道ばかりでなく，微高地などにも堆積している。このことは，この低位沖積段丘は，雫石川が周辺の山地から供給される砂礫やシルトによって堆積され，さらに河道の定まらない雫石川の下刻や堆積を繰り返されたことによるものと言える。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており，連続する大きなものは４条，そのほかにも網目状に細かな旧河道も確認されており，複雑な河道変遷を示す。それらに画された微高地に，古代を中心とした遺跡が分布している。



挿図１　盛南地区遺跡群位置図（新街区は盛岡南新都市開発整備事業）

第２節　歴史的環境

本遺跡群の立地する沖積段丘上では，縄文時代～古墳時代にかけての遺構遺物の発見は少なく，遺跡のほとんどは７世紀中葉以降の集落遺跡といえる。

縄文・弥生時代の遺構遺物は，本宮熊堂Ａ遺跡や台太郎遺跡で縄文時代晩期を中心とする竪穴住居跡や遺物包含層が検出されている。その他の各遺跡からは遺物が散見する程度であり，主体的なものではない。また，詳細な時期を特定する要素は乏しいが，飯岡才川遺跡など多くの遺跡で縄文時代の陥し穴が確認されている。

古墳時代末，７世紀中葉の遺構遺物は，数は多くはないが台太郎遺跡などで確認されている。これ以降集落が継続的に営まれる。奈良時代，８世紀中葉以降竪穴住居跡を主体とした集落跡が増加する。この時期の集落は，大型竪穴住居を中心としてその周囲に中～小型の竪穴住居が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向がある。

９世紀，平安時代初頭の延暦 22 年（803）には，本遺跡群の西方に「志波城」（下太田方八丁他）が造営される。志波城は東北経営のために朝廷が造営した古代城柵であり，当時「蝦夷（エミシ）」と呼ばれていた人々の社会に大きな影響を与えたと考えられる。征夷大将軍であった坂上田村麻呂が朝廷の命を受け造営した志波城は，北側を流れる雫石川の度重なる洪水の被害を受け，およそ 10 年で文室綿麻呂の建議により徳丹城（矢巾町西徳田）に移転したことが記録に見られる。その後，徳丹城は９世紀中葉までにはその機能を停止し，本地域も含む北上盆地一帯は，鎮守府胆沢城（奥州市水沢区九蔵田）による一城統治の体制となる。

以降，９世紀中葉から本地域では竪穴住居を主体とした集落数が増加の一途をたどる。それにともない竪穴住居の規模の大小差は縮小するようになり，重複が著しく見られるようになる傾向がある。その中でも，向中野館遺跡の低湿地から古代の祭祀に関係すると考えられる遺物の出土や，飯岡沢田遺跡・飯岡才川の円形周溝墓群や火葬骨蔵器など，本地域内の集落機能使の分化もみられる。

また，９世紀後葉から 10 世紀中葉にかけては，地区の拠点的な集落も姿を現すようになる。細谷地遺跡では，微高地の南斜面に沿うように２×２間の総柱の掘立柱建物跡が東西に並立し，倉庫群が存在したと考えられる。また大宮北遺跡や，本地域の北西，志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡で，規模の大きな官衙的な掘立柱建物を計画的に配置した集落も発見されており，在地有力者の拠点と考えられる。

11 ～ 12 世紀にかけての，様相ははっきりしないが，12 世紀末～ 13 世紀初頭頃のものと考えられるかわらけが，大宮遺跡の大溝跡から多量に出土している。13 世紀後半には，台太郎遺跡で不整五角形の平面形となる居館が営まれ，地域を支配した豪族の存在が想定される。さらに同遺跡では，土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も検出されており，出土遺物から 15 世紀頃までの存続が考えられる。また向中野館遺跡や矢盛遺跡でも，堀跡が検出されており，出土遺物やその平面形から 16 世紀代を中心とする居館と考えられている。

江戸時代に入ると，雫石川は現在の流路となり，旧河道の東側には奥州道中（街道）や仙北組町が開かれ，本地域は水田地帯に農家が点在する農村地帯となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物跡や土坑墓，南仙北遺跡では道路跡などの近世の遺構が発見されており，この姿は盛南開発が行われる直前の本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。

第3章　調査成果

第１節　遺跡の立地と概要

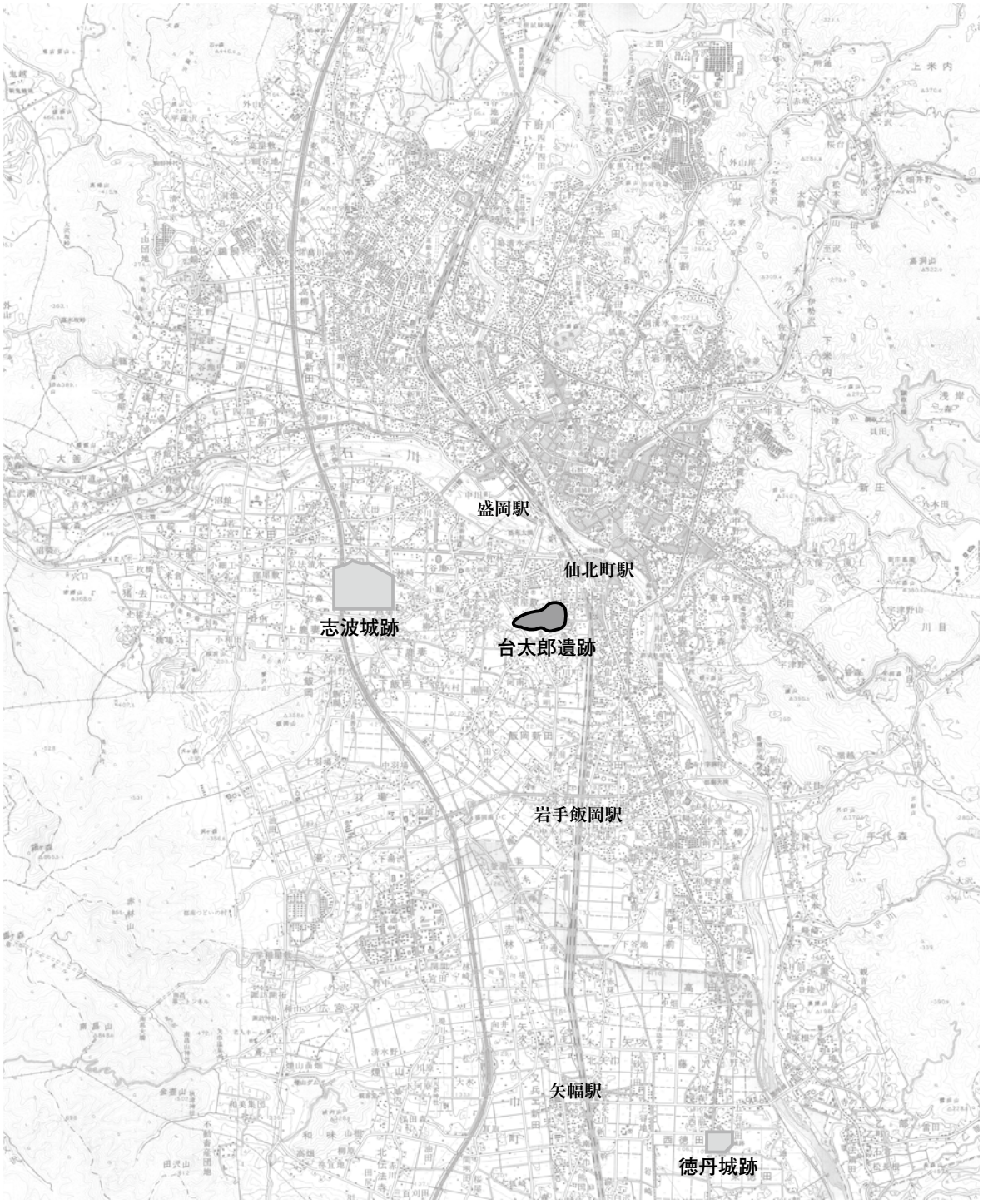
台太郎遺跡は，803 年に造営された古代城柵である志波城跡の南東約 1.2km に位置し（挿図 2），西方に飯岡沢田・飯岡才川遺跡，南方に向中野館遺跡が位置している（挿図 1）。志波城跡からのびる低位沖積段丘が南に曲がる屈曲点にあたり，幅 20 ～ 50 m，比高差 1 m程度の細かな旧河道によって分断された微高地上に立地している。遺跡範囲は東西約 800 m，南北約 500 mをはかる (挿図 3)。

これまでの県埋文センター・市教委の発掘調査により，7 世紀～ 10 世紀の古代集落，中世の居館を中心とした集落跡や墓域，近世の村落跡などが確認されている。

古代（奈良・平安時代）の竪穴住居跡は平成 23 年度末で 660 棟以上を数え，そのほかに掘立柱建物跡（2 × 2 間総柱）や大溝などが確認されており，当時の「志波（斯波)」地域最大の集落といえる。遺構の分布をみると, 7 世紀末～ 8 世紀の竪穴住居跡は, いくつかの群をつくりながら南西部を除く遺跡の全域に分布し，重複はみられない。それに対し，9 世紀～ 10 世紀の竪穴住居跡は，遺跡の西部と中央～北部の段丘縁辺部に分布が集中し，多くの重複がみられる。個別の竪穴住居跡の特徴をみると，7 世紀末～ 8 世紀は北西カマドが圧倒的で北東～南カマドもわずかにあり, カマドの作り替えは少ない。9 世紀～ 10 世紀は北西～北カマド，南東カマドなどさまざまで，大形住居にカマドの作り替えが多い。

中世（鎌倉～戦国時代）になると，12 世紀後半の渥美の灰釉小形壷が遺跡北東端より単独出土している。13 世紀後半には，遺跡中央部に不整五角形プランの在地領主の居館が営まれ，周辺域にはこれに関連する区画溝や道路跡，掘立柱建物跡，竪穴建物等が分布している。また，遺跡南部には中世の土坑墓群，掘立柱建物跡，竪穴建物跡，さらに現在の「諏訪神社」の周囲を囲むような堀跡や，社殿または仏堂らしい掘立柱建物跡も確認されている。これらは出土した陶磁器の年代から 15 世紀頃まで存続したと考えられる。居館北東側には幅 6 m内外で並行する道路側溝状の溝跡があり，この溝の東側には並行して区画整理工事前の道路も存在していた。この道は，遺跡北東部の段丘崖や居館の堀，館周辺の区画溝とも並行しており，居館や周辺村落と並存していた道路跡と考えられる。また，本遺跡の南方には，向中野館遺跡（北館・南館）が存在しているが, 館跡を構成する曲輪（くるわ）が方形を基調としたプランであることや，北館付近では堀や土橋，小さな曲輪などの複雑な配置であることから，およそ 16 世紀を中心とした年代が考えられる。

近世（江戸時代）には雫石川は現在の流れとなり，旧河道の東側には奥州道中（街道）が通じ，城下の玄関口にあたる仙北組町が開かれる。これにより向中野はこの町の郊外となった。この時代の遺構としては，掘立柱建物の曲屋（まがりや）跡や直屋（すごや）跡などが遺跡内に点在するようになり，水田地帯の中に農家が点在する近世の「向中野村」の一部と考えられる。



挿図２　台太郎遺跡位置図（１：50,000）

挿図３　台太郎遺跡全体図

第２節　調査内容

(1) 第 37 次調査 (平成 13 年度)

今次調査区は, 遺跡の中央部に位置し, 盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第 1 図)。調査面積は 872㎡。重機により表土を除去し，地表下 0.2 ～ 0.5 ｍの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。調査区中央付近には礫層が広がる。

ａ．遺構と遺物

調査の結果, 奈良時代の竪穴住居跡 1 棟 (RA523), 古代以降の土坑 5 基 (RD959 ～ 963)・溝跡 2 条 (RG403・404）を検出した。

・竪穴住居跡

ＲＡ５２３（第 2 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　隅丸方形？（調査区外）

規模　北西－南東 4.6 m以上（調査区外)，北東－南西 4.9 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.2 m

カマド方向　W40.0° N，北西カマド，長い煙道（1.2 m）　　**柱穴**　2 口

埋土　5 層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粉状に含み，暗赤褐色焼土粒をわずかに含む。径 1 ～ 2cm の礫が混じる。

Ｂ層：暗褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粉状に含み，炭化物粒・焼土粒が少し混じる。Ｂ 2 層には径 1 ～ 2cm の礫が混じる。

Ｃ層：褐色土主体。暗褐色・黒褐色土を粉状に含む。壁崩壊土と考えられる。

Ｄ層：暗褐色土主体。黒褐色・褐色土を粒状に含み，暗赤褐色土を粉～粒状に含む。炭化物粒が少し混じる。

Ｊ層：カマド崩壊土。暗褐色・黒褐色土主体。褐色・暗褐色・黒褐色土を粉状に含み，暗赤褐色焼土が粉～粒状に混じる。炭化物粒が少し混じる。

カマド　袖残存しない，焚口の焼け面あり　　**床の状態**　床面中央部に炭化材と焼土あり，床構築土あり

出土遺物（第 70 図，第 5 表）　土師器坏・甕，鉄製品（刀子）　　**時期**　奈良時代（8 世紀後半）

・土坑

ＲＤ９５９（第 3 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　不整円形

規模　径約 0.5 m，検出面からの深さ 0.15 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色土を粉～塊状に含む。　　**出土遺物**　土師器甕破片

ＲＤ９６０（第 3 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　不整円形

規模　径 1.25 ～ 1.4 m，検出面からの深さ 0.4 m

埋土　A層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粉～粒状に含む。　　**出土遺物**　土師器甕破片

ＲＤ９６１（第３図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　不整円形

規模　径 0.8 ～ 0.9 m，検出面からの深さ 0.3 m

埋土　A層：黒褐・暗褐色土主体。黒褐・褐色土を粉状に含む。　　**出土遺物**　土師器甕破片

ＲＤ９６２（第３図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　不整円形

規模　径 1.15 ～ 1.2 m，検出面からの深さ 0.15 m

埋土　A層：黒色・黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・暗褐色土を粉～粒状に含む。Ａ１層には暗褐色焼土が粉～塊状に多く混じる。Ａ１・Ａ２層には炭化物粒が少し混じる

出土遺物　土師器甕破片

ＲＤ９６３（第３図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　不整円形

規模　径 0.75 ～ 0.8 m，検出面からの深さ 0.3 m

埋土　A層：黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・褐色土を粉～粒状に含む。径１～ 5cm の礫が少し混じる。

・溝跡

ＲＧ４０３（第３図）

位置　調査区南東部

規模　幅 0.2 ～ 0.4 m，延長 16.5 m，検出面からの深さ 0.05 ～ 0.08 m，北北東から南南西に走る。

埋土　A層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を粉状に含む。径１～ 3cm の礫が多く混じる。

ＲＧ４０４（第３図）

位置　調査区南西部

規模　幅 0.4 ～ 0.6 m , 延長 25.5 m , 検出面からの深さ 0.1 ～ 0.15 m, 南北に走り屈曲して北西から南東に走る。

埋土　A層：黒褐色土主体。褐色土を粉状に含む。径１～ 5cm の礫が混じる。

(2) 第 38 次調査（平成 13 年度）

今次調査区は，遺跡の西部に位置し，盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（挿図 3)。調査面積は 309㎡。重機により表土を除去し，表土下 0.4 mの褐色シルト層上面で遺構検出を行ったが，調査区の南東部は礫層が広がり，また中央部は大きく攪乱・削平されていて，遺構は確認されなかった。攪乱土中より磨滅した土師器・須恵器の破片が出土した。

(3) 第 39 次調査（平成 13 年度）

今次調査区は，遺跡の中央部に位置し，盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第 4 図）。調査面積は 1,302㎡。重機により表土を除去し，遺構検出を行った。

a．遺構と遺物

調査の結果，平安時代の竪穴住居跡 12 棟（RA524 ～ 535）・土坑 10 基（RD964 ～ 973）・溝跡 18 条（RG405 ～ 422）・焼土遺構 1 基（RF043），中世の掘立柱建物跡 1 棟（RB043）・堀跡 2 条（RG042・424），近世以降の溝跡 1 条（RG423），古代以降のピット 111 口を検出した。

・竪穴住居跡

ＲＡ５２４（第 5 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＧ０４２（新）　　**平面形**　隅丸長方形

規模　北西－南東 2.3 m，北東－南西 2.85 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.08 ～ 0.15 m

カマド方向　W28.5° N，北西カマド，長い煙道（0.68 m）

埋土　３層に大別される

Ａ層：暗褐色土主体。褐色土を粉状に含む。

Ｂ層：暗褐色土主体。褐色土を粉状に多く含み，径 5 ～ 20cm の炭化物が混じる。

Ｃ層：褐色土主体。黒褐色・暗褐色土を紛～塊状に含む。

カマド　袖残存しない，焚口焼け面なし　　**床の状態**　床面南東部に一括土器

出土遺物（第 78 図，第 7 表）　土師器坏・甕，あかやき土器甕　　**時期**　平安時代（9 世紀中葉～後葉）

ＲＡ５２５（第 6 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＤ９６４（新），ＲＧ０４２（新），ピット（新）

平面形　隅丸方形　　**規模**　東西 4.27 m，南北 4.5 m，検出面からの深さ 0.48 m

カマド方向　E13.0° S，東カマド，長い煙道（1.42 m）

埋土　5 層に大別される

Ａ層：暗褐色土主体。黒褐色土を粉状に含む。灰白色火山灰が紛～粒状に，径 2cm の礫が混じる。

Ｂ層：黒褐色・明赤褐色土主体。暗褐色～黄褐色土を紛～粒状に含む。炭化物粒，径 2 ～ 5cm の礫が混じる。

Ｃ層：暗褐色・褐色土主体。黒褐色土を紛状に多く，焼土を粒状に含む。径 2cm の砂礫が多く混じる。

Ｊ層：カマド崩壊土，黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を粉状に含む。赤褐色焼土粒，炭化物粒が混じる。

Ｌ層：床構築土。暗褐色土主体。黒褐色土を紛～粒状に多く含み，炭化物粒が混じる。

カマド　両袖残存，礫を芯材に使用，焚口焼け面あり　　**床の状態**　床面北西端に炭化材，床構築土あり

貯蔵穴　カマド右袖脇に 1 基　　**柱穴**　1 口

出土遺物（第 71・79・80 図，第 6・8 表）　土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・甕，土製品（土錘），砥石，鉄製品（鉄釘）

時期　平安時代（9 世紀中葉）

ＲＡ５２６（第７図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＧ４１０（新），ＲＧ４１４（新）・４１６（新），ピット（新）

平面形　隅丸方形？　　**規模**　東西 3.85 m，南北 3.0 m以上，検出面からの深さ 0.35 m

カマド方向　W5.5° S，西カマド，長い煙道（0.9 m以上）

埋土　５層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み，灰白色火山灰が多く混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを多く含む。

Ｃ層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

Ｄ層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

Ｌ層：床構築土。暗褐色・褐色土主体。黒褐色土を粒～塊状に含む。

カマド　左袖残存，焚口焼け面あり　　**床の状態**　硬化面あり，床構築土あり

出土遺物（第 78・80 図，第７・８表）　土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・甕，鉄製品（刀子）

時期　平安時代（9 世紀中葉～後葉）

ＲＡ５２７（第５図）

位置　調査区北部　　**平面形**　隅丸方形？

規模　北西－南東 2.5 m以上（調査区外），北東－南西 2.9 m，検出面からの深さ 0.25 m

カマド方向　不明（北カマド？）

埋土　４層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

Ｂ層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粒状に少し含む。

Ｃ層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

Ｌ層：床構築土。褐色土主体。黒褐色土を含む。

床の状態　床面中央に焼け面，床構築土あり　　**柱穴**　２口

出土遺物　土師器甕，須恵器甕，あかやき土器坏・甕　　**時期**　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５２８（第８図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　隅丸方形？

規模　東西 6.3 m，南北 3.55 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.25 ～ 0.3 m

埋土　５層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

Ｃ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

Ｄ層：黒色土主体。明赤褐色シルトを粒状にわずかに含む。

Ｅ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

床の状態　床面中央に５箇所の焼け面あり，硬化面あり，床構築土あり　　**柱穴**　２口

出土遺物（第 72・73・80 図，第６・８表）　土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・甕，

鉄製品（鉄釘・鉄鏃・刀子）

時期　平安時代（9 世紀中葉）

ＲＡ５２９（第 9 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＡ５３１（古），ＲＤ９７２（新），ＲＧ４２４（新），ピット（新）

平面形　隅丸方形？　　**規模**　北西－南東 5.25 m，北西－南西 3.25 m以上，検出面からの深さ 0.15 ～ 0.2 m

カマド方向　不明

埋土　４層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む。

Ｂ層：黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状にわずかに含む。

Ｃ層：黒色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む。

Ｌ層：床構築土。褐色土主体。黒褐色シルトを塊状に含む。

床の状態　床面中央に硬化面あり，床構築土あり　　**柱穴**　３口

出土遺物（第 78・80 図，第 7・8 表）　土師器坏・甕・球胴甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・甕，砥石，鉄製品（鎗（やりがんな））

時期　平安時代（9 世紀前葉～中葉）

ＲＡ５３０（第 10 図）

位置　調査区北東部（東部を県埋文 18 次調査で RA110 として精査）　　**重複関係**　ＲＧ４２２（新）

平面形　隅丸方形

規模　北西－南東 2.1 m以上（調査区外），北東－南西 3.9 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.2 m

カマド方向　W22.5° N，北西カマド，長い煙道（トンネル状，1.55 m）

埋土　８層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み，炭化物が少し混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

Ｃ層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

Ｄ層：黒褐色土主体。褐色シルトを多く含む。

Ｅ層：褐色シルト・黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

Ｆ層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に少し含む。

Ｇ層：黒褐色土主体。褐色土を粒状にＦ層より多く含む。

Ｌ層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を多く含む。

カマド　両袖残存，礫を芯材に使用　　**床の状態**　硬化面あり，床構築土あり

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏

時期　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５３１（第 9 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＡ５２９（新），ＲＦ０６２（新）　　**平面形**　隅丸方形？

規模　北西－南東 0.95 m以上，北東－南西 0.35 m以上，検出面からの深さ 0.2 m

カマド方向　不明　　**床の状態**　床構築土あり　　**時期**　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５３２（第 10 図）

位置　調査区南部　　**重複関係**　ＲＧ４２４（新）　　**平面形**　隅丸方形？

規模　南北 2.5 m，東西 0.85 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.15 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色・明赤褐色シルトを粉状にわずかに含む。

床の状態　構築土あり　　**出土遺物**　土師器坏･甕 , 須恵器甕 , あかやき土器坏　　**時期**　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５３３（第 9 図）

位置　調査区南部（南半部を第 45 次調査で RA566 として精査）　　**平面形**　隅丸方形

規模　北東－南西 1.7 m以上（調査区外），北西－南東 0.75 m以上（調査区外），深さ 0.05 ～ 0.08 m

カマド方向　不明

埋土　2 層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に多く含む。

Ｌ層：床構築土。褐色土主体。黒色・黒褐色土を塊状に含む。

床の状態　床構築土あり

出土遺物（第 78 図，第 7 表）　土師器坏，須恵器甕，あかやき土器坏・甕　　**時期**　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５３４（第 14 図）

位置　調査区南西部　　**重複関係**　ＲＤ９７３（新），ＲＧ０４２（新）　　**平面形**　隅丸方形

規模　北西－南東 4.3 m，北東－南西 3.1 m以上，検出面からの深さ 0.15 ～ 0.3 m

カマド方向　N25.0° W，北西カマド，長い煙道（0.35 m以上）

埋土　５層に大別される

Ａ層：黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に少し含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む。

Ｃ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

Ｄ層：褐色・黒褐色土主体。褐色・明赤褐色シルトを粒状に含む。

Ｌ層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を塊状に含む。

カマド　両袖残存，焚口の焼け面あり　　**床の状態**　床面北東部に一括土器，硬化面あり，床構築土あり

柱穴　5 口

出土遺物（第 75･76･79 図，第 6･8 表）　土師器坏･甕，須恵器坏･甕，あかやき土器坏，土製品（紡錘車）

時期　平安時代（9 世紀中葉）

ＲＡ５３５（第 12 図）

位置　調査区南西部　　**重複関係**　ＲＤ９７３（新），ＲＧ０４２（新）　　**平面形**　隅丸方形？

規模　北西－南東 4.55 m以上，北東－南西 3.9 m以上，検出面からの深さ 0.25 ～ 0.35 m

カマド方向　N42.0° E，北東カマド，長い煙道（0.75 m）

埋土　５層に大別される

A層：黒褐色土主体。褐色土を紛～粒状にわずかに含み，Ａ１層に灰白色火山灰が粒状に混じる。

B層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を紛状にわずかに含む。

C層：黒色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

D層：黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

E層：褐色・黒褐色土主体。黒褐色・褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

カマド　焚口の焼け面あり　　**床の状態**　硬化面あり，床構築土あり

柱穴　2口

出土遺物（第74図，第6表）　土師器坏・甕，須恵器坏・甕・長頸瓶，あかやき土器坏・高台付坏

時期　平安時代（9世紀前葉～中葉）

・掘立柱建物跡

ＲＢ０４３（第13図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＤ９６５，ＲＧ４０７（新）

構造　東西桁行3間・南北梁行1間　　**棟方向**　東西棟，E15.0° N

規模

桁行北側柱筋－総長4.8 m（16尺），柱間西から1.2 m（4尺）＋2.1 m（7尺）＋1.5 m（5尺）

桁行南側柱筋－総長4.8 m（16尺），柱間西から1.5 m（5尺）＋2.1 m（7尺）＋1.2 m（4尺）

梁行柱間2.1 m（7尺）

柱掘方

	掘方1	掘方2	掘方3	掘方4	掘方5	掘方6
直径（m）	0.3～0.4	0.3～0.35	0.5	0.3～0.35	0.25～0.3	0.35～0.4
深さ（m）	0.1	0.25	0.1	0.05	0.35	0.25
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方7	掘方8
直径（m）	0.3～0.4	0.25
深さ（m）	0.15	0.1
平面形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし

時期　中世以降

・土坑

ＲＤ９６４（第14・20図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＡ５２５（古）　　**平面形**　不整円形

規模　径1.2 m，検出面からの深さ0.15 m

埋土　A層：暗褐色土主体。褐色土を粉状に含む。　　**出土遺物**　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＤ９６５（第 19・20 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＢ０４３　　**平面形**　不整円形

規模　径 0.8 m，検出面からの深さ 0.25 m

埋土　Ａ層：黒色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏

ＲＤ９６６（第 15・20 図）

位置　調査区北部　　**平面形**　不整円形

規模　径 0.9 ～ 0.95 m，検出面からの深さ 0.3 m

埋土　Ａ層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粉状に含み，炭化物が混じる。

Ｂ層：黒色土主体。褐色土を粉状にわずかに含む。

Ｃ層：褐色土主体。黒褐色土を粉状に含む。

出土遺物　土師器甕，須恵器甕，あかやき土器坏

ＲＤ９６７（第 15・20 図）

位置　調査区北部　　**平面形**　不整円形？（調査区外）

規模　径約 1.6 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.15 m

埋土　Ａ層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を粉状に多く含む。

ＲＤ９６８（第 15・20 図）

位置　調査区北部　　**重複関係**　ＲＧ４１７・４１８　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.0 m，短軸 0.85 m，検出面からの深さ 0.45 m　　**出土遺物**　あかやき土器甕

ＲＤ９６９（第 19・20 図）

位置　調査区中央部　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.1 m，短軸 0.7 m，検出面からの深さ 0.2 ～ 0.25 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

Ｂ層：褐色土主体。黒褐色土を多く含む。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器甕

ＲＤ９７０（第 14・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　なし　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 0.9 m，短軸 0.6 m，検出面からの深さ 0.15 ～ 0.2 m

埋土　Ａ層：黒色・黒褐色土主体。褐色シルト多く含む。

ＲＤ９７１（第 18・20 図）

位置　調査区南西部　　**平面形**　不整楕円形？

規模　長軸 0.75 m，短軸 0.35 m以上，検出面からの深さ 0.1 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを紛～粒状に含む。

出土遺物（第 77 図，第 6 表）　土師器坏・高台付坏

ＲＤ９７２（第 16・20 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＡ５２９（古）　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.0 m，短軸 0.7 m，検出面からの深さ 0.3 m

埋土　Ａ層：黒色土主体。褐色シルトを含む。　　**出土遺物**　須恵器甕

ＲＤ９７３（第 18・20 図）

位置　調査区南西部　　**重複関係**　ＲＡ５３４（古）・５３５（古）　　**平面形**　不整円形？

規模　径約 1.3 m，検出面からの深さ 0.3 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に少し含む。

出土遺物　土師器甕，あかやき土器坏

・焼土遺構

ＲＦ０６２（第 9 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＡ５３１（古）

平面形　不整楕円形？（調査区外）　　**規模**　径 0.45 m以上

・溝跡

ＲＧ０４２Ｅ（第 14・15・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＡ５２４・５２５，ＲＧ４２１・４２２

規模　堀跡。幅 3.2 ～ 3.9 m，延長 26.0 m以上，検出面からの深さ 1.0 m，東北東から西南西に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色・褐色土主体。黄褐色土・黒褐色土を多く含む。炭化物粒・礫が少し混じる。

Ｂ層：黒褐色・褐灰色土主体。暗褐色土・褐色土を紛～粒状に含み，炭化物・礫が混じる。ややグライ化し，遺物が多く出土する。

Ｃ層：黒褐色・褐灰色土主体。褐色シルトを粉～粒状に含み，径 3 ～ 5cm の礫が多く混じる。

底面　橋脚跡と考えられる柱穴 4 口あり

出土遺物（第 77・79・80・101・102 図，第 6・8・17 表）　土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏・高台付坏・甕，土製品（土錘），砥石，鉄製品（鉄釘・刀子），瓷器系陶器甕・大甕，須恵系陶器擂鉢・甕，常滑焼甕，中国青磁碗・盤

時期　中世（13 ～ 14 世紀）

ＲＧ０４２Ｗ（第 15・16・17・18・20 図）

位置　調査区北部～南西部　　**重複関係**　ＲＡ５３４・５３５，ＲＧ４０５・４０６・４１９・４２４

規模　堀跡。幅 3.3 ～ 5.1 m，延長 53.5 m以上，検出面からの深さ 0.9 ～ 1.5 m，東北東から西南西に走り，

南へ屈曲する。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色土を粉状にわずかに含み，礫が混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を紛～塊状に含む。

Ｃ層：黒褐色土主体。暗褐色土・褐色土を粒～塊状に多く含む。

Ｄ層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色土を粒～塊状に含む。

Ｅ層：黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を粉状に含む。

Ｆ層：黒色・黒褐色土主体。暗褐色土・褐色土を粒～塊状に含み，砂礫が多く混じる。

Ｇ層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を紛～塊状に多く含む。

Ｈ層：褐色シルト主体。黒褐色土・黄褐色土を粒～塊状に含む。Ｈ１層に酸化鉄分が混じる。

Ｉ層：黒褐色土主体。酸化鉄分を多く含み，礫が多く混じる。

出土遺物　土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・高台付坏・甕，土製品（土錘），砥石，鉄製品（鉄釘・刀子），瓷器系陶器甕・大甕，須恵系陶器擂鉢・甕，常滑焼甕，中国青磁碗・盤

時期　中世（13 ～ 14 世紀）

ＲＧ４０５（第 16・20 図）

位置　調査区北部　　**重複関係**　ＲＧ０４２・４０６・４１９・４２３

規模　幅 1.1 ～ 1.25 m，延長 3.7 m以上，検出面からの深さ 0.35 m，北北西から南南東に走る。

埋土　Ａ層：黒色・黒褐色土主体。黒褐色・褐色シルトを紛～粒状に含む。炭化物粒がわずかに，酸化鉄が紛～層状に混じる。

Ｂ層：黒褐色シルト主体。褐色シルトを粉状に多く含み，酸化鉄が粉状に混じる。

出土遺物　土師器甕，あかやき土器坏

ＲＧ４０６（第 16・20 図）

位置　調査区北部　　**重複関係**　ＲＧ０４２・４０５・４２３

規模　幅 0.75 ～ 0.85 m，延長 3.6 m以上，検出面からの深さ 0.3 m，北北西から南南東に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・褐色土を紛～粒状に含み，酸化鉄が粉状に少し混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色土を紛状に含み，酸化鉄が粉状に少し混じる。

出土遺物　土師器甕

ＲＧ４０７（第 19・20 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＢ０４３，ＲＧ４２４，ピット

規模　幅 0.5 ～ 1.1 m，延長 11.9 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.15 m，北北西から南南東に蛇行しながら走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粉状に少し含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを多く含む。

ＲＧ４０８（第 15・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＧ４１７，ピット

規模　幅 0.45 ～ 0.65 m，延長 3.3 m以上，検出面からの深さ 0.12 m，北東から南西に走る。

埋土　A層：黒褐色土主体。褐色土を粉状に多く含む。

ＲＧ４０９（第 15・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＧ４１８，ピット

規模　幅 0.2 ～ 0.7 m，延長 2.7 m以上，検出面からの深さ 0.3 ～ 0.35 m，南北にカーブしながら走る。

埋土　A層:黒褐色土主体。暗褐色･褐色土を粉状に含み, 径 1cm の焼土粒･径 1 ～ 2cm の炭化物粒が混じる。

B層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を紛～塊状に多く含む。

出土遺物（第 79 図，第 8 表）　土師器坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏，土製品 (フイゴ羽口)

ＲＧ４１０（第 14・15・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＡ５２６，ＲＧ４１１・４１４，ピット

規模　幅 0.6 ～ 1.0 m，延長 14.9 m以上，検出面からの深さ 0.15 ～ 0.45 m，北東から南西に走る。

埋土　A層：黒色・黒褐色土主体。にぶい黄褐色・褐色土を粉～粒状に含む。

B層：黒色・黒褐色土主体。にぶい黄褐色・褐色土を紛状に多く含み，砂礫が混じる。

ＲＧ４１１（第 14・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＧ４１０

規模　幅 0.75 ～ 0.85 m，延長 2.8 m，検出面からの深さ 0.8 m，東西に走る。

埋土　A層：黒褐色土主体。褐色土を粉状に含む。

ＲＧ４１２（第 19・20 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ピット

規模　幅 0.25 ～ 0.3 m，延長 1.8 m，検出面からの深さ 0.1 m，北北西から南南東に走る。

埋土　A層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

B層：褐色土主体。黒褐色土を多く含む。

ＲＧ４１３（第 19・20 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＢ０４３，ＲＤ９６５，ピット

規模　幅 0.2 ～ 0.3 m，延長 1.9 m，検出面からの深さ 0.6 m，北北西から南南東に走る。

埋土　A層：黒色土主体。明黄褐色土をわずかに含む。

ＲＧ４１４（第 15・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＡ５２６，ＲＧ４１０，ピット

規模　幅 0.25 ～ 0.5 m，延長 4.95 m，検出面からの深さ 0.05 ～ 0.1 m，東西に走り，北に屈曲する。

埋土　A層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を紛～粒状に含む。

B層：暗褐色・にぶい黄褐色土主体。黒褐色土を少し，褐色土を紛状に含む。

ＲＧ４１５（第 15・20 図）

位置　調査区北部　　**重複関係**　ＲＧ４２０

規模　幅 0.2 m，延長 3.6 m，検出面からの深さ 0.1 m，東北東から西南西に走り，南南東に屈曲する。

埋土　Ａ層：黒色土主体。褐色土を少し含む。　　**出土遺物**　土師器坏・甕，あかやき土器坏・甕

ＲＧ４１６（第 15・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＡ５２６

規模　幅 0.4 ～ 0.6 m，延長 2.6 m，検出面からの深さ 0.15 m，南北に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色シルト主体。暗褐色・褐色シルトを粉状に含む。

Ｂ層：黒褐色シルト主体。褐色シルトを紛状に含む。

ＲＧ４１７（第 15・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＤ９６８，ＲＧ４０８，ピット

規模　幅 0.35 ～ 0.45 m，延長 3.5 m，検出面からの深さ 0.1 m，北東から南西に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色土を粉状に少し含む。

ＲＧ４１８（第 15・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＤ９６８，ＲＧ４０９

規模　幅 0.55 m，延長 0.9 m，検出面からの深さ 0.2 m，東北東から西南西に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

出土遺物　土師器甕，須恵器甕，あかやき土器坏

ＲＧ４１９（第 16・20 図）

位置　調査区北部　　**重複関係**　ＲＧ４０５・４２３

規模　幅 0.4 m以上，延長 3.1 m以上，検出面からの深さ 0.1 m，北北西から南南東に走る。

埋土　Ａ層：黒色シルト主体。褐色シルトを粒状に含む。

ＲＧ４２０（第 15・16・20 図）

位置　調査区北部　　**重複関係**　ＲＧ４１５

規模　幅 0.2 ～ 0.45 m，延長 1.5 m，検出面からの深さ 0.15 ～ 0.25 m，北西から南東に走る。

埋土　Ａ層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粒～塊状に多く含む。

ＲＧ４２１（第 14・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＧ０４２，ピット

規模　幅 0.45 ～ 0.5 m，延長 2.6 m，検出面からの深さ 0.2 m，西北西から東南東に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状にわずかに含む。

ＲＧ４２２（第 14・20 図）

位置　調査区北東部　　**重複関係**　ＲＧ０４２，ＲＡ５３０，ピット

規模　幅 0.5 ～ 1.2 m，延長 6.2 m以上，検出面からの深さ 0.2 m，南北に走る。

出土遺物　須恵器甕，あかやき土器坏

ＲＧ４２３（第 15・16・17・18・20 図）

位置　調査区北部～南西部　　**重複関係**　ＲＧ０４２・４０５・４０６・４１９

規模　幅 0.4 ～ 1.9 m，延長 46.7 m以上，検出面からの深さ 0.15 ～ 0.3 m，東北東から西南西に走り，南に屈曲する。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

Ｂ層：褐色土主体。黒褐色土を粒状に多く含む。

出土遺物　土師器甕，須恵器甕，あかやき土器坏

ＲＧ４２４（第 16・19・20 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＡ５２９・５３２，ＲＧ０４２・４０７

規模　堀跡。幅 3.1 ～ 4.0 m，延長 22.0 m以上，検出面からの深さ 0.65 ～ 0.7 m，ＲＧ０４２より分岐して北北西から南南東に走る。

埋土　Ａ層：黒色・黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を粒～塊状に多く含み，Ａ７層に礫が多く混じる。

Ｂ層：黒色・褐色土主体。褐色土・黒褐色土を粒～塊状に含み，Ｂ１層に砂が多く混じる。

Ｃ層：黒色土主体。褐色土を塊状に多く含む。最下層Ｃ１層は褐色砂が主体。

出土遺物（第 82 図，第 9 表）　土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・甕，砥石，鉄製品（刀子）

時期　中世

・ピット

調査区内に古代以降のピット 111 口を検出した（第 14・15・16・17・18・19・21 図）。各ピットの規模は第 2 表のとおりである。埋土より土師器坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・甕の破片が出土している。

(4) 第 42 次調査（平成 13 年度）

今次調査区は，遺跡の北西部に位置し，盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第 22 図）。調査面積は 123㎡。重機により表土を除去し，遺構検出を行った。遺構検出面は調査区北西方向になだらかに傾斜している。

a．遺構と遺物

調査の結果，平安時代の竪穴住居跡 1 棟（RA546）・土坑 2 基（RD982・983）・溝跡 2 条（RG440・441）を検出した。

・竪穴住居跡

ＲＡ５４６（第 22 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　壁が削平され不明　　**規模**　不明

カマド方向　不明　　**カマド**　焚口の焼け面と考えられる焼土あり　　**貯蔵穴**　焼土北側に 1 基

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを少し含む。

Ｂ層：貯蔵穴埋土。黒褐色土主体。褐色・褐灰色シルト少し含み，炭化物が混じる。

出土遺物　土師器坏・甕破片　　**時期**　平安時代（9 世紀）

・土坑

ＲＤ９８２（第 22 図）

位置　調査区北部　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.5 m・短軸 1.05 m，検出面からの深さ 0.25 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。　　**出土遺物**　須恵器坏，土師器甕破片

ＲＤ９８３（第 22 図）

位置　調査区北部　　**平面形**　不整円形

規模　径 0.8 ～ 0.95 m，検出面からの深さ 0.2 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを少し含む。　　**出土遺物**　なし

・溝跡

ＲＧ４４０（第 22 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＧ４４１（古）

規模　幅 1.1 ～ 1.9 m，延長 10.3 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.3 ～ 0.4 m，南北に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを紛～粒状に含む。Ａ 6 層に酸化鉄分が多く混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。白色火山灰を粉状に多く含む。

Ｃ層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを塊状に多く含む。

出土遺物（第 81 図，第 9 表）　土師器坏・甕，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏・甕

ＲＧ４４１（第 22 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＧ４４０（新）

規模　幅 0.8 ～ 1.1 m，延長 7.0 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.2 m，北東から南西に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

出土遺物（第 81 図，第 9 表）　土師器坏・甕・埦

(5) 第 43 次・43 次補足調査（平成 13・14 年度）

今次調査区は，遺跡の中央部に位置し，盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（挿図 3）。

調査面積は，第 43 次調査区が 112㎡，第 43 次補足調査区が 42㎡で，両調査区は隣接している。重機により表土を除去し，表土下約 0.6 mの褐色シルト層上面で遺構検出を行ったが，ともに遺構･遺物は確認されなかった。

(6) 第 45 次調査（平成 14 年度）

今次調査区は，遺跡の中央部に位置し，盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第 23 図）。調査面積は 1,618㎡。重機により表土を除去し，遺構検出を行った。

a．遺構と遺物

調査の結果，平安時代の竪穴住居跡 13 棟（RA565 ～ 577），古代の竪穴状遺構 4 基（RA057 ～ 060），古代以降の土坑 36 基（RD1077 ～ 1081･1084 ～ 1114），溝跡 11 条（RG467 ～ 477），中世の堀跡 2 条（RG042,424），掘立柱建物跡 5 棟(RB049 ～ 053)，掘立柱列跡 1 列(RC003)，古代以降のピット 194 口を検出した(第 24･25 図)。

・竪穴住居跡

ＲＡ５６５ａ・ｂ・ｃ（第 26・27 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＡ５６５ｄ（古），ＲＧ４６７（新）　　**平面形**　隅丸方形

規模　北東－南西 6.7 m，北西－南東 7.2 m，検出面からの深さ 0.35 ～ 0.5 m

カマド方向　カマドａ（新）：N26.0° E，北東カマド，長い煙道（トンネル状，1.55 m）

カマドｂ（中）：N18.0° E，北カマド，長い煙道（トンネル状，1.4 m）

カマドｃ（古）：E13.0° S，東カマド，長い煙道（トンネル状，1.8 m）

柱穴　主柱穴 6 口，ピット 4 口

	Pit1	Pit2	Pit3	Pit4	Pit5	Pit6
直径（m）	0.35 ～ 0.4	0.4 ～ 0.45	0.35 ～ 0.4	0.4 ～ 0.45	0.4 ～ 0.5	0.4
深さ（m）	0.6	0.4	0.55	0.45	0.4	0.42
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整楕円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

埋土　９層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを塊状に含み，灰白色火山灰が少し混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含み，灰白色火山灰が少し混じる。

Ｃ層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含み，炭化物が少し混じる。灰白色火山灰が多く混じる。

Ｄ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。炭化物・焼土が多く混じる。

Ｊ層：カマドａ崩壊土。黒褐色土主体。黒褐色土・暗褐色・褐色シルトを粒～塊状に含む。焼土・炭化物が少し混じるが，Ｊ２層には焼土が多く混じる。

Ｊ′層：カマドｂ崩壊土。黒褐色土主体。黒褐色土を含み，炭化物が多く混じる。

Ｊ″層:カマドｃ崩壊土。黒褐色･暗褐色土主体。黒褐色土･暗褐色･褐色シルトを粒～塊状に多く含む。焼土・炭化物が混じるが，Ｊ″２層・Ｊ″10 層に多く混じる。

Ｌ層：床構築土。褐色シルト・黒褐色土主体。暗褐色シルト・褐色土を粒状に多く含み，焼土粒・炭化物粒が混じる。

Ｌ′層:カマドａ地業土。黒褐色土主体。褐色･黄褐色シルトを粒状に含み,炭化物･焼土が少し混じる。

カマド　カマドａ（新）：両袖残存，焚口の焼け面あり，カマド地業あり

カマドｂ（中）・ｃ（古）：袖残存せず，焚口の焼け面あり，カマド地業あり

床の状態　床面西側２箇所に焼土面あり，南西部に炭化物の集中あり，北東辺に周溝あり，床構築土あり

出土遺物（第 82 ～ 87・93 図，第 10・12 表）　土師器坏・高台付坏・甕・小形甕・砂底甕・墨書土器「山？」・刻書土器「体？」，須恵器坏･甕･小形甕･大甕･長頸瓶･小形瓶，あかやき土器坏･高台付坏･甕･小形甕，土製品（土錘），砥石，敲石，鉄製品（刀子・足金物・鉄滓），炭化材

時期　平安時代（9 世紀後葉）

ＲＡ５６５ｄ（第 28 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＡ５６５ａ・ｂ・ｃ（新），ＲＧ４６７（新）　　**平面形**　隅丸方形？

規模　東西 7.5 ｍ，南北 6.7 ｍ，検出面からの深さ 0.3 ｍ，ＲＡ５６５ａ・ｂ・ｃより東壁が約 0.3 ｍ東にずれた位置となる

カマド方向　E6.5° S，東カマド，長い煙道（トンネル状，1.05 ｍ）　　**柱穴**　ピット１口

埋土　３層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に少し含み，灰白色火山灰が少し混じる。

Ｂ層：褐色シルト主体。黒褐色土を粒状に含む。

Ｊ層：カマド崩壊土。黒色・黒褐色土主体。黒色土・暗褐色土・褐色シルト・黄褐色シルトを粒～塊状に多く含む。炭化物が少し混じる。

カマド　袖残存せず，焚口の焼け面なし　　**床の状態**　ＲＡ５６５ａ・ｂ・ｃによりほとんど残存せず

出土遺物　土師器甕，あかやき土器坏

時期　平安時代（9 世紀後葉）

ＲＡ５６６（第 29 図）

位置　調査区北西部（北半部を第 39 次調査で RA533 として精査）　　**重複関係**　ＲＤ１０８１（新）

平面形　隅丸方形

規模　北西－南東 2.7 ｍ以上（調査区外），北東－南西 3.3 ｍ以上（調査区外），検出面からの深さ 0.4 ｍ

カマド方向　不明

埋土　５層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを紛～粒状に含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。黒色・褐色・明赤褐色シルトを粒状に含む。

Ｃ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

Ｄ層：暗褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む。

Ｌ層：床構築土。褐色土主体。黒褐色土を紛～粒状に多く含む。

床の状態　床構築土あり

出土遺物（第 88 図，第 11 表）　土師器坏・甕・小形甕・砂底甕，須恵器坏・甕・小形甕・大甕・長頸瓶，

あかやき土器坏・小形甕，砥石

時期　平安時代（9 世紀中葉）

ＲＡ５６７（第 30 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＧ４２４（新）　　**平面形**　隅丸長方形？

規模　南北 4.9 ｍ以上，東西 1.1 ｍ以上，検出面からの深さ 0.3 ～ 0.4 ｍ　　**カマド方向**　不明

埋土　３層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

Ｌ層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色・黄橙色土を粒状に少し含む。

床の状態　床構築土あり

出土遺物（第 88 図，第 11 表）　土師器坏・甕，須恵器坏・大甕・小形甕・長頸瓶，あかやき土器坏

時期　平安時代（9 世紀中葉）

ＲＡ５６８（第 31 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ピット（新）　　**平面形**　隅丸方形

規模　東西 3.7 ｍ，南北 3.1 ｍ以上（調査区外），検出面からの深さ 0.05 ～ 0.1 ｍ

カマド方向　W4.0° N，西カマド，長い煙道（1.4 ｍ）

埋土　３層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

Ｊ層：カマド崩壊土。黒褐色・暗褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含み，焼土・炭化物が少し混じる。

Ｌ層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を塊状に多く含む。

カマド　両袖残存，焚口の焼け面あり　　**床の状態**　床面北西部に硬化面あり，床構築土あり

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏・甕，土製品（フイゴ羽口）

時期　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５６９ａ・ｂ（第 32 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＧ４２４（新）・４７５（新），ピット（新）　　**平面形**　隅丸方形

規模　東西 2.3 ｍ，南北 2.4 ｍ，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.15 ｍ

カマド方向　カマドａ：W5.5° N，西カマド，長い煙道（1.4 ｍ，西辺中央北寄り）

カマドｂ：E41.0° S，南東カマド，長い煙道（1.15 ｍ，南東角から）

埋土　５層に大別される

Ａ層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

Ｊ層：カマドａ崩壊土。黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み，Ｊ２層に焼土･炭化物が少し混じる。

Ｊ′層：カマドｂ崩壊土。黒褐色土・褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。

Ｌ層：床構築土。黄褐色シルト主体。黒褐色土を塊状に含む。

カマド　袖残存せず，焚口の焼け面なし　　**床の状態**　床構築土あり

出土遺物（第 89 図，第 11 表）土師器坏・高台付坏・甕・小形甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・小形甕

時期　平安時代（9 世紀中葉）

ＲＡ５７０ａ・ｂ（第 33 図）

位置　調査区南東部

重複関係　ＲＡ５７６（新），ＲＤ１０８７（新）・１０８８（新）・１０９５（新），ピット（新）

平面形　隅丸方形　　**規模**　南北 5.5 m，東西 5.3 m，検出面からの深さ 0.05 ～ 0.1 m

カマド方向　カマドａ：N5.0° E，北カマド，長い煙道（1.1 m）

カマドｂ：W22.5° S，西カマド，長い煙道（0.75 m以上，ＲＤ１０８７に重複）

柱穴　ピット２口

埋土　５層に大別される

Ａ層：暗褐色土主体。黒褐色・褐色土を粉～粒状に含み，径３～ 5cm の礫が少し混じる。

Ｂ層：周溝埋土。暗褐色土主体。黒褐色土を紛状に含み，砂礫が多く混じる。

Ｊ層：カマドａ崩壊土。暗褐色・褐色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色土を紛～粒状に含む。焼土・炭化物が少し混じる。

Ｊ′層：カマドｂ崩壊土。黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色土を多く含む。赤褐色焼土粒・炭化物粒が少し混じる。

Ｌ層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を少し含み，礫が多く混じる。

カマド　袖残存せず，焚口の焼け面なし　　**床の状態**　東辺と南辺の一部に周溝あり，床構築土あり

出土遺物（第 89・93 図，第 12・13 表）　土師器坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・小形甕，鉄製品（手鎌）

時期　平安時代（9 世紀前葉～中葉）

ＲＡ５７１（第 34 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ピット（新）

平面形　隅丸方形　　**規模**　南北 4.5 m，東西 4.4 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.2 m

柱穴　ピット１口

埋土　３層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。暗褐色・にぶい黄褐色土を粉状に含み，明赤褐色焼土粒・炭化物粒がわずかに混じる。径３～ 10cm の礫が少し混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。にぶい黄褐色・褐色土を紛状に含み，礫が混じる。

Ｃ層：暗褐色・褐色土主体。黒褐色土を紛状に含む。明赤褐色焼土が紛～粒状に混じる。

床の状態　床面東部に一括土器，床構築土なし

出土遺物（第 90 図，第 11 表）　土師器坏・高台付坏・甕・小形甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・甕，砥石

時期　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５７２（第 35 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　隅丸方形

規模　南北 4.0 m，東西 4.3 m，検出面からの深さ 0.2 ～ 0.25 m

カマド方向　N19.0° W，北カマド，長い煙道（2.05 m）　**柱穴**　ピット 3 口

埋土　４層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含み，灰白色火山灰が少し混じる。礫が少し混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。黒褐色土を粒状に少し含む。礫が多く混じる。

Ｊ層：カマド崩壊土。黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色土を粒～塊状に含む。Ｊ１層に焼土・炭化物が少し混じる。

Ｌ層：床構築土。黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含む。

カマド　両袖残存，焚口の焼け面あり　**床の状態**　床構築土あり

出土遺物（第 90 図，第 11 表）　土師器坏・甕・小形甕，須恵器坏・甕・大甕・墨書土器「志？」，あかやき土器坏，敲石

時期　平安時代（9 世紀前葉～中葉）

ＲＡ５７３（第 36 図）

位置　調査区南東部

重複関係　ＲＡ５７４（古），ＲＤ１０９１（新）･１０９２（新）･１０９７（新），ＲＧ４７４（新），ピット（新）

平面形　隅丸方形　**規模**　北東－南西 3.6 m，北西－南東 3.15 m，検出面からの深さ 0.2 m

柱穴　ピット 3 口

埋土　３層に大別される

Ａ層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色・黄褐色シルトを紛～粒状に含む。Ａ１層に灰白色火山灰が少し混じり，Ａ２層に炭化物が少し混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み，炭化物・焼土が少し混じる。

Ｌ層：床構築土。黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み，炭化物・焼土が少し混じる。

床の状態　床面北東部に一括土器，床構築土あり

出土遺物（第 91 図，第 11 表）　土師器坏･高台付坏･甕･小形甕，須恵器坏･甕，あかやき土器坏･高台付坏，砥石

時期　平安時代（9 世紀中葉）

ＲＡ５７４（第 36 図）

位置　調査区南東部　**重複関係**　ＲＡ５７３（新）　**平面形**　隅丸方形？（調査区外）

規模　北東－南西 2.7 m，北西－南東 1.2 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.1 m

埋土　２層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。焼土・炭化物が少し混じる。

Ｌ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

床の状態　床構築土あり

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器甕，砥石　**時期**　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５７５（第 37 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＤ１０９８（新），ＲＧ０４２（新），ピット（新）

平面形　隅丸方形？（調査区外）

規模　南北 4.7 ｍ以上（調査区外），東西 1.95 ｍ以上（ＲＧ０４２と重複），検出面からの深さ 0.15 ～ 0.2 ｍ

柱穴　ピット 6 口

埋土　３層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色・黄褐色シルトを粒状に含む。

Ｂ層：暗褐色土主体。褐色シルトを含む。

Ｌ層：床構築土。黒褐色土主体。褐色シルトを粉状に多く含む。炭化物がわずかに混じる。

床の状態　床構築土あり

出土遺物（第 91 図，第 11 表）　土師器坏・甕，須恵器坏・甕・長頸瓶，あかやき土器坏・高台付坏

時期　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５７６（第 38 図）

位置　調査区南東部

重複関係　ＲＤ１０８８（新）・１１０８（新）・１１０９（新），ＲＧ４７３（新），ピット（新）

平面形　隅丸長方形　　**規模**　北西－南東 3.5 ｍ，北東－南西 4.3 ｍ，検出面からの深さ 0.05 ～ 0.1 ｍ

柱穴　ピット 1 口

埋土　２層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを塊状に多く含む。焼土が多く，炭化物が少し混じる。

Ｌ層：床構築土。暗褐色土主体。褐色シルトを粉状に含む。炭化物粒が多く混じる。

床の状態　床構築土あり　　**時期**　平安時代（9 世紀）

ＲＡ５７７（第 36 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　煙道のみ，不明（調査区外）　　**規模**　不明

カマド方向　E2.5° S，東カマド，長い煙道（1.05 ｍ以上，調査区外）

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色・黄褐色・明赤褐色シルトを粒～塊状に含む。

出土遺物　土師器甕　　**時期**　平安時代（9 世紀）

・掘立柱建物跡

ＲＢ０４９（第 39 図）

位置　調査区北西部

重複関係　ＲＢ０５０・０５１，ＲＣ００３，ＲＤ１０８６・１１０１・１１１４，ＲＧ４６９・４７０・４７１・４７２・４７６

構造　東西桁行 6 間・南北梁行 5 間，総柱　　**棟方向**　東西棟，E5.0° N

規模　桁行－総長 12.1 ｍ，柱間北側西から 1.4 ｍ＋ 2.1 ｍ＋ 2.2 ｍ＋ 2.2 ｍ＋ 2.1 ｍ＋ 2.1 ｍ

梁行－総長 9.1 ｍ，柱間東側北から 1.3 ｍ＋ 2.0 ｍ＋ 2.2 ｍ＋ 2.2 ｍ＋ 0.9 ｍ

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径（m）	0.4	0.35	0.35	0.6 ～ 0.75	0.6	0.4 ～ 0.5
深さ（m）	0.3	0.3	0.1	0.35	0.4	0.3
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整楕円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし	なし	あり	あり	あり

	掘方 7	掘方 8	掘方 9	掘方 10	掘方 11	掘方 12
直径（m）	0.3 ～ 0.35	0.45 ～ 0.5	0.4 ～ 0.5	0.4	0.5 ～ 0.6	0.5
深さ（m）	0.35	0.35	0.5	0.2	0.45	0.35
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	あり	あり	なし	なし	なし	あり

	掘方 13	掘方 14	掘方 15	掘方 16	掘方 17	掘方 18
直径（m）	0.4	0.55	0.6	0.4	0.3 ～ 0.4	0.5
深さ（m）	0.3	0.45	0.4	0.5	0.3	0.35
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	あり	なし	なし	なし	あり

	掘方 19	掘方 20	掘方 21	掘方 22	掘方 23	掘方 24
直径（m）	0.3 ～ 0.4	0.4	0.55 ～ 0.6	0.3 ～ 0.35	0.4 ～ 0.5	0.45 ～ 0.55
深さ（m）	0.3	0.45	0.3	0.3	0.4	0.4
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし	あり	なし	あり	あり

	掘方 25	掘方 26	掘方 27	掘方 28	掘方 29	掘方 30
直径（m）	0.3 ～ 0.4	0.35 ～ 0.4	0.7 ～ 0.8	0.6 ～ 1.15	0.6 ～ 0.7	0.4
深さ（m）	0.35	0.45	0.45	0.45	0.4	0.3
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整楕円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方 31	掘方 32	掘方 33
直径（m）	0.35 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.55
深さ（m）	0.2	0.3	0.3
平面形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	あり	なし	なし

出土遺物（第 93 図，第 12 表） 土師器坏･甕，須恵器坏，あかやき土器坏破片，棒状鉄製品（掘方 23），鉄釘？（掘方 23）

時期 中世

ＲＢ０５０（第 40 図）

位置 調査区北西部

重複関係 ＲＢ０４９・０５１，ＲＤ１０８９，ＲＧ４６９・４７０・４７２・４７６

構造 南北桁行 5 間・東西梁行 2 間

棟方向 南北棟，N3.0° W

規模 桁行－総長 12.7 m，柱間西側北から 2.8 m＋ 2.4 m＋ 2.7 m＋ 2.5 m＋ 2.3 m

梁行－総長 4.7 m，柱間北側西から 2.3 m＋ 2.4 m

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径（m）	0.4 ～ 0.5	0.3	0.35	0.4 ～ 0.6	0.25 ～ 0.3	0.3 ～ 0.45
深さ（m）	0.2	0.2	0.3	0.3	0.45	0.4
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整楕円形	不整円形	不整楕円形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方 7	掘方 8	掘方 9
直径（m）	0.4	0.35	0.3
深さ（m）	0.3	0.35	0.25
平面形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし	あり

出土遺物 土師器甕，あかやき土器坏破片

時期 中世

ＲＢ０５１（第 40 図）

位置 調査区北西部

重複関係 ＲＡ５６９，ＲＢ０４９・０５０，ＲＣ００３，ＲＧ４２４・４７５

構造 南北桁行 7 間・東西梁行 2 間？の身舎に，東側 1 間の廂または下屋が付く

棟方向 南北棟，N0.5° W

規模

身舎：桁行－総長 15.0 m，柱間東側北から 2.4 m＋ 2.1 m＋ 2.0 m＋ 2.4 m＋ 2.0 m＋ 2.1 m＋ 2.0 m

梁行－総長 4.2 m？，柱間 2.1 m等間？

廂：桁行－総長 15.0 m，柱間東側北から 2.2 m＋ 2.2 m＋ 2.2 m＋ 2.3 m＋ 1.6 m＋ 2.5 m＋ 2.0 m

梁行－柱間 1.2 m

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径（m）	0.3	0.3 ～ 0.4	0.25 ～ 0.3	0.3	0.3 ～ 0.35	0.3
深さ（m）	0.3	0.3	0.4	0.35	0.35	0.4
平面形	不整円形	不整楕円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	あり	なし

	掘方 7	掘方 8	掘方 9	掘方 10	掘方 11	掘方 12
直径（m）	0.45 ～ 0.5	0.3 ～ 0.35	0.4	0.3 ～ 0.35	0.3	0.3
深さ（m）	0.3	0.15	0.3	0.3	0.15	0.3
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	あり	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方 13	掘方 14	掘方 15
直径（m）	0.4 ～ 0.5	0.3 ～ 0.35	0.4 ～ 0.5
深さ（m）	0.35	0.35	0.5
平面形	不整楕円形	不整楕円形	不整円形
柱痕跡	あり	あり	なし

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器坏破片　　**時期**　中世

ＲＢ０５２（第 41 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＥ０５７（古）　　**構造**　南北桁行 2 間・東西梁行 2 間，総柱？

棟方向　南北棟，N0°

規模　桁行－総長 3.3 m（11 尺），柱間 1.65 m（5.5 尺）　　梁行－総長 3.3 m（11 尺），柱間 1.65 m（5.5 尺）

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径（m）	0.5 ～ 0.55	0.6	0.4 ～ 0.45	0.5	0.5 ～ 0.75	0.6
深さ（m）	0.45	0.4	0.45	0.5	0.4	0.5
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整楕円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方 7	掘方 8	掘方 9
直径（m）	0.45 ～ 0.6	0.4	0.5
深さ（m）	0.3	0.3	0.45
平面形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	なし	なし

出土遺物　土師器甕破片　　**時期**　中世

ＲＢ０５３（第 41 図）

位置　調査区中央部　　**構造**　南北桁行 2 間・東西梁行 1 間

棟方向　南北棟，N4.5° W

規模　桁行－総長 3.6 m，柱間北から 2.2 m＋ 1.4 m　　梁行－柱間 1.55 m

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径（m）	0.35 ～ 0.4	0.3	0.35	0.3 ～ 0.35	0.35	0.25 ～ 0.4
深さ（m）	0.1	0.3	0.2	0.2	0.15	0.2
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整楕円形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

出土遺物　土師器甕，あかやき土器坏破片　　**時期**　中世

・柱列跡

ＲＣ００３（第 39 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＢ０４９・０５１　　**構造**　南北桁行 4 間

桁行方向　N1.5° W

規模　桁行－総長 9.5 m，柱間北から 2.1 m＋ 2.2 m＋ 2.9 m＋ 2.3 m

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5
直径（m）	0.4	0.5	0.35 ～ 0.4	0.35 ～ 0.4	0.3
深さ（m）	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	あり	なし	あり	なし	あり

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器甕，あかやき土器坏破片　　**時期**　中世

・竪穴状遺構

ＲＥ０５７（第 42 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ピット（新）　　**平面形**　隅丸方形

規模　北東－南西 1.9 m，北西－南東 2.15 m，検出面からの深さ 0.12 m

埋土　Ａ層：暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

Ｂ層：暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物　土師器甕，あかやき土器坏

ＲＥ０５８（第 43 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ピット（新）　　**平面形**　不整方形

規模　北西－南東 2.85 m，北東－南西 2.7 m，検出面からの深さ 0.08 m

埋土　A層：黒褐色土主体。褐色シルトを紛～粒状にわずかに含む。

ＲＥ０５９（第 42 図）

位置　調査区中央部　　**平面形**　不整方形？（調査区外）

規模　東西 1.95 m，南北 1.15 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.15 ～ 0.2 m

埋土　A層：黒褐色土主体。暗褐色土・褐色シルトを粒状に含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む

出土遺物　土師器坏・甕・小形甕，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＥ０６０（第 44 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　隅丸方形

規模　東西 4.0 m，南北 3.25 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.2 m

埋土　A層：黒褐色土主体。黒褐色・褐色シルトを紛状に含み，砂礫が混じる。

L層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含み，礫が非常に多く混じる。

床の状態　床構築土あり　　**柱穴**　ピット 4 口

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏，砥石，鉄製品 (鉄釘)

・土坑

ＲＤ１０７７（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＤ１０８４（古），ＲＤ１０８５（古）　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.1 m・短軸 0.9 m，検出面からの深さ 0.5 m

埋土　A層：黒褐色土主体。褐色・黄褐色シルトを粒状に含む。Ａ 2 層に土器が多く混じる。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

出土遺物（第 92 図 , 第 11 表）土師器坏・高台付坏・甕・小形甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏・高台付坏

ＲＤ１０７８（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　不整円形　　**規模**　径 0.8 ～ 0.85 m，検出面からの深さ 0.4 m

埋土　A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。　　**出土遺物**　土師器甕

ＲＤ１０７９（第 45・51 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　不整円形　　**規模**　径 1.1 ～ 1.2 m，検出面からの深さ 0.4 m

埋土　A層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色・明黄褐色シルトを粒～塊状に含む。Ａ 1 層に礫が多く混じる。

出土遺物　土師器甕，須恵器甕，あかやき土器坏

ＲＤ１０８０（第 45・51 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　不整楕円形　　**規模**　長軸 1.35 m，短軸 0.9 m，検出面からの深さ 0.6 m

埋土　A層：黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み，礫が多く混じる。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器甕，あかやき土器坏

ＲＤ１０８１（第 45・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＡ５６６（古）　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.6 m，短軸 1.2 m，検出面からの深さ 0.4 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＤ１０８４（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＤ１０７７（新），ＲＤ１０８５（古）　　**平面形**　不整円形

規模　径約 0.9 m，検出面からの深さ 0.45 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。炭化物が少し，焼土が多く混じる。土器が多く混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。黒褐色・褐色土を粒～塊状に含む。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏，土製品（土錘），敲石

ＲＤ１０８５（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＤ１０７７（新），ＲＤ１０８４（新）　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.6 m，短軸約 1.0 m，検出面からの深さ 0.45 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含む。

Ｃ層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に多く含み，炭化物・焼土が多く混じる。土器が多く混じる。

出土遺物　土師器坏・甕・小形甕・球胴甕

ＲＤ１０８６（第 47・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＧ４７１，ＲＧ４７２（新），ＲＢ０４９　　**平面形**　隅丸長方形

規模　長辺 2.2 m，短辺 1.1 m，検出面からの深さ 0.25 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。Ａ１層に炭化物が少し混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物（第 94 図，第 12 表）土師器坏・甕・小形甕・砂底土器，須恵器坏・甕・大甕，あかやき土器坏，砥石

ＲＤ１０８７（第 48・51 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＡ５７０（古），ＲＧ４７３（古）

平面形　不整円形

規模　径 1.05 ～ 1.1 m，検出面からの深さ 0.4 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含む。

出土遺物　土師器甕

ＲＤ１０８８（第 48・51 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＡ５７０（古），ピット　　**平面形**　隅丸方形

規模　一辺 2.7 m，検出面からの深さ 0.6 ～ 0.65 m

埋土　Ａ層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色・暗褐色土を紛～粒状に多く含む。明赤褐色焼土粒，炭化物粒，径 2 ～ 5cm の礫が混じる。

Ｂ層：黒褐色・暗褐色シルト主体。黒褐色・暗褐色・褐色シルトを紛～粒状に含む。明赤褐色焼土粒，炭化物粒が混じる。

Ｃ層：黒褐色シルト主体。暗褐色・褐色シルトを粒状に含む。炭化物・焼土が粒状に混じり，砂礫が少し混じる。

Ｄ層：黒褐色シルト主体。褐色シルトを粒状に含み，焼土・炭化物が粒状に少し混じる。

出土遺物（第 93・103 図，第 12・18 表）　土師器坏・甕，須恵器坏・甕・大甕，あかやき土器坏，土製品（フイゴ羽口），鉄製品（鉄釘・棒状鉄製品），古瀬戸瓶子，中国青磁香炉，中国白磁碗，古銭（大観通寶・天聖元寶），馬歯骨

時期　中世（13 ～ 14 世紀）

ＲＤ１０８９（第 51・52 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　不整円形

規模　径 1.1 m，検出面からの深さ 0.35 ～ 0.4 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物（第 92 図，第 11 表）　土師器坏・甕，須恵器坏

ＲＤ１０９０（第 50・51 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＧ４７４（新）　　**平面形**　不整円形

規模　径 1.2 m，検出面からの深さ 0.2 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。Ａ１層に礫が多く混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物　あかやき土器坏

ＲＤ１０９１（第 50・51 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＡ５７３（古），ＲＧ４７４（新）　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 0.95 m，短軸 0.75 m，検出面からの深さ 0.45 m

埋土　Ａ層：黒褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。Ａ３層に礫が多く混じる。

出土遺物　土師器坏，須恵器坏

ＲＤ１０９２（第 50・51 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＡ５７３（古）　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 2.3 m，短軸 2.0 m，検出面からの深さ 0.15 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物（第 92 図，第 11 表） 土師器甕，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏

ＲＤ１０９３（第 50・51 図）

位置 調査区南東部 **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 1.45 m，短軸 1.2 m，検出面からの深さ 0.45 m

埋土 Ａ層：黒褐色土主体。暗褐色土・褐色シルトを紛～粒状に含む。Ａ１層に礫が多く混じる。Ａ２層に焼土・礫が多く混じる。

出土遺物 須恵器甕

ＲＤ１０９４（第 50・51 図）

位置 調査区南東部 **平面形** 不整楕円形

規模 長軸 1.0 m，短軸 0.65 m，検出面からの深さ 0.1 m

埋土 Ａ層：暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物（第 92 図，第 11 表） 須恵器大甕

ＲＤ１０９５（第 48・51 図）

位置 調査区南東部 **重複関係** ＲＡ５７０（新），ピット **平面形** 不整楕円形

規模 長軸 1.3 m，短軸 0.9 m，検出面からの深さ 0.15 m

埋土 Ａ層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。炭化物が少し混じる。

出土遺物 古銭破片

ＲＤ１０９６（第 50・51 図）

位置 調査区南東部 **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 1.2 m，短軸 0.7 m，検出面からの深さ 0.35 m

埋土 Ａ層：黒褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。

Ｂ層：黄褐色シルト主体。黒褐色土を塊状に多く含む。

出土遺物 土師器坏・あかやき土器坏

ＲＤ１０９７（第 50・51 図）

位置 調査区南東部 **重複関係** ＲＡ５７３（古），ＲＧ４７４（新） **平面形** 不整楕円形

規模 長軸 0.95 m以上，短軸 0.65 m，検出面からの深さ 0.25 ～ 0.3 m

埋土 Ａ層：黒褐色土主体。黒褐色土を紛状に含み，Ａ１層に焼土が少し混じる。

ＲＤ１０９８（第 45・51 図）

位置 調査区北西部 **重複関係** ＲＡ５７５，ＲＧ０４２（新）

平面形 不整円形

規模 径 0.9 m，検出面からの深さ 0.1 m

埋土 Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

出土遺物 須恵器甕，あかやき土器坏

ＲＤ１０９９（第 45・51 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　不整円形　　**規模**　径 0.9 m，検出面からの深さ 0.1 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

ＲＤ１１００（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　不整円形　　**規模**　径 1.15 ～ 1.2 m，検出面からの深さ 0.4 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。Ａ１層に炭化物が少し，Ａ２層に炭化物・焼土が少し混じる。

Ｂ層：黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色土・暗褐色土・褐色シルトを粒～塊状に含む。

出土遺物　土師器甕，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＤ１１０１（第 47・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＢ０４９，ＲＤ１０８６，ＲＧ４７１　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 0.9 m以上，短軸 0.75 m，検出面からの深さ 0.1 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

ＲＤ１１０２（第 50・51 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 0.95 m，短軸 0.6 m，検出面からの深さ 0.4 ～ 0.45 m

埋土　Ａ層：黒褐色土・褐色シルト主体。褐色シルト・黒褐色土を粒～塊状に含む。

ＲＤ１１０３（第 50・51 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　不整円形　　**規模**　径 0.75 ～ 0.85 m，検出面からの深さ 0.1 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＤ１１０４（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.35 m，短軸 0.7 m，検出面からの深さ 0.05 ～ 0.1 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に多く含む。焼土が少し混じる。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＤ１１０５（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　不整円形　　**規模**　径 0.55 ～ 0.6 m，検出面からの深さ 0.08 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。焼土が少し混じる。

ＲＤ１１０６（第 48・51 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＧ４７３（新）　　**平面形**　不整長円形

規模　長軸 1.5 m以上，短軸 0.8 m，検出面からの深さ 0.15 m

埋土　A層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に多く含む。　　**出土遺物**　土師器坏・甕

ＲＤ１１０７（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　不整長円形

規模　長軸 1.9 m以上（調査区外），短軸 0.9 m，検出面からの深さ 0.2 m

埋土　A層：黒褐色土主体。黒褐色・褐色土を粒状に含む。Ａ１層に焼土・炭化物が少し，Ａ２層に炭化物が少し混じる。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＤ１１０８（第 48・51 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＡ５７６（古）　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.15 m，短軸 1.0 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.15 m

埋土　A層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物（第 92 図，第 11 表）　土師器坏・甕，須恵器大甕

ＲＤ１１０９（第 48・51 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＡ５７６（古）　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 1.25 m，短軸 0.85 m，検出面からの深さ 0.25 m

埋土　A層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に含む。

ＲＤ１１１０（第 48・51 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　隅丸長方形

規模　長辺 1.5 m，短辺 1.25 m，検出面からの深さ一段目 0.4 m・二段目 0.55 m

埋土　A層:黒褐色土主体。黒褐色土･褐色シルトを紛～粒状に含む。Ａ３層に炭化物が少し，礫が多く混じる。

ＲＤ１１１１（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**平面形**　不整楕円形　　**規模**　長軸 1.5 m，短軸 0.95 m，検出面からの深さ 0.45 m

埋土　A層：黒褐色土主体。褐色シルトを紛状に含み，炭化物が粒～塊状に混じる。土器が混じる。

Ｂ層：暗褐色土主体。褐色シルトを粉状に含む。炭化物・土器が混じる。

Ｃ層：黒褐色・暗褐色・褐色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色シルトを粉状に含む。

Ｄ層：褐色土主体。黒褐色・暗褐色土シルトを粉状に含む。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＤ１１１２（第 50・51 図）

位置　調査区南東部　　**平面形**　不整長円形

規模　長軸 1.85 m，短軸 0.7 m，検出面からの深さ 0.3 m

埋土　A層：黒色・黒褐色土主体。黒褐色土を粒状に含む。Ａ１層に礫が少し混じる。Ａ２層に礫・炭化物

が少し混じる。

出土遺物　鉄製品（鉄釘）

ＲＤ１１１３（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＧ４２４（新）　　**平面形**　不整楕円形？

規模　長軸 0.8 m以上，短軸 0.85 m，検出面からの深さ 0.2 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。Ａ１層に炭化物が混じる。

出土遺物　土師器甕，あかやき土器坏

ＲＤ１１１４（第 47・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＢ０４９，ＲＧ４７１　　**平面形**　不整楕円形

規模　長軸 2.8 m，短軸 1.65 m，検出面からの深さ 0.3 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

出土遺物（第 93 図，第 12 表）　土師器坏，あかやき土器坏，鉄製品（鉄釘）

・溝跡

ＲＧ０４２（第 45・52 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＡ５７５（古），ＲＤ１０９８（古），ＲＧ４６８Ｗ（古）

規模　堀跡。幅 5.4 ～ 5.5 m，延長 20.2 m以上（調査区外），検出面からの深さ 1.5 ～ 2.0 m，北北西から南南東に走る。

埋土　Ａ層：暗褐色土主体。褐色シルト・明赤褐色土を紛～塊状に多く含む。Ａ２層に礫が多く，Ａ３層に礫が少し混じる。

Ｂ層：暗褐色・にぶい黄褐色土主体。褐色シルトを紛～粒状に含む。

Ｃ層：暗褐色・褐色・褐灰色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色・褐灰色土を多く含む。Ｃ 15 層に明赤褐色鉄分が少し混じる。

Ｄ層：黒褐色土主体。黒褐色・褐色・黄褐色シルトを粒～塊状に含む。Ｄ１・Ｄ２層に径２～ 10cm の礫が多く混じる。Ｄ４層に径５～ 10cm の礫がやや多く混じる。

Ｅ層：褐灰色土主体。明赤褐色鉄分を粒状に含む。

Ｆ層：褐灰色土主体。黒褐色土を粒状に含む。砂礫が多く混じる。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏・甕・大甕，あかやき土器坏，瓷器系陶器捏鉢

時期　中世（13 ～ 14 世紀）

ＲＧ４２４Ｗ（第 46・52 図）

位置　調査区北西部

重複関係　ＲＡ５６７（古）・５６９，ＲＢ０４９，ＲＤ１１１３，ＲＧ４６９・４７５

規模　堀跡。幅 3.25 ～ 3.75 m，延長 23.2 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.88 m，北北西から南南東に走り，ＲＧ０４２と並行する。

埋土　A層：黒褐色土主体。黒褐色土を塊状に含む。
B層：黒褐色土主体。黒褐色土を粒状に少し含み，径１～4cm の礫が多く混じる。
C層：黒褐色土主体。暗褐色土を塊状に含む。焼土が多く，炭化物が少し混じる。
D層：黒褐色土主体。炭化物が塊状に非常に多く混じる。
E層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。Ｅ１層に径２～10cm の礫が多く混じる。Ｅ２層に径２～5cm の礫が少し混じる。

出土遺物（第 92・93 図，第 11・12 表）　土師器坏・高台付坏・甕・小形甕，須恵器坏・甕・大甕，あかやき土器坏・高台付坏，土製品（フイゴ羽口），敲石，鉄製品（鉄釘・棒状鉄製品・鉄滓），中国青磁竜泉窯系碗

時期　中世（13 ～ 14 世紀）

ＲＧ４２４Ｅ（第 49・52 図）

位置　調査区南東部

規模　堀跡。幅 3.6 ～ 4.1 m, 延長 18.2 m以上（調査区外), 検出面からの深さ 0.97 m, 東西に走り, 底面にピット１口あり。

埋土　A層：灰黄褐色土主体。明黄褐色シルトを粒状に多く含む。
B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。
C層：黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。
D層：黒褐色土主体。黄橙色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物　土師器坏・高台付坏・甕・小形甕，須恵器坏・甕・大甕，あかやき土器坏・高台付坏，土製品（フイゴ羽口），敲石，鉄製品（鉄釘・刀子），中国青磁竜泉窯系碗

時期　中世（13 ～ 14 世紀）

ＲＧ４６７（第 45・46・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＡ５６５（古）

規模　幅 0.2 ～ 0.45 m，延長 9.4 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.12 m，西南西から東北東に走る。

埋土　A層：黒褐色土主体。暗褐色土を粒状に含み，炭化物が少し混じる。

ＲＧ４６８Ｗ（第 45・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＧ０４２（新）

規模　幅 0.45 ～ 0.5 m , 延長 2.6 m以上（調査区外), 検出面からの深さ 0.07 ～ 0.1 m, 西南西から東北東に走る。

埋土　A層：暗褐色土主体。明黄褐色土を粒状に多く含む。

出土遺物（第 92 図，第 11 表）　土師器坏，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏

ＲＧ４６８Ｅ（第 45・51 図）

位置　調査区北西部　　**規模**　幅 0.25 ～ 0.3 m , 延長 1.95 m以上 , 検出面からの深さ 0.06 m, ほぼ東西に走る。

埋土　A層：暗褐色土主体。明黄褐色土を粒状に多く含む。

出土遺物　土師器坏，須恵器坏・甕，あかやき土器坏

ＲＧ４６９（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＢ０４９・０５０，ＲＣ００３，ＲＧ４２４・４７２

規模　幅 1.1 ～ 1.35 m，延長 5.4 m，検出面からの深さ 0.15 m，西南西から東北東に走る。

埋土　Ａ層：灰黄褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。径１～ 5cm の礫が混じる。

出土遺物　土師器坏・甕，あかやき土器坏

ＲＧ４７０（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＢ０４９・０５０，ピット

規模　幅 0.3 ～ 0.4 m，延長 2.9 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.14 m，北北西から南南東に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

ＲＧ４７１（第 47・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＤ１０８６（古）・１１１４，ＲＧ４７２（古）

規模　幅 0.25 ～ 0.5 m，延長 12.7 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.2 m，一部カーブしながら南北に走る。

埋土　Ａ層：暗褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物（第 92 図，第 11 表）　土師器坏・甕・小形甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏，鉄製品（鉄釘）

ＲＧ４７２（第 46・47・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＢ０４９・０５０，ＲＤ１０８６，ＲＧ４６９・４７１，ピット

規模　幅 0.65 ～ 0.85 m，延長 16.6 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.12 ～ 0.18 m，北西から南東に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土・褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物　あかやき土器坏

ＲＧ４７３（第 48・51 図）

位置　調査区南東部　　**重複関係**　ＲＤ１０８７（新）・１１０６（古）

規模　幅 0.4 ～ 0.65 m，延長 6.16 m，検出面からの深さ 0.07 ～ 0.12 m，やや蛇行しながら南北に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。炭化物・焼土が少し混じる。

ＲＧ４７４（第 50・51 図）

位置　調査区南東部

重複関係　ＲＡ５７３・５７４（古），ＲＤ１０９０（古）・１０９１（古）・１０９７（新）

規模　幅 0.52 ～ 0.9 m，延長 16.6 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.15 ～ 0.2 m，北西から南東に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを紛～粒状に含む。

ＲＧ４７５（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＡ５６９，ＲＢ０５１，ＲＧ４２４

規模　幅 0.65 ～ 0.85 m，延長 8.0 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.15 ～ 0.3 m，北西から南東に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。Ａ１層に炭化物が少し混じる。

出土遺物　土師器甕，須恵器坏

ＲＧ４７６（第 46・51 図）

位置　調査区北西部　　**重複関係**　ＲＢ０４９・０５０

規模　幅 0.6 ～ 0.75 m，延長 3.15 m，検出面からの深さ 0.07 m，南北に走る。

埋土　Ａ層：暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物　土師器坏，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＧ４７７（第 49・54 図）

位置　調査区北西部　　**規模**　幅 0.2 ～ 0.47 m，延長 7.4 m，検出面からの深さ 0.07 ～ 0.12 m，南北に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒～塊状に含む。

・ピット

調査区内に古代以降のピット 194 口を検出した（第 45・46・47・48・49・50・52・53 図）。各ピットの規模は第 2･3 表のとおりである。埋土より土師器坏･甕, 須恵器坏･甕, あかやき土器坏･甕の破片, 鉄製品（釘？）が出土している。

(7) 第 46 次調査（平成 14 年度）

今次調査区は, 遺跡の中央部に位置し, 盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第 54 図）。調査面積は 334㎡。重機により表土を除去し，遺構検出を行った。

ａ．遺構と遺物

調査の結果，奈良～平安時代の竪穴住居跡 2 棟（RA578・579）を検出した。

・竪穴住居跡

ＲＡ５７８（第 58 図）

位置　調査区南東部（南西部を県埋文 26 次調査で RA441 として精査）　　**平面形**　隅丸方形（調査区外）

規模　北西－南東 5.7 m以上（調査区外），北東－南西 6.3 m，検出面からの深さ 0.2 ～ 0.33 m

カマド方向　N23.0° W，北西カマド，長い煙道（1.53 m）

柱穴　主柱穴 1 口，その他ピット 1 口

	Pit1
直径（m）	0.4
深さ（m）	0.67
平面形	不整円形
柱痕跡	なし

貯蔵穴　床面北東隅に 1 基（pit2）

埋土　５層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む。

C層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含む。

D層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

E層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含み，明赤褐色土を粒状にわずかに含む。

カマド　両袖残存　　**床の状態**　床面北東部に一括土器あり，床構築土あり

出土遺物（第 94・95・96 図，第 13・14 表）　土師器非ロクロ坏・高台付坏・甕・朱彩球胴甕・小形朱彩壷，壷，土製品（ミニチュア土器，勾玉，棒状土製品），鉄製品（切羽），獣骨（焼骨）

時期　奈良～平安時代（8 世紀後葉～ 9 世紀前葉）

ＲＡ５７９（第 56 図）

位置　調査区東部　　**平面形**　隅丸方形

規模　北西－南東 5.1 m，北東－南西 5.65 m，検出面からの深さ 0.05 m

カマド方向　N42.0° W，北西カマド，長い煙道（1.65 m）

柱穴　主柱穴 4 口

	Pit1	Pit2	Pit3	Pit4
直径（m）	0.5 ～ 0.6	0.55 ～ 0.65	0.52 ～ 0.7	0.5 ～ 0.55
深さ（m）	0.53	0.48	0.55	0.62
平面形	不整楕円形	不整楕円形	不整楕円形	不整円形
柱痕跡	あり	あり	あり	あり

埋土　２層に大別される

A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

B層：黒褐色土主体。明赤褐色シルトを粒状に含む。

カマド　袖残存せず，焚口の焼け面あり　　**床の状態**　床構築土あり

出土遺物（第 95 図，第 13 表）　土師器坏・甕・長頸瓶　　**時期**　奈良～平安時代（8 世紀後葉～ 9 世紀前葉）

・遺構外

遺構外より古銭（中国銭）がまとまって出土した（第 104 図，第 18 表）。完形で残存しているものは図化した 12 点であり，その他は欠損しているか破片となっている。完形品のうち 1 枚が唐銭（開元通寶），11 枚が北宋銭（祥符元寶，天聖元寶，景祐元寶？，皇宋通寶，熙寧元寶，元豊通寶？，元祐通寶，紹聖元寶）と考えられる。

(8) 第 47 次調査（平成 14 年度）

今次調査区は，遺跡の北東部に位置し，アパート新築に伴う試掘確認調査として実施した（挿図 3）。調査対象面積 842㎡について，重機により幅約 2 mの試掘トレンチ 4 本を設定し（調査面積 184㎡），表土下 0.6～1.0 mの黄褐～灰褐色粘土層上面で遺構・遺物の有無を確認した。その結果，当該地は過去の開田工事によって削平・盛土されていることが確認でき，果樹の根による攪乱も多く，遺構は確認されなかった。また遺物は，数片の土師器が出土したのみであり，調査対象範囲について調査終了地区とした。

(9) 第 48 次調査（平成 14 年度）

今次調査区は，遺跡の北東部に位置し，店舗建築に伴う試掘確認調査として実施した（挿図 3)。調査対象面積 2,068㎡について，重機により幅約 2 mの試掘トレンチ 4 本を設定し（調査面積 326㎡)，表土下 0.3 ～ 0.6 mの褐色シルト層上面で遺構・遺物の有無を確認した。その結果，一部で既存建物基礎の攪乱・削平を受けていたものの，古代の竪穴住居跡・土坑・溝跡等が検出され，土師器・あかやき土器の破片が多く出土した。遺構の分布は，調査対象範囲の北西部で最も遺構が集中し，南東側に向かって徐々に遺構密度が薄くなっていた。そのため，遺構検出面を掘削する工事を実施する場合は本調査が必要である旨，事業主と協議を行った結果，設計変更により遺構検出面を保護する施工方法を採用する確約書が提出され，施工時に職員が立会を行い，遺構の保護を確認した。

(10) 第 49 次調査（平成 14 年度）

今次調査区は，遺跡の南東部に位置し，アパート新築に伴う試掘確認調査として実施した（挿図 3)。調査対象面積 541㎡について，重機により幅約 2 mの試掘トレンチ 2 本を設定し（調査面積 49㎡)，表土下 0.7 ～ 0.8 m褐色シルト層上面で遺構・遺物の有無を確認しが，遺構遺物は確認されず，調査対象範囲について調査終了地区とした。

(11) 第 56 次調査（平成 17 年度）

今次調査区は，遺跡の中央部に位置し，盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第 57 図)。調査対象面積は 160㎡であるが，下水道配管工事の事前着工のため調査不能範囲があり，調査面積は 50㎡であった。重機により表土となる道路路盤を除去し，路盤下 0.6 mの暗褐色～褐色シルト層上面で遺構検出を行った。

a．遺構と遺物

調査の結果，平安時代の土坑 1 基（RD2004）を検出した。

・土坑

ＲＤ２００４（第 57 図）

位置　調査区南部　　**平面形**　不整楕円形　　**規模**　長軸 1.0 m・短軸 0.8 m，検出面からの深さ 0.3 m

埋土　A層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を紛～塊状に多く含み，炭化物粒が混じる。

(12) 第 57 次調査（平成 17 年度）

今次調査区は，遺跡の西部に位置し，盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第 58 図)。調査面積は 1,047㎡。重機により表土を除去し，地表下 0.3 ～ 0.5 mの褐色シルト層及び砂礫層上面で遺構検出を行った。

ａ．遺構と遺物

調査の結果，平安時代の竪穴住居跡 6 棟（RA614 ～ 619）・土坑 1 基（RD2009），近世以降の掘立柱建物跡 2 棟（RB054・055）・土坑 5 基（RD2005 ～ 2008・2010）・溝跡 5 条（RG520 ～ 524），ピット 43 口を検出した。

・竪穴住居跡

ＲＡ６１４（第 59 図）

位置　調査区北部　　**重複関係**　ピット（新）　　**平面形**　隅丸方形

規模　北東－南西 2.9 m，北西－南東 3.05 m，検出面からの深さ 0.15 ～ 0.2 m　　**柱穴**　ピット 2 口

埋土　４層に大別される

Ａ層：黒色・黒褐色シルト主体。褐色シルト及び黒褐色・暗褐色シルトを粉～粒状に含み，炭化物粒がわずかに混じる。

Ｂ層：黒褐色シルト主体。褐色シルト及び黒色土を粉状に含み，焼土粒・炭化物粒がわずかに混じる。

Ｊ層：カマド崩壊土。赤褐色シルト・黒褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを紛～粒状に含み，赤褐色焼土粒が混じる。

Ｌ層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を紛～粒状に多く含み，灰白色火山灰がわずかに混じる。

床の状態　床面南西部に焼け面あり，床構築土あり

出土遺物（第 97 図，第 15 表）　土師器坏・甕，須恵器坏・甕，土製品（土錘）

時期　平安時代（9 世紀後葉）

ＲＡ６１５（第 61 図）

位置　調査区北部　　**平面形**　隅丸方形

規模　南北 3.95 m，東西 3.55 m，検出面からの深さ 0.2 m

カマド方向　N9.5° E，北カマド，長い煙道（1.6 m）　　**貯蔵穴**　カマド右袖脇に 1 口（pit1）

埋土　５層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色・黒色土を紛～粒状に含み，焼土粒がわずかに混じる。

Ｂ層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を紛～塊状に多く含み，小礫が混じる。

Ｃ層：褐色土主体。黒褐色土を紛～粒状に含む。

Ｊ層：カマド崩壊土。黒褐色・褐色土主体。褐色・暗褐色土及び赤褐色焼土を粒～塊状に多く含み，炭化物粒が混じる。

Ｌ層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を紛～粒状に含み，焼土がわずかに混じる。

カマド　両袖残存，焚口の焼け面あり　　**床の状態**　周溝あり，床構築土あり

出土遺物（第 97・100・105 図，第 15・16・18 表）　土師器坏・甕，須恵器坏・大甕，土製品（土錘），鉄製品（鉄釘），寛永通寶（攪乱）

時期　平安時代（9 世紀中葉）

ＲＡ６１６（第 64 図）

位置　調査区北部　　**平面形**　不整隅丸方形

規模　東西 4.85 m，南北 4.35 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.15 m

カマド方向　煙道なし　　**柱穴**　ピット１口

埋土　４層に大別される

Ａ層：黒褐色シルト主体。灰白色火山灰を塊状に含み，径１～ 5cm の礫が多く混じる。

Ｂ層：暗褐色シルト主体。黄褐色砂礫が混じる。

Ｃ層：注記なし

Ｌ層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色シルトを塊状に含み，礫が多く混じる。

床の状態　床面北東部と南東部に焼け面２箇所，床構築土あり

出土遺物（第 97 図，第 15 表）　土師器坏･高台付坏･甕，須恵器坏･甕･長頸瓶，あかやき土器坏，鉄製品（刀子・鉄釘）

時期　平安時代（9 世紀）

ＲＡ６１７（第 62 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＤ２００８（新），ＲＤ２００９（新），ピット（新）

平面形　隅丸方形　　**規模**　東西 4.25 m，南北 4.45 m，検出面からの深さ 0.3 m

カマド方向　W15.5° N，西カマド，長い煙道（1.55 m）　　**柱穴**　ピット４口

埋土　５層に大別される

Ａ層：黒褐色土主体。褐色土を粒状にわずかに含み，灰白色火山灰が混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。黒色・褐色土を粉～塊状 , 赤褐色焼土を粒～塊状に含み , 炭化物粒が少し混じる。

Ｃ層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を紛～粒状にわずかに含む。

Ｊ層：カマド崩壊土。黒色・黒褐色・褐色土主体。黒褐色・褐色土を紛～粒状に含み，炭化物粒・焼土粒・砂礫が少し混じる。

Ｌ層：床構築土。褐色土主体。黒褐色土を粉～塊状 , 赤褐色焼土を粒状に含み，炭化物粒が少し混じる。

カマド　両袖残存　　**床の状態**　床面東部に焼け面あり，硬化面あり，床構築土あり

出土遺物（第 98･100 図，第 15･16 表）　土師器坏（非ロクロ）･高台付坏･甕，須恵器坏･大甕，土製品（土錘），石製品（軽石），鉄製品（鉄釘・刀子）

時期　平安時代（9 世紀中葉）

ＲＡ６１８（第 59 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＤ２００６（新）　　**平面形**　隅丸方形？（一部のみ）

規模　北東－南西 1.4 m以上，北西－南東 2.3 m以上，検出面からの深さ 0.2 m

埋土　２層に大別される

Ａ層：黒色・黒褐色土主体。黒褐色・暗褐色土を粉状に含み，径３～ 5cm の礫と灰白色火山灰が粒～塊状に混じる。

Ｂ層：黒色シルト主体。砂粒及び径 2cm の礫が混じる。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器坏，鉄製品（刀子）　**時期**　平安時代（9 世紀）

ＲＡ６１９（第 63 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＤ２０１０（新），ＲＧ５２４（新），ピット（新）　　**平面形**　隅丸方形

規模　東西 4.2 m，南北 4.6 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.15 m

カマド方向　E8.0° N，東カマド，長い煙道（1.5 m）

埋土　３層に大別される

Ａ層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を紛～粒状 , 赤褐色焼土を粒状に含み，炭化物粒及び砂礫が混じる。

Ｊ層：カマド崩壊土。黒褐色・褐色土主体。暗褐色・褐色・赤褐色シルトを紛～塊状に含み，砂礫・焼土粒・炭化物粒が混じる。

Ｌ層：黒褐色シルト主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含み，赤褐色焼土が粒～塊状に，炭化物が粒状に混じる。

カマド　右袖残存，焚口の焼け面あり　　**床の状態**　床構築土あり

出土遺物（第 97 図，第 15 表）　土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏

時期　平安時代（9 世紀）

・掘立柱建物跡

ＲＢ０５４（第 64 図）

位置　調査区南部　　**重複関係**　ＲＧ５２０（新）

構造　南北桁行 4 間・東西梁行 2 間の身舎に，西側 2 間の廂または下屋が付く

棟方向　南北棟，西側柱筋 N4.0° E・東側柱筋 N5.0° E

規模

身舎：桁行－総長 10.2 m（34 尺），柱間 2.55 m（8.5 尺）等間

梁行北側柱筋－総長 5.4 m（18 尺），柱間西から 2.85 m（9.5 尺）＋ 2.55 m（8.5 尺）

梁行南側柱筋－総長 5.25 m（17.5 尺），柱間西から 2.4 m（8 尺）＋ 2.85 m（9.5 尺）

廂（下屋）：桁行－総長 5.1 m（17 尺），柱間 2.55 m（8.5 尺）等間

梁行－南北とも 1.05 m（3.5 尺）

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径（m）	0.3 ～ 0.35	0.35 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.3	0.35 ～ 0.4	0.35
深さ（m）	0.4	0.15	0.4	0.3	0.4	0.5
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	あり	なし	あり	あり	あり	あり

	掘方 7	掘方 8	掘方 9	掘方 10	掘方 11	掘方 12
直径（m）	0.3	0.3 ～ 0.35	0.4	0.3 ～ 0.35	0.35 ～ 0.4	0.25 ～ 0.3
深さ（m）	0.4	0.4	0.3	0.3	0.45	0.4
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	あり	あり	あり	あり	あり	なし

	掘方 13	掘方 14	掘方 15
直径（m）	0.3 ～ 0.35	0.35	0.35 ～ 0.4
深さ（m）	0.7	0.4	0.35
平面形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	あり	あり	あり

出土遺物（第 105 図, 第 18 表） 天聖元寶（北宋銭, 掘方 6), 皇宋通寶（北宋銭, 掘方 1), 寛永通寶（古寛永, 掘方 11）

時期 近世以降

ＲＢ０５５（第 64 図）

位置 調査区中央部 **重複関係** ＲＧ５２１（新）

構造 東西桁行 3 間・南北梁行 2 間 **棟方向** 東西棟, 桁行柱筋 E12.0° N

規模 桁行－総長 8.1 m（27 尺), 柱間 2.7 m（9 尺）等間

梁行－総長 5.7 m（19 尺), 柱間 2.85 m（9.5 尺）等間

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径（m）	0.4 ～ 0.45	0.35 ～ 0.4	0.35 ～ 0.45	0.3 ～ 0.35	0.35	0.3 ～ 0.5
深さ（m）	0.3	0.5	0.55	(0.5)	0.3	0.35
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形	不整楕円形
柱痕跡	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	掘方 7	掘方 8	掘方 9	掘方 10
直径（m）	0.4 ～ 0.45	0.35	0.35	0.4 ～ 0.45
深さ（m）	0.3	0.5	0.5	0.45
平面形	不整円形	不整円形	不整円形	不整円形
柱痕跡	なし	あり	あり	あり

時期 近世以降

・土坑

ＲＤ２００５（第 65 図）

位置 調査区南部 **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 1.95 m・短軸 0.9 m, 検出面からの深さ 0.3 m

埋土 Ａ層：黒褐色土・焼土主体。褐色・黒褐色土を含み, 炭化物が粒～塊状に, 径 3 ～ 10cm の礫が混じる。

出土遺物 土師器坏破片

ＲＤ２００６（第 65 図）

位置 調査区中央部 **重複関係** ＲＡ６１８（古), ＲＤ２００７（古), ＲＤ２００８（古）

平面形　不整楕円形　　**規模**　長軸 7.8 m・短軸 5.1 m，検出面からの深さ 0.3 ～ 0.5 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色土・黒色土を粉～粒状に含む。Ａ１層に灰白色火山灰がわずかに混じり，Ａ２層がややグライ化，Ａ３・４層には礫がわずかに混じる。

Ｂ層：水成堆積土。黒褐色土主体。褐色・黒色シルトを粉～塊状に多く含み，酸化鉄が混じる。

Ｃ層：黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を紛～粒状に含み，Ｃ１・４・６・７・８・９層に砂礫が混じる。

出土遺物（第 99・100 図，第 15・16 表）　土師器坏・甕，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏・甕，砥石，鉄製品（鉄釘）

ＲＤ２００７（第 65 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＤ２００６（新）

平面形　不整隅丸長方形　　**規模**　長辺 3.0 m・短辺 2.6 m，検出面からの深さ 0.25 ～ 0.3 m

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。黒色土・褐色シルトを粉状に含み，炭化物粒及び径 0.5 ～ 10cm の礫が混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。褐色シルトを紛～塊状に含み，径 0.5 ～ 10cm の砂礫が多く混じる。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏，あかやき土器坏

ＲＤ２００８（第 65 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＤ２００６（新），ＲＤ２０１０（古）

平面形　不整楕円形　　**規模**　長軸 6.6 m・短軸 3.5 m，検出面からの深さ 0.25 ～ 0.5 m

埋土　Ａ層：黒褐色シルト主体。暗褐色・褐色シルトを粒～塊状に含み，砂及び径１～ 3cm の礫が混じる。

Ｂ層：黒褐色シルト主体。褐色砂を含み，径１～ 3cm の礫が多く混じる。

Ｃ層：黒褐色・暗褐色シルト主体。褐色シルトを粒～塊状に含み，砂礫が混じる。Ｃ 10 層に灰白色火山灰が粒～塊状に混じる。

出土遺物（第 99 図，第 15 表）土師器坏・高台付坏・甕，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏・甕，鉄製品（刀子）

ＲＤ２００９（第 65 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＡ６１７（古）　　**平面形**　不整隅丸長方形

規模　長辺 1.9 m・短辺 1.7 m，検出面からの深さ 0.45 m　　**特徴**　南東隅に袋状ピット１口

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。黒色・褐色土を粉状に含む。

Ｂ層：黒色・黒褐色シルト主体。黒褐色・褐色シルトを粉～粒状に含み，Ｂ１層に灰白色火山灰が粒状に少し混じる。

Ｃ層：黒色シルト主体。黒褐色・褐色シルトを粉状に含む。

Ｄ層：袋状ピット埋土。黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を紛～粒状に多く含み，Ｅ２層に焼土粒・炭化物粒がわずかに混じる。

出土遺物（第 99 図，第 15 表）　土師器坏・甕，土製品（土錘）

ＲＤ２０１０（第 65 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＤ２００８（新）

平面形　不整楕円形　　**規模**　長軸 4.8 m・短軸 1.7 m，検出面からの深さ 0.1 ～ 0.2 m

埋土　Ａ層：黒色・黒褐色土主体。暗褐色・褐色シルトを紛～粒状に多く含み，灰白色火山灰が粒～塊状に少し混じる。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器坏・甕

・溝跡

ＲＧ５２０（第 66・67 図）

位置　調査区南部　　**重複関係**　ＲＧ５２１

規模　幅 0.55 ～ 0.9 m，延長 19.7 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.3 ～ 0.4 mをはかり，東北東から西南西に走る。

埋土　Ａ層：黒色・黒褐色土主体。暗褐色土を紛状に含み，径１～ 3cm の礫がわずかに混じる。

Ｂ層：黒褐色土主体。黒色土を粉状に含み，砂礫が多く混じる。

出土遺物　土師器坏・甕，須恵器甕

ＲＧ５２１（第 66・67 図）

位置　調査区南部　　**重複関係**　ＲＧ５２０・５２２

規模　幅 0.25 ～ 0.55 m，総延長 32.5 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.05 ～ 0.15 mをはかり，途切れながら東西に走り，屈曲して南北に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色シルト主体。暗褐色・褐色シルトを紛～粒状に含む。

ＲＧ５２２（第 67 図）

位置　調査区南部　　**重複関係**　ＲＧ５２１

規模　幅 0.35 ～ 0.4 m , 延長 4.15 m , 深さ 0.05 mをはかり , 途切れながら東北東から西南西に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色土を紛～粒状に含む。

ＲＧ５２３（第 67 図）

位置　調査区北部　　**重複関係**　ＲＡ６１６（古）

規模　幅 0.2 ～ 0.35 m，延長 6.6 m以上（調査区外），検出面からの深さ 0.05 ～ 0.2 mをはかり，東北東から西南西に走る。

埋土　Ａ層：黒色・黒褐色土主体。暗褐色土を紛状に含み，径 1cm の礫がわずかに混じる。

出土遺物　土師器坏・甕

ＲＧ５２４（第 67 図）

位置　調査区中央部　　**重複関係**　ＲＡ６１９（古）

規模　幅 0.4 ～ 0.5 m，延長 2.8 m，検出面からの深さ 0.1 mをはかり，南北に走る。

埋土　Ａ層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

出土遺物　土師器坏・甕

・ピット

調査区内に古代以降のピット 43 口を検出した（第 68・69 図）。各ピットの規模は第 4 表のとおりである。埋土より土師器坏・甕，須恵器坏・甕，あかやき土器坏の破片が出土している。

・遺構外

調査区内の遺構検出面から，古銭が出土している（第 105 図，第 18 表）。263 は中国，北宋銭（祥符通寶？）と考えられ，264 は近世の寛永通宝（新寛永）である。

第4章　総括

１．調査のまとめ

盛岡市教育委員会で行った平成 13 ～ 18 年度の台太郎遺跡の発掘調査により，第 3 章に記載した内容の成果を得ることができた。

以下，遺構の精査を行った各次本調査の内容のまとめを行い，総括とする。なお，精査を行った竪穴住居跡の一覧は第 19 表のとおりである。

第 37 次調査

遺跡の中央部で実施した第37次調査では，奈良時代の竪穴住居跡1棟（RA523），古代以降の土坑5基（RD959 ～ 963）・溝跡 2 条（RG403・404）を検出した。

ＲＡ５２３住居跡は，調査区北西部に検出され，一辺約 4.9 ｍと中規模な住居跡である。北西カマドであり，両袖とも残存しないが，焚口の焼け面がある。床面に炭化材と焼土があり，埋土にも炭化物粒と焼土粒が混じる。出土した土器は土師器坏（非ロクロ）・甕が出土しており，年代は 8 世紀後半と考えられる。

第 39 次調査

遺跡の中央部で実施した第 39 次調査では，平安時代の竪穴住居跡 12 棟（RA524 ～ 535），土坑 10 基（RD964 ～ 973）･溝跡 18 条（RG405 ～ 422）･焼土遺構（RF043），中世の掘立柱建物跡 1 棟（RB043）･堀跡 2 条（RG042･424），近世以降の溝跡 1 条（RG423），古代以降のピット 111 口を検出した。後述する第 45 次調査区に隣接している。

平安時代の竪穴住居跡 12 棟は，調査区内に点在しており，調査区外へのびる，または中央に走る中世の堀跡ＲＧ０４２・４２４に重複して切られているなどして，全体形を検出したものはない。住居跡が重複しているのはＲＡ５２９とＲＡ５３１のみである。住居跡の規模をみると，一辺５ｍ以上の大形が２棟（RA528･529），一辺３ｍ以上５ｍ未満の中形が５棟（RA525･526･530･534･535），一辺３ｍ未満の小形が３棟（RA524･527･532）であり，中形住居が多い。カマド方向は，北東カマドが１棟（RA535），東カマドが１棟（RA525），西カマドが１棟（RA526），北西カマドが３棟（RA524・530・534）であり，北西カマドが多い。煙道は，すべて在地型の長い煙道であり，ＲＡ５３０のみトンネル状となっている。カマドの袖は，ＲＡ５２５・５２６・５３０・５３４の４棟のみ残存している。ＲＡ５２５はカマド右袖脇に貯蔵穴がある。床に硬化面のある住居跡は，６棟（RA526・528・529・530・534・535）ある。主柱穴のある住居はない。ＲＡ５３４の床面からは，土師器の長胴甕が５個体まとまって出土している。ＲＡ５２５・５２６・５３５の３棟は，埋土上層Ａ層に十和田ａ火山灰（To-a，915 年降下）と考えられる灰白色火山灰が混じる。住居跡から出土した土器は，土師器坏（ロクロ）・甕，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏・甕などであるが，あかやき土器は少ない。ＲＡ５２９の床面より，奈良時代に特徴的な球胴甕が出土している。年代としては，ＲＡ５２９・

５３５が9世紀前葉～中葉，ＲＡ５２５・５２８・５３４が9世紀中葉，ＲＡ５２４・５２６が9世紀中葉～後葉と考えられる。土製品としては，ＲＡ５２５より土錘，ＲＡ５３４より紡錘車が出土している。鉄製品としては，ＲＡ５２５より釘，ＲＡ５２６より刀子，ＲＡ５２８より刀子・釘・鏃，ＲＡ５２９床面より鉈（やりがんな）が出土している。

中世の堀跡ＲＧ０４２Ｗ・Ｅは，調査区内を東北東から西南西に走り，調査区北西部で南南東方向へ屈曲している。ＲＧ４２４は，ＲＧ０４２より分岐して，屈曲したＲＧ０４２に並行して北北西から南南東に走る。堀跡の規模は，ＲＧ０４２が幅3.2～5.1ｍ・深さ0.9～1.5ｍ，ＲＧ４２４が幅3.1～4.0ｍ・深さ0.65～0.7ｍと，ＲＧ０４２が幅・深さともやや規模が大きい。並行して走る部分のＲＧ０４２とＲＧ４２４の間隔は，芯々で約17ｍ，上端で12.4～13.4ｍをはかる。ＲＧ０４２とＲＧ４２４の南端は，隣接する市教委第45次調査区へ続いている。また，ＲＧ０４２の東端は隣接する県埋文センター第18次調査区へ続いている。これらの堀跡は，東西約160ｍ・南北約110ｍの範囲を不正五角形に堀が囲む中世の居館跡の北西部にあたり，内側のＲＧ４２４は古い時期の一回り小さな区画の堀の一部と考えられる。ＲＧ０４２からは，古代の土器も多く出土しているものの，中国青磁（竜泉窯系）・常滑・瓷器系陶器・須恵器系陶器の破片が出土しており，13～14世紀の年代が考えられる。ＲＧ４２４からは，古代の土器が出土するのみで，中世の年代を示す遺物は出土していない。

掘立柱建物跡ＲＢ０４３が，2条の堀跡ＲＧ０４２と４２４の間に検出されている。桁行3間・梁行1間の小規模な東西棟であるが，中世の居館の一部を構成するものである可能性がある。

第42次調査

遺跡の北西部で実施した第42次調査では，平安時代の竪穴住居跡1棟（RA546）・土坑2基（RD982・983）・溝跡2条（RG440・441）を検出した。

平安時代の竪穴住居跡ＲＡ５４６は，調査区南東端に検出されたものであるが，削平されて平面形は不明であり，カマド焚口の焼け面と考えられる焼土と，貯蔵穴と考えられるピットのみが確認された。

調査区東部には，南北に走る溝跡ＲＧ４４０，北東から南西に走る溝跡ＲＧ４４１を検出しており，調査区南端で交差している。溝跡からは，ロクロ使用の土師器坏，須恵器坏が出土しており，平安時代9世紀の年代が考えられる。

第45次調査

遺跡の中央部で実施した第45次調査では，平安時代の竪穴住居跡13棟（RA565～577）古代の竪穴状遺構4基（RE057～060），古代以降の土坑36基（RD1077～1081・1084～1114）・溝跡11条（RG467～477），中世の堀跡2条（RG042・424）・掘立柱建物跡5棟（RB049～053）・掘立柱列跡1列（RC003）を検出した。前述した第39次調査区に隣接している。

平安時代の竪穴住居跡13棟は，調査区内に点在しており，ＲＡ５７０とＲＡ５７６，ＲＡ５７３とＲＡ５７４のみが重複している。複数の煙道があり，建替えが認められる住居跡はＲＡ５６５・５６９・５７０の3棟である。住居跡の規模をみると，一辺5ｍ以上の大形が2棟（RA565・569），一辺3ｍ以上5ｍ未満の中形が8棟（RA566・567・568・571・572・573・575・576），一辺3ｍ未満の小形が2棟（RA569・574）であり，中形住居が多い。カマド方向は，北カマドが3棟（RA565b･570a･572），北東カマドが1棟（RA565a），東カマドが3棟（RA565c・565d・577），南東カマドが1棟（RA569b），西カマドが3棟（RA568・569a・

570b）であり，北・東・西方向とまとまりはない。複数の煙道がある住居跡をみると，ＲＡ５６５では北カマド１基・北東カマド１基・東カマド２基，ＲＡ５６９では南東カマド１基・西カマド１基，ＲＡ５７０では北カマド１基・西カマド１基となっている。煙道は，すべて在地型の長い煙道であり，大形住居であるＲＡ５６５ａ・ｂ・ｃ・ｄのみトンネル状となっている。カマドの袖は，ＲＡ５６５ａ・５６８・５７２の３棟のみ両袖が残存している。貯蔵穴をもつ住居跡はない。床に硬化面のある住居跡はＲＡ５６８のみである。主柱穴のある住居跡は，大形住居であるＲＡ５６５のみであり，６口の柱穴を確認している。ＲＡ５６５は埋土中層Ｃ層に多く，ＲＡ５７２・５７３は埋土上層Ａ層に十和田ａ火山灰と考えられる灰白色火山灰が混じる。住居跡から出土した土器は，土師器坏（ロクロ）・甕，須恵器坏・長頸瓶・甕・大甕，あかやき土器坏・甕などであり，特に大形住居であるＲＡ５６５からは多量の土器が出土し，あかやき土器坏・甕が多い。年代としては，ＲＡ５７０・５７２が９世紀前葉～中葉，ＲＡ５６６・５６７・５７３が９世紀中葉，ＲＡ５６５はあかやき土器坏の出土量が特徴的に多く９世紀後葉と考えられる。文字資料として，刻書・墨書土器が出土しており，刻書では「体？」（RA565c），墨書では「山？」（RA565）・「志？」（RA572）の文字がみられる。土製品としては，ＲＡ５６５より土錘が１点出土している。鉄製品としては，ＲＡ５６５より刀子・足金物，ＲＡ５７０より手鎌が出土している。以上，竪穴住居跡について概観すると，ＲＡ５６５は，調査区内で唯一主柱穴をもつ大形住居であるとともに，カマドを４期にわたって造り替えて長期間継続して使用されたと考えられ，また多量の土器が出土し，刀装具である足金物が出土するなど，集落の中で地位の高い人物の住居であったことが考えられる。また，ＲＡ５２７出土の墨書土器「志？」は，欠損があり文字全体が残存していないため他の文字である可能性は残るものの，弘仁２年（811）に建郡の記述がみられる「斯波（志波）郡」を示すものと考えられる。

中世の堀跡ＲＧ０４２は，調査区北西部を北北西から南南東に走る。ＲＧ４２４Ｗは，調査区北西部でＲＧ０４２に並行して北北西から南南東に走り，調査区外で屈曲してＲＧ４２４Ｅへ続き，東西に走る。堀跡の規模は，ＲＧ０４２が幅 5.4 ～ 5.5 ｍ・深さ 1.5 ～ 2.0 ｍ，ＲＧ４２４Ｗが幅 3.25 ～ 3.75 ｍ・深さ 0.88 ｍ，ＲＧ４２４Ｅが幅 3.6 ～ 4.1 ｍ・深さ 0.97 ｍと，ＲＧ０４２が幅・深さともやや規模が大きい。調査区北西部で並行して走るＲＧ０４２とＲＧ４２４Ｗの間隔は，芯々で約 17 ｍ，上端で 12.4 ～ 12.8 ｍをはかる。ＲＧ０４２とＲＧ４２４Ｗの北端は，隣接する市教委第 39 次調査区へ続いている。また，ＲＧ４２４Ｅの東端は，隣接する県埋文第 18 次調査区へ続いている。これらの堀跡は，前述のとおり不正五角形に堀が囲む中世の居館跡の南西部にあたる。ＲＧ０４２からは，古代の土器も出土しているものの，瓷器系陶器の破片が出土している。また，ＲＧ４２４からも，古代の土器が出土しているものの，中国青磁（竜泉窯系）の破片が出土していることから，ともに 13 ～ 14 世紀の年代が考えられる。

中世の掘立柱建物跡５棟は，調査区西半東部にまとまって確認された。そのうちＲＢ０４９・０５０・０５１の３棟が重複しており，建て替えがされている。ＲＢ０４９は，桁行６間・梁行５間の総柱の東西棟の掘立柱建物であるが，南北と西の１間分の柱間が他より狭いことから，桁行５間・梁行３間の身舎に三面廂が付き，床束を持つ高床の建物であったと考えられる。柱の掘方の一部から鉄製品が出土している。ＲＢ０５０は，桁行５間・梁行２間の南北棟の側柱建物である。棟方向の傾きが，ＲＢ０４９にほぼ直角に重複している。この建物の西側に隣接するＲＣ００３柱列跡は，ＲＢ０５０に付属する板塀と考えられる。ＲＢ０５１も南北棟であり，桁行７間・梁行２間の身舎に東廂が付く。棟方向の傾きは真北に近い。ＲＢ０５２は，桁行２間・梁行２間の総柱の掘立柱建物であり，「田」字形の柱配置から，高床倉庫と考えられる。柱方向が真北であり，ＲＢ０５１に揃うことから，この２棟は同時存在していたものと考えられる。また，こ

れら２棟の建物の南側柱筋が揃っており，計画的な配置とみられる。ＲＢ０５３は，桁行２間・梁間１行の小規模な掘立柱建物であるが，棟方向の傾きがＲＢ０５０に近く，この２棟は同時存在していたものと考えられる。これら掘立柱建物と堀によって居館が構成され，遺構の重複関係から次のような時期変遷が考えられる。

１期：堀跡ＲＧ４２４Wと，掘立柱建物跡ＲＢ０５０・ＲＢ０５３

２期：堀跡ＲＧ０４２と，掘立柱建物跡ＲＢ０４９

３期：堀跡ＲＧ０４２と，掘立柱建物跡ＲＢ０５１・ＲＢ０５２

これら３期のうち，第２期のＲＢ０４９掘立柱建物跡が三面廂で高床であり，構造上最も格式が高いことから，居館の中心的建物の一つであったと考えられる。

この他，中世の遺構としては，ＳＢ０５３掘立柱建物跡の東方にＲＤ１０８８土坑がある。隅丸方形の大形土坑であり，埋土より陶磁器（古瀬戸，中国青磁･白磁）の破片，北宋銭（天観通寶，天聖元寶），鉄製品（鉄釘・棒状鉄製品），馬歯骨などが出土している。性格は不明であるが，埋土に焼土や炭化物が混じっており，何らかの儀式的遺構である可能性が考えられる。

第 46 次調査

遺跡の中央部で実施した第 46 次調査では，奈良時代の竪穴住居跡２棟（RA578・579）を検出した。

奈良時代の竪穴住居跡２棟は，調査区南東部に確認された。住居跡の規模をみると，２棟とも一辺５ｍ以上の大形住居であり，カマド方向も北西カマドで共通している。煙道は，ともに在地型の長い煙道であり，ＲＡ５７８のみカマドの両袖が残存している。またＲＡ５７８は，床面北東隅に貯蔵穴を１基もつ。2棟とも主柱穴があり，ＲＡ５７９は４口で４本柱，ＲＡ５７８は調査区内で１口，県埋文第 26 次調査ＲＡ４４１として４口を検出しており，６本柱であったと考えられる。住居跡から出土した土器は，土師器坏（非ロクロ）・高台付坏（非ロクロ）・小形壷・甕・球胴甕・長頚瓶などであり，ＲＡ５７８からは朱彩壷・朱彩球胴甕が出土している。年代としては，８世紀後葉～９世紀前葉と考えられる。この他，ＲＡ５７８からはミニチュア土器・土製勾玉のほか，刀装具である鉄製品の切羽が出土している。県埋文センター第 26 次調査ＲＡ４４１部分では，床面より土製紡錘車・切子玉・ガラス玉が床面より出土している。ＲＡ５７８住居跡は，６本柱の大形竪穴住居であり，装飾品である土製勾玉や切子玉・ガラス玉，刀装具である切羽などの威信財が出土していること，また儀式的用途に使用したと考えられる朱彩土器が出土していることから，血縁集団における家父長的人物の住居であったと考えられる。

遺構外ではあるが，中国銭である唐銭・北宋銭がまとまって出土しており，付近に中世の遺構があった可能性がある。

第 56 次調査

遺跡の中央部で実施した第 56 次調査では，平安時代の土坑１基（RD2004）を検出した。

土坑は，平面形が不整楕円形の小規模なもので，埋土に炭化物粒が混じる。出土遺物がなく，性格は不明である。

第 57 次調査

遺跡の西部で実施した第 57 次調査では，平安時代の竪穴住居跡６棟（RA614 ～ 619）･土坑１基（RD2009），

近世以降の掘立柱建物跡２棟（RB054･055）･土坑５基（RD2005 ～ 2008･2010）･溝跡５条（RG520 ～ 524）･ピット 43 口を検出した。

平安時代の竪穴住居跡６棟は，南北に長い調査区の北半部にまとまって検出された。住居跡の重複はない。住居跡の規模をみると，全体形が不明なＲＡ６１８を除き，すべて一辺３ｍ以上５ｍ未満の中形である。カマド方向は，北カマドが１棟（RA615），東カマドが１棟（RA619），西カマドが１棟（RA617）であり，まとまりを示さない。煙道は，すべて在地型の長い煙道であるが，ＲＡ６１４・６１５は床に焼け面があるだけで，煙道は検出されなかった。カマドの袖は，ＲＡ６１５・６１７が両袖残存，ＲＡ６１９は右袖のみ残存していた。貯蔵穴は，ＲＡ６１５のカマド右袖脇に１基検出された。このＲＡ６１５の壁際には周溝が廻っている。床の硬化面があるのはＲＡ６１７のみである。主柱穴のある住居跡はない。ＲＡ６１６・６１７・６１８は，埋土上層Ａ層に十和田ａ火山灰と考えられる灰白色火山灰が混じる。住居跡から出土した土器は，土師器坏（ロクロ）・甕，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏・甕などであり，年代としては，ＲＡ６１５・６１７が９世紀中葉，ＲＡ６１４が９世紀後葉と考えられる。土製品としては，ＲＡ６１５・６１７より土錘が出土している。

平安時代の土坑ＲＤ２００９は，ＲＡ６１７住居跡と重複して検出された。一辺 1.7 ～ 1.9 ｍの不整隅丸長方形であり，壁際に袋状ピットがある。埋土からは，あかやき土器の甕が出土している。袋状ピットを持つ土坑は，北の続縄文文化の影響を受けたものとして，古墳時代から盛岡市内の永福寺山遺跡・薬師社脇遺跡（中津川地区）で確認されており，当該土坑も，その流れを汲む墓壙と考えられる。盛南地区では，野古Ａ遺跡第６次調査のＲＤ００９土坑が，袋状ピットをもつ墓壙として類例がある。

近世の掘立柱建物跡２棟は，調査区南半部に確認された。ＲＢ０５４は，桁行４間・梁行２間の身舎に，西側２間の廂または下屋が付く南北棟であり，柱配置にやや歪みがある。ほとんどの柱の掘方に柱痕跡がみられる。掘方の一部より中国銭である北宋銭（天聖元寶）が出土している。ＲＧ５２１溝が，ＲＢ０５４建物を囲うように走っており，何らかの区画溝である可能性がある。ＲＢ０５５は，ＲＢ０５４の北側に位置し，桁行３間・梁行２間の東西棟であり，やはり柱配置にやや歪みがある。ほとんどの柱の掘方に柱痕跡がみられる。ＲＢ０５５建物は，ＲＧ５２１溝を跨いで建てられており，ＲＧ５２１溝がＲＢ０５４建物に関係する区画溝であったとすると，ＲＢ０５４とＲＢ０５５の建築に時期差があると考えられる。

表

第 1 表　第 39 次調査ピット計測表

No.	径（m）	深さ（m）	No.	径（m）	深さ（m）	No.	径（m）	深さ（m）
1	0.38～0.52	0.22	38	0.40～0.50	0.10	75	0.24～0.32	0.14
2	0.21～0.32	0.22	39	0.20～0.28	0.18	76	0.37～0.51	0.20
3	0.26～0.36	0.24	40	0.20～0.32	0.38	77	0.20～1.02	0.22
4	0.22～0.34	0.10	41	0.32～0.36	0.20	78	0.13～0.26	0.20
5	0.23～0.38	0.10	42	0.23～0.30	0.10	79	0.32～0.40	0.26
6	0.22～0.28	0.08	43	0.26～0.36	0.12	80	0.27～0.34	0.44
7	0.36～0.50	0.10	44	0.25～0.37	0.42	81	0.32～0.38	0.16
8	0.30～0.52	0.12	45	0.36～0.55	0.42	82	0.24～0.30	0.22
9	0.36～0.55	0.31	46	0.24～0.34	0.33	83	0.23～0.37	0.12
10	0.37～0.50	0.23	47	0.14～0.38	0.13	84	0.29～0.38	0.18
11	0.22～0.27	0.13	48	0.43～0.64	0.64	85	0.25～0.32	0.22
12	0.13～0.20	0.11	49	0.27～0.40	0.14	86	0.32～0.38	0.14
13	0.30～0.41	0.35	50	0.23～0.47	0.42	87	0.28～0.38	0.25
14	0.20～0.27	0.09	51	0.57～0.66	0.45	88	0.36～0.44	0.24
15	0.20～0.24	0.14	52	0.24～0.31	0.22	89	0.42～0.54	0.34
16	0.24～0.30	0.40	53	0.33～0.44	0.48	90	0.28～0.35	0.10
17	0.17～0.26	0.30	54	0.52～0.60	0.13	91	0.33～0.44	0.22
18	0.30～0.42	0.28	55	0.30～0.40	0.50	92	0.26～0.33	0.36
19	0.50～0.58	0.43	56	0.40～0.50	0.22	93	0.26～0.32	0.20
20	0.30～0.37	0.18	57	0.46～0.56	0.51	94	0.24～0.32	0.24
21	0.25～0.34	0.09	58	0.28～0.45	0.31	95	0.26～0.37	0.12
22	0.32～0.40	0.10	59	0.25～0.32	0.40	96	0.37～0.66	0.18
23	0.34～0.66	0.52	60	0.37～0.54	0.42	97	0.26～0.30	0.16
24	0.35～0.42	0.12	61	0.26～0.40	0.52	98	0.20～0.26	0.12
25	0.42～0.53	0.44	62	0.40～0.55	0.26	99	0.28～0.34	0.10
26	0.30～0.38	0.52	63	0.42～0.67	0.26	100	0.18～0.25	0.12
27	0.40～0.57	0.47	64	0.20～0.26	0.22	101	0.20～0.26	0.14
28	0.36～0.50	0.39	65	0.30～0.37	0.26	102	0.22～0.28	0.12
29	0.22～0.32	0.16	66	0.40～0.50	0.12	103	0.24～0.30	0.20
30	0.29～0.40	0.09	67	0.20～0.30	0.12	104	0.29～0.34	0.18
31	0.39～0.48	0.20	68	0.23～0.40	0.22	105	0.21～0.28	0.23
32	0.32～0.40	0.12	69	0.42～0.58	0.15	106	0.23～0.34	0.30
33	0.23～0.30	0.12	70	0.36～0.42	0.10	107	0.24～0.32	0.20
34	0.22～0.27	0.20	71	0.52～0.66	0.14	108	0.21～0.26	0.16
35	0.29～0.38	0.09	72	0.27～0.34	0.38	109	0.28～0.34	0.36
36	0.36～0.50	0.07	73	0.27～0.38	0.38	110	0.28～0.34	0.28
37	0.74～0.85	0.22	74	0.35～0.56	0.24	111	0.52～0.72	0.26

第 2 表　第 45 次調査ピット計測表（1）

No.	径（m）	深さ（m）	No.	径（m）	深さ（m）	No.	径（m）	深さ（m）
1	0.21～0.30	0.20	36	0.22～0.33	0.12	71	0.20～0.27	0.34
2	0.31～0.38	0.22	37	0.22～0.26	0.13	72	0.33～0.54	0.36
3	0.26～0.31	0.28	38	0.27～0.35	0.24	73	0.52～0.86	0.10
4	0.30～0.35	0.22	39	0.28～0.43	0.26	74	0.36～0.55	0.42
5	0.28～0.36	0.19	40	0.25～0.30	0.15	75	0.39～0.44	0.36
6	0.28～0.32	0.32	41	0.22～0.27	0.28	76	0.32～0.46	0.55
7	0.31～0.43	0.32	42	0.40～0.55	0.34	77	0.34～0.68	0.39
8	0.28～0.36	0.18	43	0.28～0.31	0.18	78	0.30～0.40	0.40
9	0.25～0.32	0.34	44	0.26～0.31	0.18	79	0.56～0.66	0.38
10	0.18～0.45	0.22	45	0.27～0.47	0.40	80	0.30～0.48	0.50
11	0.26～0.35	0.54	46	0.62～0.78	0.46	81	0.26～0.31	0.17
12	0.46～0.62	0.31	47	0.47～0.61	0.32	82	0.29～0.36	0.19
13	0.24～0.29	0.16	48	0.17～0.36	0.36	83	0.31～0.40	0.19
14	0.22～0.33	0.40	49	0.47～0.54	0.13	84	0.35～0.44	0.42
15	0.33～0.38	0.18	50	0.20～0.27	0.18	85	0.34～0.40	0.16
16	0.44～0.45	0.14	51	0.19～0.25	0.14	86	0.34～0.47	0.22
17	0.28～0.35	0.24	52	0.21～0.30	0.32	87	0.35～0.54	0.30
18	0.37～0.47	0.41	53	0.40～0.47	0.23	88	0.41～0.50	0.53
19	0.23～0.32	0.28	54	0.23～0.28	0.26	89	0.54～0.66	0.49
20	0.26～0.32	0.36	55	0.20～0.28	0.20	90	0.39～0.48	0.44
21	0.31～0.36	0.20	56	0.40～0.50	0.32	91	0.36～0.50	0.20
22	0.19～0.24	0.27	57	0.20～0.28	0.17	92	0.30～0.40	0.12
23	0.28～0.35	0.14	58	0.26～0.30	0.16	93	0.28～0.33	0.14
24	0.26～0.36	0.23	59	0.21～0.30	0.14	94	0.30～0.45	0.30
25	0.27～0.31	0.18	60	0.39～0.46	0.38	95	0.34～0.57	0.17
26	0.22～0.27	0.16	61	0.26～0.33	0.15	96	0.38～0.46	0.30
27	0.37～0.45	0.44	62	0.24～0.38	0.13	97	0.46～0.52	0.42
28	0.22～0.31	0.24	63	0.32～0.36	0.23	98	0.28～0.32	0.28
29	0.27～0.36	0.13	64	0.36～0.56	0.20	99	0.50～0.65	0.42
30	0.25～0.32	0.22	65	0.51～0.56	0.46	100	0.31～0.35	0.20
31	0.28～0.34	0.26	66	0.26～0.30	0.28	101	0.27～0.36	0.16
32	0.21～0.24	0.30	67	0.60～0.73	0.42	102	0.48～0.58	0.70
33	0.35～0.46	0.23	68	0.36～0.45	0.24	103	0.46～0.50	0.44
34	0.23～0.33	0.18	69	0.36～0.40	0.28	104	0.32～0.36	0.22
35	0.36～0.45	0.17	70	0.30～0.50	0.44	105	0.22～0.36	0.16

第 3 表　第 45 次調査ピット計測表（2）

No.	径（m）	深さ（m）	No.	径（m）	深さ（m）	No.	径（m）	深さ（m）
106	0.46～0.55	0.38	136	0.34～0.40	0.35	166	0.23～0.30	0.19
107	0.30～0.38	0.20	137	0.38～0.46	0.16	167	0.30～0.39	0.46
108	0.31～0.36	0.20	138	0.28～0.32	0.22	168	0.26～0.38	0.20
109	0.20～0.23	0.10	139	0.55～0.67	0.25	169	0.48～0.64	0.26
110	0.20～0.26	0.07	140	0.40～0.53	0.23	170	0.33～0.48	0.21
111	0.16～0.24	0.13	141	0.64～0.78	0.47	171	0.35～0.68	0.36
112	0.50～0.59	0.38	142	0.59～0.70	0.26	172	0.38～0.46	0.34
113	0.40～0.48	0.10	143	0.42～0.50	0.38	173	0.55～0.67	0.20
114	0.31～0.37	0.16	144	0.28～0.36	0.28	174	0.48～0.70	0.19
115	0.49～0.58	0.42	145	0.30～0.37	0.28	175	0.27～0.32	0.20
116	0.50～0.64	0.42	146	0.30～0.35	0.38	176	0.28～0.42	0.16
117	0.21～0.32	0.20	147	0.33～0.39	0.24	177	0.19～0.23	0.11
118	0.50～0.68	0.56	148	0.36～0.60	0.40	178	0.37～0.47	0.12
119	0.24～0.40	0.13	149	0.29～0.34	0.40	179	0.66～0.95	0.18
120	0.46～0.53	0.48	150	0.44～0.51	0.45	180	0.26～0.33	0.22
121	0.50～0.59	0.15	151	0.60～0.68	0.40	181	0.30～0.39	0.34
122	0.50～0.77	0.40	152	0.57～0.66	0.27	182	0.32～0.55	0.29
123	0.32～0.41	0.28	153	0.40～0.47	0.28	183	0.24～0.31	0.28
124	0.30～0.40	0.30	154	0.30～0.39	0.20	184	0.33～0.40	0.45
125	0.31～0.41	0.27	155	0.29～0.37	0.23	185	0.40～0.52	0.10
126	0.26～0.33	0.06	156	0.31～0.40	0.30	186	0.36～0.44	0.30
127	0.45～0.54	0.32	157	0.26～0.32	0.18	187	0.40～0.45	0.30
128	0.42～0.50	0.47	158	0.42～0.50	0.16	188	0.53～0.80	0.16
129	0.45～0.60	0.24	159	0.28～0.35	0.16	189	0.32～0.36	0.18
130	0.32～0.46	0.30	160	0.45～0.56	0.16	190	0.28～0.37	0.10
131	0.55～0.60	0.36	161	0.24～0.28	0.16	191	0.38～0.44	0.18
132	0.32～0.47	0.22	162	0.32～0.40	0.18	192	0.63～0.72	0.18
133	0.30～0.35	0.24	163	0.30～0.38	0.16	193	0.30～0.33	0.42
134	0.18～0.45	0.38	164	0.26～0.31	0.28	194	0.31～0.34	0.30
135	0.38～0.60	0.44	165	0.40～0.48	0.50			

第 4 表　第 57 次調査ピット計測表

No.	径（m）	深さ（m）	No.	径（m）	深さ（m）	No.	径（m）	深さ（m）
1	0.32～0.38	0.11	16	0.36～0.42	0.26	31	0.46	0.22
2	0.32～0.44	0.14	17	0.30～0.41	0.23	32	0.35～0.43	0.30
3	0.36～0.46	0.16	18	0.34～0.44	0.23	33	0.28～0.36	0.28
4	0.25～0.30	0.15	19	0.25～0.33	0.29	34	0.30～0.41	0.22
5	0.46～0.52	0.23	20	0.34～0.42	0.33	35	0.38～0.54	0.18
6	0.28～0.34	0.17	21	0.46～0.58	0.16	36	0.29～0.34	0.32
7	0.18～0.30	0.09	22	0.36～0.48	0.40	37	0.40～0.56	0.27
8	0.33～0.42	0.23	23	0.33～0.44	0.24	38	0.26～0.30	0.16
9	0.46～0.50	0.17	24	0.32～0.39	0.32	39	0.23～0.37	0.30
10	0.30～0.36	0.16	25	0.50～0.68	0.44	40	0.23～0.30	0.21
11	0.30～0.31	0.14	26	0.40～0.64	0.42	41	0.37～0.40	0.37
12	0.32～0.40	0.14	27	0.30～0.38	0.44	42	0.24～0.33	0.26
13	0.45～0.59	0.46	28	0.34～0.48	0.24	43	0.35～0.42	0.32
14	0.39～0.44	0.28	29	0.32～0.43	0.36			
15	0.34～0.45	0.42	30	0.40～0.52	0.62			

第 5 表　第 37 次調査出土土器観察表

								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
73	001	－	台太郎	ODT	37	RA523	45	土師器	坏	③ベルトN	B	－	15.4	－	－	－	－	非ロクロ,有段,丸底？	口縁部ヘラミガキ,体部ヘラナデ,黒色処理	口縁部ナデ,体部ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母含む
73	002	－	台太郎	ODT	37	RA523	29	土師器	坏	SW区	－	－	－	－	－	－	－	非ロクロ,有段,丸底？	ヘラミガキ	ヘラミガキ,黒色処理	
73	003	－	台太郎	ODT	37	RA523	10	土師器	甕	NW区	A	27.8	20.8	17.8	6.8	1.2	0.7	やや摩滅	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ+ヘラミガキ	全体にやや摩滅
73	004	－	台太郎	ODT	37	RA523	11	土師器	甕	NW区	A	－	17.2	15.3	－	1.1	－	欠損	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	ヘラナデ	外面コゲ状炭化物,胎土に雲母含む

第 6 表　第 39 次調査出土土器観察表（1）

								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
74	005	27	台太郎	ODT	39	RA525	7	土師器	坏	SE区	L	4.8	14.4	－	5.8	2.5	3.0	ヘラケズリ再調整	－	ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母含む
74	006	27	台太郎	ODT	39	RA525	2	土師器	坏	No.2	床面	5.0	14.8	－	7.0	2.1	3.0	ヘラケズリ再調整	ヘラミガキ,黒色処理	ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母含む
74	007	27	台太郎	ODT	39	RA525	166	土師器	坏	ベルト③	C1	5.2	13.2	－	5.0	2.6	2.5	回転糸切ヘラケズリ再調整（やや摩滅）	－	ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母含む
74	008	27	台太郎	ODT	39	RA525	3	土師器	坏	No.3	床面	4.5	14.2	－	6.0	2.4	3.2	回転糸切ヘラケズリ再調整	－	ヘラミガキ,黒色処理	外面やや摩滅
74	009	－	台太郎	ODT	39	RA525	184	土師器	坏	カマド右袖	K1	4.4	15.0	－	6.0	2.5	3.4	回転糸切無調整	－	ヘラミガキ,黒色処理（黒トビ）	内外面やや摩滅
74	010	－	台太郎	ODT	39	RA525	168	須恵器	坏	ベルト③	B5	4.4	13.6	－	6.0	2.3	3.1	回転糸切無調整	－	－	
74	011	27	台太郎	ODT	39	RA525	4	須恵器	坏	No.4	床面	5.3	14.2	－	5.4	2.6	2.7	回転糸切無調整	－	－	
74	012	27	台太郎	ODT	39	RA525	6	須恵器	坏	No.5	床面	4.3	14.2	－	5.6	2.5	3.3	回転糸切無調整	－	－	
74	013	－	台太郎	ODT	39	RA525	93	土師器	小形甕	SE区	B2	－	9.2	9.0	－	1.0	－	欠損	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	全体に摩滅
74	014	28	台太郎	ODT	39	RA525	125	土師器	小形甕	NE区	B5	8.4	11.2	11.4	6.6	1.0	1.33	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	内外面コゲ状炭化物
74	015	－	台太郎	ODT	39	RA525	143	土師器	甕	ベルト③ NW区	B2	16.5	14.2	14.5	8.0	1.0	0.86	木葉痕	口縁部ナデ,体部ヘラケズリ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	内面コゲ状炭化物
74	016	28	台太郎	ODT	39	RA525	1	土師器	甕	No.1	床面	－	20.6	23.1	－	0.9	－	欠損	口縁部ナデ,体部上半ヘラナデ・下半ヘラケズリ	ヘラナデ	全体に摩滅
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
75	017	27	台太郎	ODT	39	RA528	237	土師器	坏	NW区	－	5.2	13.2	－	6.0	2.2	2.5	回転糸切ヘラケズリ再調整	－	ヘラミガキ,黒色処理	全体に摩滅,胎土に雲母含む
75	018	27	台太郎	ODT	39	RA528	2	土師器	坏	No.2	床面	5.2	14.4	－	5.4	2.7	2.8	回転糸切無調整(やや摩滅)	－	ヘラミガキ,黒色処理	外面やや摩滅,胎土に雲母含む
75	019	－	台太郎	ODT	39	RA528	32	土師器	坏	ベルト③ SW	A	4.6	14.0	－	5.6	2.5	3.0	回転ヘラ切ヘラケズリ再調整（摩滅）	－	ヘラミガキ,黒色処理	内外面摩滅,胎土に雲母含む
75	020	－	台太郎	ODT	39	RA528	160	土師器	坏	SW区	A	4.9	13.2	－	5.2	2.5	2.7	回転糸切無調整？	－	ヘラミガキ,黒色処理（黒トビ）	胎土に雲母含む
75	021	27	台太郎	ODT	39	RA528	38	須恵器	坏	NE区	－	5.2	14.2	－	5.4	2.6	2.7	回転糸切無調整	－	－	
75	022	28	台太郎	ODT	39	RA528	37	土師器	甕	NE区	－	14.4	15.6	14.6	10.0	1.1	1.1	木葉底	口縁部ナデ,体部ヘラケズリ	ヘラナデ	内外面やや摩滅,内面コゲ状炭化物
75	023	－	台太郎	ODT	39	RA528	179	土師器	甕	SW区	A	－	21.6	21.1	－	1.0	／	欠損	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	胎土に雲母少し含む
75	024	－	台太郎	ODT	39	RA528	4	土師器	甕	No.3	床面	－	22.2	20.6	－	1.1	／	欠損	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	外面体部スス状炭化物
75	025	29	台太郎	ODT	39	RA528	1	須恵器	大甕	No.1	床面	－	35.4	57.8	－	0.6	／	欠損	タタキ平行文	タタキ平行文	外面の一部に自然釉
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
76	026	27	台太郎	ODT	39	RA535	1	須恵器	坏	—	床面	4.7	15.4	－	7.0	2.2	3.3	回転糸切無調整	－	－	
76	027	27	台太郎	ODT	39	RA535	7	須恵器	坏	SE区	C	5.0	14.8	－	6.8	2.2	3.0	回転糸切無調整	－	－	
76	028	27	台太郎	ODT	39	RA535	61	須恵器	坏	SW区	C	4.3	14.6	－	6.4	2.3	3.4	回転糸切無調整	－	－	口縁若干歪み
76	029	28	台太郎	ODT	39	RA535	29	土師器	甕	SE区	B	13.4	12.7	13.3	9.0	1.0	0.9	木葉痕	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	
76	030	－	台太郎	ODT	39	RA535	6	須恵器	大甕	SE区	C	－	－	－	－	／	／	－	タタキ平行文	タタキ平行文＋蓮華文	
76	031	－	台太郎	ODT	39	RA535	5	須恵器	大甕	SE区	C	－	－	－	－	／	／	－	タタキ平行文	タタキ平行文＋蓮華文	
76	032	－	台太郎	ODT	39	RA535	20	須恵器	大甕	SE区	B	－	－	－	－	／	／	－	タタキ平行文	タタキ青海波文	
76	033	－	台太郎	ODT	39	RA535	21	須恵器	大甕	SE区	B	－	－	－	－	／	／	－	タタキ平行文	タタキ蓮華文	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
77	034	－	台太郎	ODT	39	RA534	43	あかやき土器	坏	NW区	L	－	－	－	5.0	／	／	－	－	－	
77	035	28	台太郎	ODT	39	RA534	59	土師器	小形甕	ベルト①	A	9.5	12.0	12.2	8.0	1.0	1.3	－	口縁部ナデ,体部ヘラミガキ	ヘラミガキ	外面コゲ状炭化物,胎土に雲母含む
77	036	28	台太郎	ODT	39	RA534	3	土師器	甕	No.4	床面	－	19.4	19.2	－	1.0	／	欠損	口縁部ナデ+ヘラミガキ,体部粗いヘラミガキ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	内面体部コゲ状炭化物,胎土に雲母含む
77	037	28	台太郎	ODT	39	RA534	6	土師器	甕	No.5	床面	－	18.3	17.6	－	1.0	／	欠損	口縁部ナデ,体部ハケメ	口縁部ナデ,体部ハケメ	外面コゲ状炭化物,胎土に雲母含む
77	038	28	台太郎	ODT	39	RA534	2	土師器	甕	No.3	床面	－	20.8	19.2	－	1.1	／	欠損	口縁部ハケメ,体部ハケメ+ヘラミガキ	口縁部ハケメ,体部ハケメ+ヘラミガキ	外面底部付近スス状炭化物,胎土に雲母含む
77	039	28	台太郎	ODT	39	RA534	7	土師器	甕	No.6	床面	22.0	17.2	15.4	7.2	1.1	0.8	－	口縁部ナデ,体部ハケメ	口縁部ナデ,体部ハケメ	外面体部コゲ状炭化物,内面口縁部・体部上半コゲ状炭化物,胎土に雲母含む
78	040	29	台太郎	ODT	39	RA534	1	土師器	甕	No.2	床面	35.1	22.6	21.5	8.0	1.1	0.6	－	口縁部ナデ,体部ハケメ+ヘラミガキ	口縁部ナデ,体部ハケメ+ヘラミガキ	外面体部下半摩滅,外面スス状炭化物,胎土に雲母含む
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
79	041	27	台太郎	ODT	39	RD971	1	土師器	高台付坏	—	—	4.8	13.0	－	7.2	1.8	2.7	菊花紋	－	ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母含む,内外磨滅
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
79	042	－	台太郎	ODT	39	RG042	61	土師器	坏	—	埋土	5.1	13.2	－	5.8	2.3	2.6	回転ヘラ切ヘラナデ再調整	－	ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母含む
79	043	－	台太郎	ODT	39	RG042	178	あかやき土器	坏	東	A	5.2	13.2	－	6.0	2.2	2.5	回転糸切無調整	－	—	胎土に雲母含む,全体に摩滅
79	044	－	台太郎	ODT	39	RG042	185	須恵器	大甕	調査区南端	G	－	－	－	－	／	／	－	タタキ平行文	タタキ蓮華文	
79	045	－	台太郎	ODT	39	RG042	186	須恵器	大甕	調査区南端	G	－	－	－	－	／	／	－	タタキ平行文	タタキ蓮華文	

第 7 表　第 39 次調査出土土器観察表（2）

								形態		出土		寸法（cm）※完形･復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等･特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
80	046	27	台太郎	ODT	39	RA524	1	土師器	坏	No.1	床面	4.9	13.6	—	4.8	2.8	2.8	回転糸切無調整 （やや摩滅）	—	ヘラミガキ,黒色処理	
								形態		出土		寸法（cm）※完形･復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等･特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
80	047	27	台太郎	ODT	39	RA526	1	あかやき土器	坏	煙道入口NE	B	5.5	16.0	—	6.2	2.6	2.9	回転糸切無調整	—	—	内外面やや摩滅
80	048	—	台太郎	ODT	39	RA526	2	土師器	坏	NE区	床面	4.9	16.0	—	7.0	2.3	3.3	ヘラケズリ再調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母含む
80	049	27	台太郎	ODT	39	RA526	6	土師器	坏	NE区	C	5.3	14.5	—	6.0	2.4	2.7	回転糸切ヘラケズリ再調整	—	ヘラミガキ,黒色処理（一部黒トビ）	内外面やや摩滅,胎土に雲母含む
								形態		出土		寸法（cm）※完形･復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等･特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
80	050	29	台太郎	ODT	39	RA529	1	土師器	球胴甕	—	床面	—	18.2	21.0	—	0.9	／	欠損	口縁部ナデ,体部ハケメ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	口縁部有段,胎土に雲母含む
								形態		出土		寸法（cm）※完形･復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等･特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
80	051	—	台太郎	ODT	39	RA533	1	あかやき土器	甕	—	A	—	19.6	19.5	—	1.0	／	欠損	—	ヘラナデ	外面赤彩痕,内面やや摩滅

第 8 表　第 39 次調査出土遺物観察表

								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
81	052	39	台太郎	ODT	39	RA525	1	土製品	土錘	SW区	A	(3.9)	1.6	円柱	穿孔，欠損
81	053	39	台太郎	ODT	39	RG042	4	土製品	土錘	—	埋土	(3.8)	2.2	円柱	穿孔，欠損
								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
81	054	39	台太郎	ODT	39	RA534	2	土製品	紡錘車	ベルト①	A	4.8	1.9	円盤状 （断面台形）	中央穿孔
								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
81	055	39	台太郎	ODT	39	RG409	3	土製品	ﾌｲｺﾞ羽口	—	A	(4.9)	(6.1)	円柱	穿孔，欠損
								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
82	056	39	台太郎	ODT	39	RA529	6	鉄製品	鉈	—	床面	(13.9)	(2.0)	(0.6)	欠損，環状金具あり
82	057	39	台太郎	ODT	39	RA526	2	鉄製品	刀子	SE区	B2	(11.0)	1.1	0.4	欠損
82	058	—	台太郎	ODT	39	RA528	5	鉄製品	刀子	SW区	B	(2.9)	(1.7)	0.4	欠損
82	059	—	台太郎	ODT	39	RG424	12	鉄製品	刀子	中央付近	埋土	(3.2)	(1.9)	0.5	欠損
82	060	—	台太郎	ODT	39	RG042	11	鉄製品	刀子	—	埋土	(4.5)	(2.1)	0.6	欠損
82	061	—	台太郎	ODT	39	RA528	4	鉄製品	鏃	SE区	埋土	(7.5)	0.9	0.8	欠損
82	062	—	台太郎	ODT	39	RA528	3	鉄製品	釘	SE区	埋土	(6.0)	0.7	0.8	欠損，2本
82	063	39	台太郎	ODT	39	RG042	8	鉄製品	釘	東	B	4.2	0.4	0.5	
82	064	—	台太郎	ODT	39	RA525	1	鉄製品	釘	SW区	B2	(3.7)	0.5	0.5	欠損
82	065	—	台太郎	ODT	39	RG042	10	鉄製品	釘	—	B	(2.7)	0.7	0.5	欠損
82	066	—	台太郎	ODT	39	RG042	7	鉄製品	釘	東	B	(4.2)	0.6	0.6	欠損

第 9 表　第 42 次調査出土土器観察表

								形態		出土		寸法（cm）※完形･復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等･特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
83	067	30	台太郎	ODT	42	RG440	9	土師器	坏	—	A	5.2	13.6	—	6.2	2.2	2.6	回転糸切ヘラケズリ再調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	胎土雲母含む
83	068	30	台太郎	ODT	42	RG440	8	土師器	坏	—	A	4.9	13.6	—	5.8	2.3	2.8	ヘラナデ再調整	口縁部ヘラミガキ	ヘラミガキ,黒色処理	全体に摩滅,胎土に雲母含む
83	069	30	台太郎	ODT	42	RG440	10	土師器	坏	—	A	5.2	13.8	—	5.8	2.4	2.7	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	全体にやや摩滅
83	070	30	台太郎	ODT	42	RG440	2	須恵器	坏	—	A	4.7	13.2	—	5.6	2.4	2.8	回転糸切ヘラケズリ再調整	—	—	
83	071	30	台太郎	ODT	42	RG440	1	須恵器	坏	—	A	4.6	13.6	—	5.2	2.6	3.0	回転糸切無調整	—	—	
83	072	—	台太郎	ODT	42	RG440	3	須恵器	坏	—	A	4.7	13.8	—	5.6	2.5	2.9	回転糸切無調整	—	—	
83	073	—	台太郎	ODT	42	RG440	6	須恵器	大甕	—	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ篠積文	
								形態		出土		寸法（cm）※完形･復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等･特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
83	074	30	台太郎	ODT	42	RG441	1	土師器	坏	—	A	6.6	15.0	—	6.2	2.4	2.3	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	

第 10 表　第 45 次調査出土土器観察表（1）

								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
84	075	31・38	台太郎	ODT	45	RA565	144	土師器	坏	煙道C	J"9	5.3	14.0	—	6.0	2.3	2.6	ヘラケズリ再調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	刻書「体？」,外面口縁部スス状炭化物,胎土に雲母含む
84	076	31	台太郎	ODT	45	RA565	341	土師器	坏	ベルト① Y1-W3	C	5.1	13.2	—	5.8	2.3	2.6	回転ヘラ切ヘラケズリ再調整	—	ヘラミガキ,黒色処理（一部黒トビ）	全体にやや磨滅,胎土に雲母含む
84	077	31	台太郎	ODT	45	RA565	210	土師器	坏	Y1-X3	D2	5.3	14.8	—	5.8	2.6	2.8	回転糸切無調整（磨滅）	—	ヘラミガキ,黒色処理（黒トビ・摩滅）	
84	078	—	台太郎	ODT	45	RA565	217	土師器	坏	煙道C	C	5.3	13.2	—	4.8	2.8	2.5	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	全体にやや磨滅
84	079	31	台太郎	ODT	45	RA565	72	土師器	坏	Y1-X3	L	4.9	13.2	—	6.0	2.2	2.7	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	口縁部に歪み,胎土に雲母含む
84	080	31	台太郎	ODT	45	RA565	123	土師器	坏	Y1-X4	床面	4.8	13.6	—	5.4	2.5	2.8	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ,黒色処理（体部上半黒トビ）	内外面やや磨滅,胎土に雲母含む
84	081	38	台太郎	ODT	45	RA565	83	土師器	坏	Y1-X4	L	—	—	—	—	／	／	ヘラナデ再調整	—	—	墨書「山？」,胎土に雲母含む
84	082	31	台太郎	ODT	45	RA565	65	須恵器	坏	Y1-X3	L	5.1	16.0	—	6.8	2.4	3.1	回転糸切無調整	—	—	全体にやや磨滅
84	083	31	台太郎	ODT	45	RA565	36	須恵器	坏	Y1-V3	L	5.3	14.2	—	6.0	2.4	2.7	回転糸切無調整	—	—	
84	084	31	台太郎	ODT	45	RA565	247	須恵器	坏	Y1-W2	D2	4.9	14.8	—	5.4	2.7	3.0	回転糸切無調整	—	—	
84	085	31	台太郎	ODT	45	RA565	235	須恵器	坏	煙道b	焼土	5.6	15.6	—	5.6	2.8	2.8	回転糸切無調整	—	—	口縁部に歪み
84	086	—	台太郎	ODT	45	RA565	282	須恵器	坏	Y1-V2	C	5.1	14.2	—	5.2	2.7	2.8	回転糸切無調整（磨滅）	—	—	全体にやや磨滅
85	087	32	台太郎	ODT	45	RA565	362	あかやき土器	坏	Y1-X3	C	5.1	14.0	—	5.8	2.4	2.7	回転糸切ヘラケズリ再調整	—	—	全体にやや磨滅
85	088	32	台太郎	ODT	45	RA565	365	あかやき土器	坏	Y1-X3	C	5.4	14.2	—	6.0	2.4	2.6	回転糸切ヘラナデ再調整	—	—	全体に磨滅
85	089	32	台太郎	ODT	45	RA565	360	あかやき土器	坏	Y1-X3	C	5.5	14.8	—	4.8	3.1	2.7	回転糸切ヘラナデ再調整	—	—	口縁部に歪み
85	090	—	台太郎	ODT	45	RA565	224	あかやき土器	坏	カマドa右袖	K2	4.6	14.4	—	5.0	2.9	3.1	回転糸切無調整	—	—	
85	091	32	台太郎	ODT	45	RA565	178	あかやき土器	坏	カマドa Y1-X2	J	4.7	14.8	—	5.4	2.7	3.1	回転糸切無調整	—	—	口縁部にやや歪み
85	092	32	台太郎	ODT	45	RA565	209	あかやき土器	坏	Y1-X3	D2	5.4	14.0	—	5.0	2.8	2.6	回転糸切無調整	—	—	全体にやや磨滅
85	093	32	台太郎	ODT	45	RA565	361	あかやき土器	坏	Y1-X3	C	6.1	13.4	—	5.0	2.7	2.2	回転糸切無調整	—	—	口縁部に歪み
85	094	—	台太郎	ODT	45	RA565	587	あかやき土器	坏	Y1-X3	A	5.1	14.6	—	5.2	2.8	2.9	回転糸切無調整	—	—	
85	095	32	台太郎	ODT	45	RA565	52	あかやき土器	坏	Y1-V5	L	5.1	14.4	—	5.8	2.5	2.8	回転糸切無調整	—	—	全体にやや磨滅
85	096	32	台太郎	ODT	45	RA565	53	あかやき土器	坏	Y1-V5	L	5.1	14.2	—	5.6	2.5	2.8	回転糸切無調整	—	—	全体にやや磨滅
85	097	32	台太郎	ODT	45	RA565	109	あかやき土器	坏	Y1-V4	床面	4.7	13.6	—	5.4	2.5	2.9	回転糸切無調整	—	—	
85	098	—	台太郎	ODT	45	RA565	119	あかやき土器	坏	Y1-X4	床面	4.8	14.6	—	5.0	2.9	3.0	回転糸切無調整	—	—	全体にやや磨滅
85	099	32	台太郎	ODT	45	RA565	186	あかやき土器	坏	カマドa Y1-W3	J	6.1	14.8	—	6.0	2.5	2.4	回転糸切無調整（やや磨滅）	—	—	口縁部に歪み
85	100	32	台太郎	ODT	45	RA565	203	あかやき土器	坏	カマドa右袖付近	A	5.1	14.6	—	6.0	2.4	2.9	回転糸切無調整	—	—	
85	101	—	台太郎	ODT	45	RA565	204	あかやき土器	坏	カマドa右袖付近	A	4.9	14.4	—	6.4	2.3	2.9	回転糸切無調整	—	—	
86	102	—	台太郎	ODT	45	RA565	220	あかやき土器	坏	カマドa脇 Y1-X2	B	4.8	15.0	—	5.6	2.7	3.1	回転糸切無調整（やや磨滅）	—	—	口縁部に歪み,全体にやや摩滅
86	103	—	台太郎	ODT	45	RA565	225	あかやき土器	坏	カマドa右袖	K2	5.3	13.0	—	5.2	2.5	2.5	回転糸切無調整（やや磨滅）	—	—	全体にやや磨滅
86	104	32	台太郎	ODT	45	RA565	284	あかやき土器	坏	Y1-V2	C	4.8	14.4	—	6.0	2.4	3.0	回転糸切無調整	—	—	全体に磨滅
86	105	—	台太郎	ODT	45	RA565	285	あかやき土器	坏	Y1-V2	C	5.5	14.2	—	6.2	2.3	2.6	回転糸切無調整	—	—	全体にやや磨滅
86	106	32	台太郎	ODT	45	RA565	366	あかやき土器	坏	Y1-X3	C	5.6	14.8	—	5.4	2.7	2.6	回転糸切ヘラケズリ再調整	—	—	全体にやや磨滅
86	107	32	台太郎	ODT	45	RA565	363	あかやき土器	坏	Y1-X3	C	5.0	14.4	—	5.0	2.9	2.9	回転糸切無調整（磨滅）	—	—	内面磨滅
86	108	32	台太郎	ODT	45	RA565	364	あかやき土器	坏	Y1-X3	C	5.8	15.4	—	5.4	2.9	2.7	回転糸切ヘラケズリ再調整（やや摩滅）	—	—	
86	109	32	台太郎	ODT	45	RA565	394	あかやき土器	坏	Y1-X4	C	5.4	14.0	—	6.0	2.3	2.6	回転糸切無調整（磨滅）	—	—	全体にやや磨滅
86	110	32	台太郎	ODT	45	RA565	367	あかやき土器	坏	Y1-X3	C	5.2	13.6	—	5.2	2.6	2.6	回転糸切無調整	—	—	全体にやや磨滅
86	111	—	台太郎	ODT	45	RA565	368	あかやき土器	坏	Y1-X3	C	6.1	14.8	—	6.0	2.5	2.4	回転糸切無調整	—	—	口縁部に歪み,全体にやや磨滅
86	112	—	台太郎	ODT	45	RA565	452	あかやき土器	坏	Y1-W2	B	5.0	13.6	—	5.6	2.4	2.7	回転糸切無調整	—	—	全体にやや磨滅
86	113	32	台太郎	ODT	45	RA565	211	あかやき土器	高台付坏	Y1-X3	D2	6.0	15.0	—	7.6	2.0	2.5	—	—	—	全体にやや磨滅
86	114	33	台太郎	ODT	45	RA565	393	あかやき土器	高台付坏	Y1-X4	C	—	—	—	7.8	／	／	—	—	—	
86	115	—	台太郎	ODT	45	RA565	176	土師器	甕	カマドa Y1-X2	J1	—	12.8	13.0	—	1.0	／	欠損	口縁部ヘラナデ,体部ヘラケズリ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	外面スス状炭化物
86	116	—	台太郎	ODT	45	RA565	323	須恵器	甕	Y1-V5	C	—	16.2	—	—	／	／	—	—	—	
86	117	—	台太郎	ODT	45	RA565	383	あかやき土器	小形甕	Y1-X3	C	9.7	9.8	9.6	5.6	1.0	1.0	回転糸切無調整（摩滅）	—	—	全体にやや磨滅
86	118	33	台太郎	ODT	45	RA565	292	あかやき土器	甕	Y1-V2	C	14.2	13.5	13.4	7.2	1.0	1.0	回転糸切無調整（やや磨滅）	—	—	口縁部に歪み,全体にやや摩滅
86	119	—	台太郎	ODT	45	RA565	46	あかやき土器	甕	Y1-V4	L	14.5	14.2	13.4	7.0	1.1	1.0	回転糸切無調整（磨滅）	—	—	全体に磨滅
87	120	33	台太郎	ODT	45	RA565	384	あかやき土器	甕	Y1-X3	C	—	15.0	15.6	—	1.0	／	欠損	—	—	外面コゲ状炭化物
87	121	—	台太郎	ODT	45	RA565	228	あかやき土器	甕	カマドa右袖	K2	—	16.2	17.6	—	0.9	／	欠損	体部ヘラケズリ	—	
87	122	33	台太郎	ODT	45	RA565	195	あかやき土器	甕	カマドC	J"	29.0	21.0	21.2	11.0	1.0	0.7	—	体部ヘラケズリ	口縁部ナデ,体部ハケメ＋ヘラナデ	胎土に雲母含む
87	123	34	台太郎	ODT	45	RA565	385	あかやき土器	甕	Y1-X3	C	29.3	20.6	21.0	8.2	1.0	0.7	—	体部上半カキメ,体部下半ヘラケズリ	ヘラナデ	
87	124	—	台太郎	ODT	45	RA565	156	あかやき土器	甕	煙道C	J"4	—	22.8	21.5	—	1.1	／	欠損	体部上半カキメ,体部下半ヘラケズリ	体部上半カキメ	
87	125	—	台太郎	ODT	45	RA565	191	あかやき土器	甕	カマドa Y1-W3	J	—	20.6	23.6	—	0.9	／	欠損	体部下半ヘラナデ	ヘラナデ	胎土に雲母含む
88	126	—	台太郎	ODT	45	RA565	346	須恵器	大甕	Y1-W4	C	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ青海波文	
88	127	—	台太郎	ODT	45	RA565	356	須恵器	大甕	Y1-W5	C	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ青海波文	
88	128	—	台太郎	ODT	45	RA565	435	須恵器	大甕	Y1-V3	B	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ連積文＋平行文	
88	129	—	台太郎	ODT	45	RA565	151	須恵器	大甕	煙道a	J5	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ連積文	
88	130	—	台太郎	ODT	45	RA565	33	須恵器	大甕	Y1-V2	L	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
88	131	—	台太郎	ODT	45	RA565	106	須恵器	大甕	Y1-U5	床面	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
88	132	—	台太郎	ODT	45	RA565	382	須恵器	大甕	Y1-X3	C	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
88	133	—	台太郎	ODT	45	RA565	268	須恵器	大甕	Y1-W3	D	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
89	134	—	台太郎	ODT	45	RA565	518	須恵器	大甕	Y1-U3	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
89	135	—	台太郎	ODT	45	RA565	405	須恵器	大甕	Y1-X4	C	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
89	136	—	台太郎	ODT	45	RA565	474	須恵器	大甕	Y1-W4	B	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
89	137	—	台太郎	ODT	45	RA565	456	須恵器	大甕	Y1-W2	B	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
89	138	—	台太郎	ODT	45	RA565	418	須恵器	大甕	Y1-U3	B	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
89	139	—	台太郎	ODT	45	RA565	609	須恵器	大甕	Y1-X5	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
89	140	—	台太郎	ODT	45	RA565	529	須恵器	大甕	Y1-V3	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	

第 11 表　第 45 次調査出土土器観察表（2）

								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
90	141	33	台太郎	ODT	45	RA566	6	土師器	坏	Y25-U23	床面	5.1	13.8	—	5.4	2.6	2.7	回転糸切無調整 （やや摩滅）	—	ヘラミガキ,黒色処理	内外面コゲ状炭化物,灯明皿?
90	142	—	台太郎	ODT	45	RA566	25	須恵器	坏	Y25-U23	B	5.0	15.8	—	6.0	2.6	3.2	回転糸切無調整	—	—	
90	143	33	台太郎	ODT	45	RA566	5	あかやき土器	坏	Y25-U23	床面	4.9	14.0	—	5.2	2.7	2.9	回転糸切無調整	—	—	口縁部にやや歪み
90	144	—	台太郎	ODT	45	RA566	11	あかやき土器	坏	Y25-U23	C	5.4	13.0	—	5.4	2.4	2.4	回転糸切無調整	—	—	全体に磨滅
90	145	—	台太郎	ODT	45	RA566	30	須恵器	長頸瓶	Y25-U23	B	—	10.8	—	—	／	／	—	—	—	
90	146	—	台太郎	ODT	45	RA566	21	須恵器	大甕	ベルト① Y25-U23	C	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ青海波文	
90	147	—	台太郎	ODT	45	RA566	42	須恵器	大甕	北側	B	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ青海波文＋平行文	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
90	148	—	台太郎	ODT	45	RA567	2	須恵器	坏	A1-B6	B	5.1	15.4	—	5.0	3.1	3.0	回転糸切無調整	—	—	
90	149	—	台太郎	ODT	45	RA567	3	あかやき土器	坏	A1-B6	B	5.5	15.0	—	5.6	2.7	2.7	回転糸切無調整	—	—	全体にやや磨滅
90	150	34	台太郎	ODT	45	RA567	9	土師器	甕	A1-B6	B	—	21.2	18.2	—	1.2	／	欠損	口縁部ヘラナデ,体部ヘラミガキ	口縁部ヘラナデ,体部ヘラナデ+ヘラミガキ	外面体部コゲ状炭化物,胎土に雲母含む
90	151	—	台太郎	ODT	45	RA567	7	須恵器	大甕	A1-B6	B	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ蓮藕文	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
91	152	33	台太郎	ODT	45	RA569	1	土師器	坏	煙道a	J3	5.4	13.4	—	6.2	2.2	2.5	ヘラケズリ再調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	全体にやや摩滅,胎土に雲母含む
91	153	—	台太郎	ODT	45	RA569	21	土師器	坏	A1-E5	A	5.2	13.0	—	6.4	2.0	2.5	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	全体にやや摩滅,胎土に雲母含む
91	154	33	台太郎	ODT	45	RA569	15	須恵器	坏	A1-E5	A	5.1	15.0	—	6.2	2.4	2.9	回転糸切無調整	—	—	
91	155	34	台太郎	ODT	45	RA569	27	あかやき土器	甕	A1-E5	A	14.1	15.0	14.5	7.0	1.0	1.1	回転糸切無調整	—	—	胎土に雲母含む
91	156	—	台太郎	ODT	45	RA569	28	須恵器	大甕	A1-E5	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ青海波文	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
91	157	33	台太郎	ODT	45	RA570	2	土師器	坏	pit1 A1-P6	埋土	5.4	13.8	—	6.4	2.2	2.6	ヘラナデ再調整	一部ヘラナデ	ヘラミガキ,黒色処理	
91	158	—	台太郎	ODT	45	RA570	28	須恵器	坏	A1-P5	A	4.5	13.2	—	5.4	2.4	2.9	回転糸切無調整	—	—	
91	159	33	台太郎	ODT	45	RA570	18	あかやき土器	坏	A1-O6	A	4.8	13.4	—	6.4	2.1	2.8	回転糸切無調整	—	—	全体に摩滅,胎土に雲母含む
91	160	—	台太郎	ODT	45	RA570	47	土師器	甕	A1-Q7	埋土	—	23.2	26.2	—	0.9	／	欠損	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	内面口縁部磨滅
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
92	161	34	台太郎	ODT	45	RA571	2	土師器	甕	—	床面	22.8	20.8	19.6	9.1	1.1	0.9	ヘラナデ	口縁部ナデ,体部ハケメ	口縁部ハケメ,体部ヘラナデ	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
92	162	33	台太郎	ODT	45	RA572	17	土師器	坏	A1-T20	B	5.2	14.2	—	6.0	2.4	2.7	回転糸切ヘラナデ 再調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	全体に磨滅,内面口縁部ｺﾞ状炭化物
92	163	—	台太郎	ODT	45	RA572	14	須恵器	坏	A1-T20	B	4.6	15.0	—	6.4	2.3	3.3	回転糸切無調整	—	—	
92	164	38	台太郎	ODT	45	RA572	13	須恵器	坏	A1-T20	B	5.2	14.0	—	5.8	2.4	2.7	回転糸切無調整	—	—	墨書「志？」
92	165	34	台太郎	ODT	45	RA572	10	須恵器	甕	A1-S21	B	—	19.6	—	—	／	／	—	—	—	内外面頸部自然釉
92	166	—	台太郎	ODT	45	RA572	4	須恵器	大甕	A1-S19	B	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
93	167	—	台太郎	ODT	45	RA573	9	須恵器	坏	ベルト②SE区	L	4.4	15.0	—	5.0	3.0	3.4	回転糸切無調整	—	—	
93	168	33	台太郎	ODT	45	RA573	1	あかやき土器	坏	pit1 A1-O18	埋土	5.9	16.2	—	5.2	3.1	2.7	回転糸切無調整	—	—	底部やや磨滅
93	169	34	台太郎	ODT	45	RA573	33	土師器	甕	A1-N19	A	15.0	13.4	12.2	6.6	1.1	0.9	砂底	口縁部ナデ,体部ヘラケズリ	ヘラナデ	
93	170	—	台太郎	ODT	45	RA573	4	土師器	甕	pit2 A1-O18	埋土	—	20.2	22.2	—	0.9	／	欠損	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	内外面コゲ状炭化物
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
93	171	—	台太郎	ODT	45	RA575	16	須恵器	大甕	Y1-P4	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
94	172	33	台太郎	ODT	45	RD1089	3	土師器	坏	A1-Q23	A	5.0	14.6	—	5.4	2.7	2.9	回転糸切無調整	ヘラミガキ	ヘラミガキ,黒色処理	
94	173	33	台太郎	ODT	45	RD1077	5	あかやき土器	坏	A1-A6	埋土	5.1	13.4	—	6.0	2.2	2.6	回転糸切無調整	—	—	口縁部に歪み，全体にやや磨滅
94	174	33	台太郎	ODT	45	RD1086	8	須恵器	坏	A25-G24	A2	5.4	15.2	—	6.0	2.5	2.8	回転糸切無調整	—	—	内外面口縁部ｽｽ状炭化物
94	175	—	台太郎	ODT	45	RD1094	1	須恵器	大甕	A1-U22	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
94	176	—	台太郎	ODT	45	RD1108	2	須恵器	大甕	A1-U22	埋土	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
94	177	—	台太郎	ODT	45	RD1092	3	須恵器	大甕	A1-O20	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ蓮藕文	
94	178	—	台太郎	ODT	45	RG424	37	須恵器	大甕	—	B	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
94	179	—	台太郎	ODT	45	RG424	107	須恵器	大甕	—	埋土上層	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ青海波文＋平行文	
94	180	—	台太郎	ODT	45	RG468	4	須恵器	大甕	Y1-Q1	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ平行文	
94	181	—	台太郎	ODT	45	RG471	4	須恵器	大甕	A25-G23	埋土	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ蓮藕文	

第 12 表　第 45 次調査出土遺物観察表

								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
95	182	39	台太郎	ODT	45	RA565	1	土製品	土錘	Y1-X3	C	5.0	2.2	円柱	穿孔，一部欠損
								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
95	183	39	台太郎	ODT	45	RA565	2	鉄製品	刀子	Y1-U2	C	(8.8)	1.0	0.3	欠損
95	184	39	台太郎	ODT	45	RA570	4	鉄製品	手鎌	A1-O7	A	(9.0)	1.7	0.2	欠損，目釘あり
95	185	—	台太郎	ODT	45	RA565	3	鉄製品	足金物	Y1-V2	C	7.6	2.3	0.7	一部欠損
95	186	—	台太郎	ODT	45	RB049 掘方23	19	鉄製品	棒状鉄製品	—	埋土	(9.9)	0.9	0.6	欠損
95	187	—	台太郎	ODT	45	RG424	16-2	鉄製品	棒状鉄製品	Ⅲ区	D	(9.2)	0.8	0.7	欠損
95	188	39	台太郎	ODT	45	RD1088	11	鉄製品	釘	A1-N7	A	4.6	0.6	0.6	
95	189	—	台太郎	ODT	45	RG424	16-1	鉄製品	釘	Ⅲ区	D	(3.8)	1.0	0.9	欠損
95	190	—	台太郎	ODT	45	RD1114	14	鉄製品	釘	—	A	(3.1)	0.9	0.6	欠損
95	191	—	台太郎	ODT	45	RD1088	10	鉄製品	釘	A1-N7	C	(5.9)	0.5	0.6	欠損
95	192	—	台太郎	ODT	45	RD1088	12	鉄製品	棒状鉄製品	A1-N7	A	7.2	0.3	0.3	
95	193	—	台太郎	ODT	45	遺構外	22	鉄製品	不明鉄製品	A25-G23	検出面	(4.3)	(2.6)	0.3	欠損

第 13 表　第 46 次調査出土土器観察表

								形態		出土		寸法（cm）※完形·復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等·特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
96	194	—	台太郎	ODT	46	RA578	23	土師器	坏	—	L	3.3	10.6	—	—	／	3.2	非ロクロ，有段，丸底	ヘラナデ	ヘラミガキ，黒色処理	全体にやや摩滅，胎土に雲母含む
96	195	35	台太郎	ODT	46	RA578	56	土師器	坏	NE区	A	3.2	11.4	—	—	／	3.6	非ロクロ，有段，丸底	ヘラナデ+ヘラミガキ	ヘラミガキ，黒色処理	外面摩滅　胎土に雲母含む
96	196	—	台太郎	ODT	46	RA578	55	土師器	坏	NE区	A	3.3	13.3	—	—	／	4.0	非ロクロ，丸底	ヘラミガキ	ヘラナデ+ヘラミガキ（黒トビ?）	全体にやや摩滅
96	197	35	台太郎	ODT	46	RA578	37	土師器	坏	NE区	C	4.7	14.6	—	—	／	3.1	非ロクロ，有段，丸底	ヘラナデ?（磨滅）	ヘラミガキ，黒色処理	内面やや摩滅　胎土に雲母含む
96	198	35	台太郎	ODT	46	RA578	19	土師器	坏	pit3	埋土	5.0	17.0	—	—	／	3.4	非ロクロ，有段，平底風丸底	ヘラミガキ	ヘラミガキ（黒トビ?）	全体にやや摩滅，胎土に雲母含む
96	199	35	台太郎	ODT	46	RA578	18	土師器	坏（皿）	pit3	埋土	2.6	15.2	—	—	／	5.8	非ロクロ，有段，平底風丸底	体部上半ヘラミガキ，下半ヘラミガキ+ヘラナデ	ヘラミガキ，黒色処理	全体にやや摩滅，胎土に雲母少し含む
96	200	35	台太郎	ODT	46	RA578	29	土師器	高台付坏	煙道	埋土	5.3	9.9	—	5.6	／	1.9	非ロクロ，有段，柱状高台	ヘラナデ+ヘラミガキ	坏部ヘラミガキ・黒色処理，台部ヘラナデ	
96	201	35	台太郎	ODT	46	RA578	8	土師器	高台付坏	No.4	床面	—	—	—	—	／	／	非ロクロ，有段	ヘラケズリ	坏部ヘラミガキ（黒トビ?），台部ナデ	外面やや摩滅，胎土に雲母少し含む
96	202	36	台太郎	ODT	46	RA578	12	土師器	小形壺	pit2	埋土	—	—	12.8	5.0	／	／	ヘラケズリ再調整	ヘラミガキ	ナデ?	外面朱彩，外面やや摩滅，胎土に雲母少し含む
96	203	36	台太郎	ODT	46	RA578	7	土師器	球胴甕	No.3	床面	—	23.8	—	—	／	／	欠損	ヘラナデ	口縁部ヘラナデ，体部ヘラナデ+ヘラミガキ	口縁部・体部上半に朱彩帯，全体にやや摩滅
96	204	36	台太郎	ODT	46	RA578	54	土師器	甕	ベルト①	B	14.1	15.0	13.5	4.1	1.1	1.1	—	口縁部・体部ヘラミガキ，底部付近ヘラナデ	ヘラナデ	全体にやや摩滅，胎土に雲母少し含む
96	205	36	台太郎	ODT	46	RA578	11	土師器	甕	pit1	埋土	19.7	17.2	14.1	6.8	1.2	0.9	—	ヘラナデ	口縁部ナデ，体部ヘラナデ	内面口縁部・体部上半ｺﾞｳﾞ状炭化物，外面やや磨滅，胎土に雲母少し含む
97	206	36	台太郎	ODT	46	RA578	2	土師器	甕	No.2	床面	30.0	22.2	20.0	7.0	1.1	0.7	—	口縁部ナデ+ヘラナデ，体部ヘラナデ	口縁部ナデ，体部ヘラナデ	外面口縁部・体部上半ｺﾞｳ状炭化物，内面口縁部・体部上半ｺﾞｳﾞ状炭化物　全体にやや摩滅，胎土に雲母含む
97	207	36	台太郎	ODT	46	RA578	1	土師器	甕	No.1	床面	15.8	15.6	12.9	5.6	1.2	1.0	半分欠損	口縁部ナデ，体部ヘラナデ	ヘラナデ	外面やや摩滅，胎土に雲母含む
								形態		出土		寸法（cm）※完形·復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等·特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
97	208	—	台太郎	ODT	46	RA579	4	土師器	長頸瓶	NE区	B	—	9.0	—	—	／	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	全体にやや摩滅

第 14 表　第 46 次調査出土遺物観察表

								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
98	209	39	台太郎	ODT	46	RA578	1	土製品	ミニチュア	NE区	B	5.0	6.7	椀形，丸底	内外面ヘラナデ調整
								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
98	210	39	台太郎	ODT	46	RA578	2	土製品	勾玉	NE区	B	3.4	1.2	1.2	穿孔，ヘラミガキ調整，黒色処理
								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
98	211	—	台太郎	ODT	46	RA578	1	鉄製品	切羽	NE区	床面	2.2	1.2	0.8	

第 15 表　第 57 次調査出土土器観察表

								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
99	212	37	台太郎	ODT	57	RA614	2	土師器	坏	No.1	床面	4.8	15.4	—	6.4	2.4	3.2	回転糸切ヘラケズリ再調整	—	ヘラミガキ,黒色処理（黒トビ）,摩滅	胎土に雲母含む
99	213	37	台太郎	ODT	57	RA614	20	土師器	坏	NW区	A	4.7	14.0	—	5.6	2.5	3.0	回転糸切無調整（摩滅）	ヘラミガキ,黒色処理（黒トビ）	ヘラミガキ,黒色処理,一部剥落	全体にやや摩滅,胎土に雲母含む
99	214	37	台太郎	ODT	57	RA614	21	あかやき土器	甕	SW区	A	14.0	17.4	16.0	8.0	1.1	1.2	回転糸切無調整	—	—	内面コゲ状炭化物
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
99	215	37	台太郎	ODT	57	RA615	13	須恵器	坏	NE区	B	5.1	15.4	—	6.0	2.6	3.0	回転糸切無調整	—	—	全体にやや摩滅
99	216	37	台太郎	ODT	57	RA615	6	土師器	甕	カマド付近	B	—	18.8	19.4	—	1.0	—	欠損	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	外面スス状炭化物
99	217	—	台太郎	ODT	57	RA615	21	須恵器	大甕	NW区	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ青海波文	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
99	218	37	台太郎	ODT	57	RA616	4	土師器	坏	—	床面	4.9	14.2	—	6.6	2.2	2.9	回転糸切無調整（摩滅）	—	ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母含む
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
99	219	37	台太郎	ODT	57	RA619	15	須恵器	坏	NW区	B	6.6	16.6	—	6.0	2.8	2.5	回転糸切ヘラナデ再調整	—	—	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
100	220	—	台太郎	ODT	57	RA617	41	土師器	坏	NE区東壁際	C	—	12.8	—	—	—	—	非ロクロ,丸底？	ヘラミガキ,黒色処理	ヘラミガキ,黒色処理	
100	221	—	台太郎	ODT	57	RA617	25	須恵器	坏	SW区	床面	5.4	13.6	—	4.8	2.8	2.5	回転糸切無調整	—	—	全体にやや摩滅
100	222	—	台太郎	ODT	57	RA617	64	須恵器	坏	NE区	B	4.6	15.4	—	5.8	2.7	3.3	回転糸切無調整	—	—	
100	223	37	台太郎	ODT	57	RA617	67	須恵器	坏	NE区	B	4.7	15.2	—	5.6	2.7	3.2	回転糸切無調整	—	—	全体にやや摩滅
100	224	—	台太郎	ODT	57	RA617	66	須恵器	坏	NE区	B	4.3	15.6	—	6.4	2.4	3.6	回転糸切無調整	—	—	全体に摩滅,白色胎土
100	225	37	台太郎	ODT	57	RA617	54	あかやき土器	坏	ベルト① SW区	C	—	14.8	—	—	—	—	欠損	—	—	全体に摩滅
100	226	—	台太郎	ODT	57	RA617	37	須恵器	大甕	NE区	C	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ蓮藕文	
100	227	—	台太郎	ODT	57	RA617	26	須恵器	大甕	SW区	床面	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ蓮藕文	
								形態		出土		寸法（cm）※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等・特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
101	228	—	台太郎	ODT	57	RD2009	1	あかやき土器	甕	No.1	埋土	—	20.0	24.0	—	0.8	—	欠損	体部上半タタキ平行文,下半ヘラケズリ	ヘラナデ,カキメ	外面頸部コゲ状炭化物，体部スス状炭化物，内面口径部コゲ状炭化物
101	229	—	台太郎	ODT	57	RD2006	6	須恵器	大甕	–	C	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ青海波文	
101	230	—	台太郎	ODT	57	RD2006	18	須恵器	大甕	–	C	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ蓮藕文	
101	231	—	台太郎	ODT	57	RD2008	11	須恵器	大甕	–	A	—	—	—	—	／	／	—	タタキ平行文	タタキ蓮藕文	

第 16 表　第 57 次調査出土遺物観察表

								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
102	232	39	台太郎	ODT	57	RA615	1	土製品	土錘	NW区	床面	8.2	2.0～2.5	円柱	穿孔
102	233	39	台太郎	ODT	57	RA617	1	土製品	土錘	NE区	L	5.1	2.1	円柱	穿孔
								形態		出土		寸法（cm）		形状	特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
102	234	39	台太郎	ODT	57	RD2006	1	石製品	砥石	SW区	B	6.1	5.7	2.2	円盤状，白色泥石

第 17 表　第 39 次調査出土陶磁器観察表

								形態		出土		寸法（cm）※完形･復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等･特徴
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
103	235	—	台太郎	ODT	39	RG042	32	青磁	碗	調査区東端付近	C	(4.7)	(11.2)	—	4.3	／	／	高台	鎬蓮弁文	—	龍泉窯系，14世紀初頭
103	236	40	台太郎	ODT	39	RG042	31	青磁	盤	—	C	(4.0)	(21.6)	—	13.6	／	／	高台	—	文様	龍泉窯系，14世紀初頭
103	237	40	台太郎	ODT	39	RG042	16	須恵器系陶器	擂鉢	—	埋土	(8.7)	—	—	—	／	／	欠損	—	櫛目	海綿骨針含む，14世紀前半
103	238	40	台太郎	ODT	39	RG042	20	須恵器系陶器	擂鉢	—	B	(3.5)	(15.2)	—	9.4	／	／	—	—	櫛目	14世紀前半
103	239	—	台太郎	ODT	39	RG042	7	須恵器系陶器	壷（甕）	—	D	(8.1)	(24.2)	—	18.0	／	／	—	—	—	13~14世紀初頭
103	240	40	台太郎	ODT	39	RG042	12	須恵器系陶器	椀	調査区中央	D	(5.1)	(8.6)	—	5.2	／	／	—	緑釉	—	
103	241	40	台太郎	ODT	39	RG042	19	瓷器系陶器	大甕	—	B	(14.0)	(50.0)	(112.0)	—	／	／	欠損	—	—	14世紀
104	242	40	台太郎	ODT	39	RG042	5	瓷器系陶器	大甕	調査区中央	D	—	—	—	—	／	／	—	スタンプ文	—	14世紀
104	243	40	台太郎	ODT	39	RG042	13	瓷器系陶器	大甕	調査区中央	C	—	—	—	—	／	／	—	スタンプ文	—	14世紀
104	244	—	台太郎	ODT	39	RG042	14	瓷器系陶器	大甕	調査区中央	C	—	—	—	—	／	／	—	スタンプ文	—	14世紀
104	245	40	台太郎	ODT	39	RG042	23	瓷器系陶器	大甕	—	B	—	—	—	—	／	／	—	スタンプ文	—	14世紀
104	246	—	台太郎	ODT	39	RG042	18	常滑	甕	—	B	—	—	—	—	／	／	—	スタンプ文	—	13世紀中葉~後半

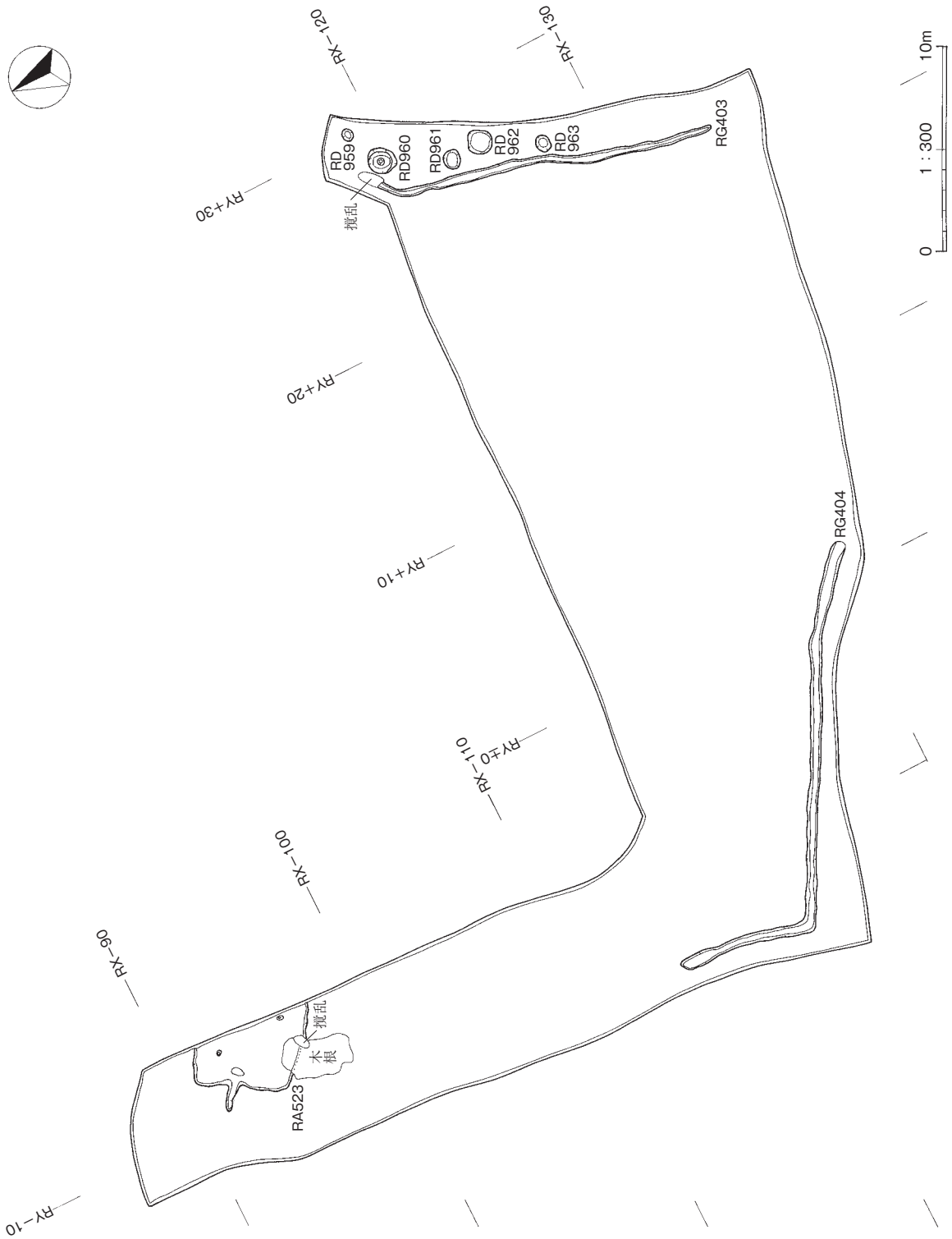
第 18 表　第 45・46・57 次調査出土古銭観察表

								形態		出土		寸法（cm）	特徴等
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	種別	平面位置	層位		
105	247	41	台太郎	ODT	45	RD1088	2	古銭	天聖元寶	−	A	2.4	北宋銭，1023年始鋳
105	248	41	台太郎	ODT	45	RD1088	1	古銭	大観通寶	−	B	2.4	北宋銭，1107年始鋳
								形態		出土		寸法（cm）	特徴等
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	種別	平面位置	層位		
106	249	41	台太郎	ODT	46	−	5	古銭	開元通寶	−	−	2.5	唐銭，621年始鋳
106	250	41	台太郎	ODT	46	−	2	古銭	祥符元寶	−	−	2.4	北宋銭，1008年始鋳
106	251	41	台太郎	ODT	46	−	6	古銭	天聖元寶	−	−	2.4	北宋銭，1023年始鋳
106	252	41	台太郎	ODT	46	−	3	古銭	景祐元寶?	−	−	2.4	（北宋銭，1034年始鋳）
106	253	41	台太郎	ODT	46	−	11	古銭	皇宋通寶	−	−	2.4	北宋銭，1039年始鋳
106	254	41	台太郎	ODT	46	−	1	古銭	熙寧元寶	−	−	2.3	北宋銭，1068年始鋳
106	255	41	台太郎	ODT	46	−	8	古銭	熙寧元寶	−	−	2.3	北宋銭，1068年始鋳
106	256	41	台太郎	ODT	46	−	10	古銭	元豊通寶?	−	−	2.4	（北宋銭，1078年始鋳）
106	257	41	台太郎	ODT	46	−	9	古銭	元祐通寶	−	−	2.2	北宋銭，1086年始鋳
106	258	41	台太郎	ODT	46	−	7	古銭	元祐通寶	−	−	2.3	北宋銭，1086年始鋳
106	259	41	台太郎	ODT	46	−	12	古銭	元祐通寶	−	−	2.4	北宋銭，1086年始鋳
106	260	41	台太郎	ODT	46	−	4	古銭	紹聖元寶	−	−	2.3	北宋銭，1094年始鋳
								形態		出土		寸法（cm）	特徴等
挿図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	種別	平面位置	層位		
107	261	41	台太郎	ODT	57	RA615	1	古銭	寛永通寶	−	撹乱	2.4	古寛永
107	262	41	台太郎	ODT	57	RB054 掘方6	3	古銭	天聖元寶	−	底面	2.3	北宋銭，1023年始鋳
107	263	41	台太郎	ODT	57	検出面	1	古銭	祥符通寶？	−	−	2.4	（北宋銭，1009年始鋳）
107	264	41	台太郎	ODT	57	検出面	2	古銭	寛永通寶	−	−	2.4	新寛永

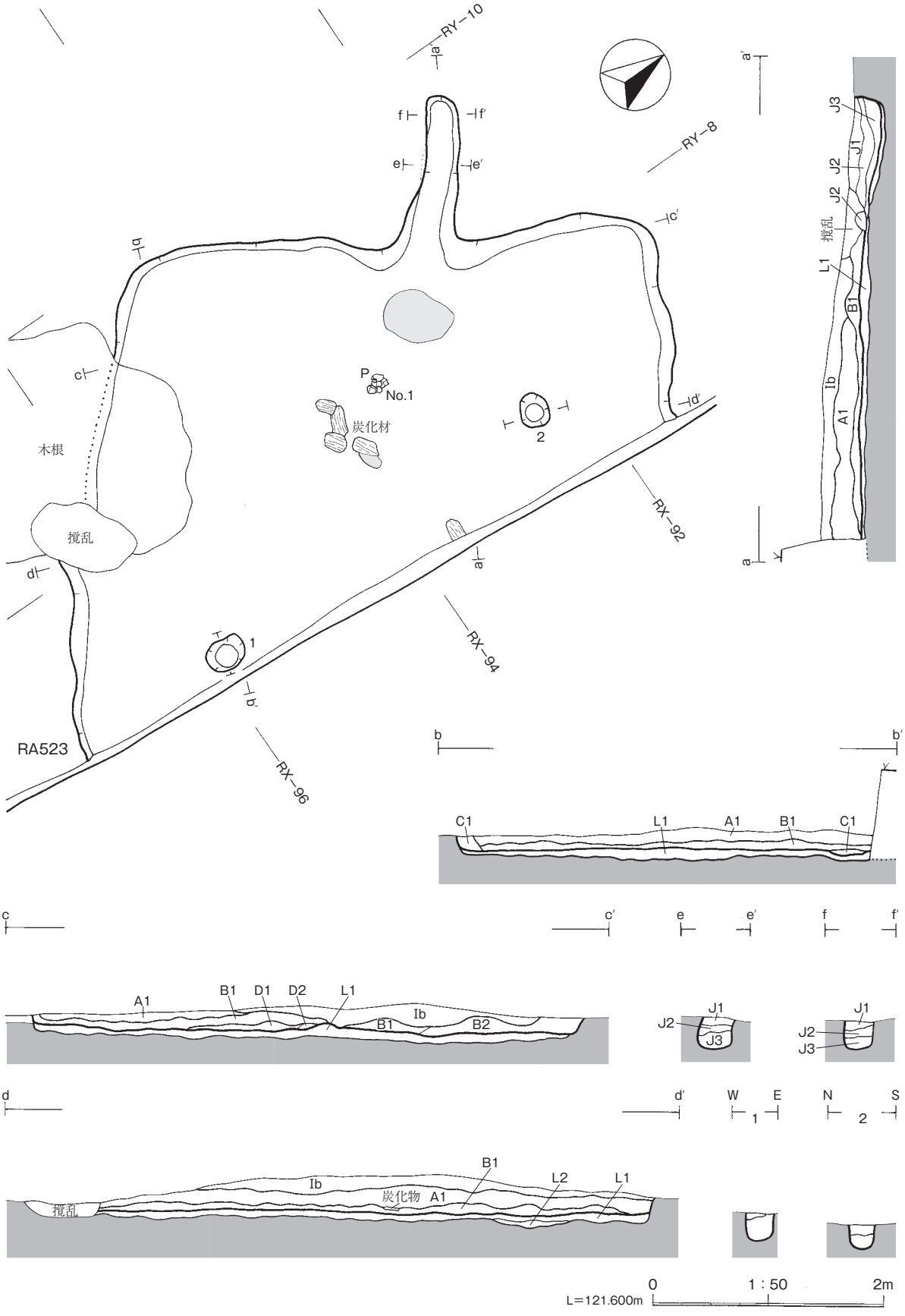
第 19 表　竪穴住居跡一覧表

次数	遺構名	カマド方向	煙道	カマド袖	一辺長（m）	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	時期
37	RA523	W　40.0 °　N　北西	長い煙道	なし	4.90	なし	なし	なし	なし	8世紀後半
次数	遺構名	カマド方向	煙道	カマド袖	一辺長（m）	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	時期
39	RA524	W　28.5 °　N　北西	長い煙道	なし	2.3～2.85	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉～後葉
39	RA525	E　13.0 °　S　東	長い煙道	両袖残存	4.27～4.5	1基	なし	なし	なし	9世紀中葉
39	RA526	W　5.5 °　S　西	長い煙道	左袖残存	3.85	なし	あり	なし	なし	9世紀中葉～後葉
39	RA527	不明	不明	不明	2.90	なし	なし	なし	なし	9世紀
39	RA528	不明	不明	不明	6.30	なし	あり	なし	なし	9世紀中葉
39	RA529	不明	不明	不明	5.25	なし	あり	なし	なし	9世紀前葉～中葉
39	RA530	W　22.5 °　N　北西	長い煙道（トンネル状）	両袖残存	3.90以上	なし	あり	なし	なし	9世紀
39	RA531	不明	不明	不明	不明	なし	なし	なし	なし	9世紀
39	RA532	不明	不明	不明	2.50	なし	なし	なし	なし	9世紀
39	RA533	－	－	－	－	－	－	－	なし	9世紀
39	RA534	N　25.0 °　W　北西	長い煙道	両袖残存	4.30	なし	あり	なし	なし	9世紀中葉
39	RA535	N　42.0 °　E　北東	長い煙道	なし	4.55以上	なし	あり	なし	なし	9世紀前葉～中葉
次数	遺構名	カマド方向	煙道	カマド袖	一辺長（m）	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	時期
42	RA546	－	不明	不明	不明	1基	なし	なし	なし	9世紀
次数	遺構名	カマド方向	煙道	カマド袖	一辺長（m）	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	時期
45	RA565a	N　26.0 °　E　北東	長い煙道（トンネル状）	両袖残存	6.7～7.2	なし	なし	6口	なし	9世紀後葉
45	RA565b	N　18.0 °　E　北	長い煙道（トンネル状）	なし	6.7～7.2	なし	なし	6口	なし	9世紀後葉
45	RA565c	E　13.0 °　S　東	長い煙道（トンネル状）	なし	6.7～7.2	なし	なし	6口	なし	9世紀後葉
45	RA565d	E　6.5 °　S　東	長い煙道（トンネル状）	なし	6.7～7.2	なし	なし	6口	なし	9世紀後葉
45	RA566	－	不明	不明	3.3以上	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA567	－	不明	不明	4.90	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA568	W　4.0 °　N　西	長い煙道	両袖残存	3.70	なし	あり	なし	なし	9世紀
45	RA569a	W　5.5 °　N　西	長い煙道	なし	2.40	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA569b	E　41.0 °　S　南東	長い煙道	なし	2.40	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA570a	N　5.0 °　E　北	長い煙道	なし	5.50	なし	なし	なし	なし	9世紀前葉～中葉
45	RA570b	W　22.5 °　S　西	長い煙道	なし	5.50	なし	なし	なし	なし	9世紀前葉～中葉
45	RA571	－	なし	なし	4.50	なし	なし	なし	なし	9世紀
45	RA572	N　19.0 °　W　北	長い煙道	両袖残存	4.30	なし	なし	なし	なし	9世紀前葉～中葉
45	RA573	－	不明	不明	3.60	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA574	－	不明	不明	2.70	なし	なし	なし	なし	9世紀
45	RA575	－	不明	不明	4.7以上	なし	なし	なし	なし	9世紀
45	RA576	－	不明	不明	3.5～4.3	なし	なし	なし	なし	9世紀
45	RA577	E　2.5 °　S　東	長い煙道	－	－	－	－	－	－	9世紀
次数	遺構名	カマド方向	煙道	カマド袖	一辺長（m）	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	時期
46	RA578	N　23.0 °　W　北西	長い煙道	両袖残存	6.30	1基	なし	1口	なし	8世紀後葉~9世紀前葉
46	RA579	N　42.0 °　W　北西	長い煙道	なし	5.1～5.65	なし	なし	4口	なし	8世紀後葉~9世紀前葉
次数	遺構名	カマド方向	煙道	カマド袖	一辺長（m）	貯蔵穴	床硬化面	主柱穴	周溝	時期
57	RA614	－	なし	なし	2.90～3.05	なし	なし	なし	なし	9世紀後葉
57	RA615	N　9.5 °　E　北	長い煙道	両袖残存	3.55～3.95	1基	なし	なし	あり	9世紀中葉
57	RA616	－	なし	なし	4.35～4.85	なし	なし	なし	なし	9世紀
57	RA617	W　15.5 °　N　西	長い煙道	両袖残存	4.25～4.55	なし	あり	なし	なし	9世紀中葉
57	RA618	－	不明	不明	2.30以上	不明	不明	不明	なし	9世紀
57	RA619	E　8.0 °　N　東	長い煙道	右袖残存	4.20～4.60	なし	なし	なし	なし	9世紀

図

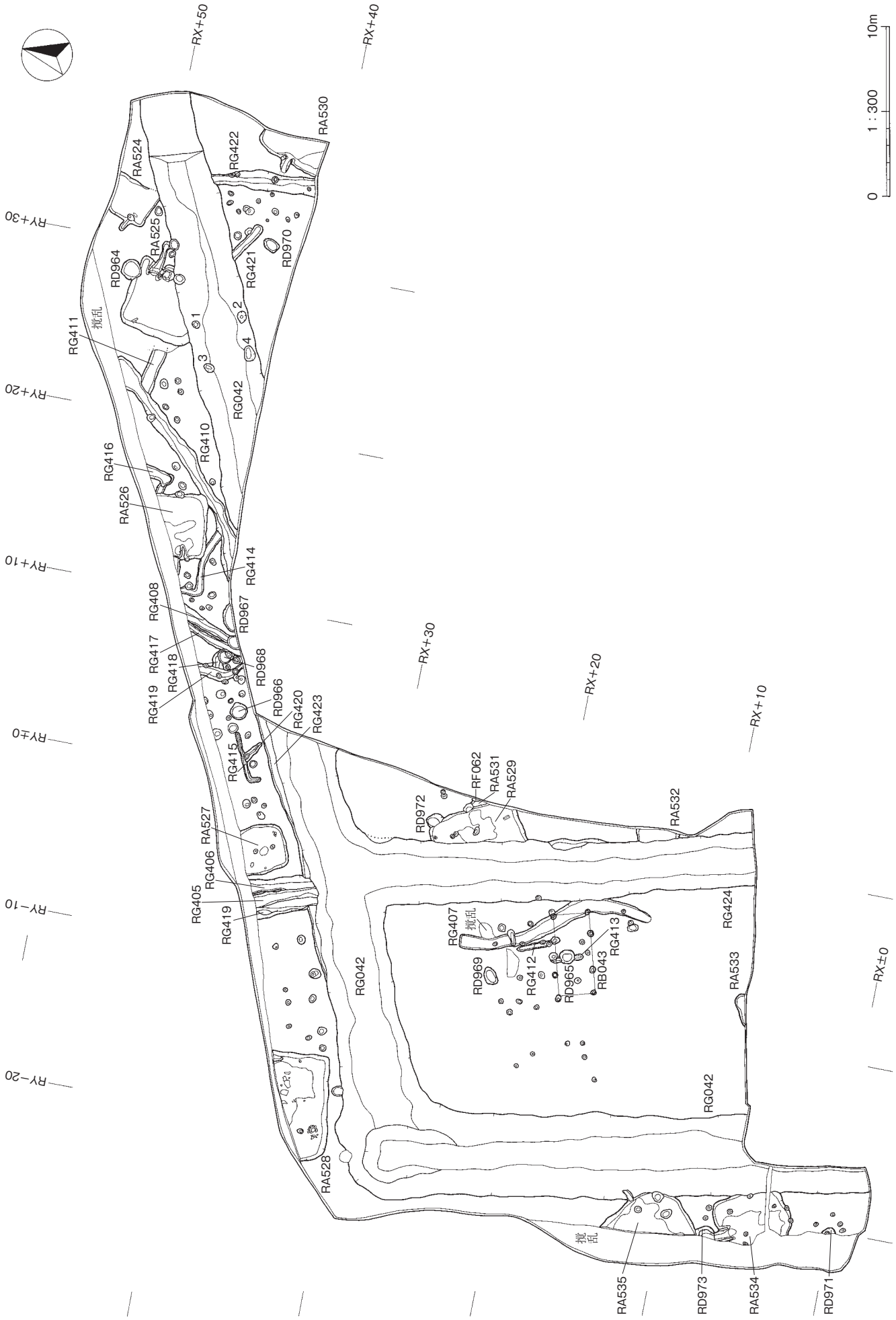


第 1 図　第 37 次調査区全体図

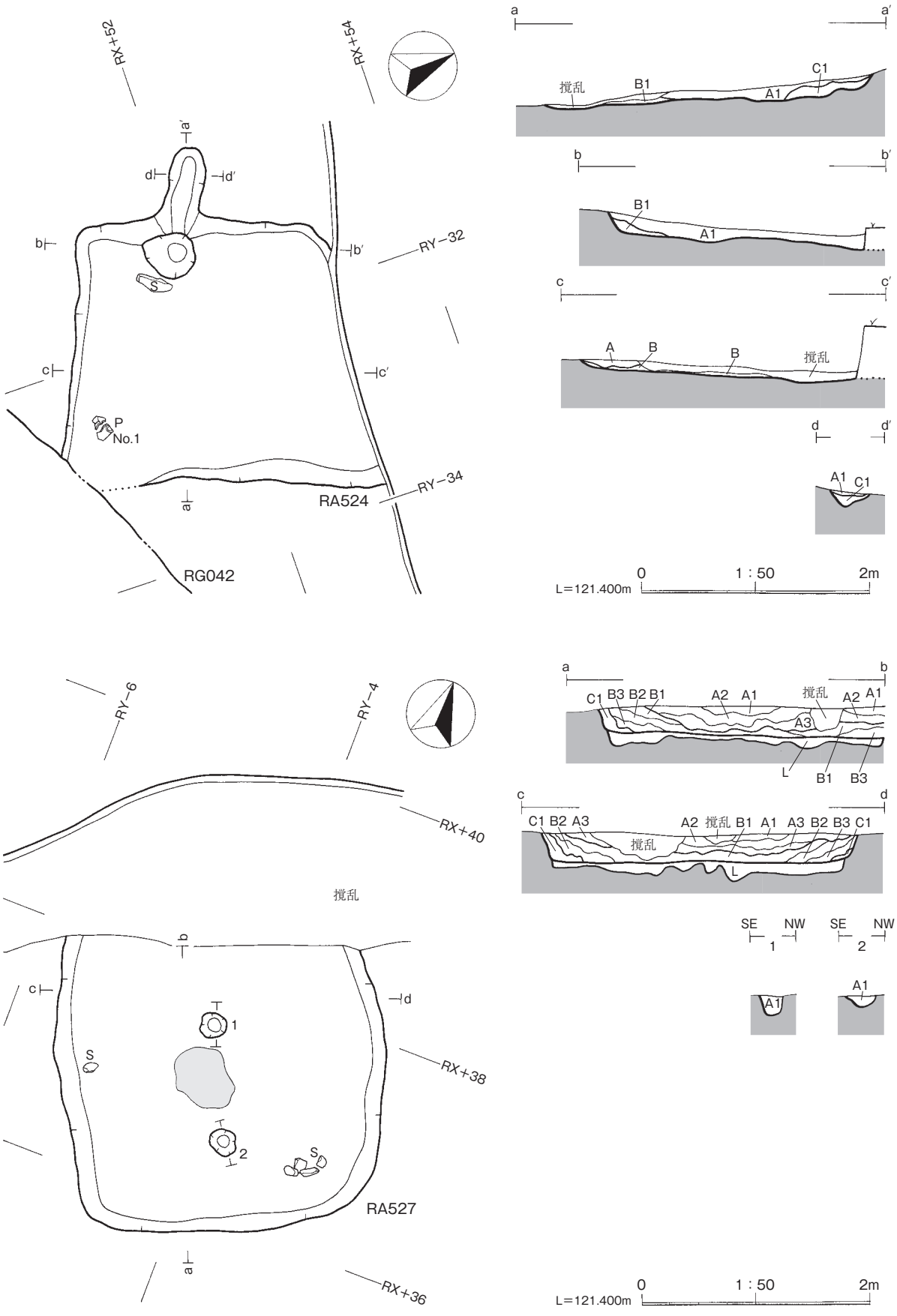


第 2 図　第 37 次調査 RA523 竪穴住居跡

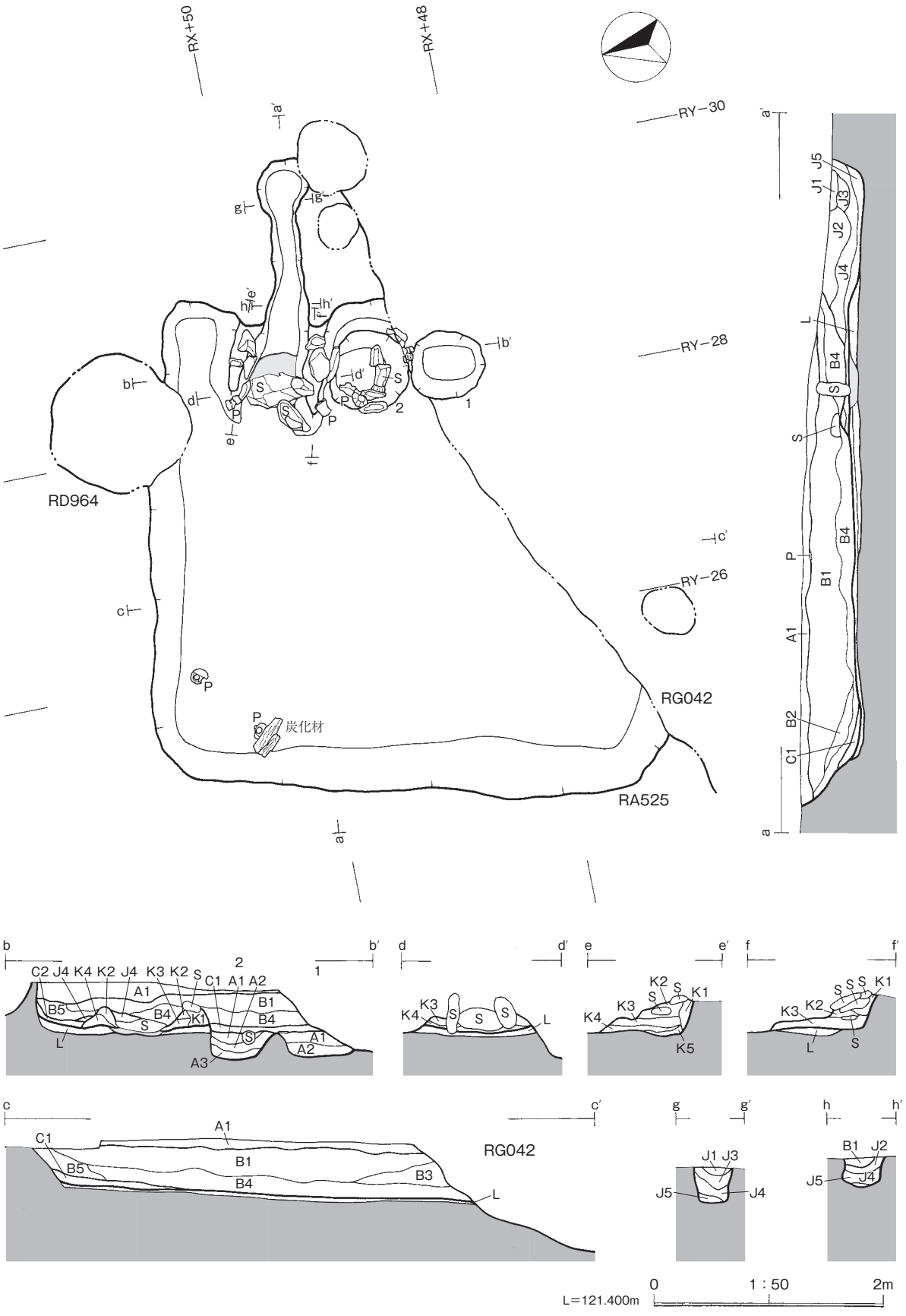
第 3 図　第 37 次調査 RD959～963 土坑，RG403・404 溝跡



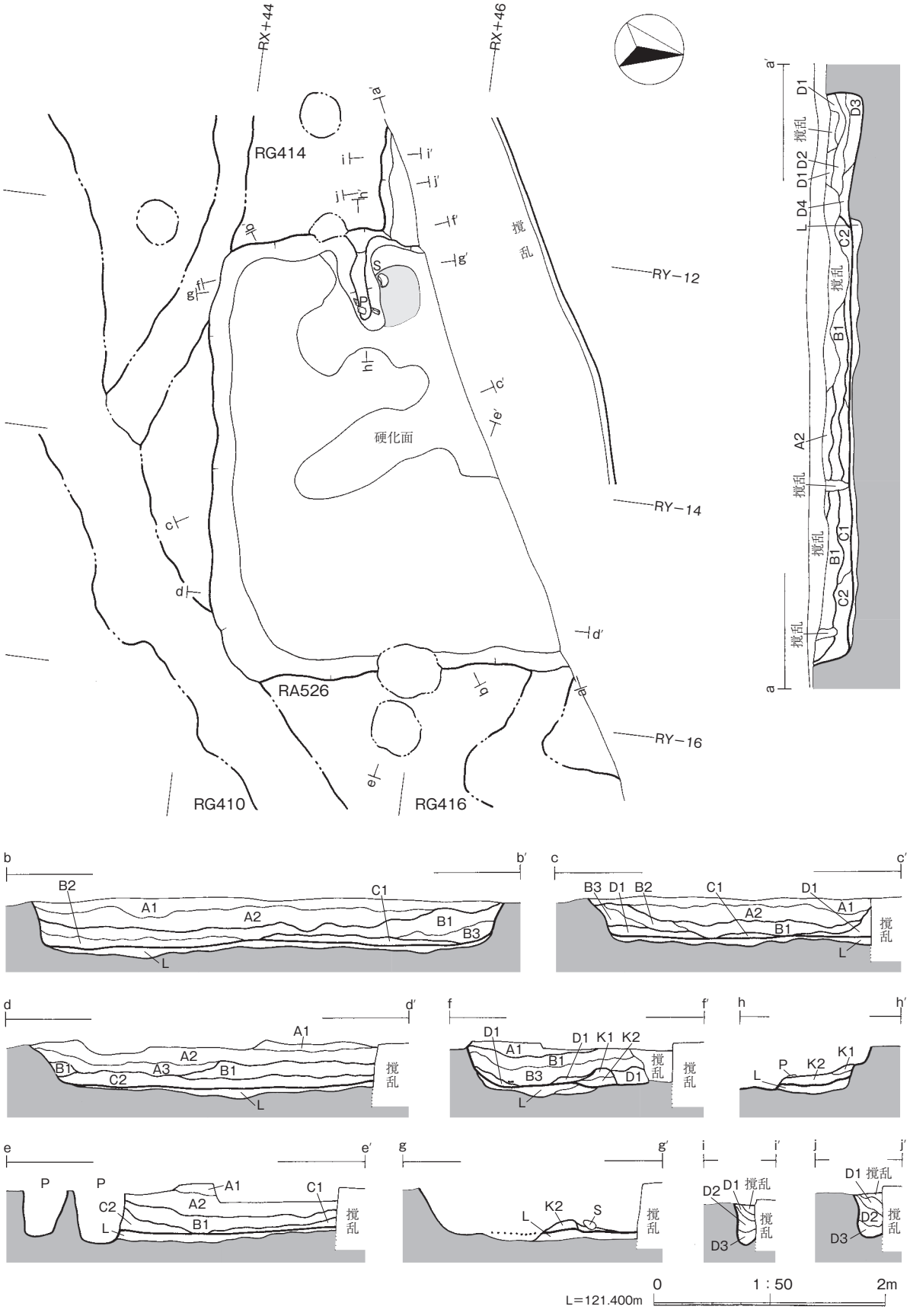
第 4 図　第 39 次調査区全体図



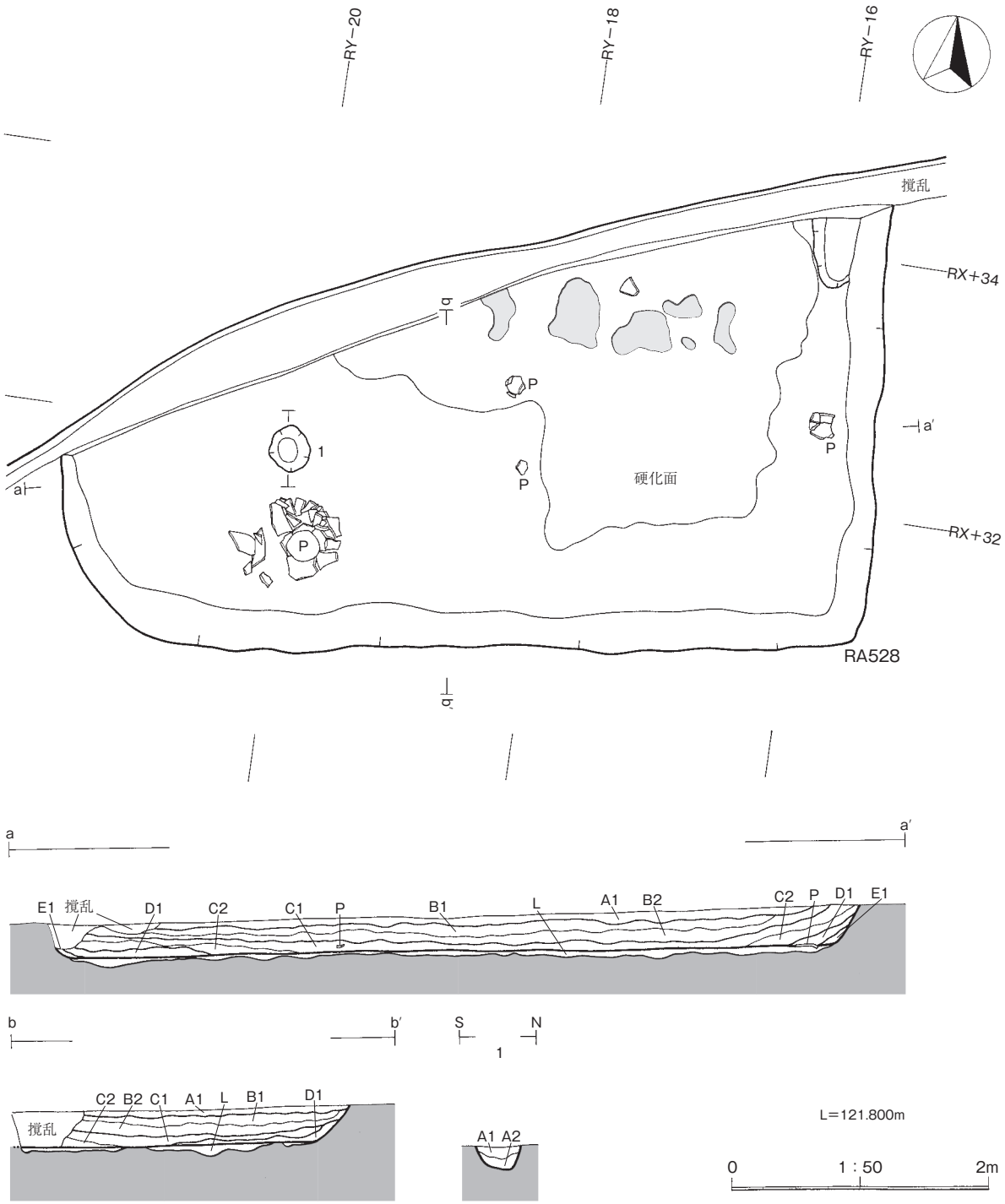
第 5 図　第 39 次調査 RA524・527 竪穴住居跡



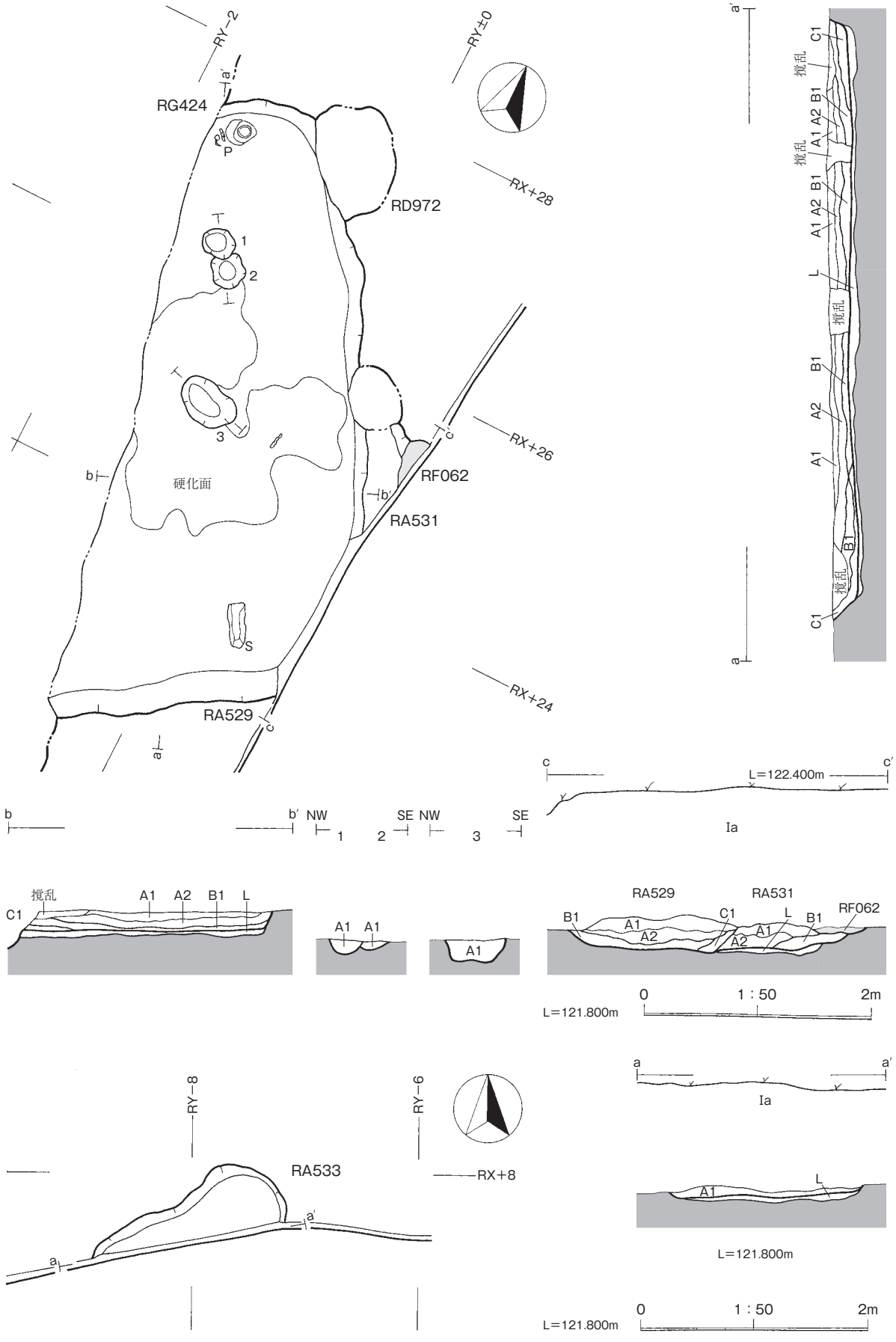
第 6 図　第 39 次調査 RA525 竪穴住居跡



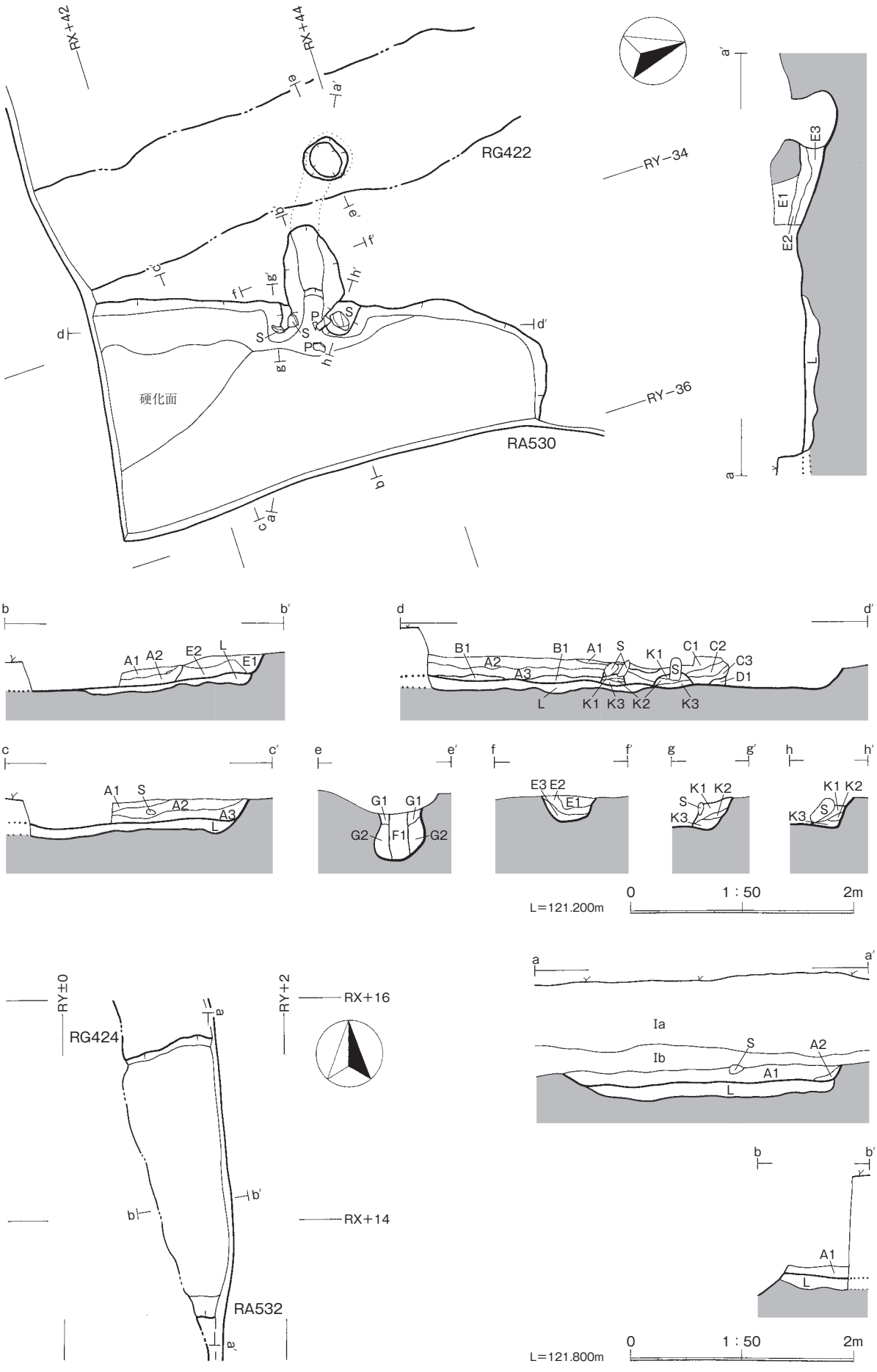
第 7 図　第 39 次調査 RA526 竪穴住居跡



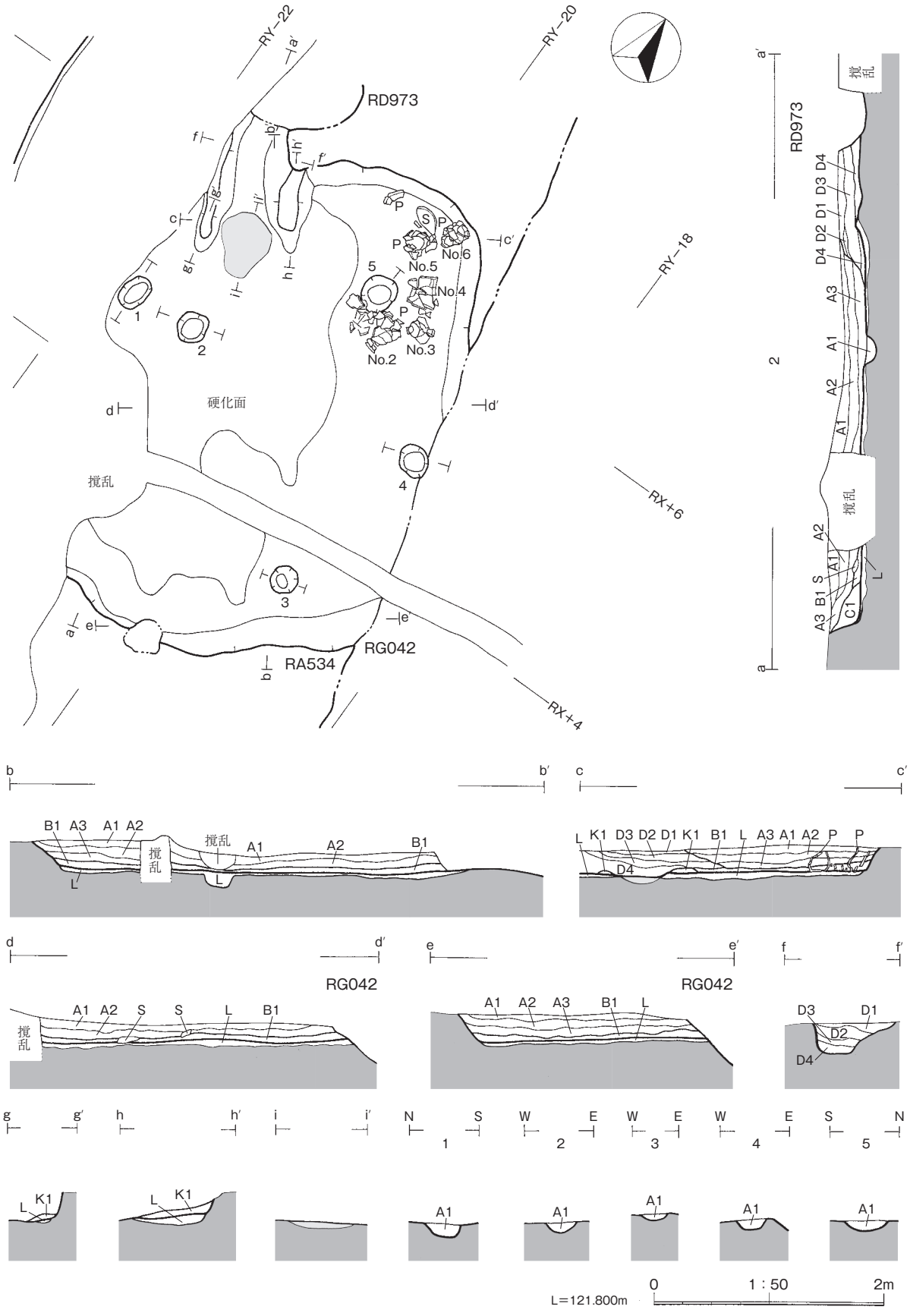
第 8 図　第 39 次調査 RA528 竪穴住居跡



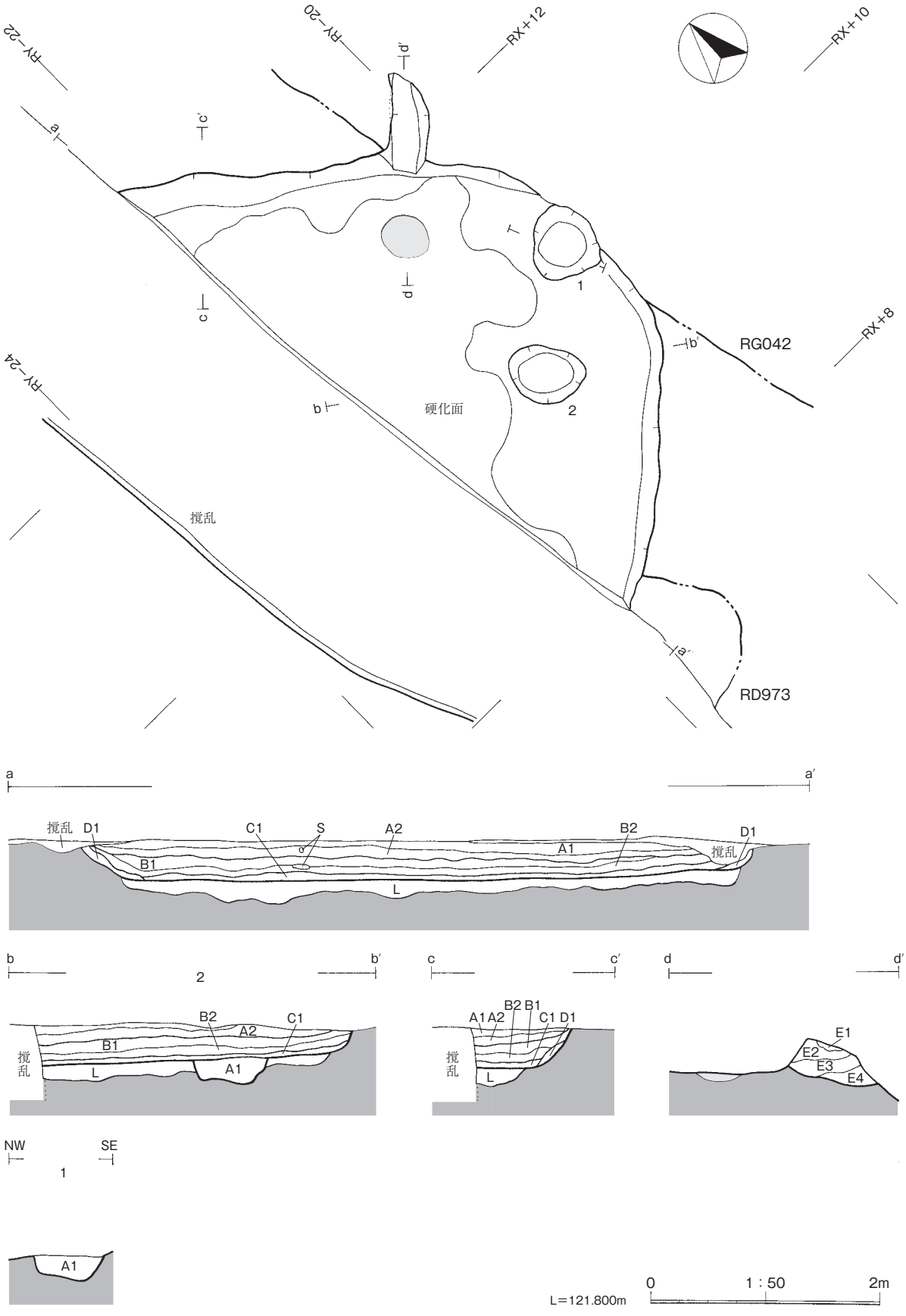
第 9 図　第 39 次調査 RA529・531・533 竪穴住居跡，RF062 焼土遺構



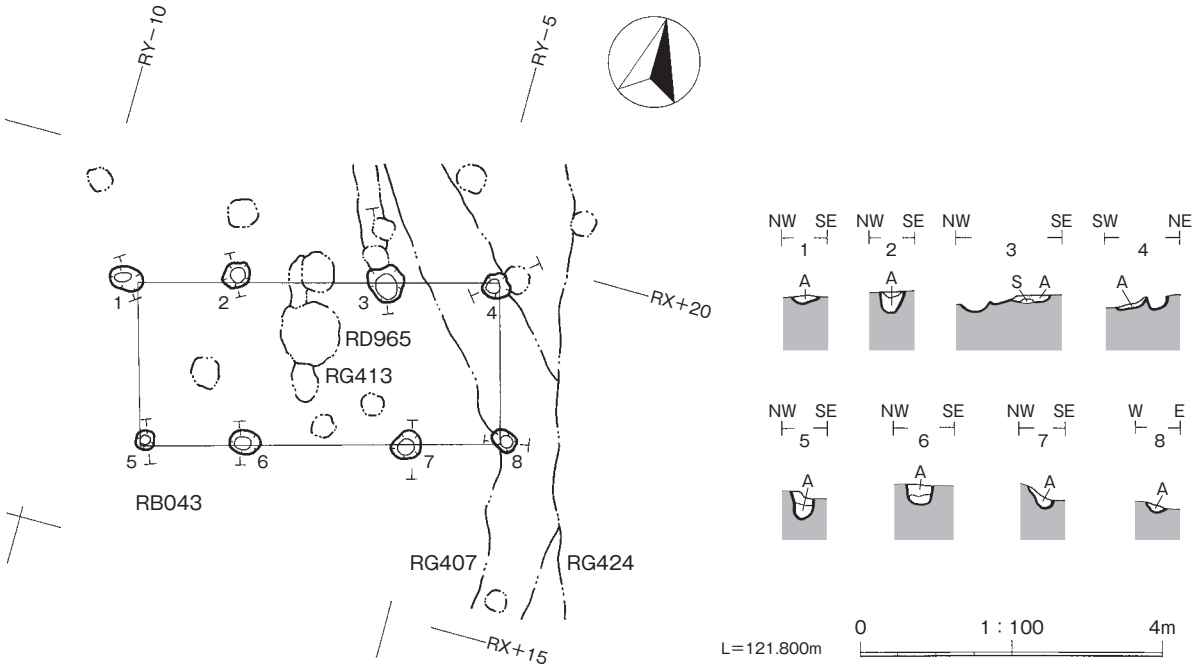
第 10 図　第 39 次調査 RA530・532 竪穴住居跡



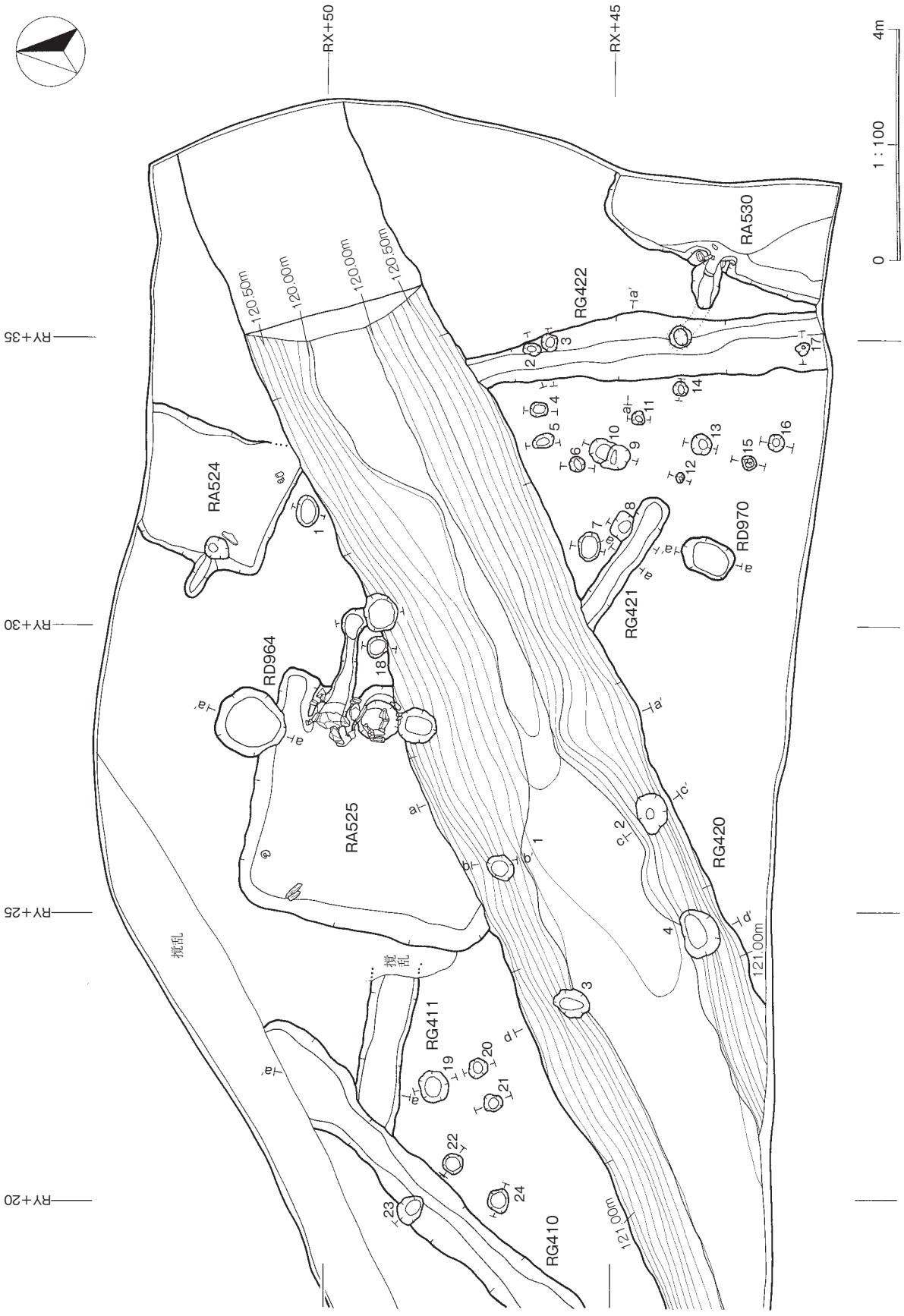
第 11 図　第 39 次調査 RA534 竪穴住居跡



第 12 図　第 39 次調査 RA535 竪穴住居跡

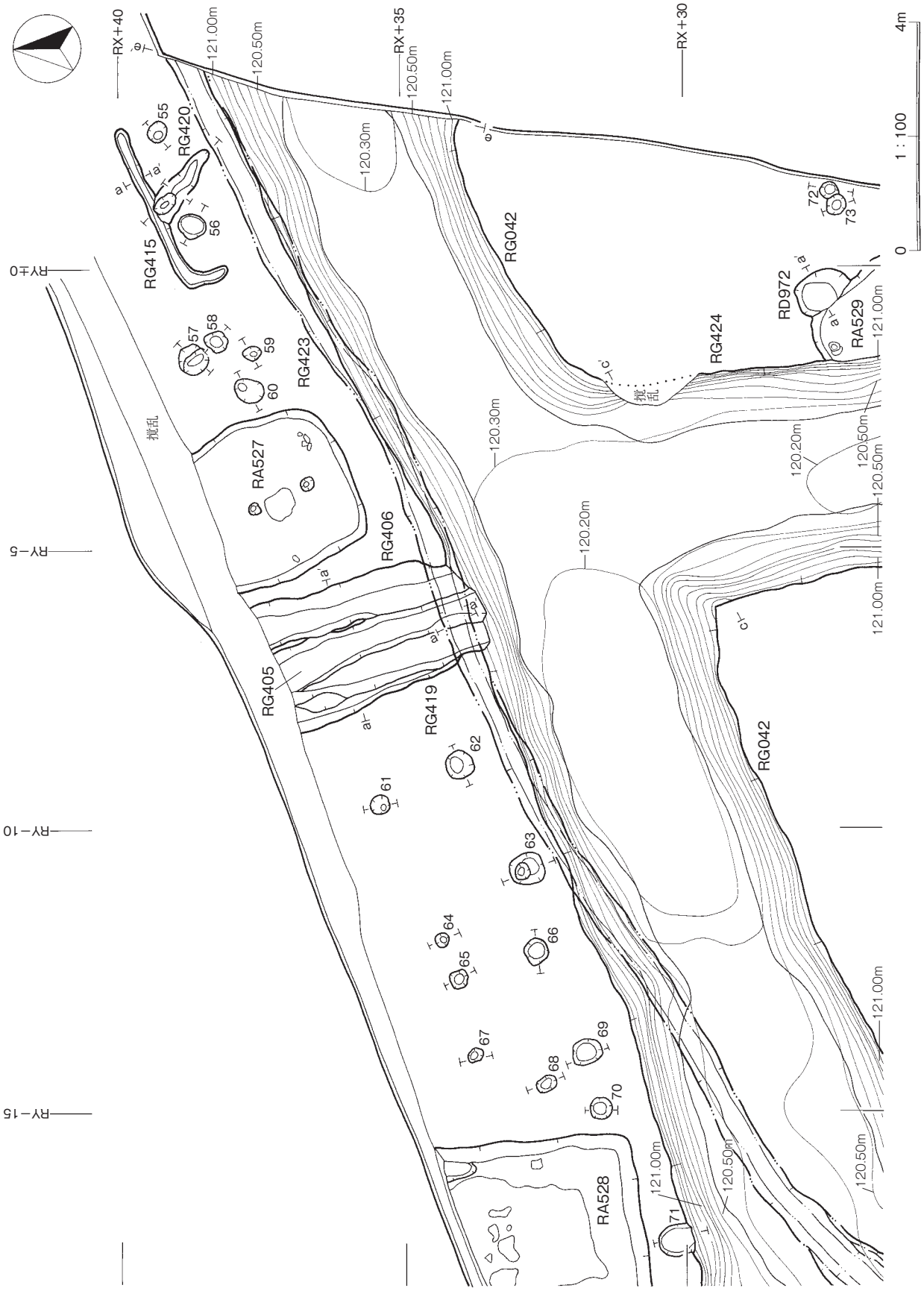


第 13 図　第 39 次調査 RB043 掘立柱建物跡

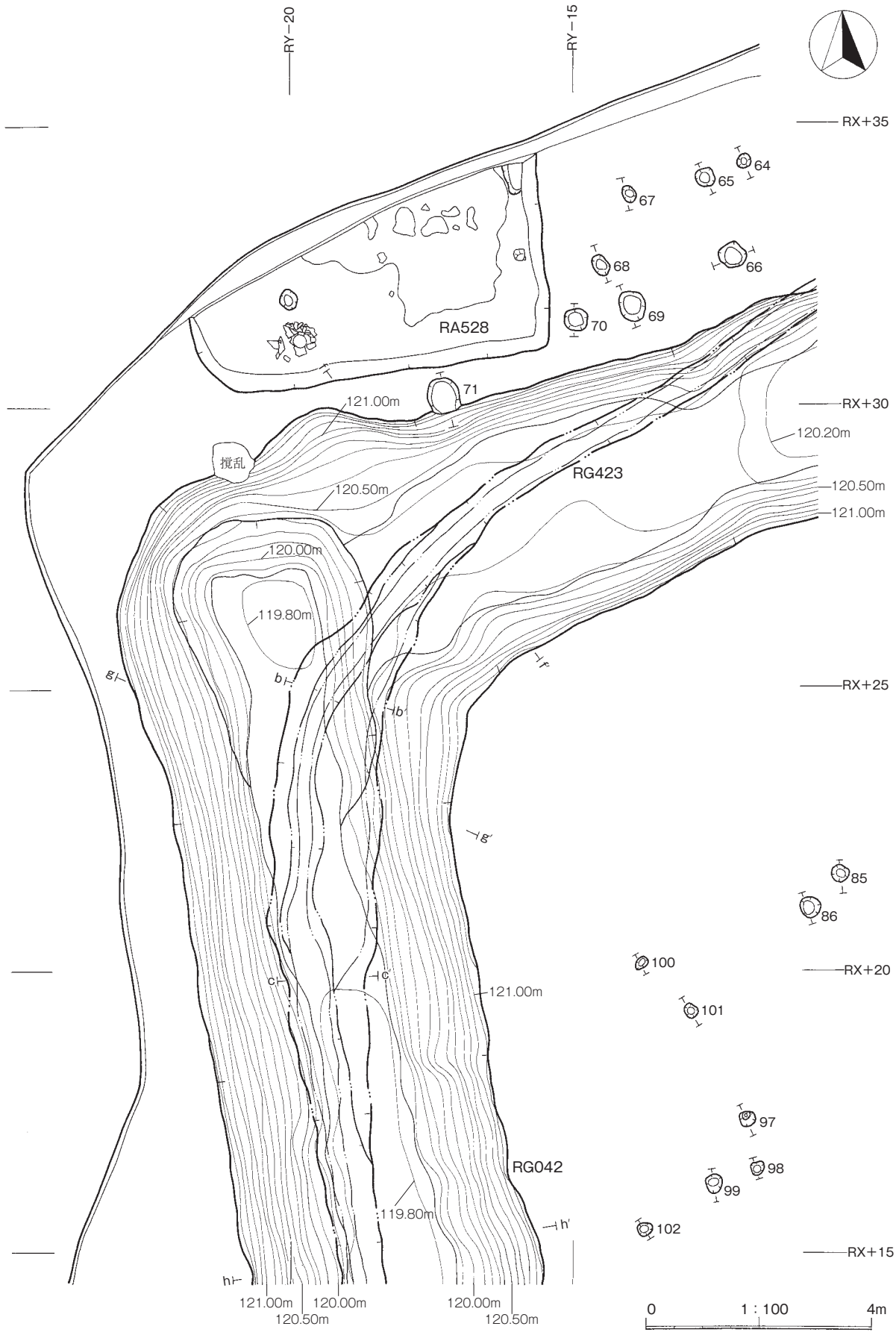


第 14 図　第 39 次調査 RD964・970 土坑，RG042・410・411・421・422 溝跡，ピット

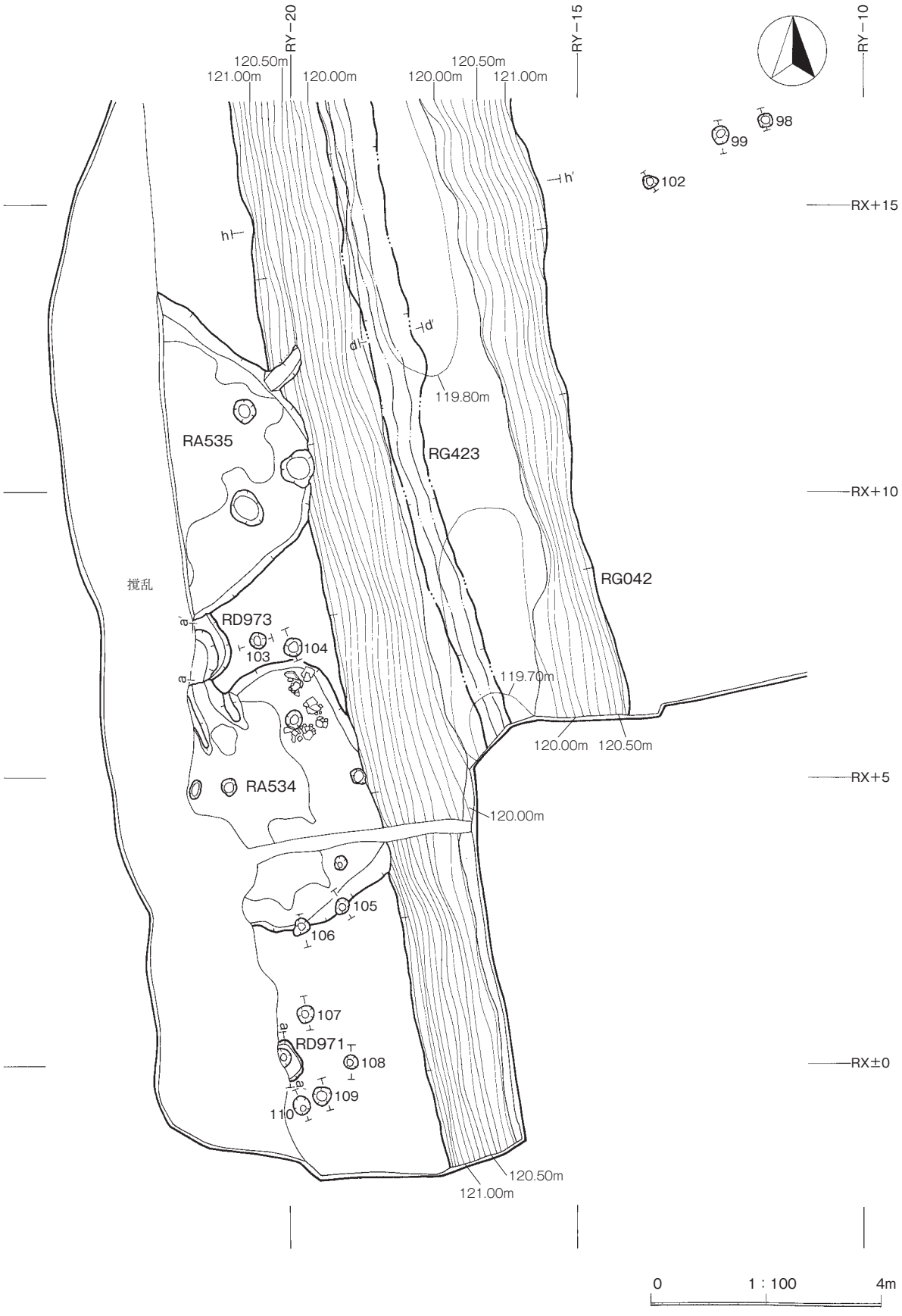
第15図　第39次調査RD966･967･968土坑,RG042･408･409･410･414･415･416･417･418･420･423溝跡,ピット



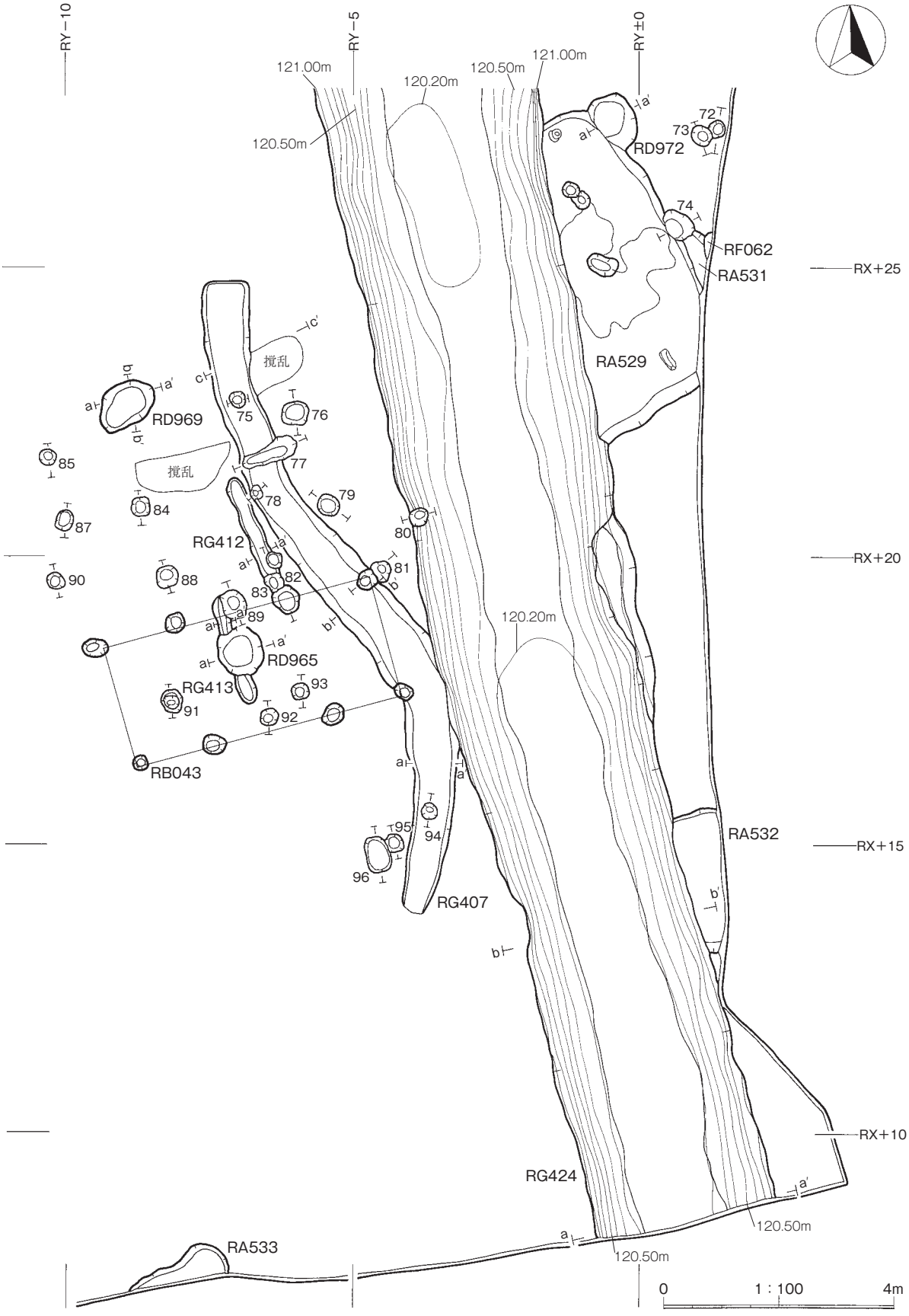
第 16 図　第 39 次調査 RD972 土坑，RG042・405・406・415・419・420・423・424 溝跡，ピット



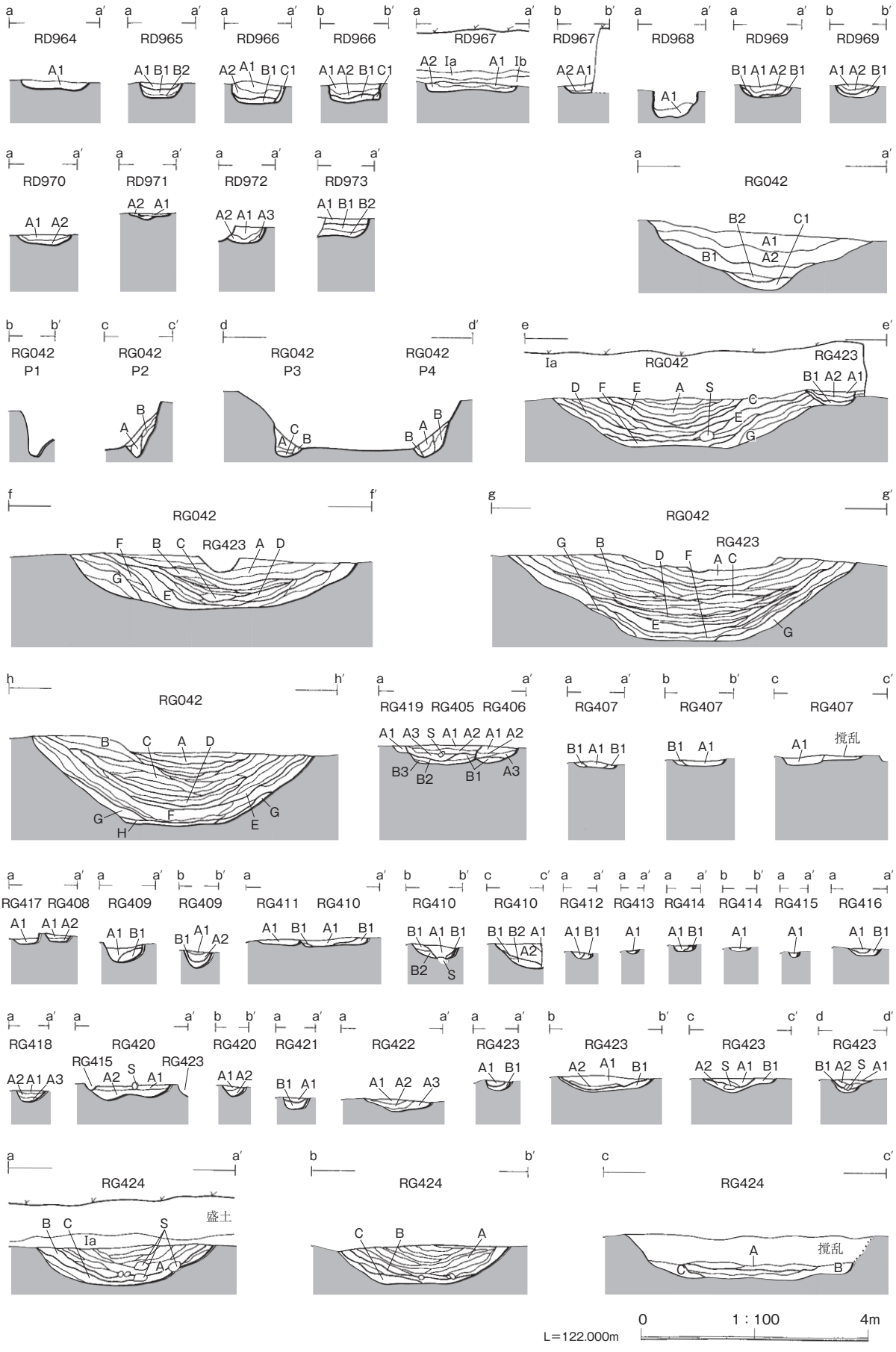
第 17 図　第 39 次調査 RG042・423 溝跡，ピット



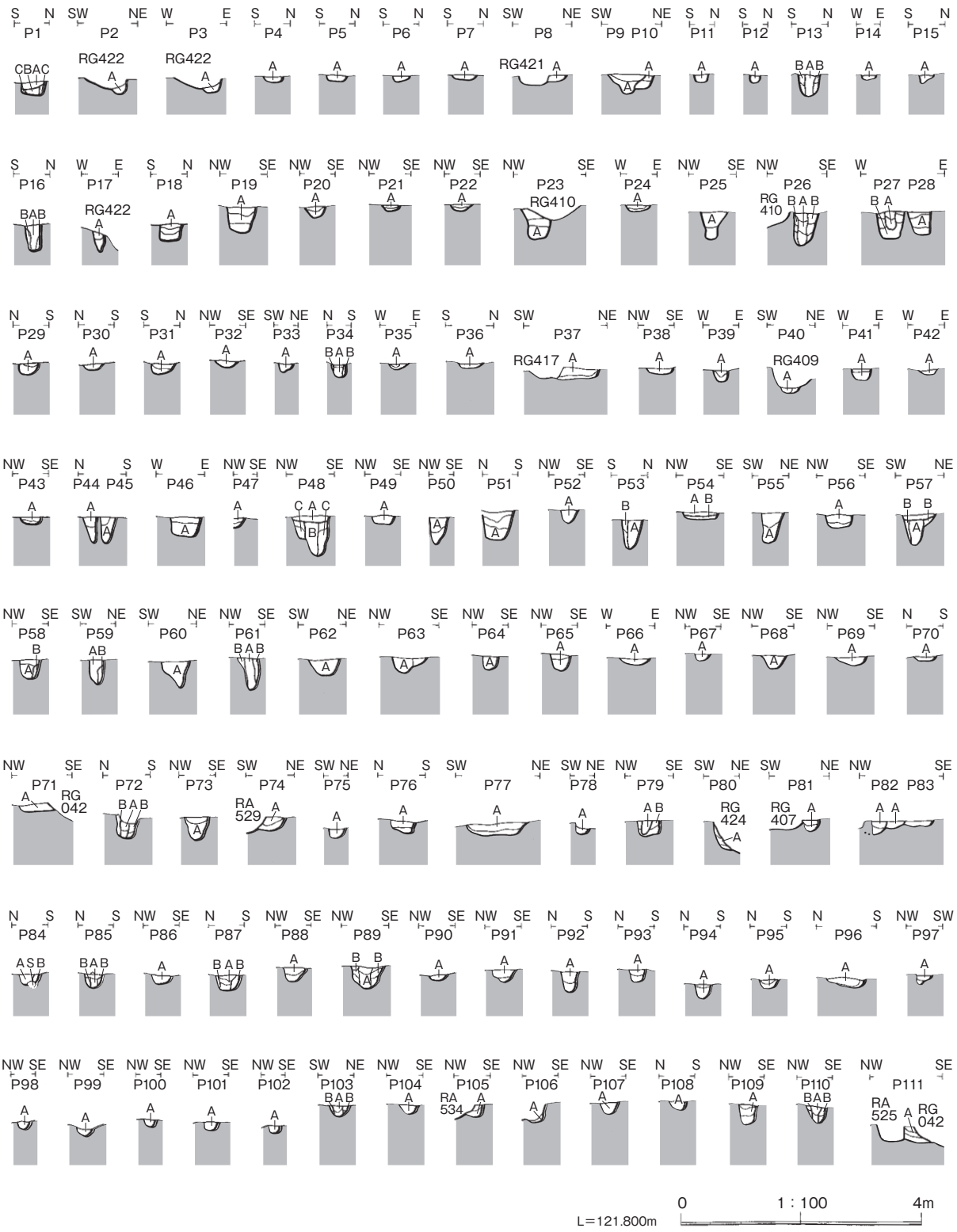
第 18 図　第 39 次調査 RD971・973 土坑，RG042・423 溝跡，ピット



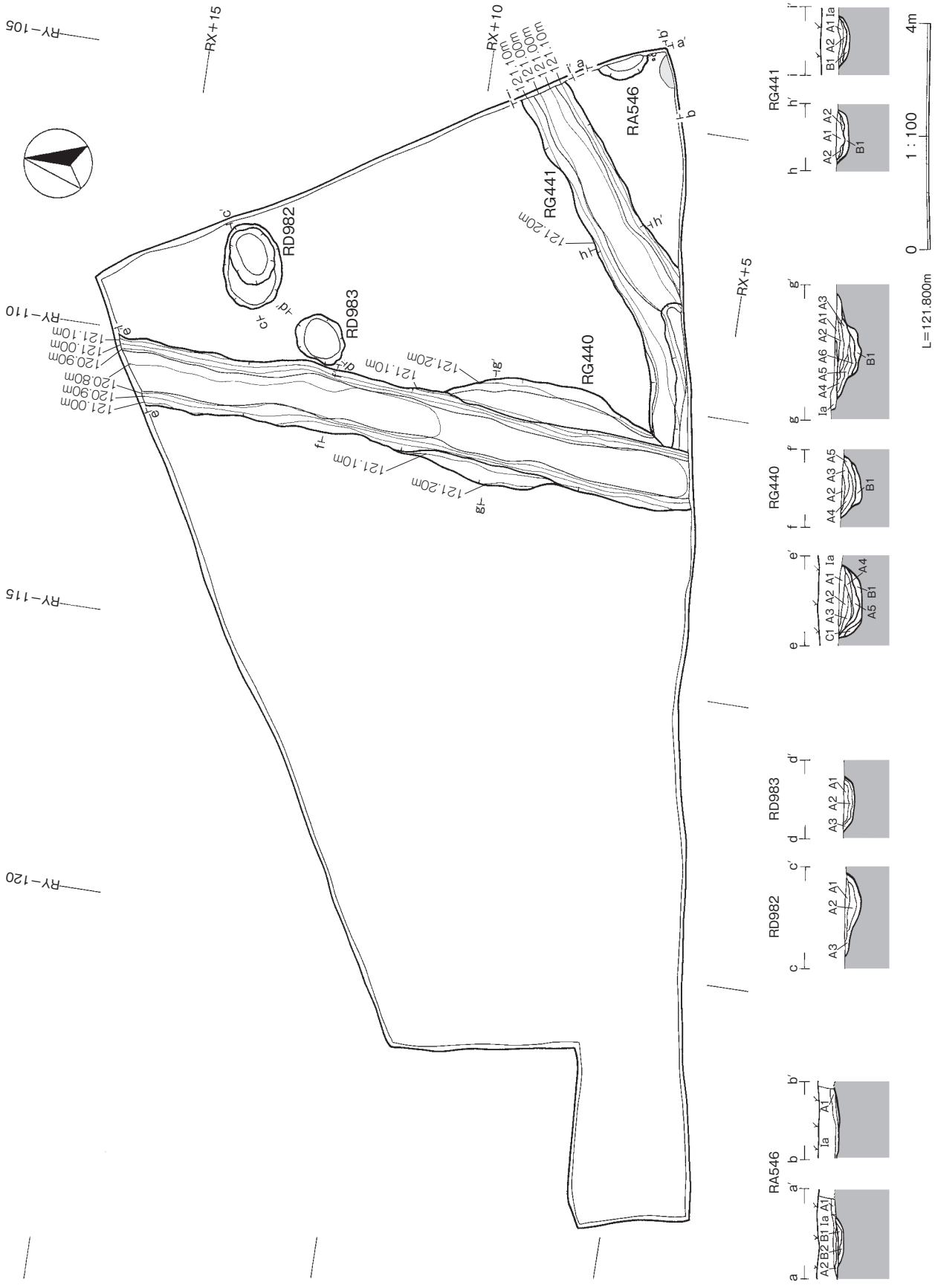
第 19 図　第 39 次調査 RD965・969・972 土坑，RG407・412・413・424 溝跡，ピット



第 20 図　第 39 次調査　土坑・溝跡，断面図

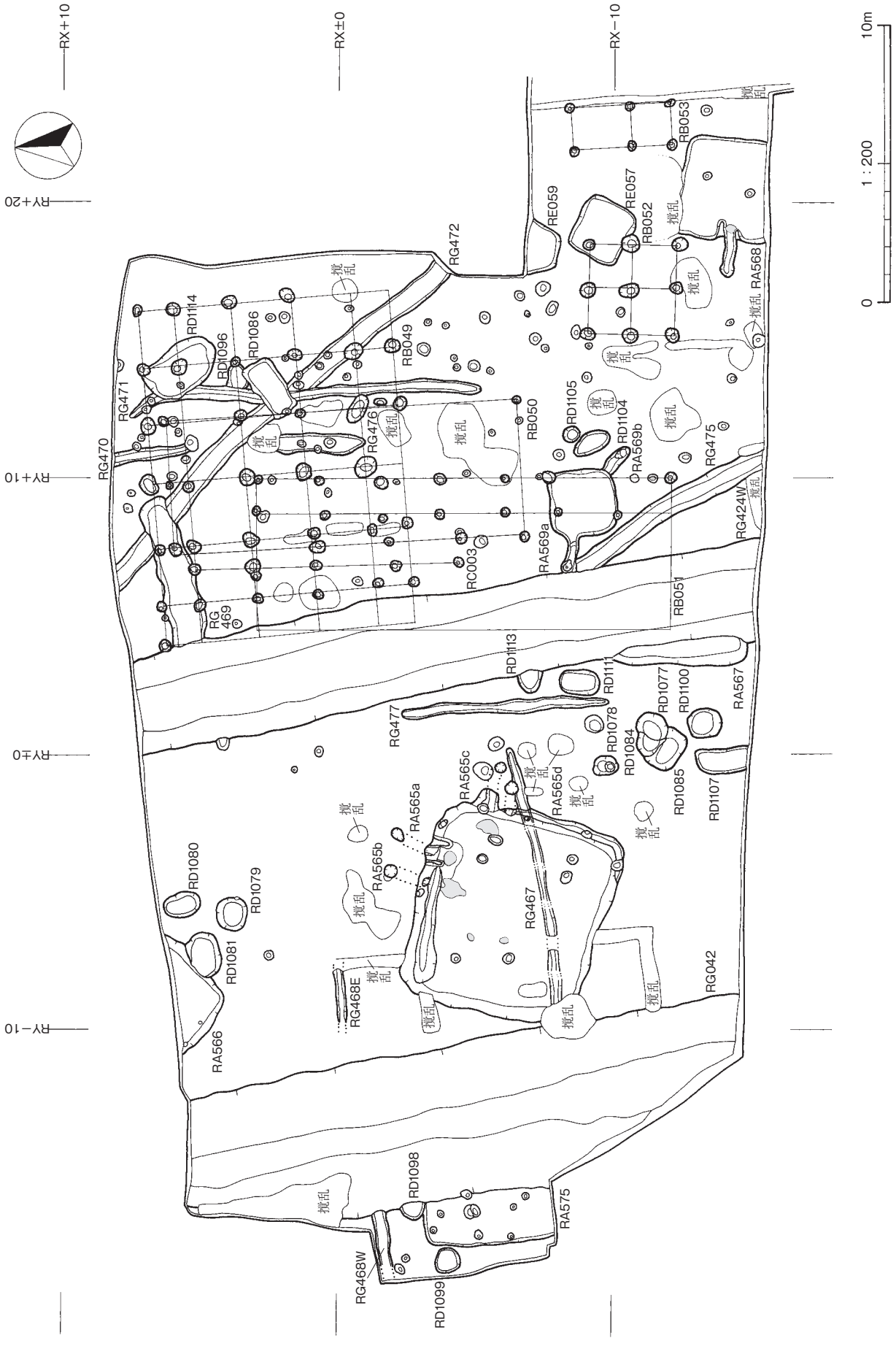


第 21 図　第 39 次調査　ピット断面図

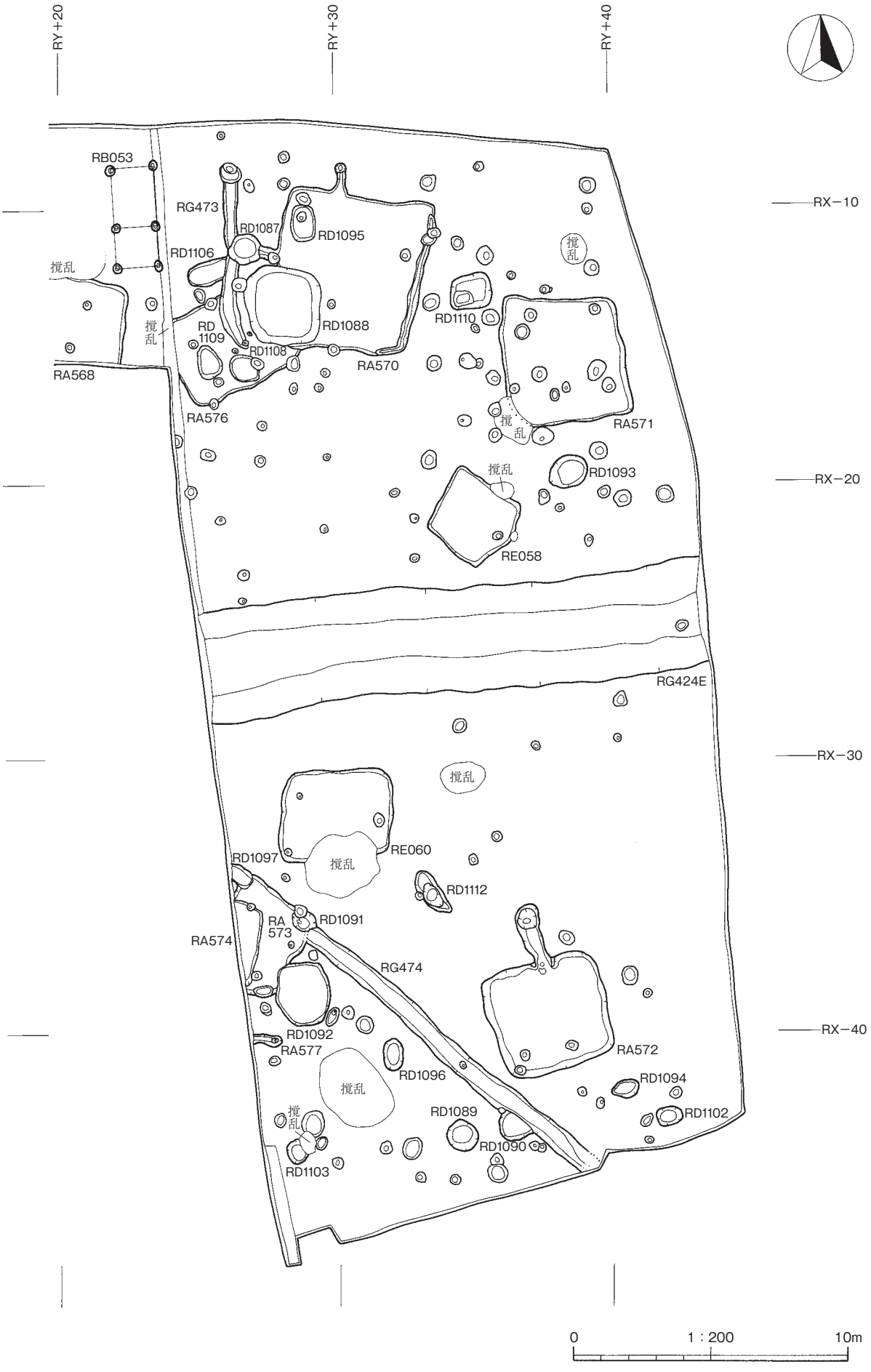


第 22 図　第 42 次調査区全体図

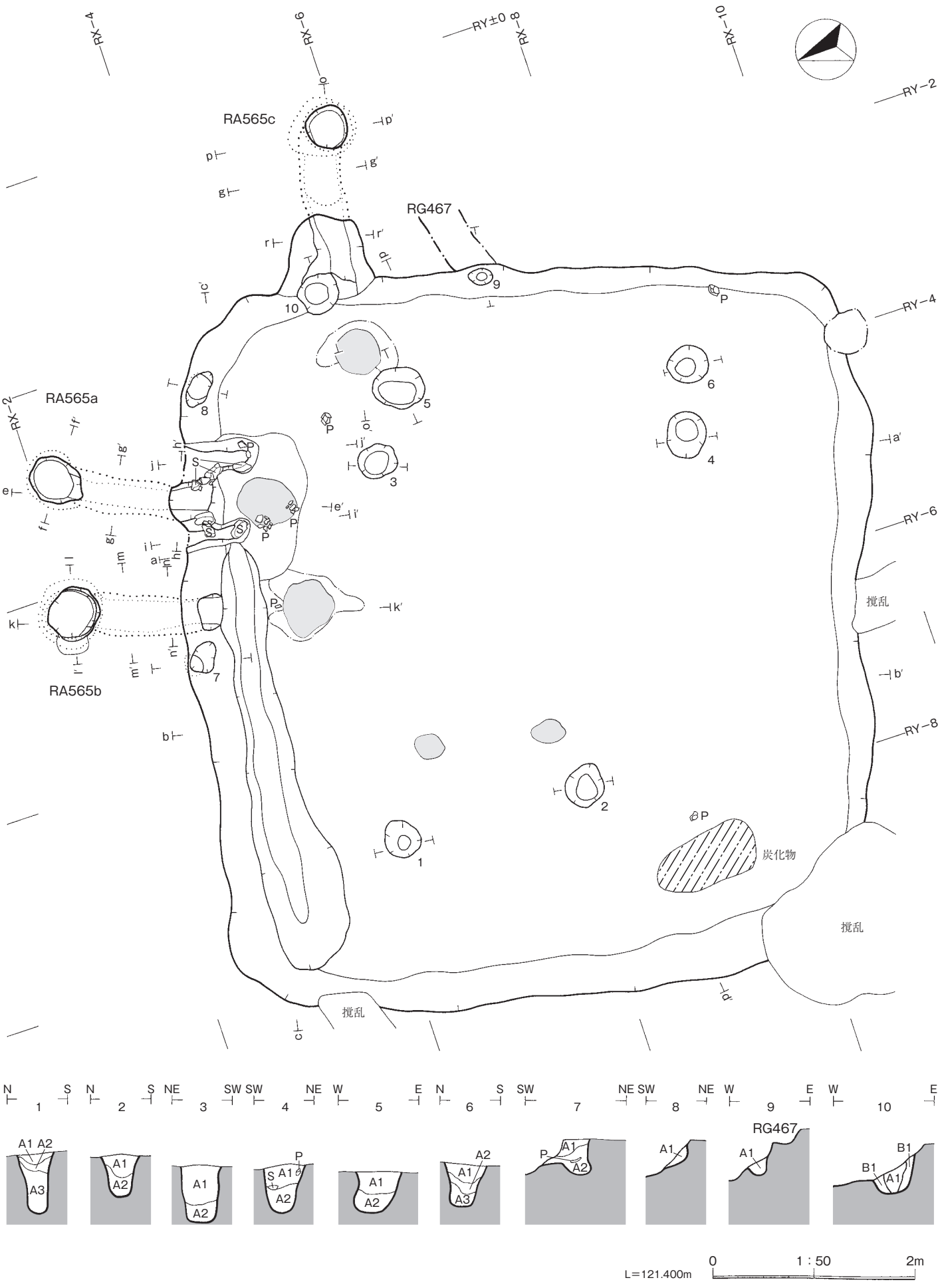
第 23 図　第 45 次調査区全体図



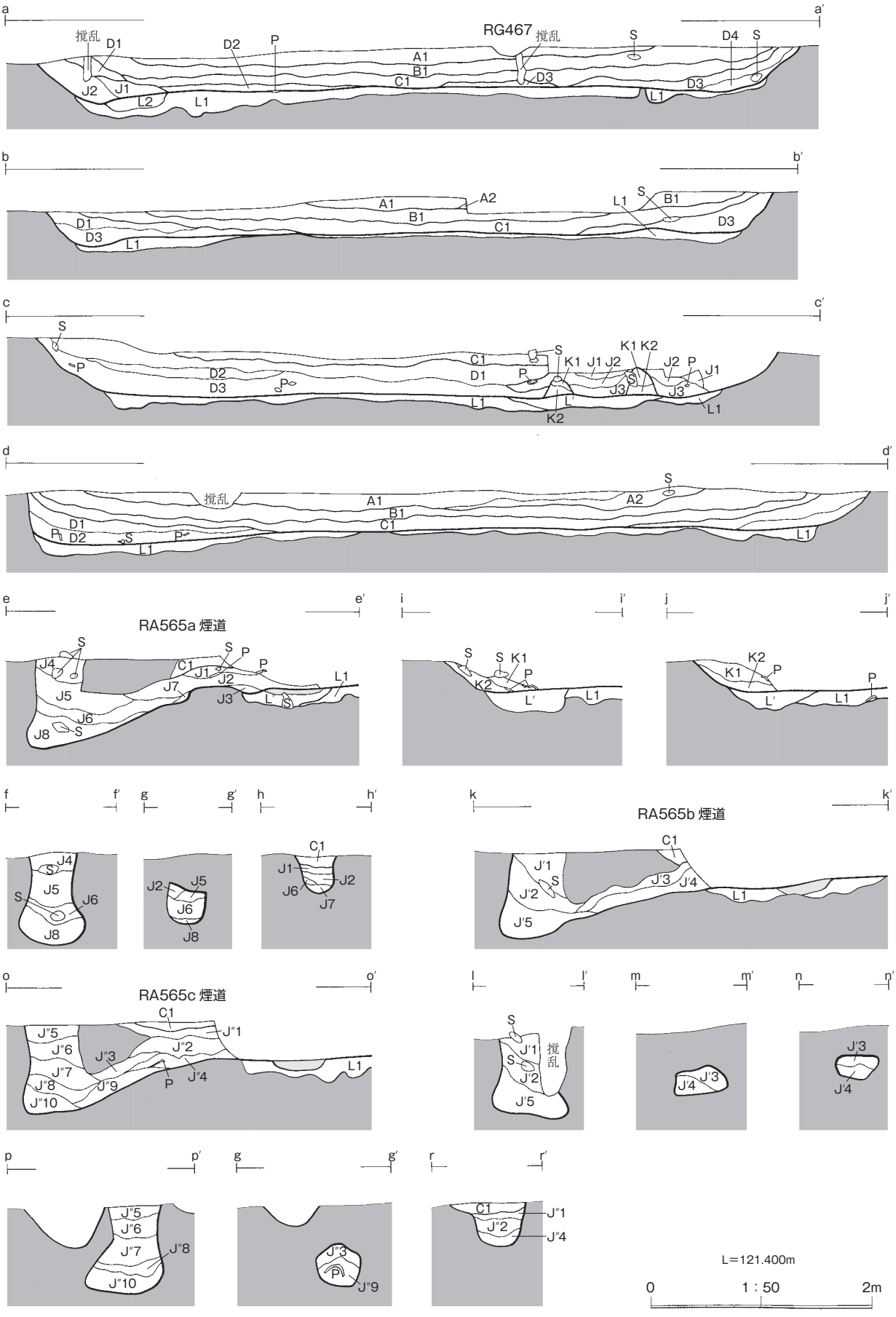
第 24 図　第 45 次調査区西半分全体図



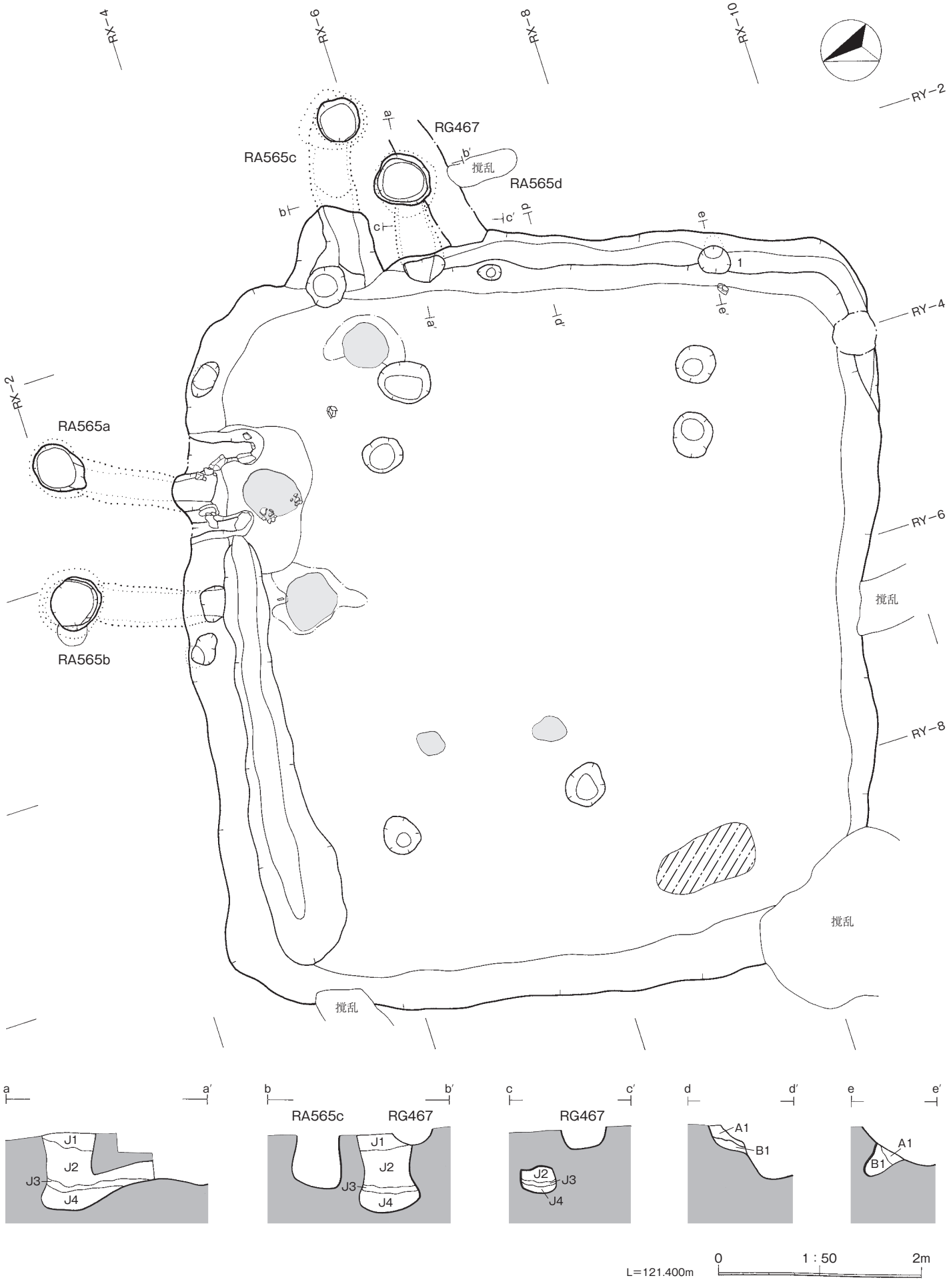
第 25 図　第 45 次調査区東半分全体図



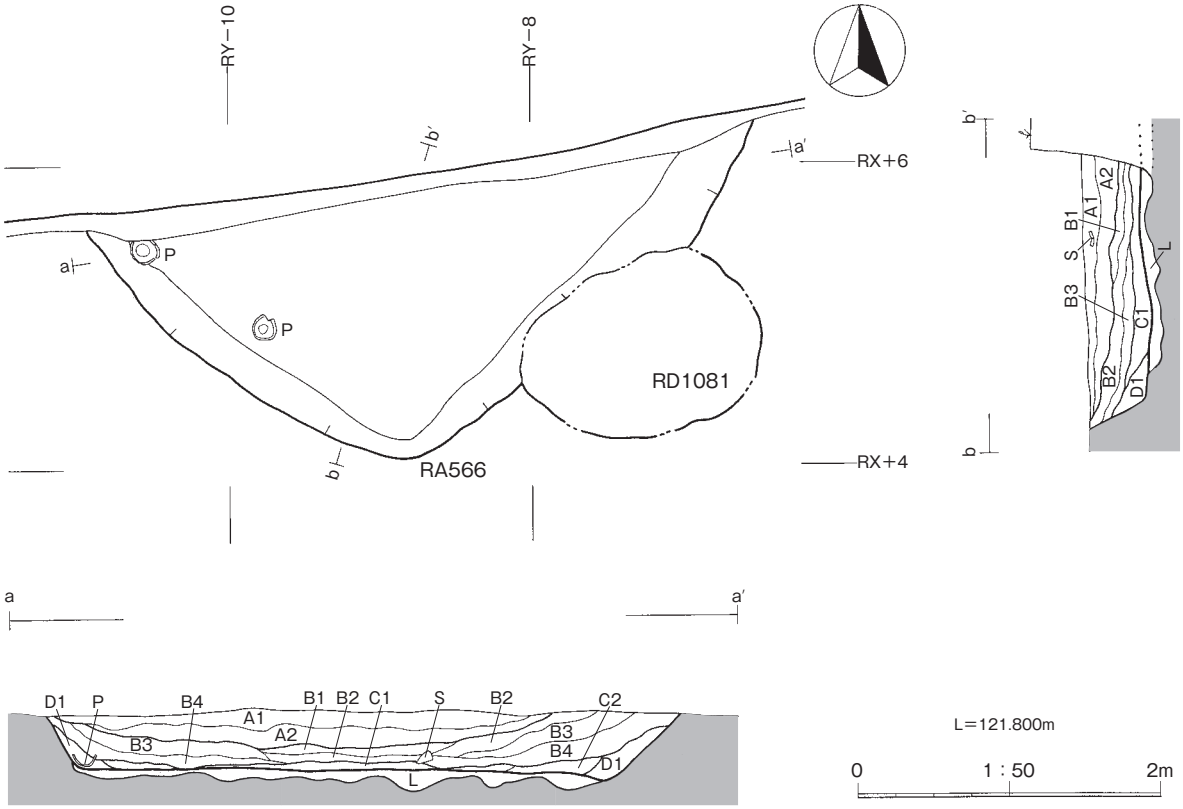
第 26 図　第 45 次調査 RA565a・b・c 竪穴住居跡（1）



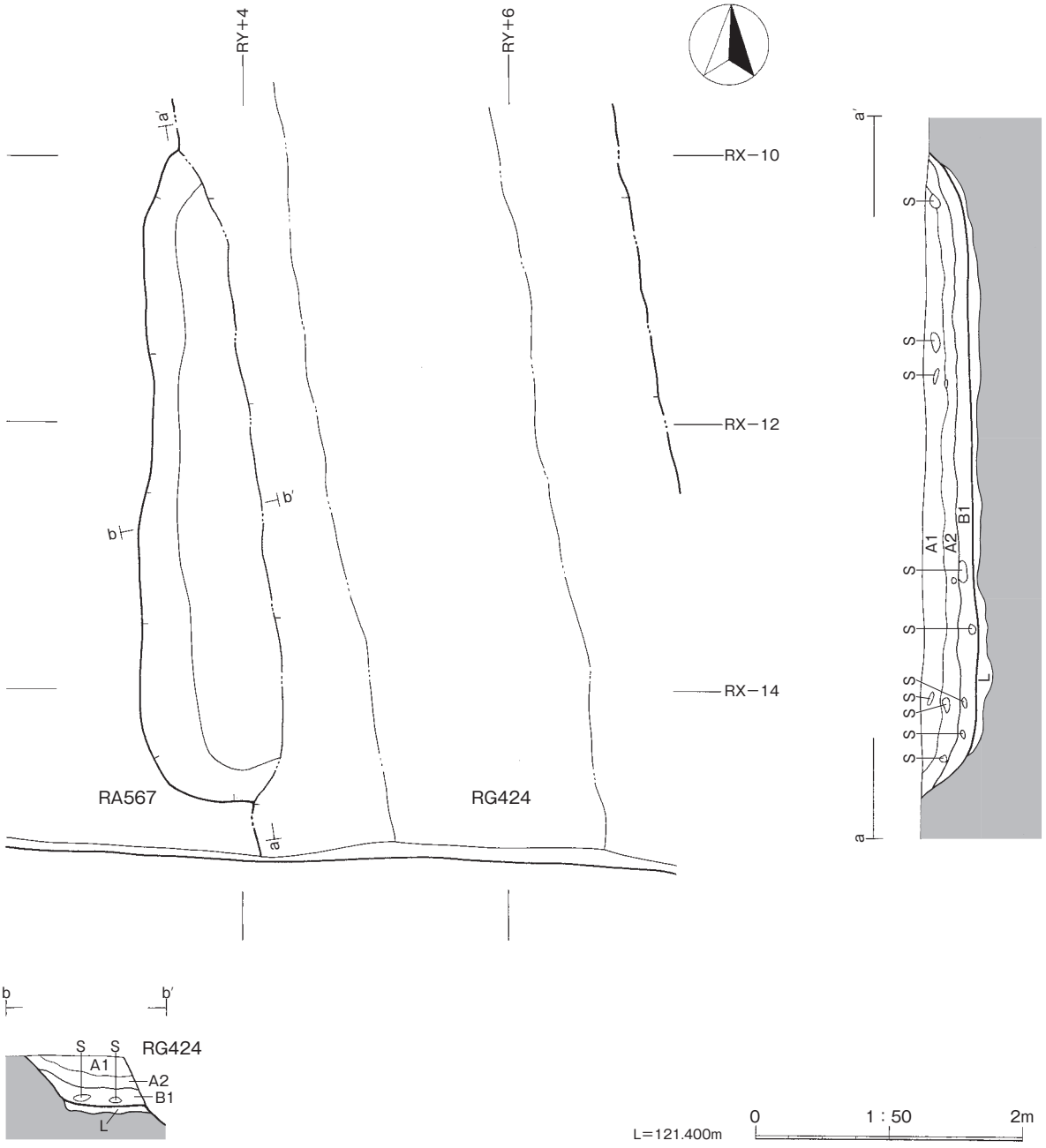
第 27 図　第 45 次調査 RA565a・b・c 竪穴住居跡（2）



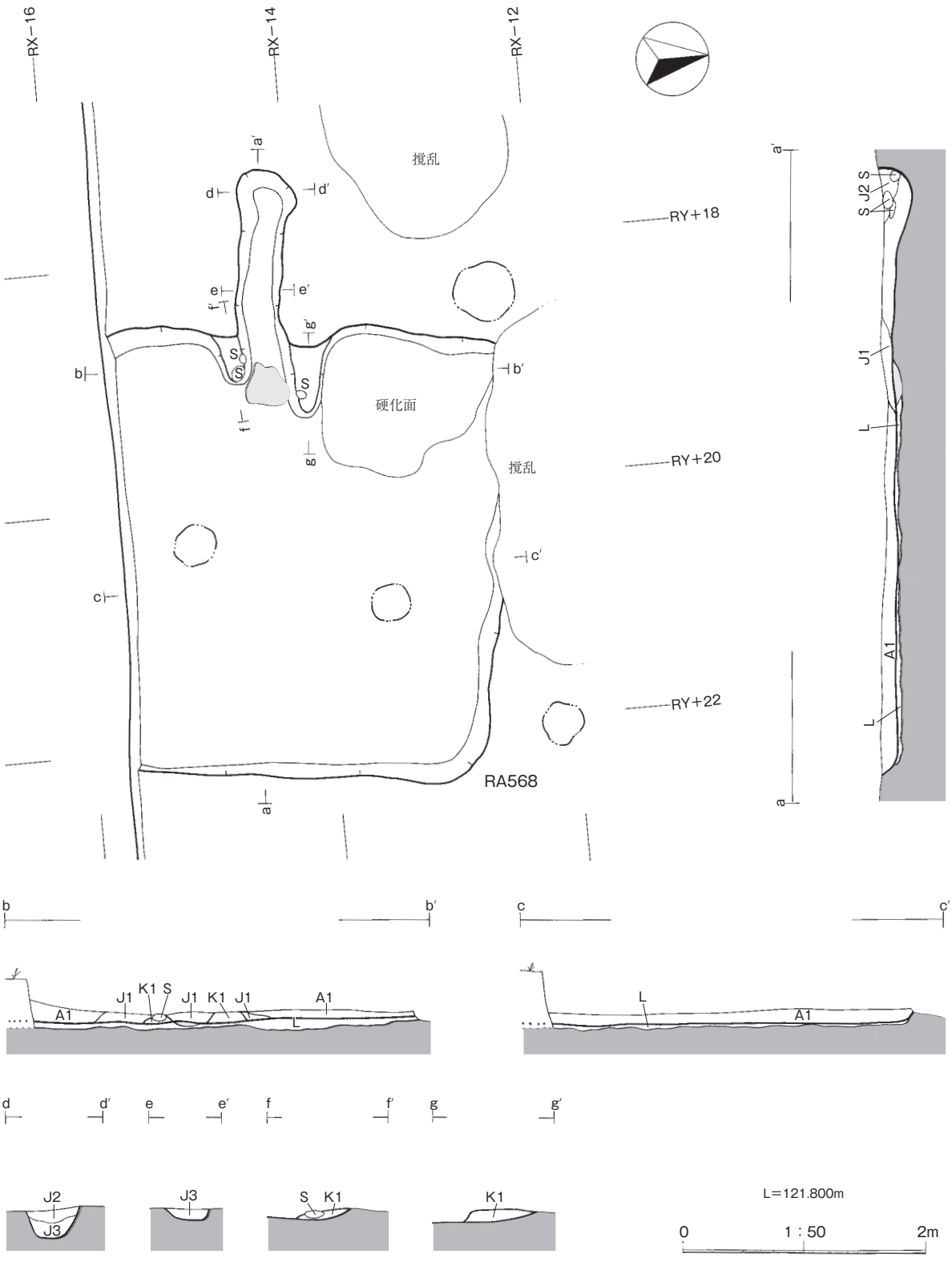
第 28 図　第 45 次調査 RA565d 竪穴住居跡



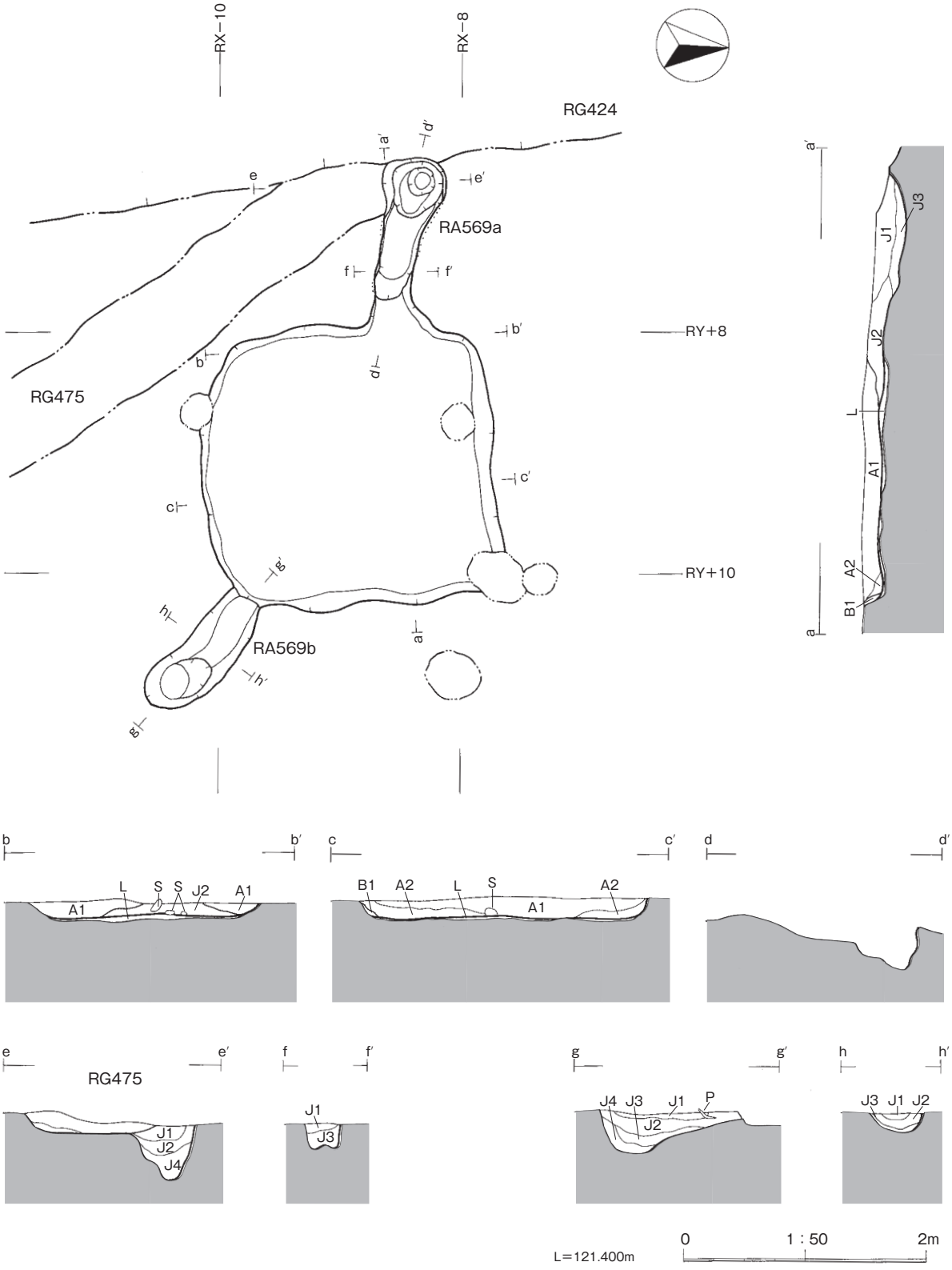
第 29 図　第 45 次調査 RA566 竪穴住居跡



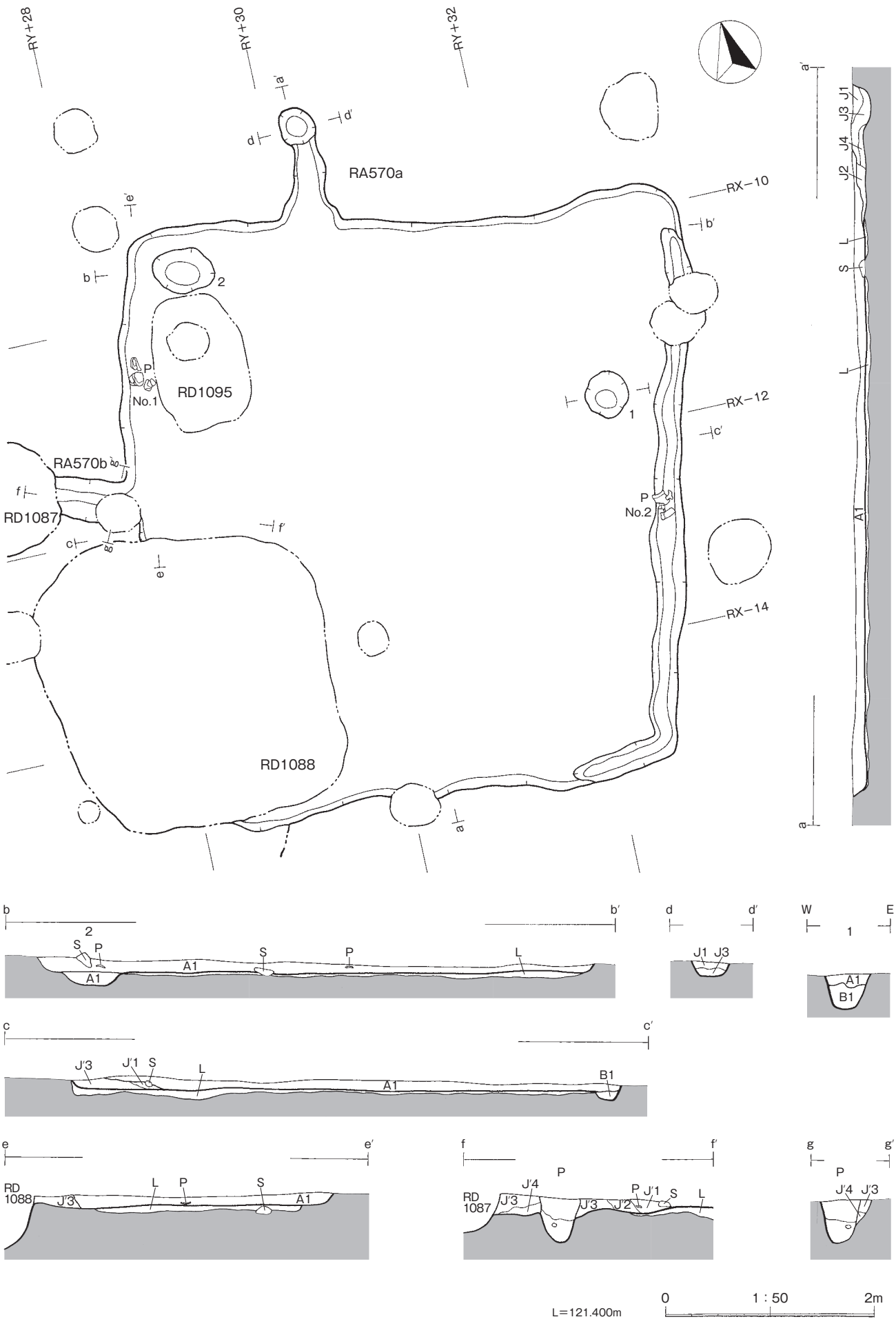
第 30 図　第 45 次調査 RA567 竪穴住居跡



第 31 図　第 45 次調査 RA568 竪穴住居跡

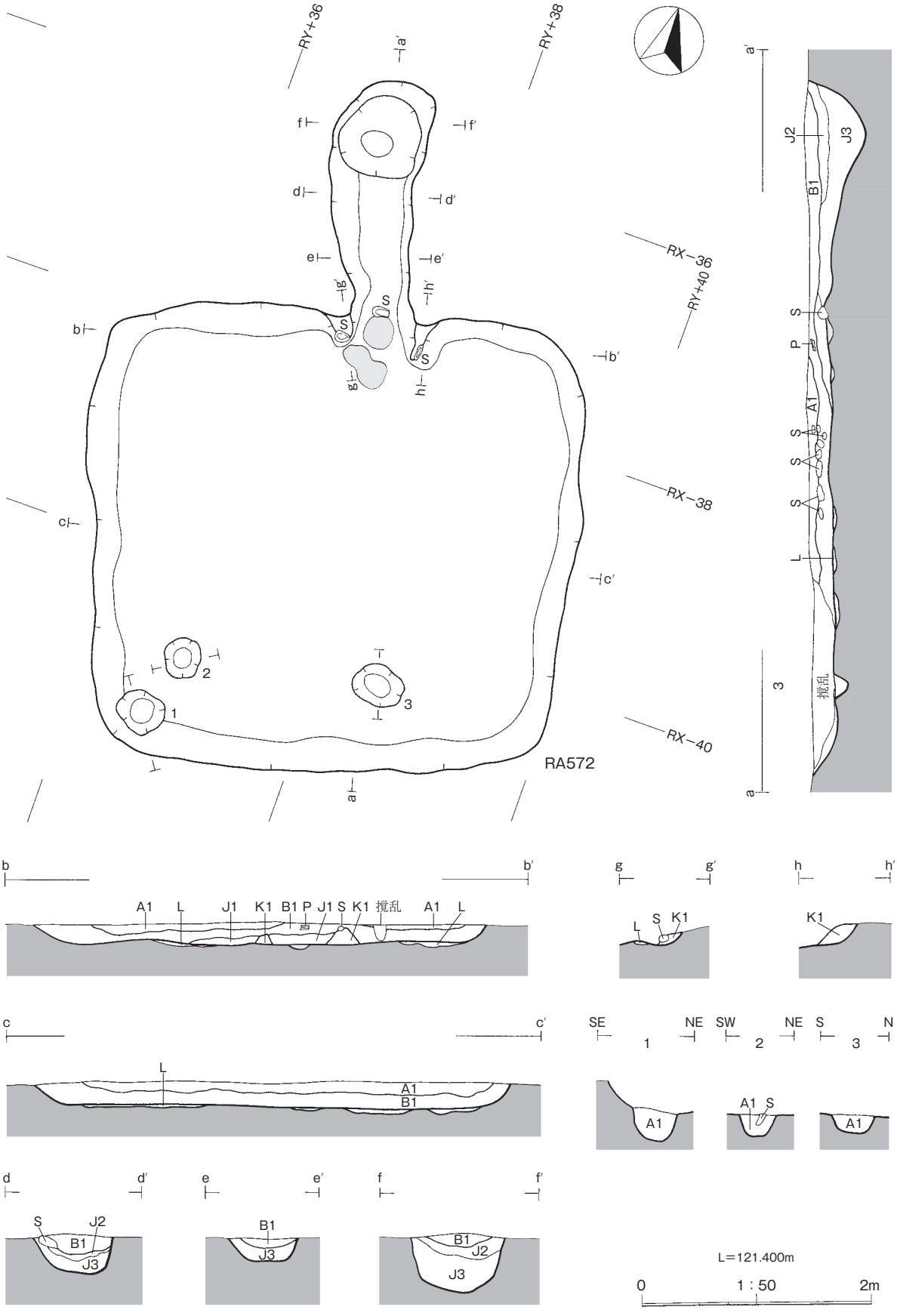


第 32 図　第 45 次調査 RA569a・b 竪穴住居跡

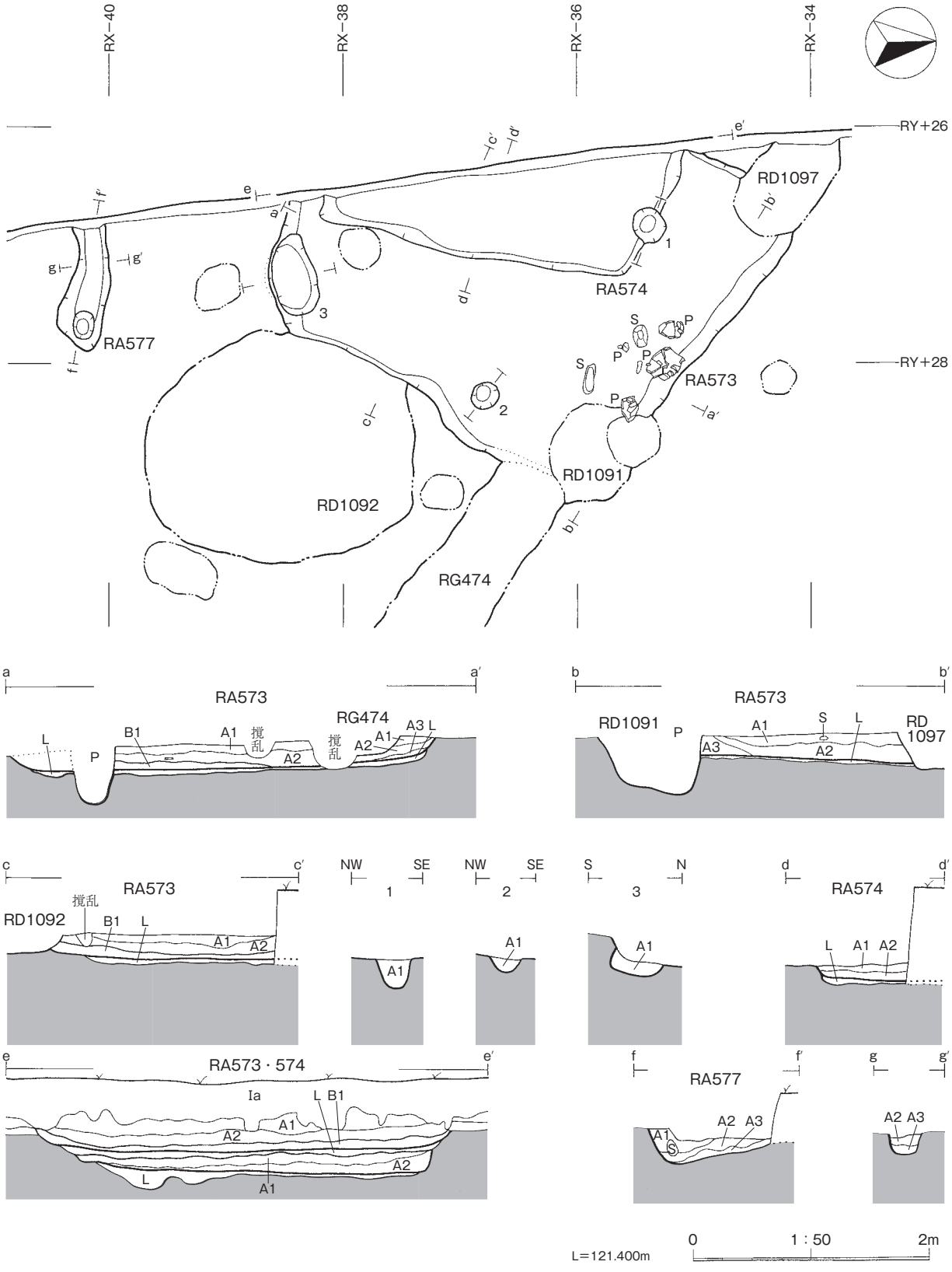


第 33 図　第 45 次調査 RA570a・b 竪穴住居跡

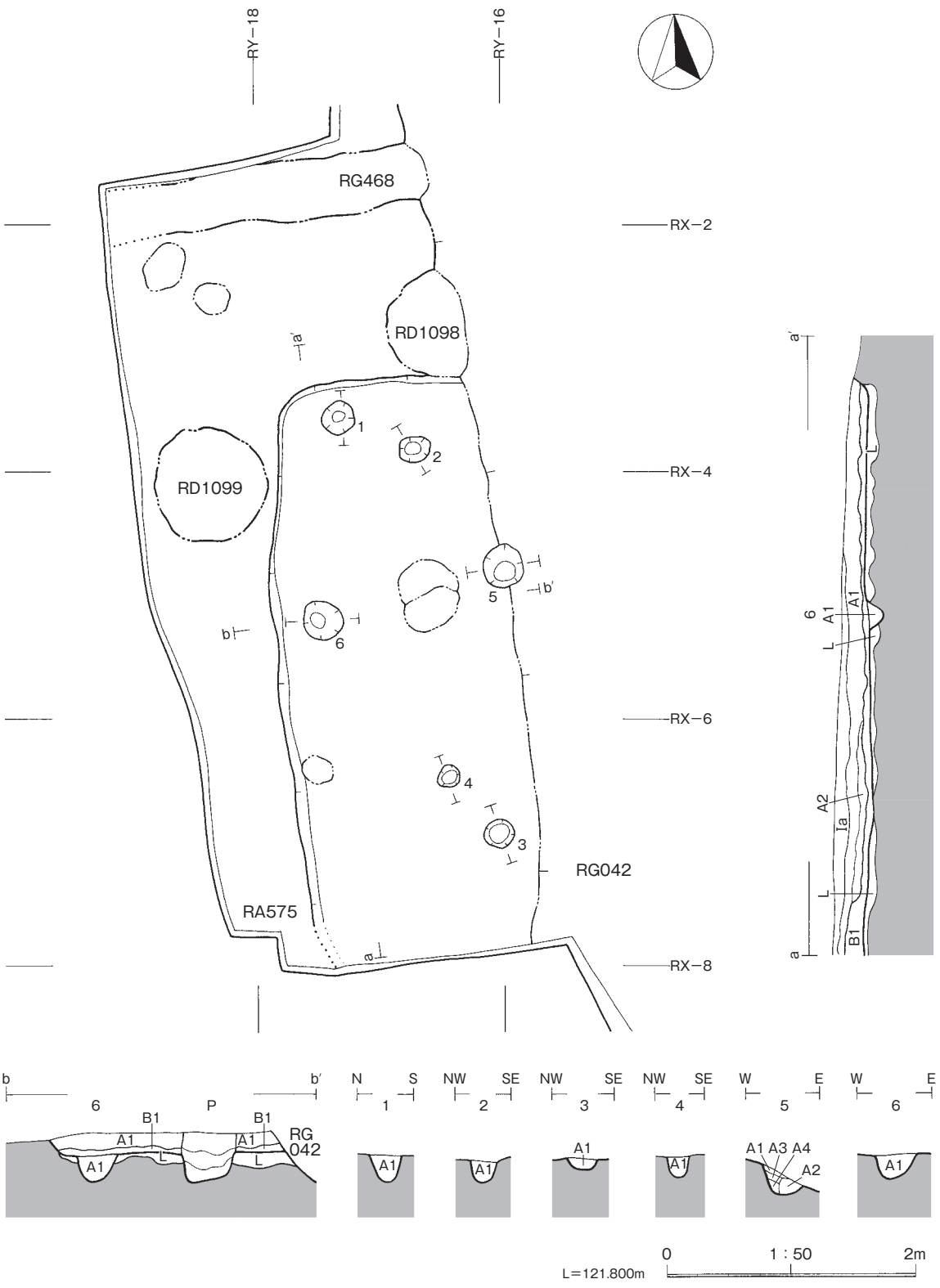
第 34 図　第 45 次調査 RA571 竪穴住居跡



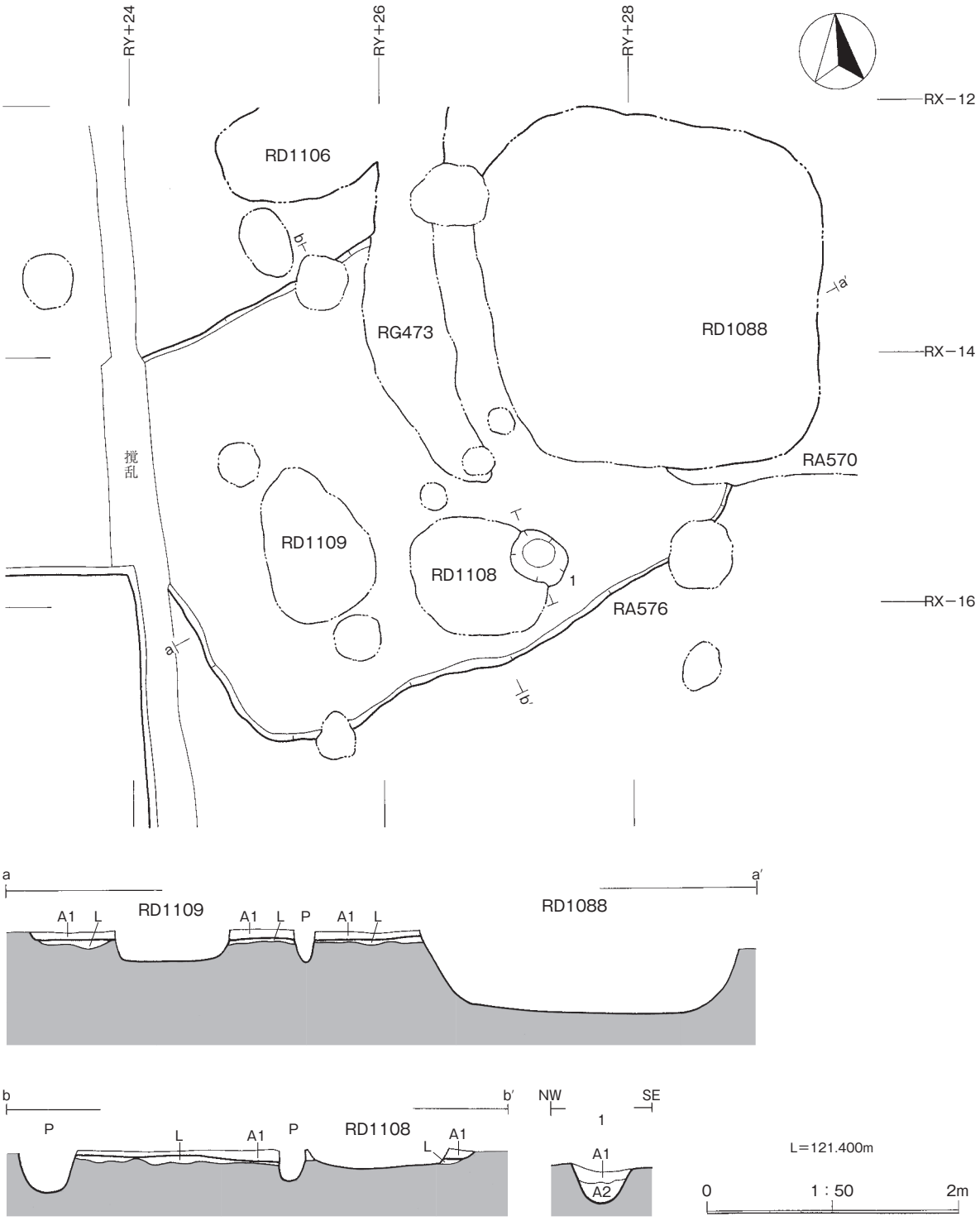
第 35 図　第 45 次調査 RA572 竪穴住居跡



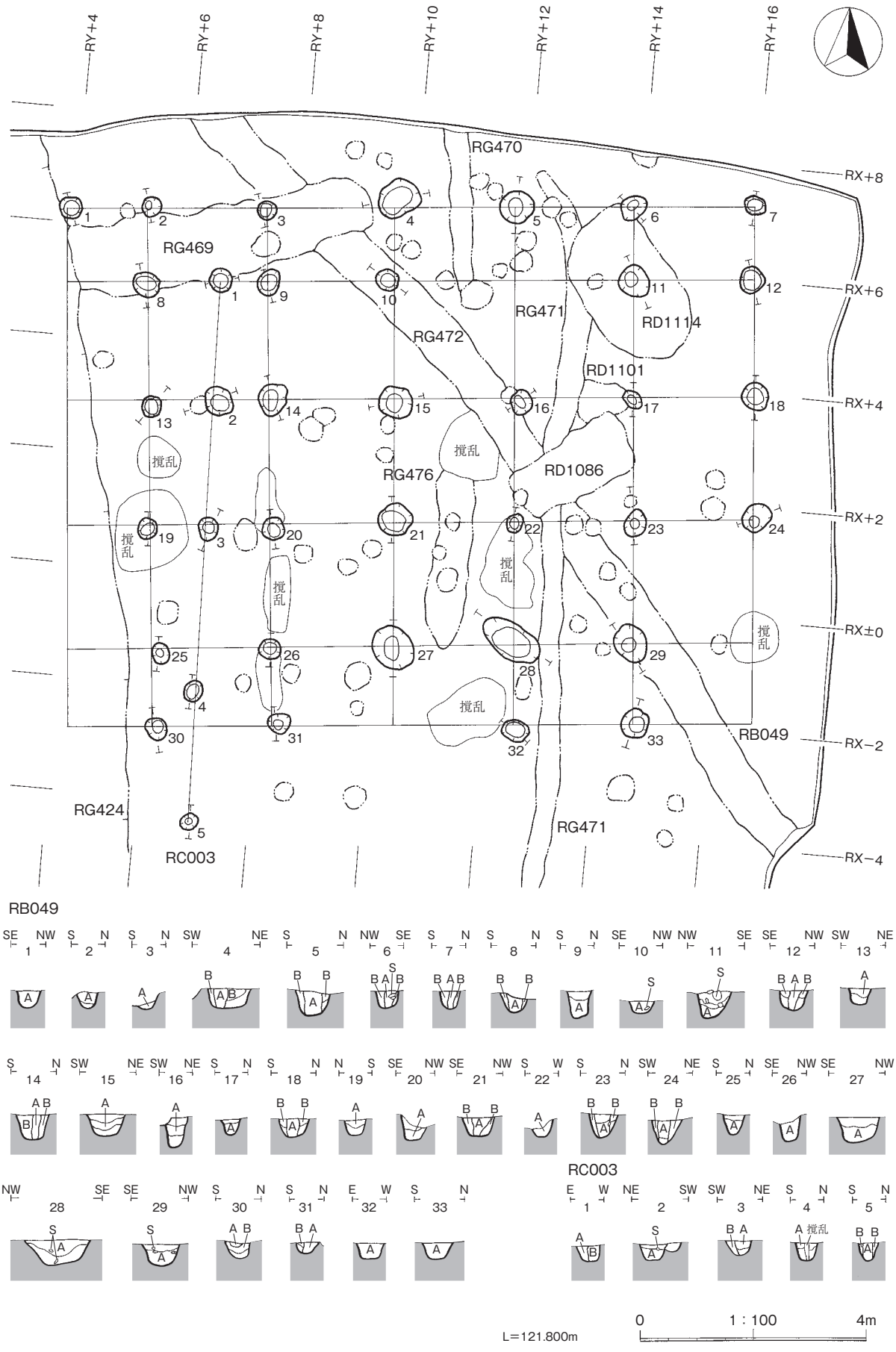
第 36 図　第 45 次調査 RA573・574・577 竪穴住居跡



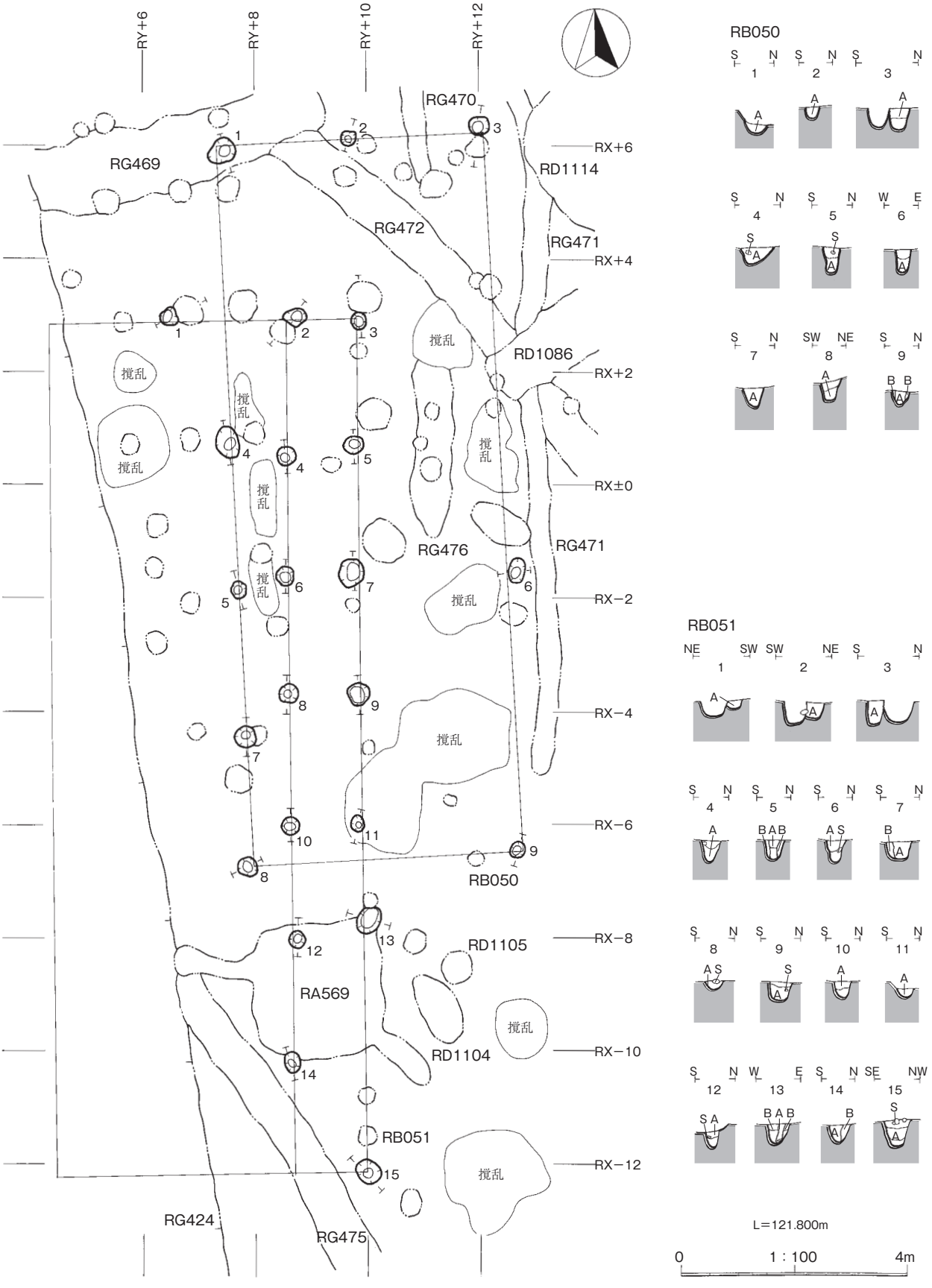
第 37 図　第 45 次調査 RA575 竪穴住居跡



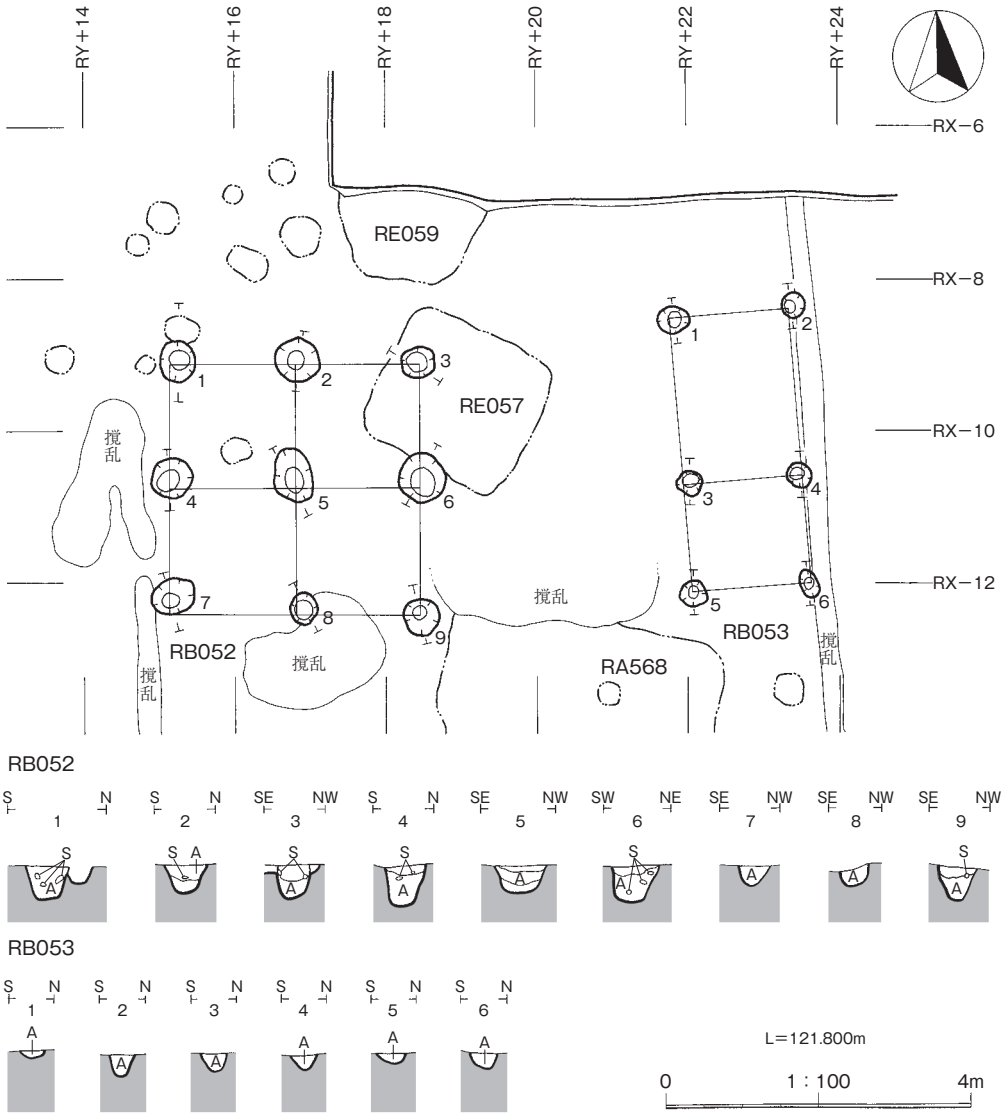
第 38 図　第 45 次調査 RA576 竪穴住居跡



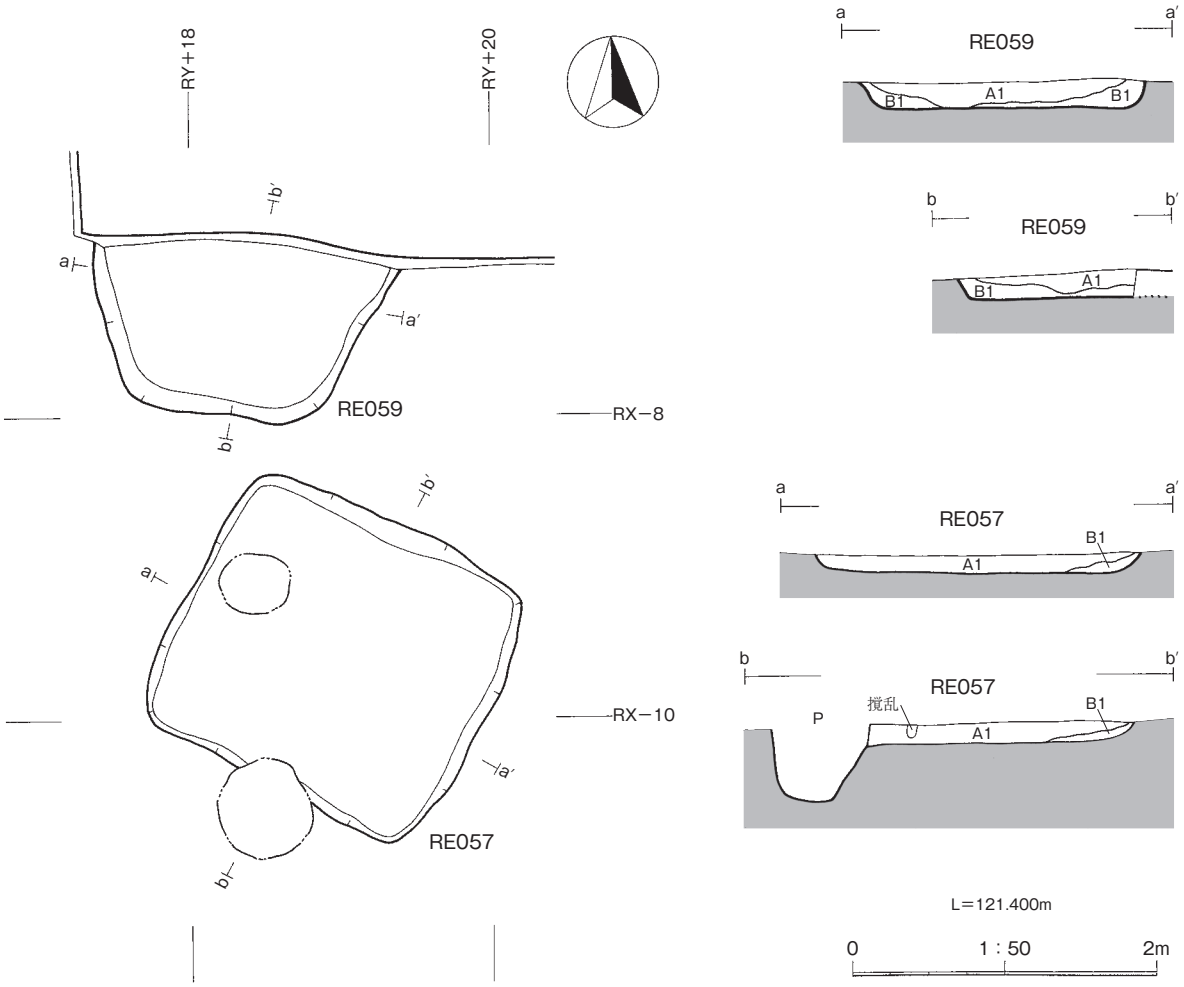
第 39 図　第 45 次調査 RB049 掘立柱建物跡，RC003 柱列跡



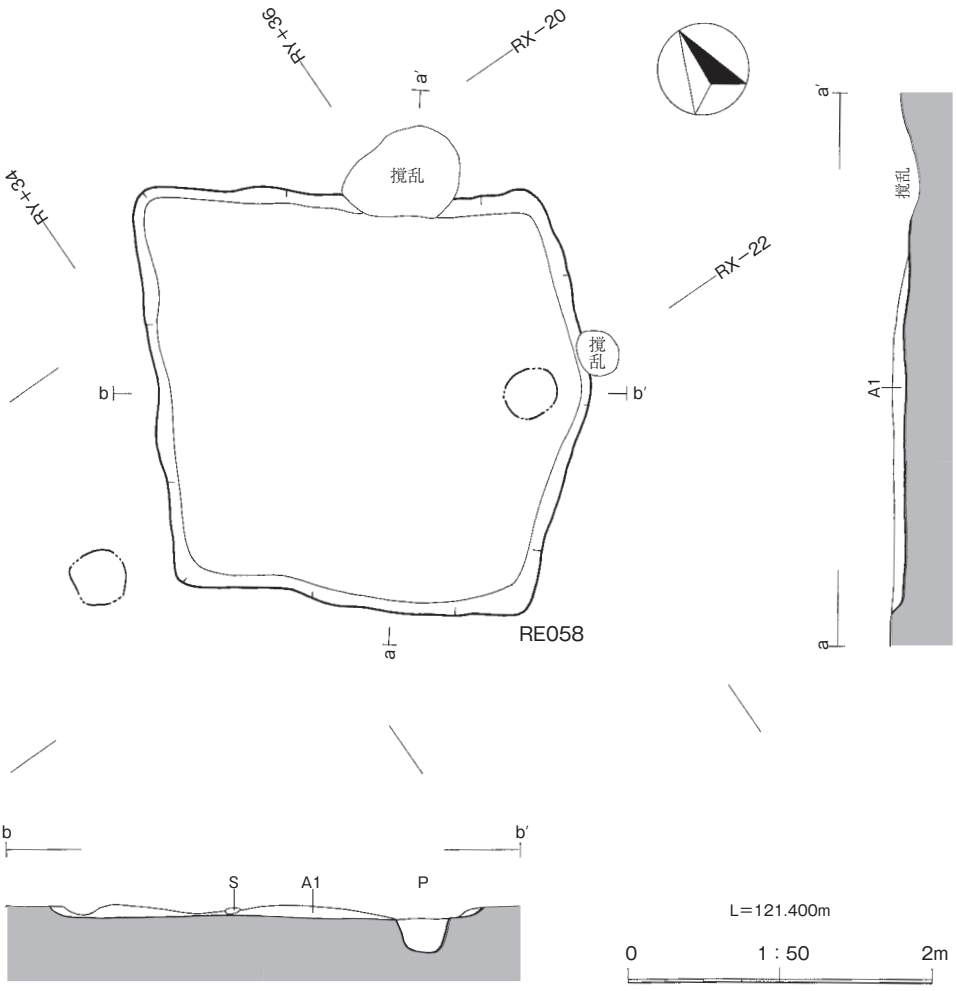
第 40 図　第 45 次調査 RB050・051 掘立柱建物跡



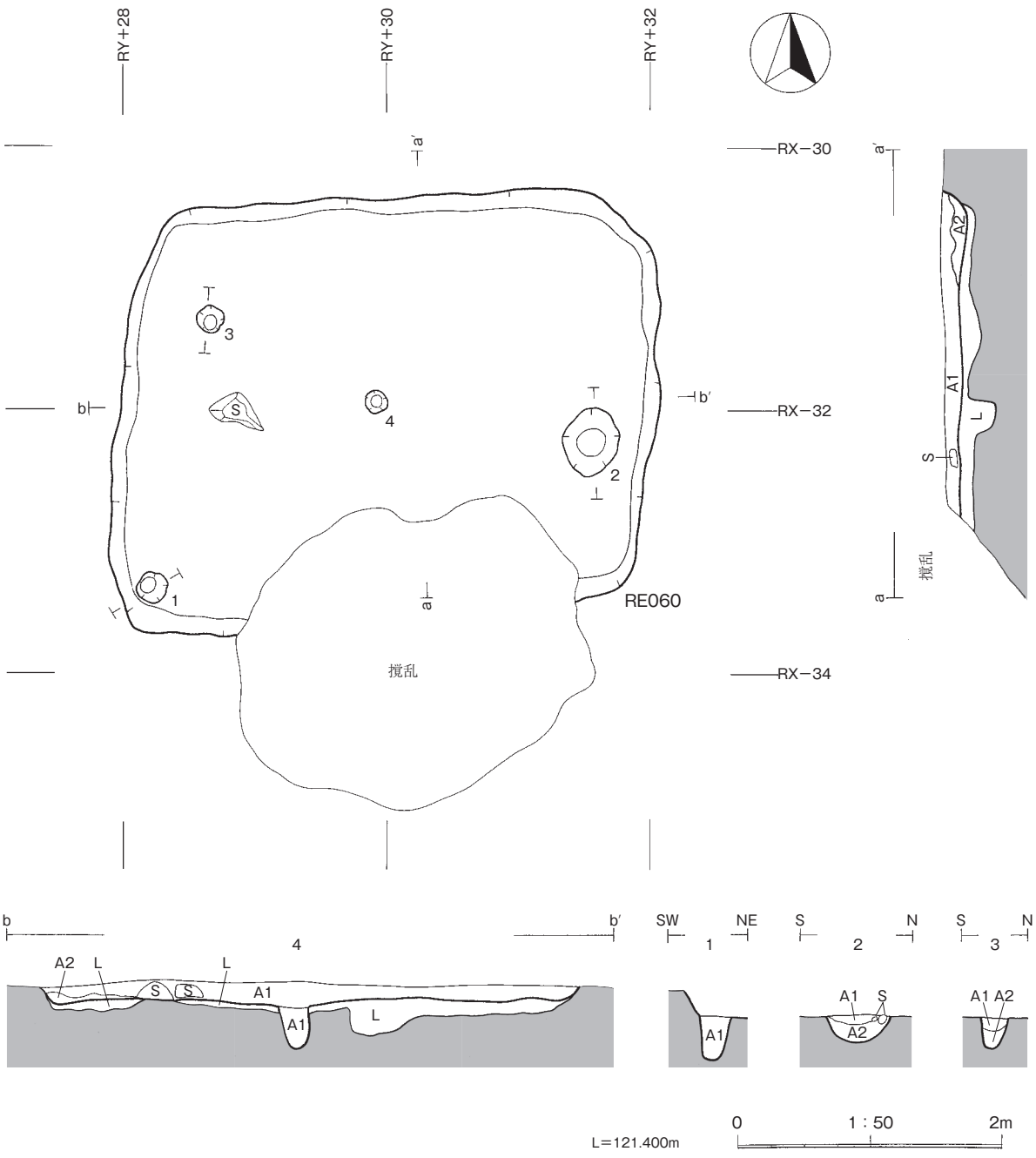
第 41 図　第 45 次調査 RB052・053 掘立柱建物跡



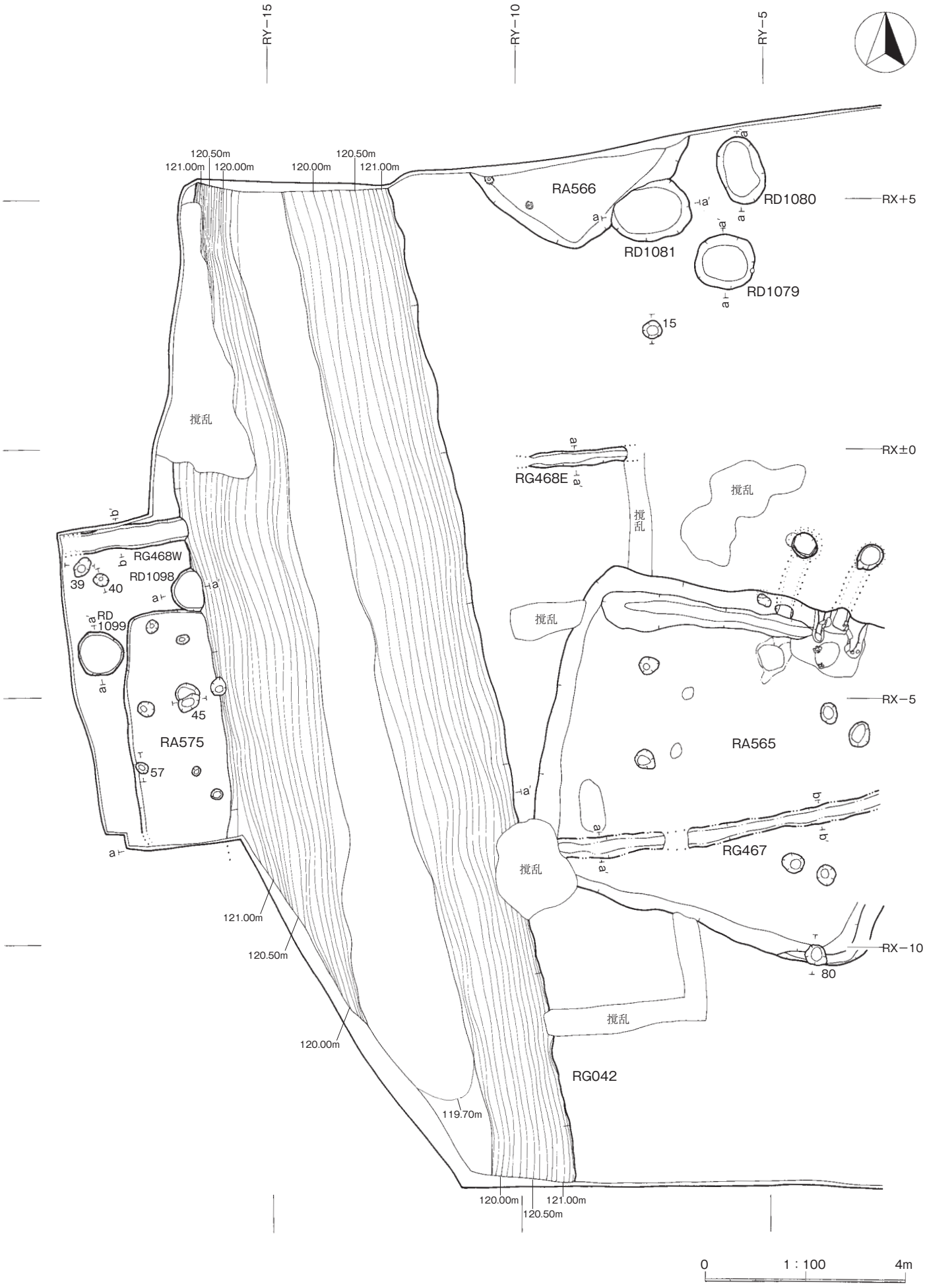
第 42 図　第 45 次調査 RE057・059 竪穴状遺構



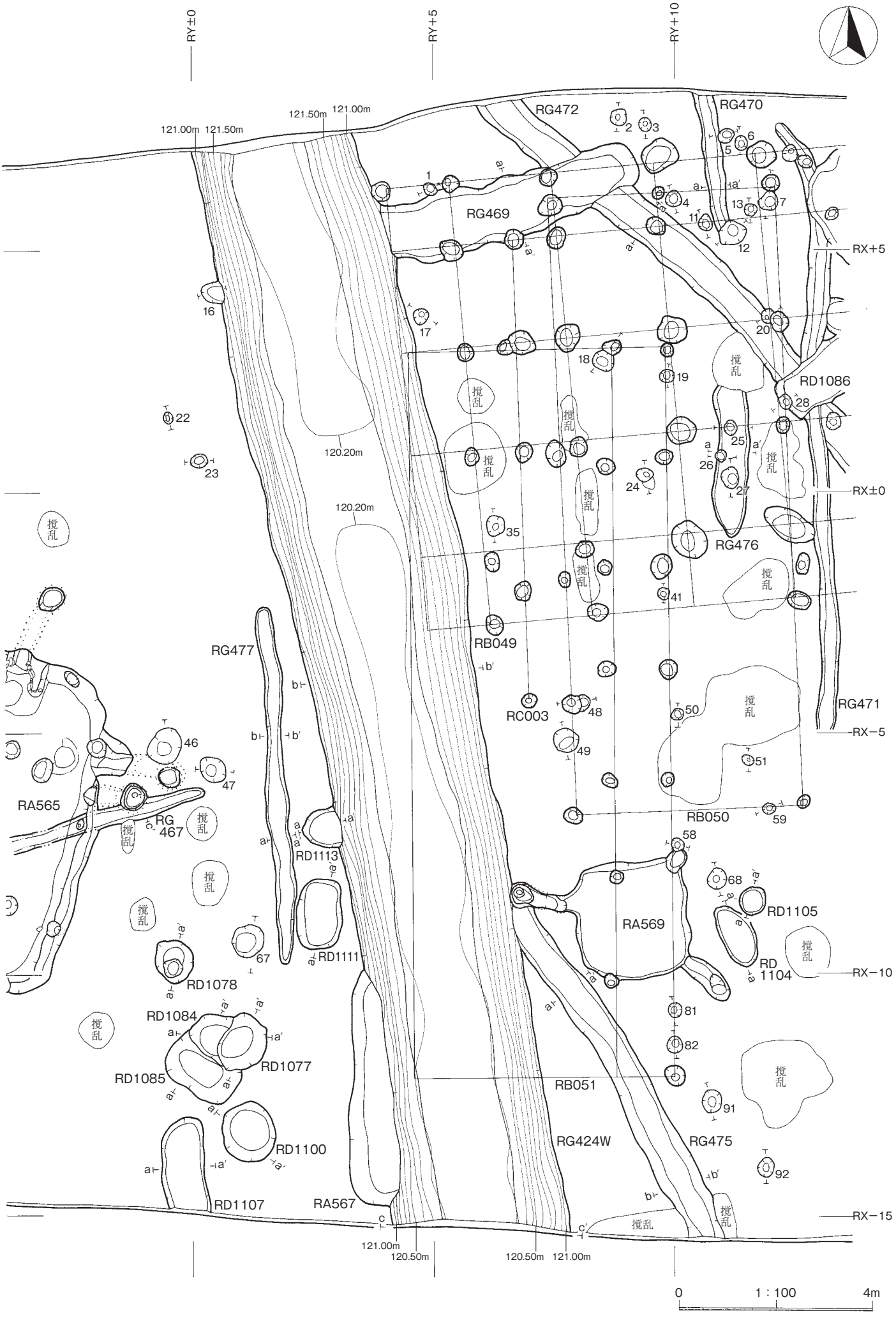
第 43 図　第 45 次調査 RE058 竪穴状遺構



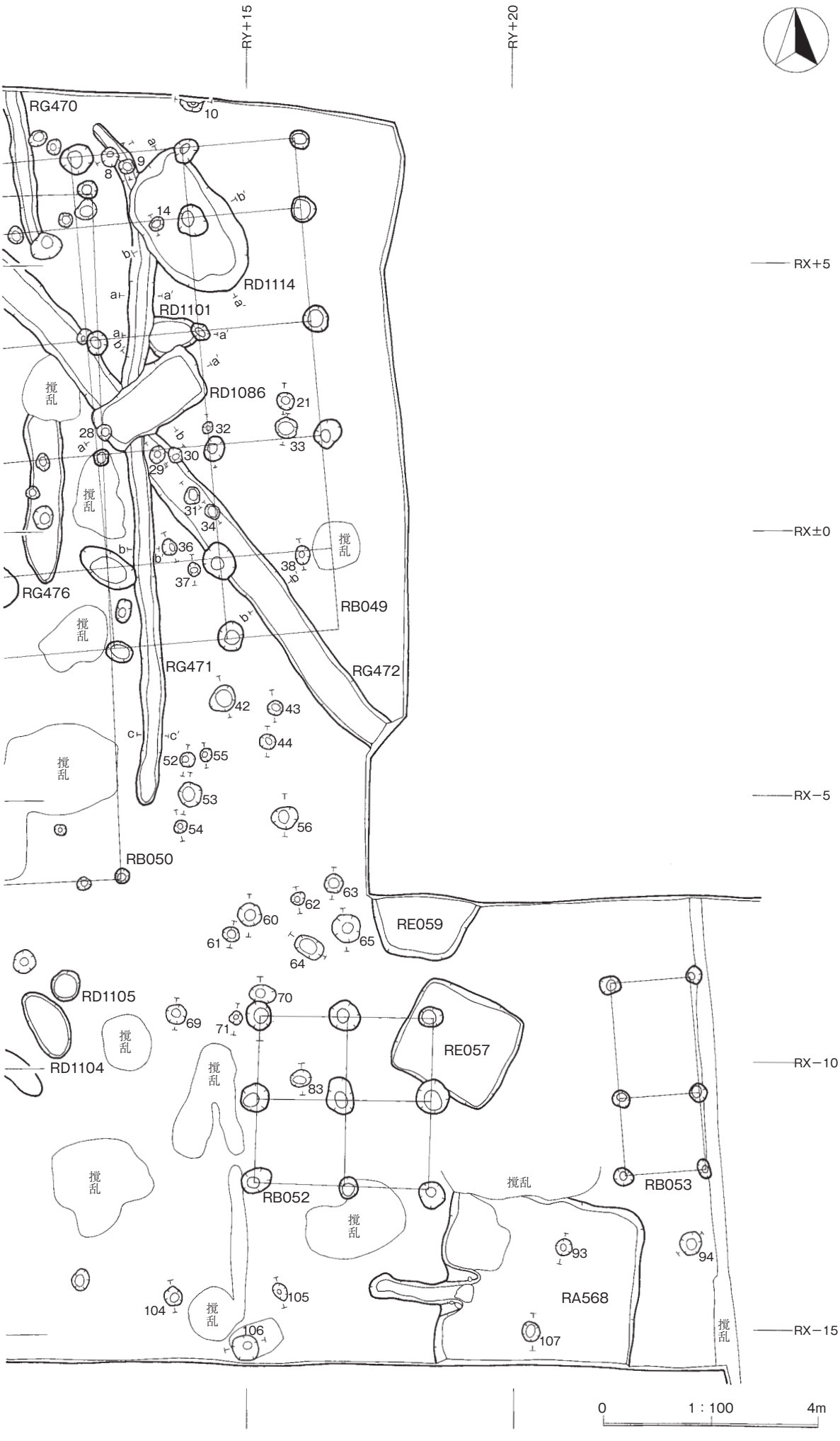
第 44 図　第 45 次調査 RE060 竪穴状遺構



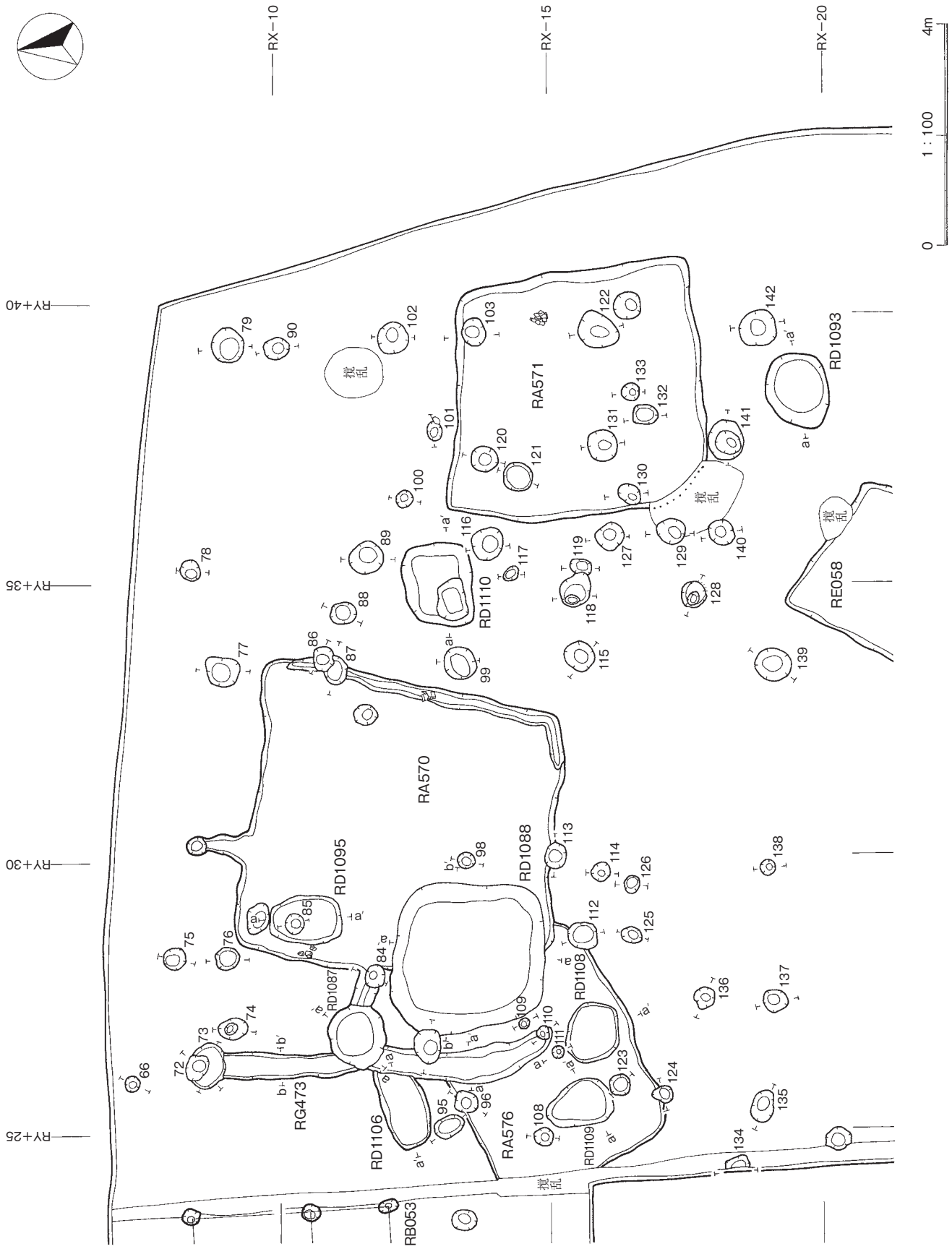
第 45 図　第 45 次調査 RD1079・1080・1081・1098・1099 土坑，RG042・467・468 溝跡，ピット



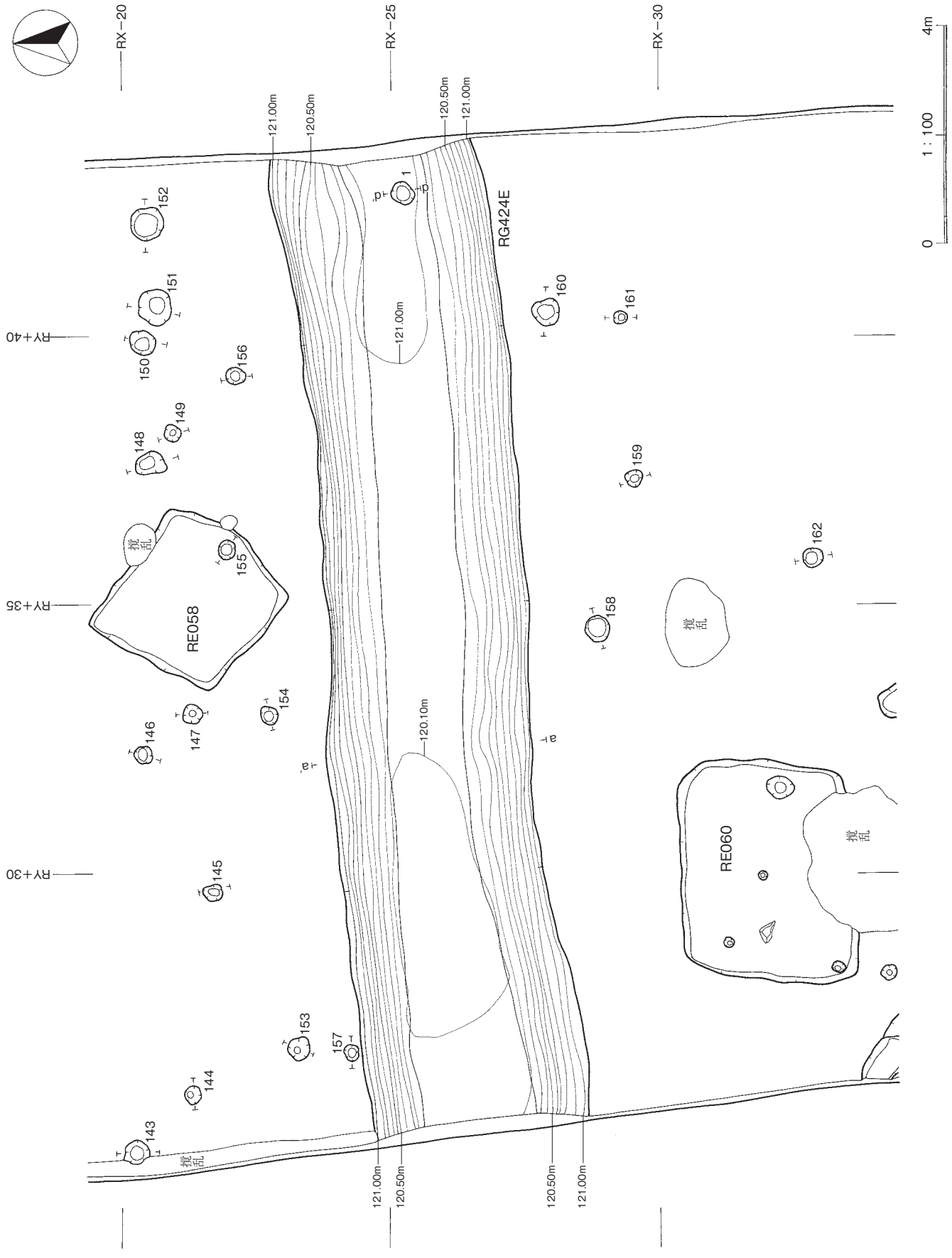
第 46 図　第 45 次調査 RD1077・1078・1084・1085・1100・1104・1105・1107・1111・1113 土坑, RG424W・467・469・470・472・475・476・477 溝跡, ピット



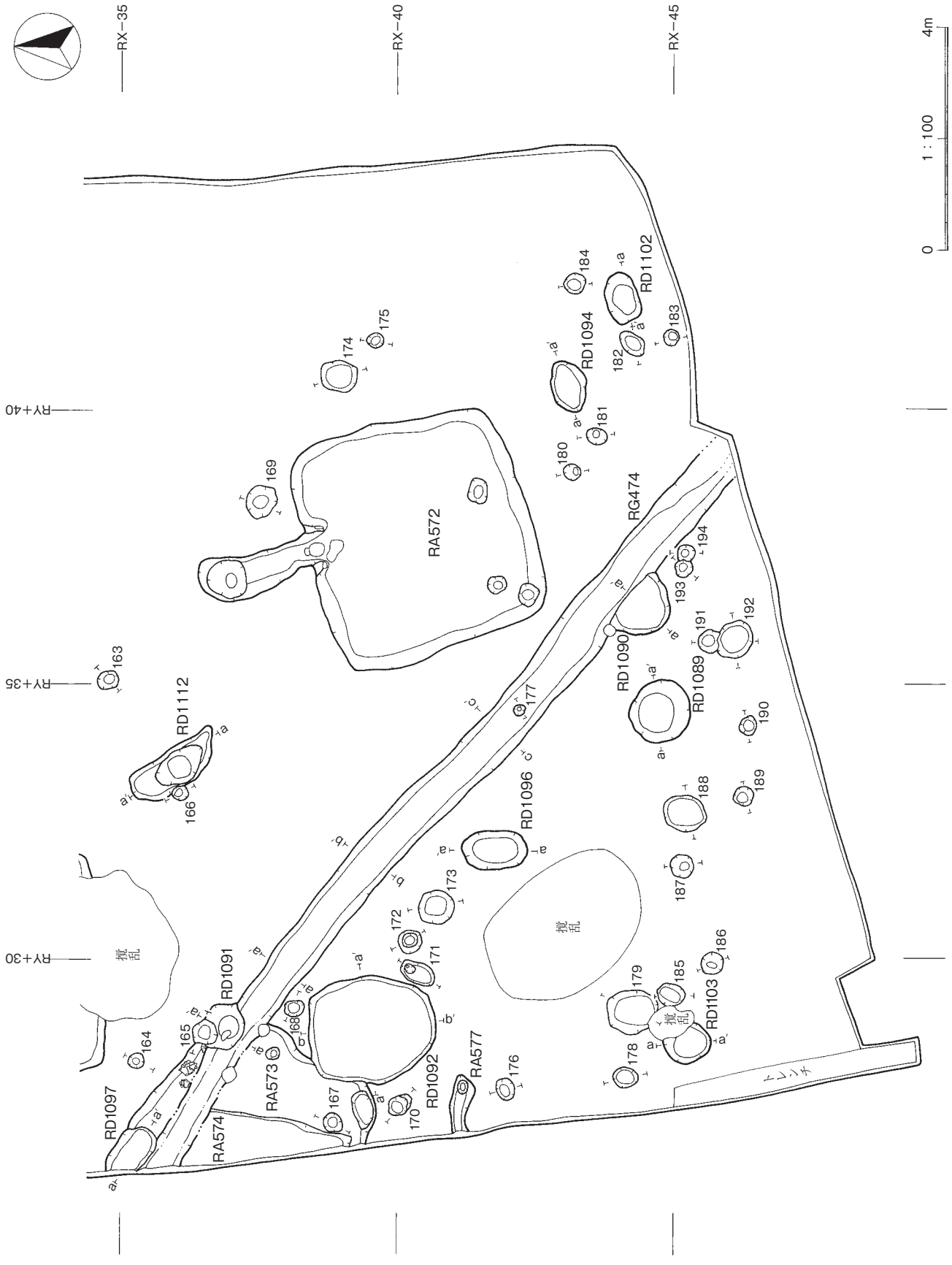
第 47 図　第 45 次調査 RD1086・1101・1114 土坑，RG471・472 土坑，ピット



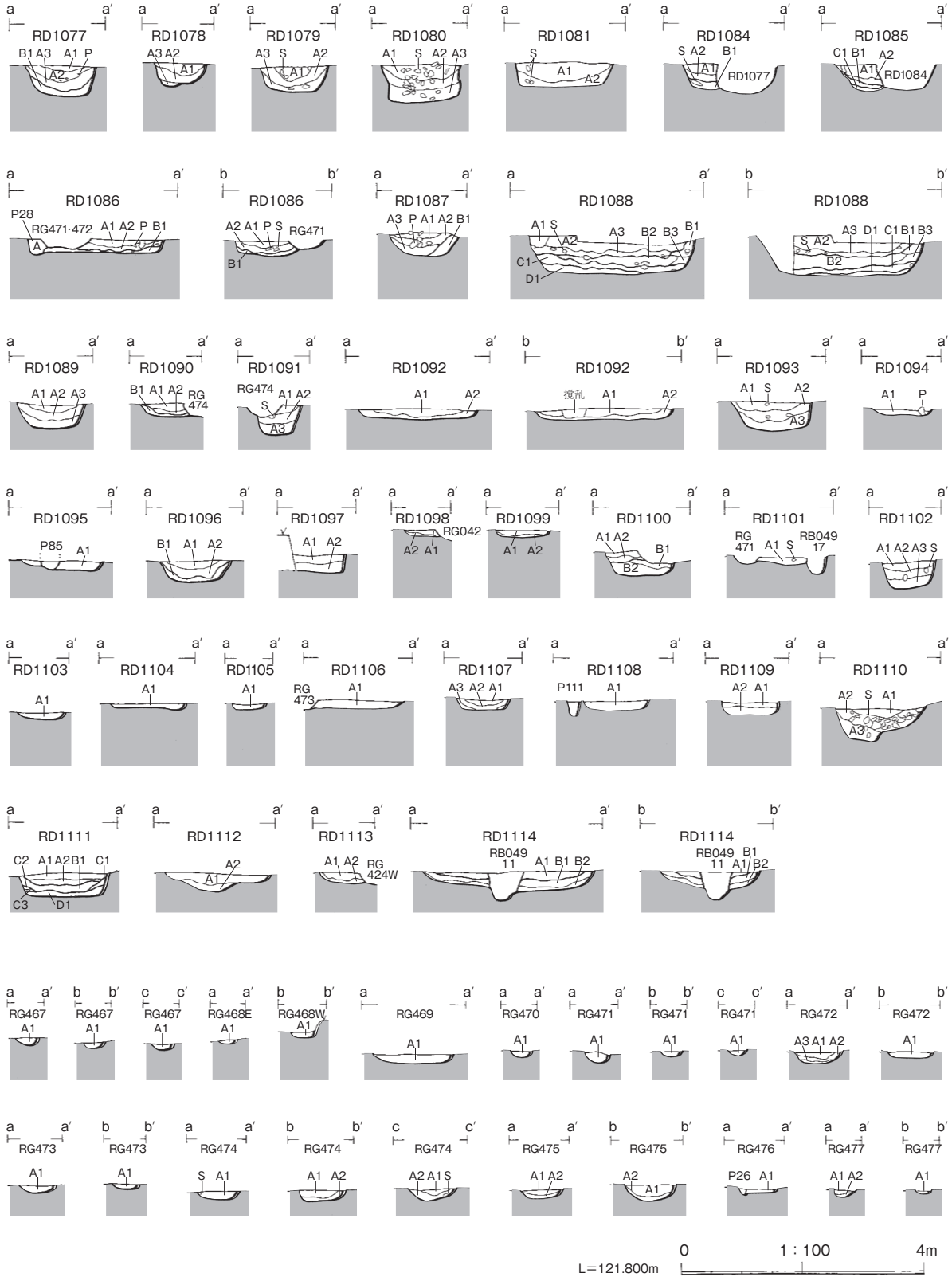
第 48 図　第 45 次調査 RD1087・1088・1093・1095・1106・1108・1109・1110 土坑，RG473 溝跡，ピット



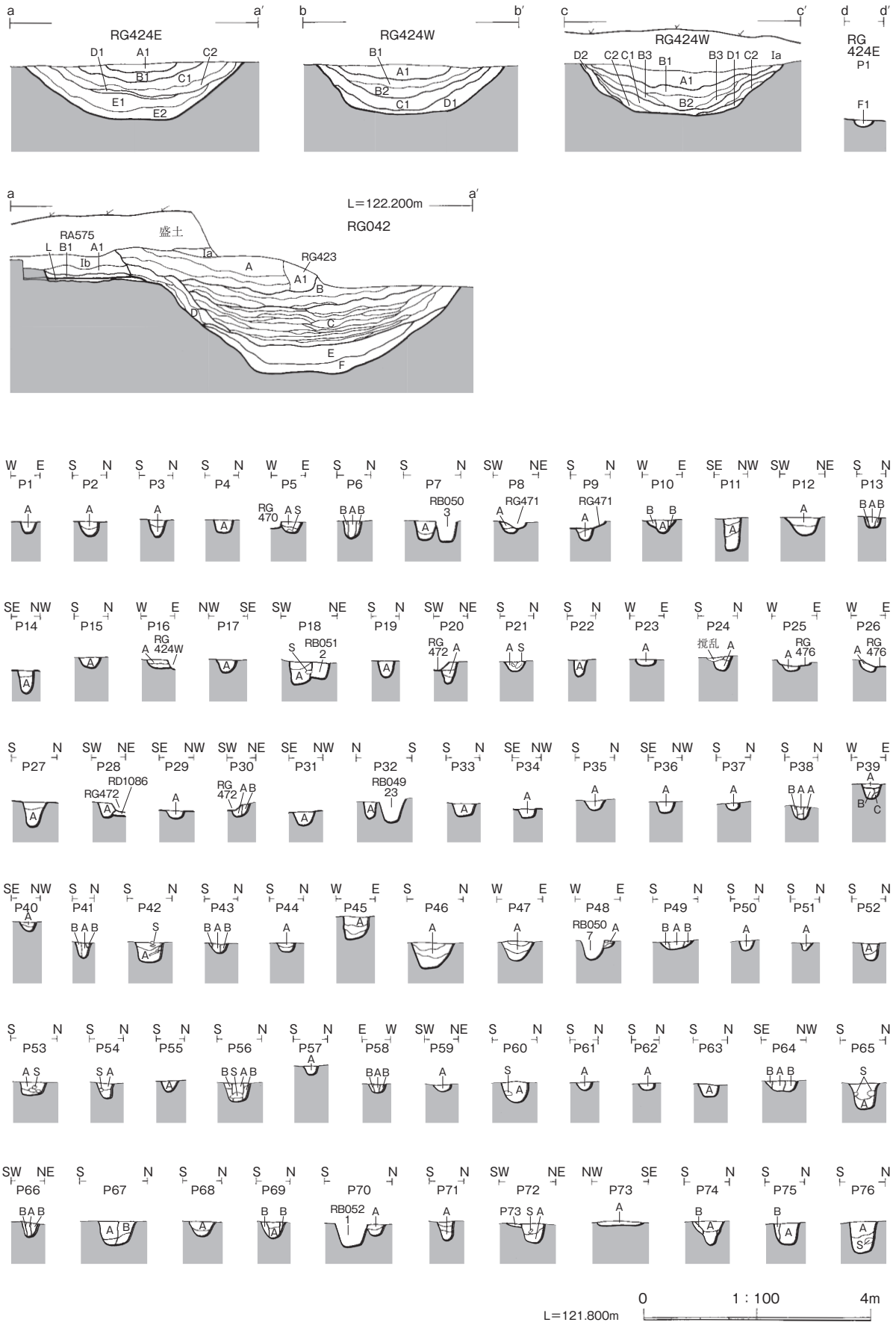
第 49 図　第 45 次調査 RG424E 溝跡，ピット



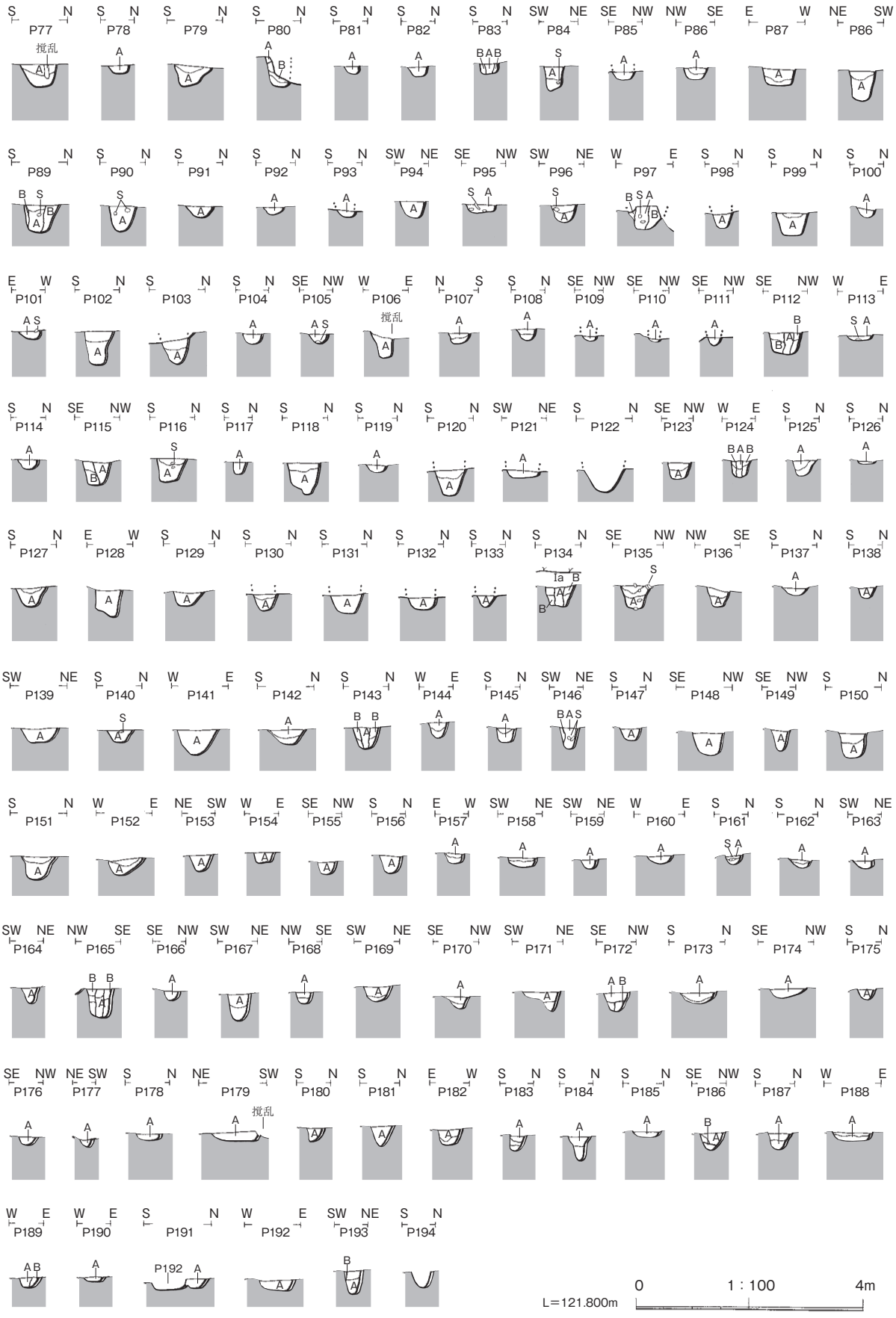
第50図　第45次調査 RD1089・1090・1091・1092・1094・1096・1097・1102・1103・1112土坑，RG474溝跡，ピット



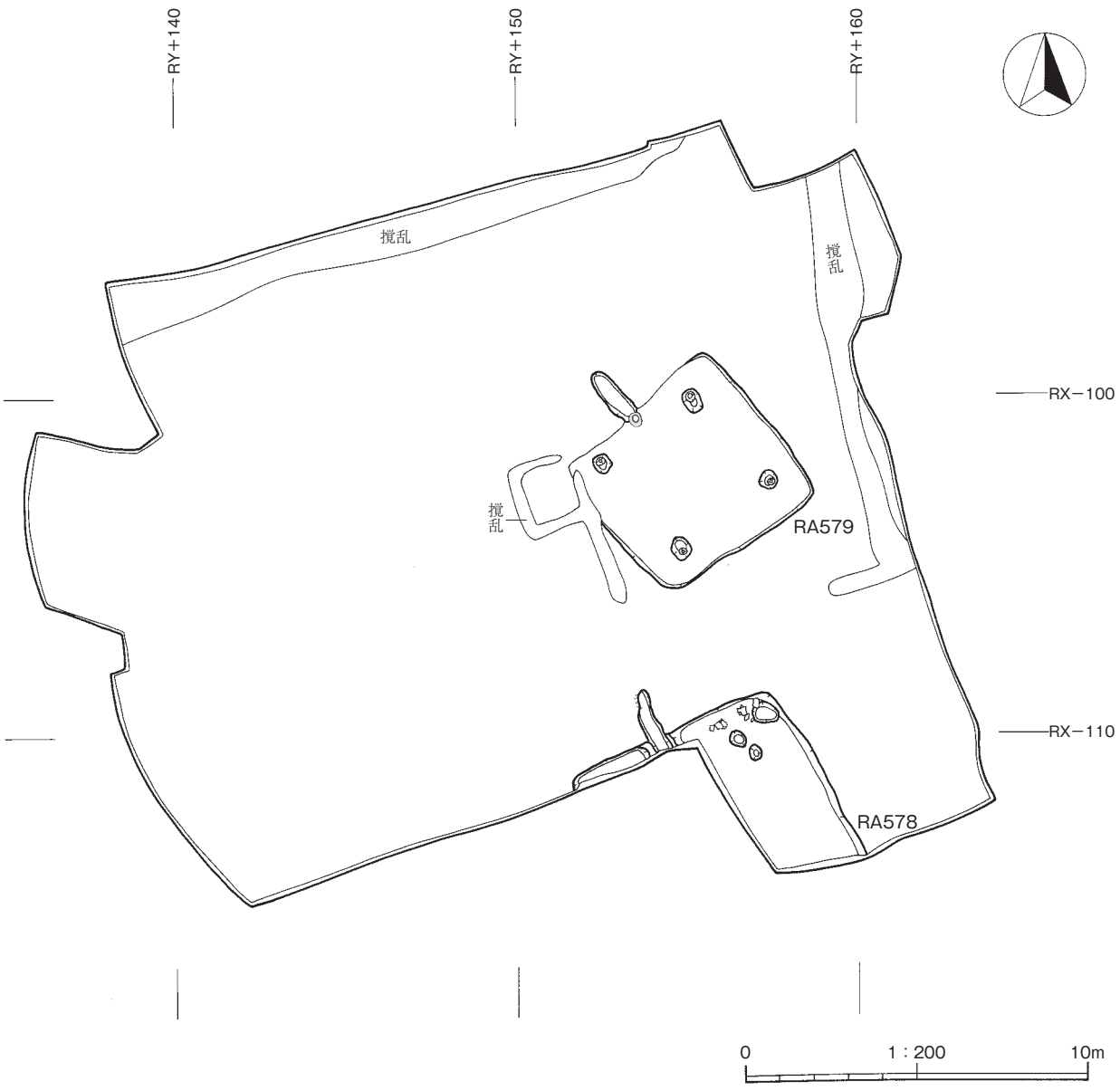
第 51 図　第 45 次調査　土坑・溝跡断面図



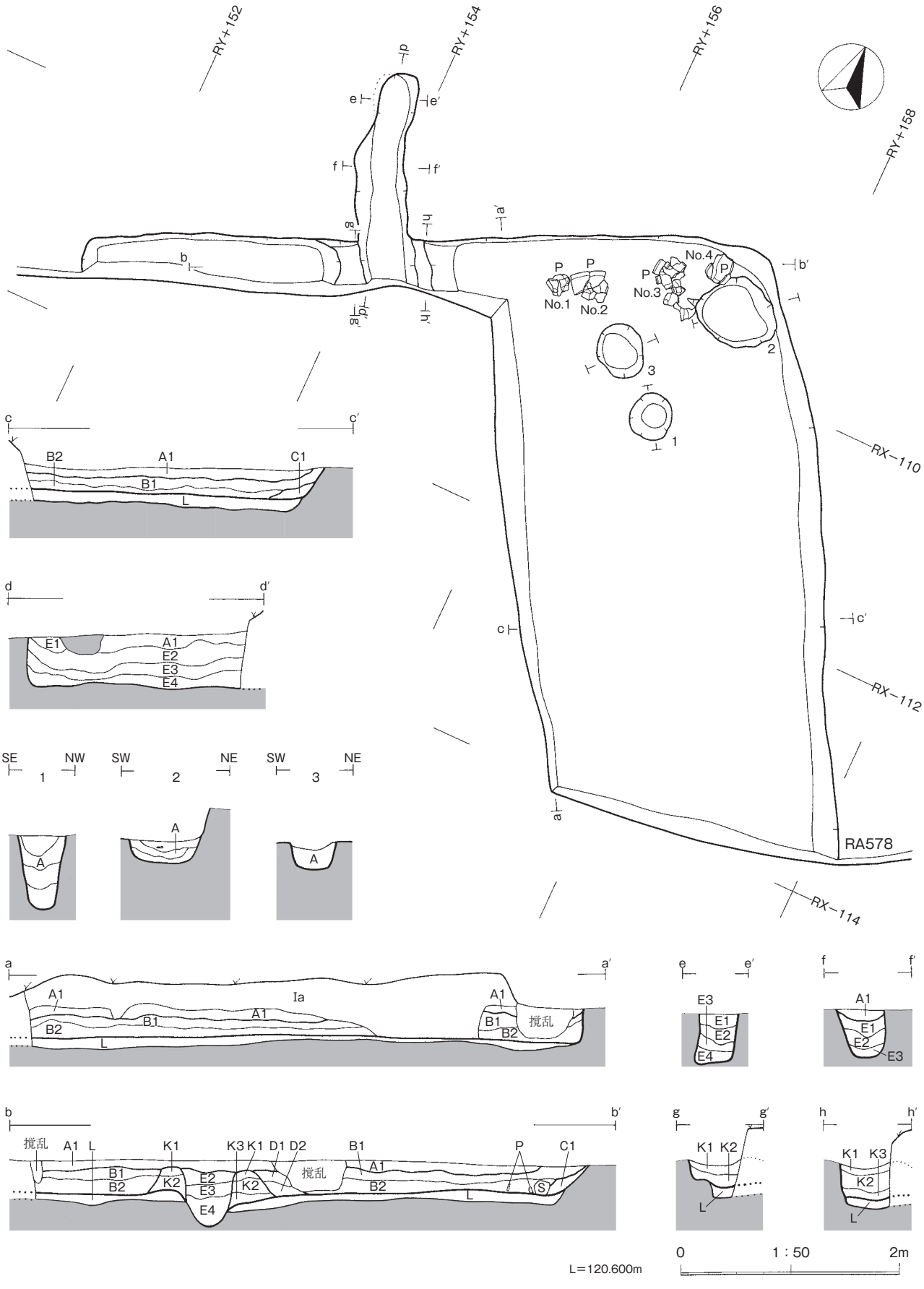
第 52 図　第 45 次調査　溝跡・ピット断面図



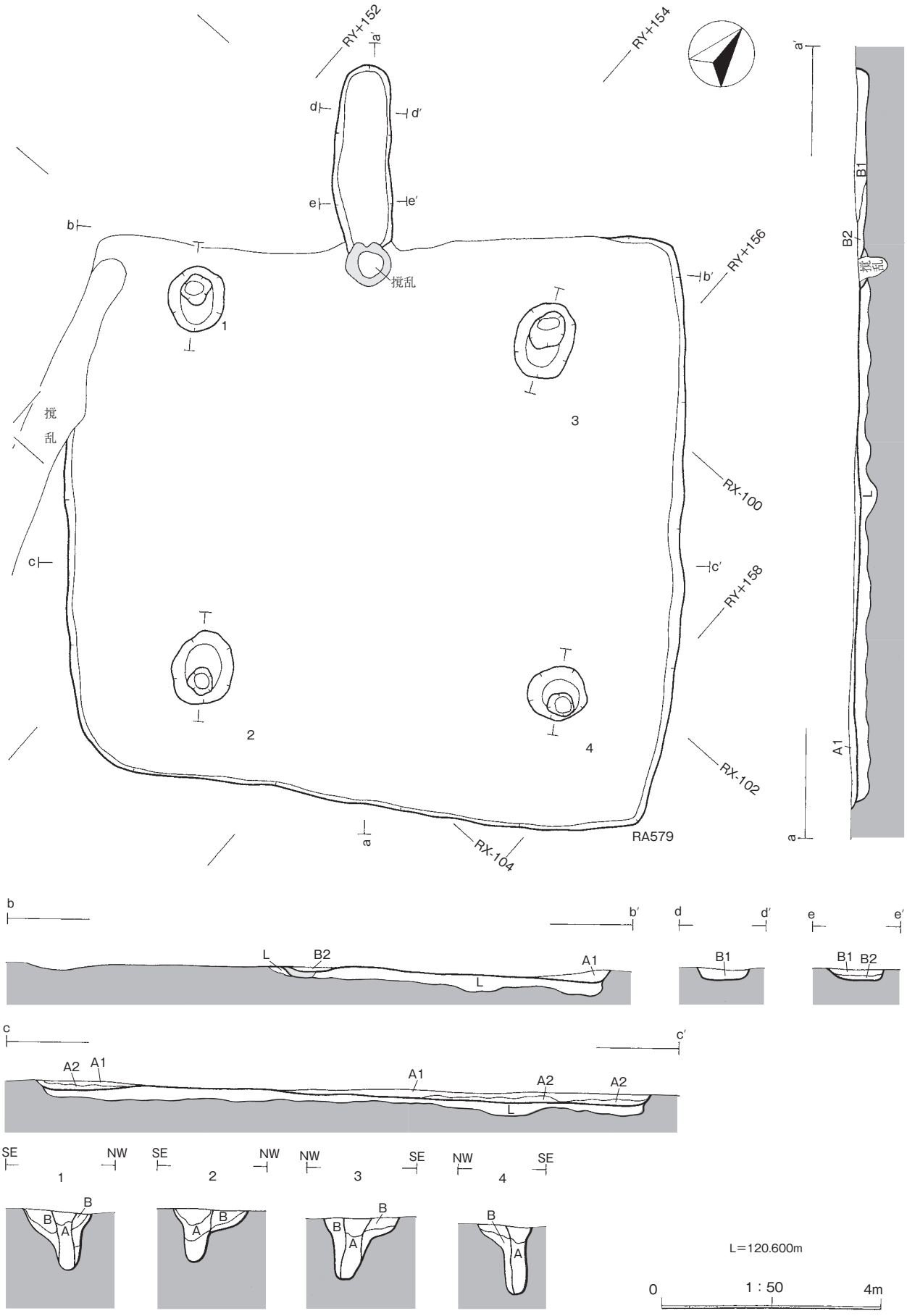
第 53 図　第 45 次調査　ピット断面図



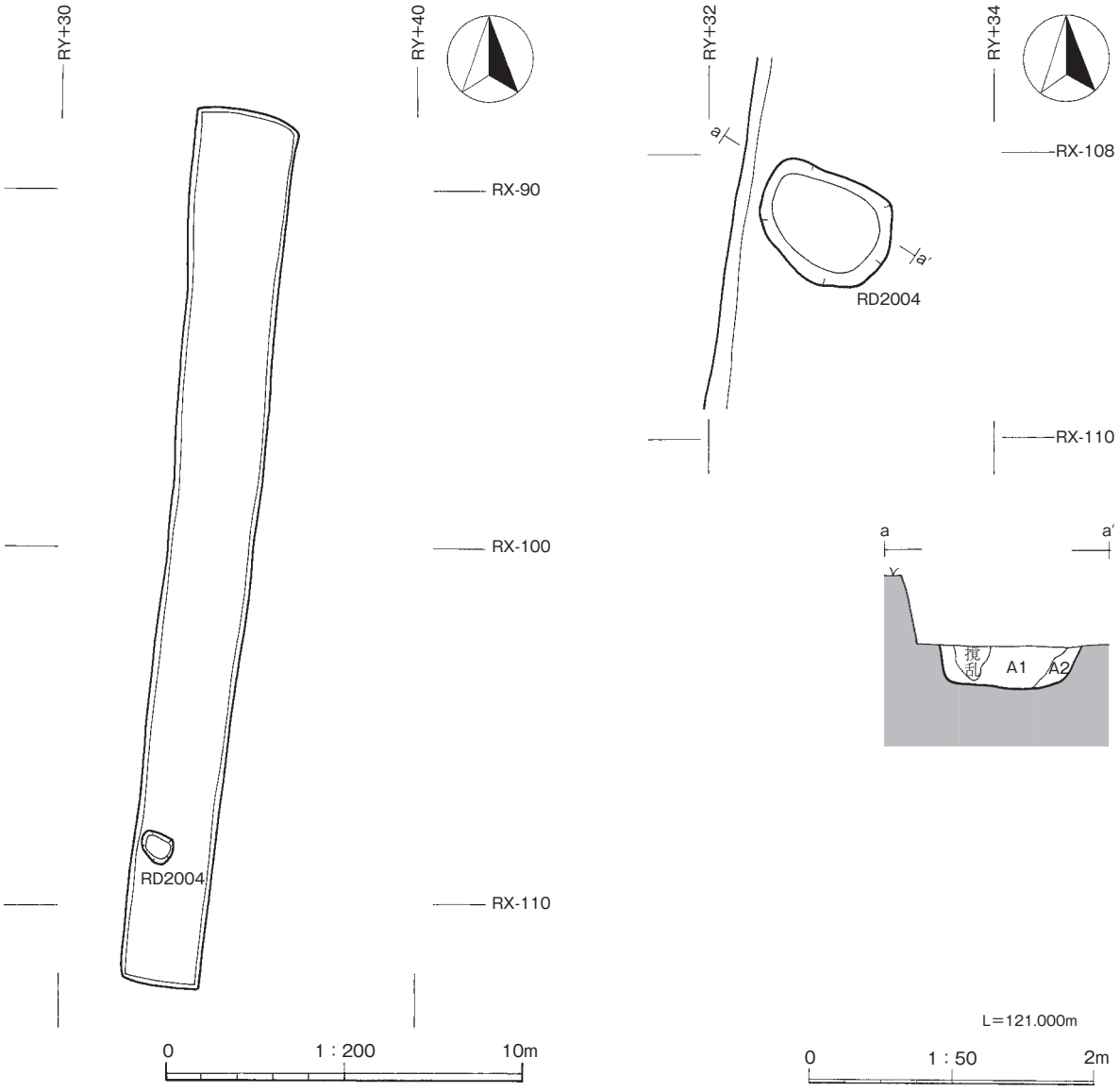
第 54 図　第 46 次調査区　全体図



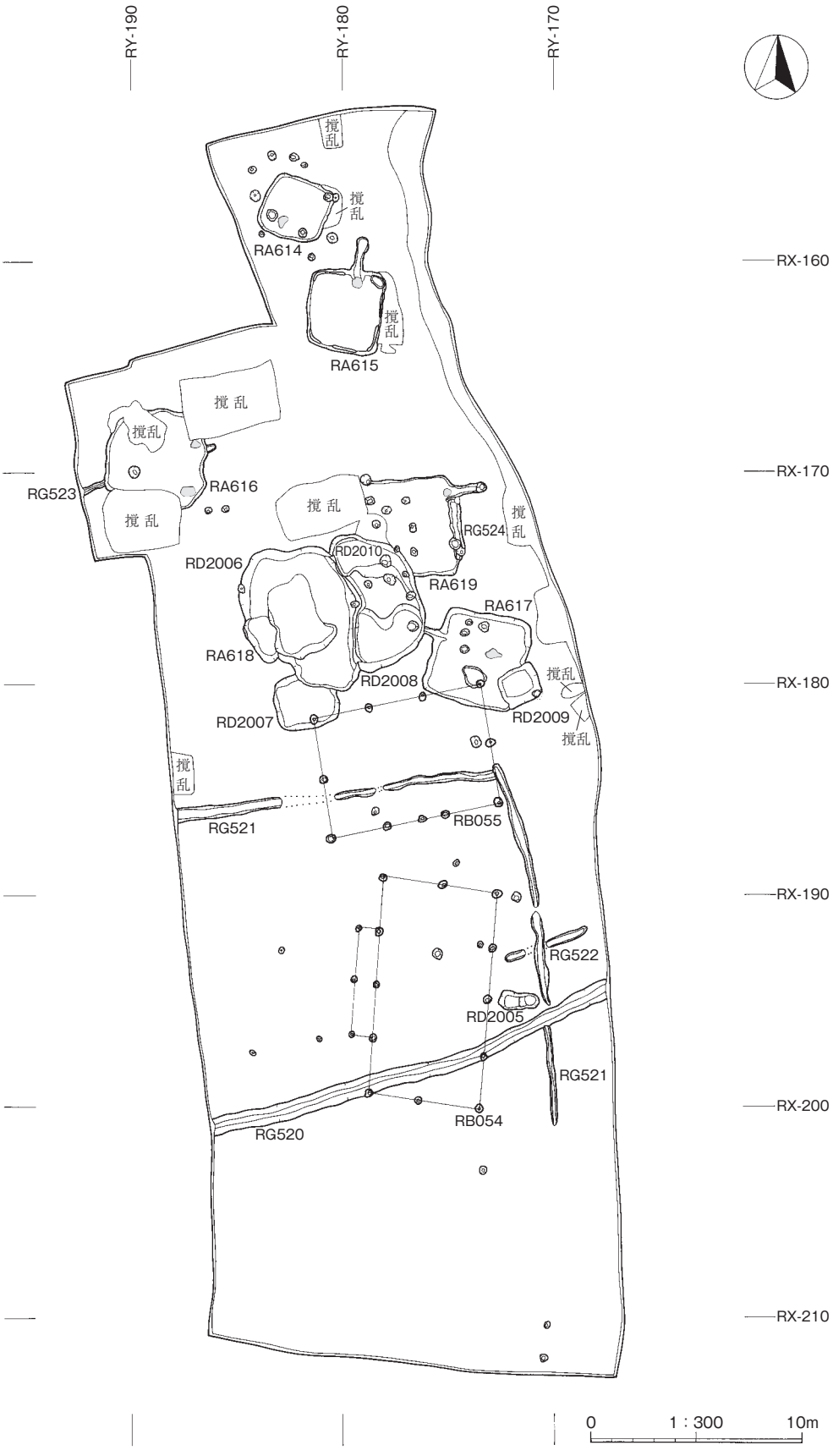
第 55 図　第 46 次調査 RA578 竪穴住居跡



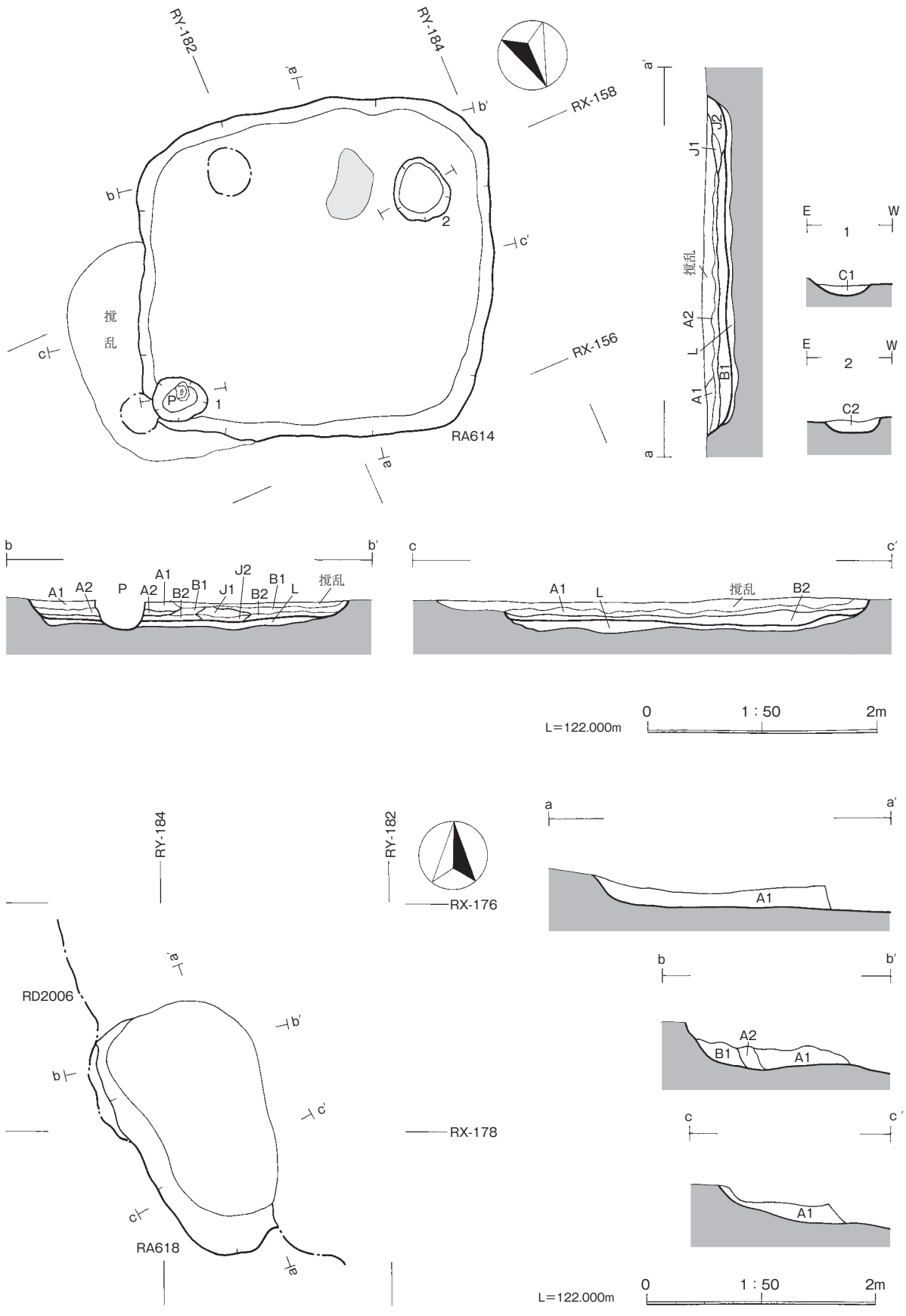
第 56 図　第 46 次調査　RA579 竪穴住居跡



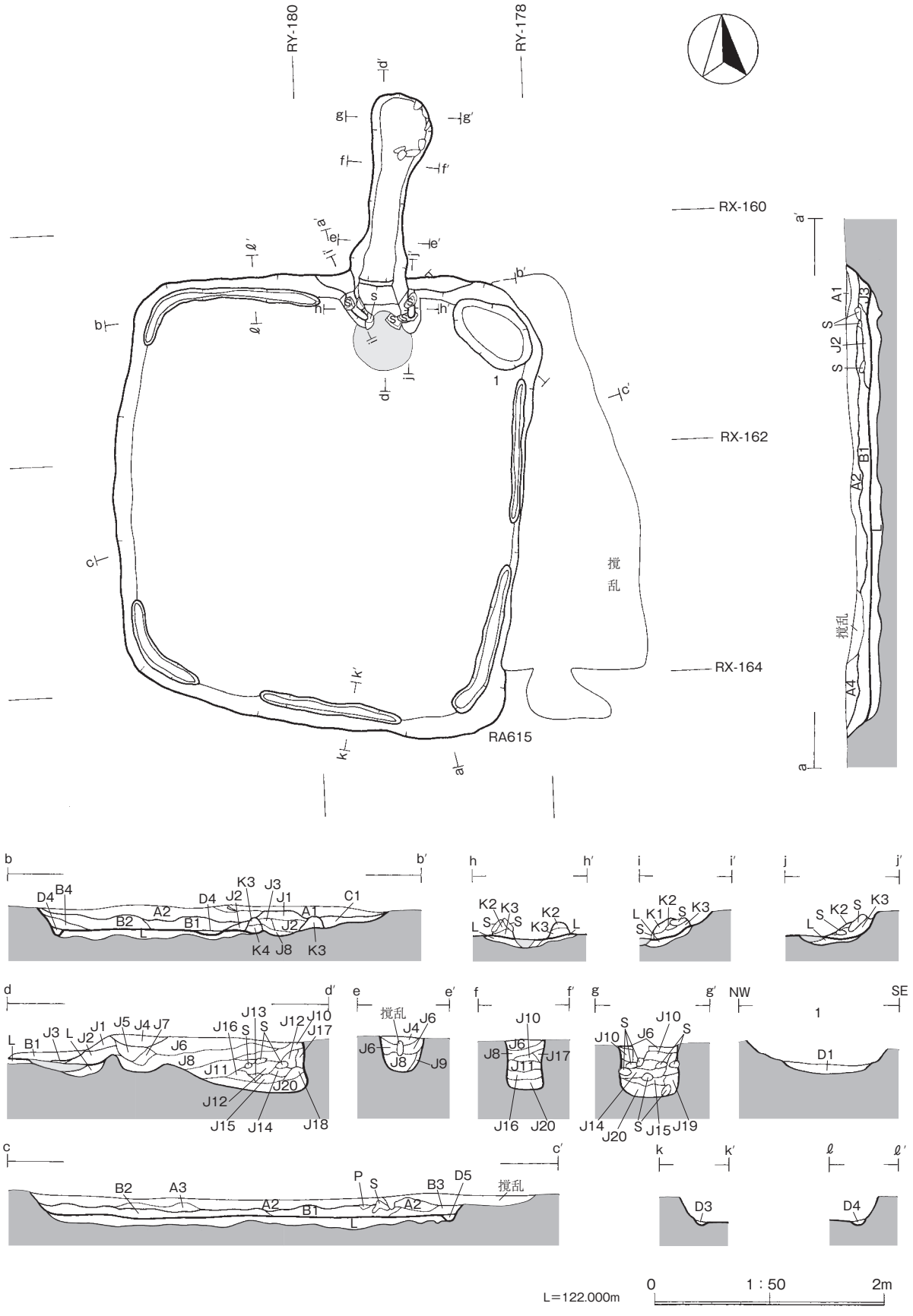
第 57 図　第 56 次調査区　全体図・RD2004 土坑



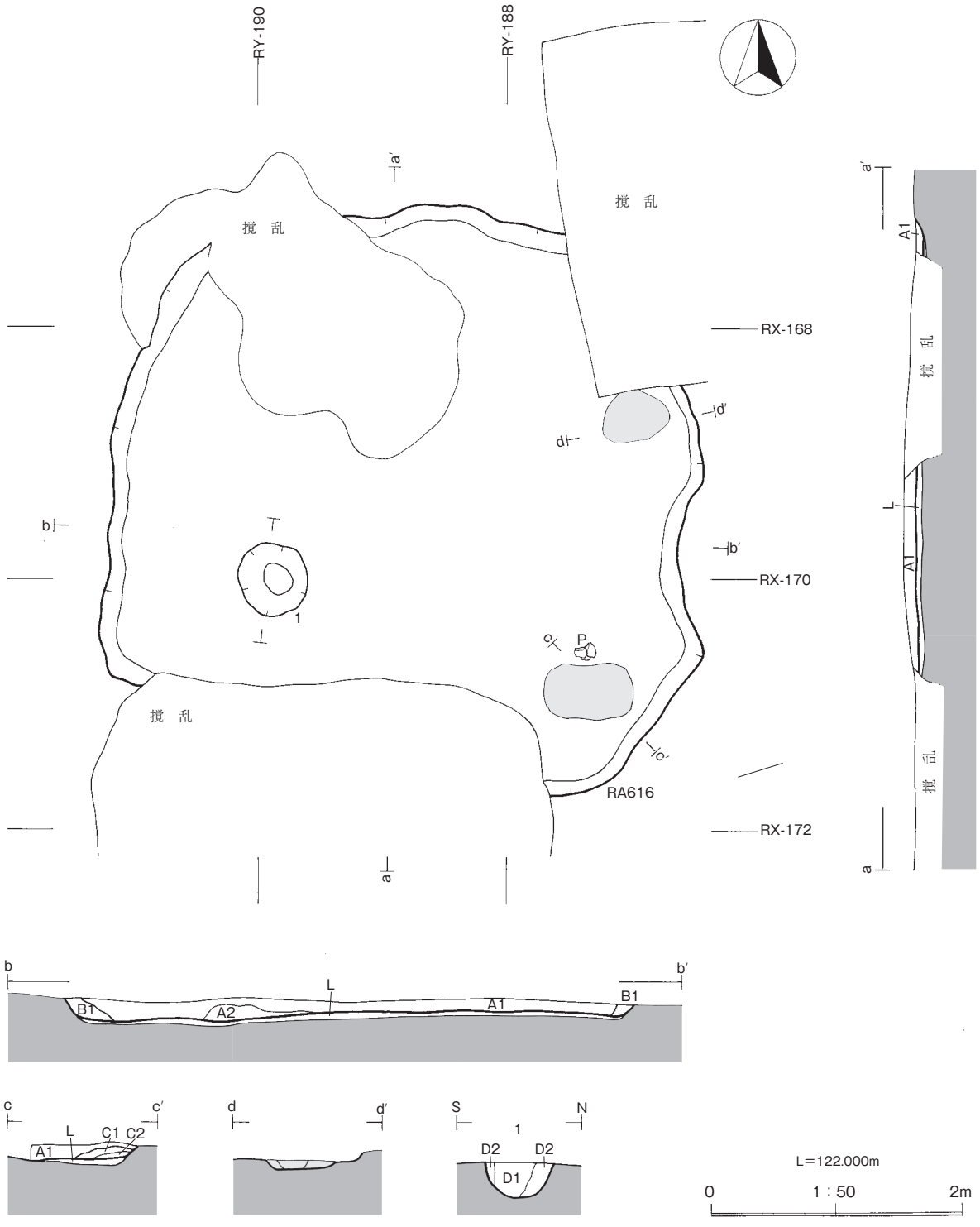
第 58 図　第 57 次調査区 全体図



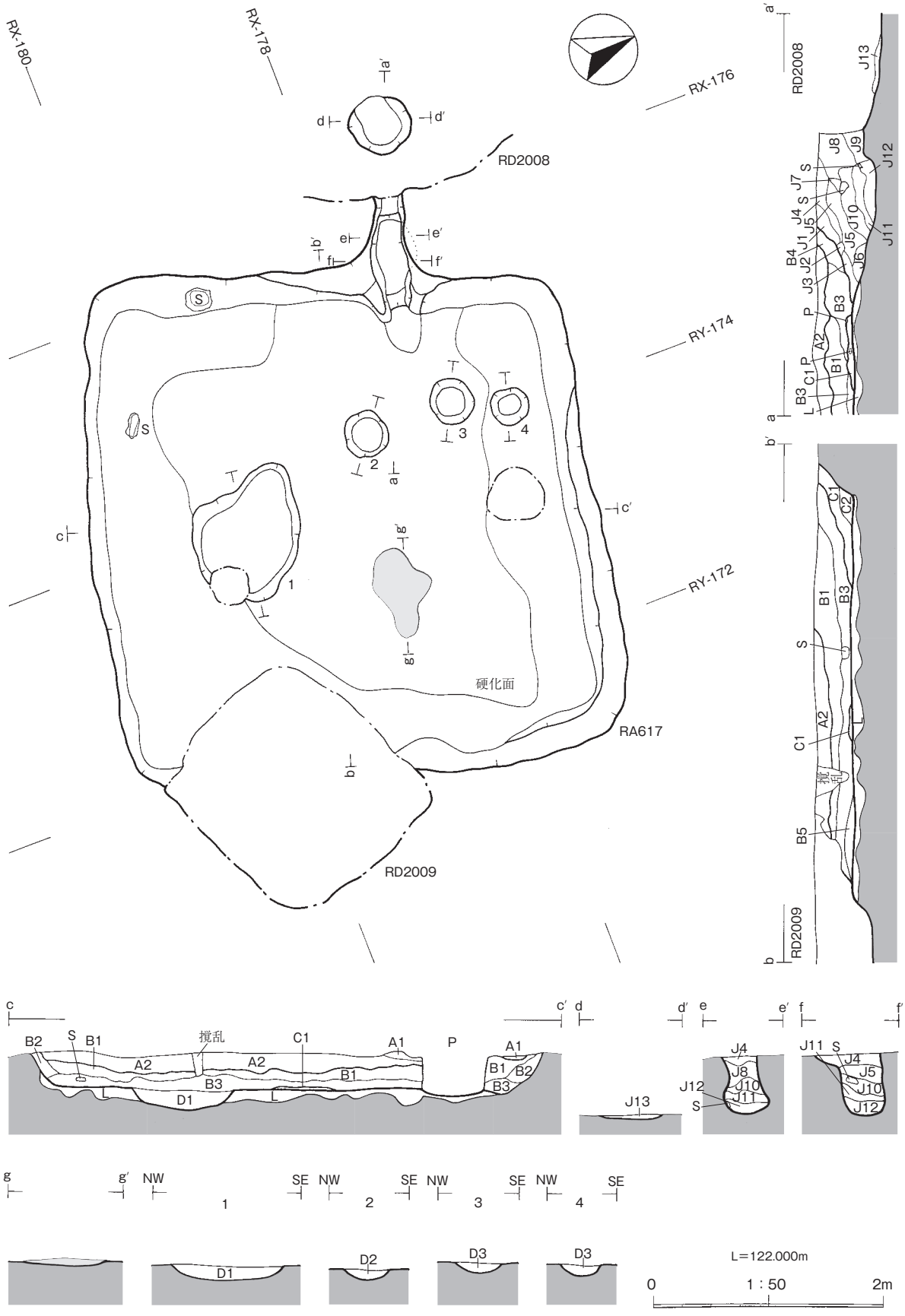
第 59 図　第 57 次調査　RA614・618 竪穴住居跡



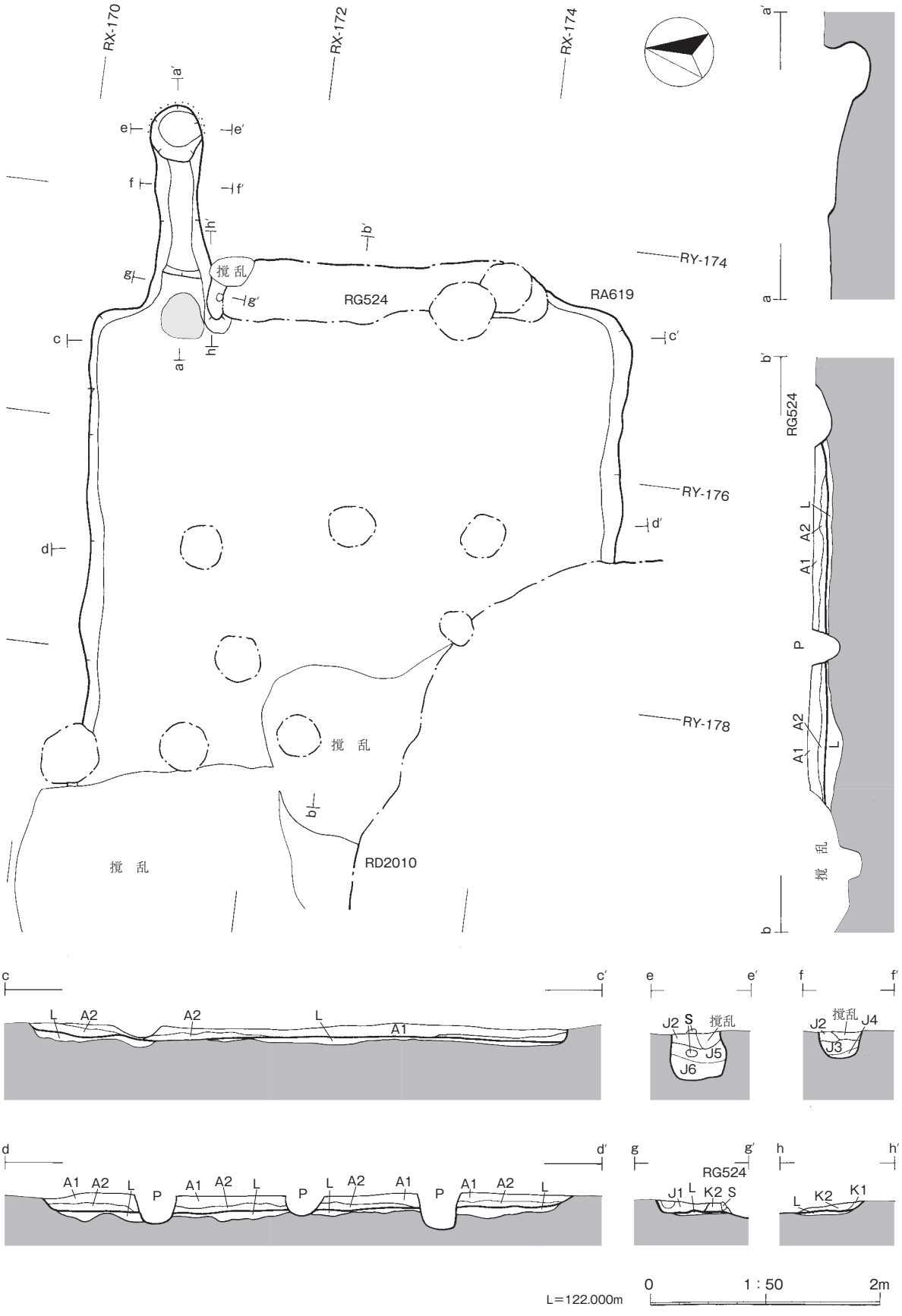
第 60 図　第 57 次調査　RA615 竪穴住居跡



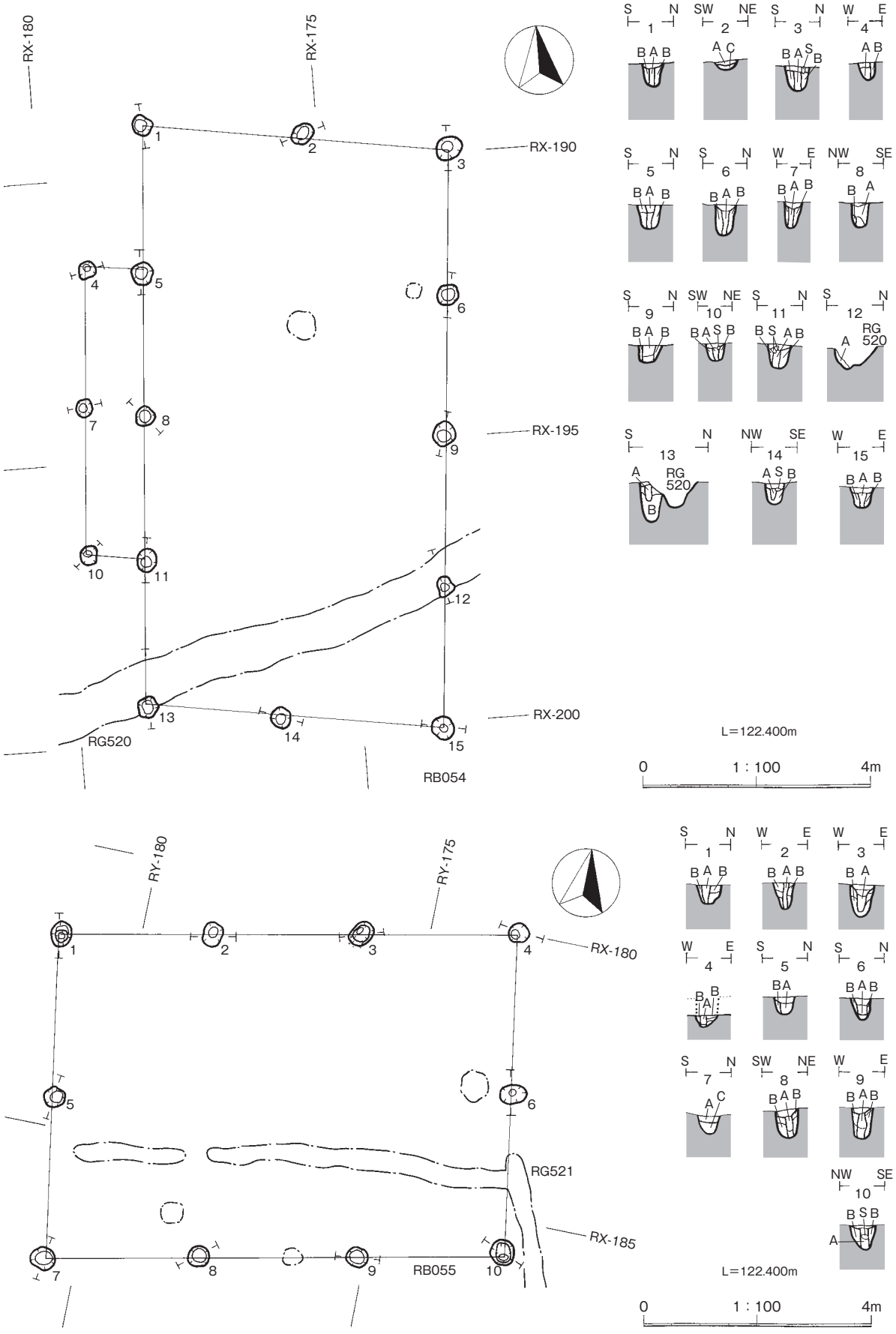
第 61 図　第 57 次調査　RA616 竪穴住居跡



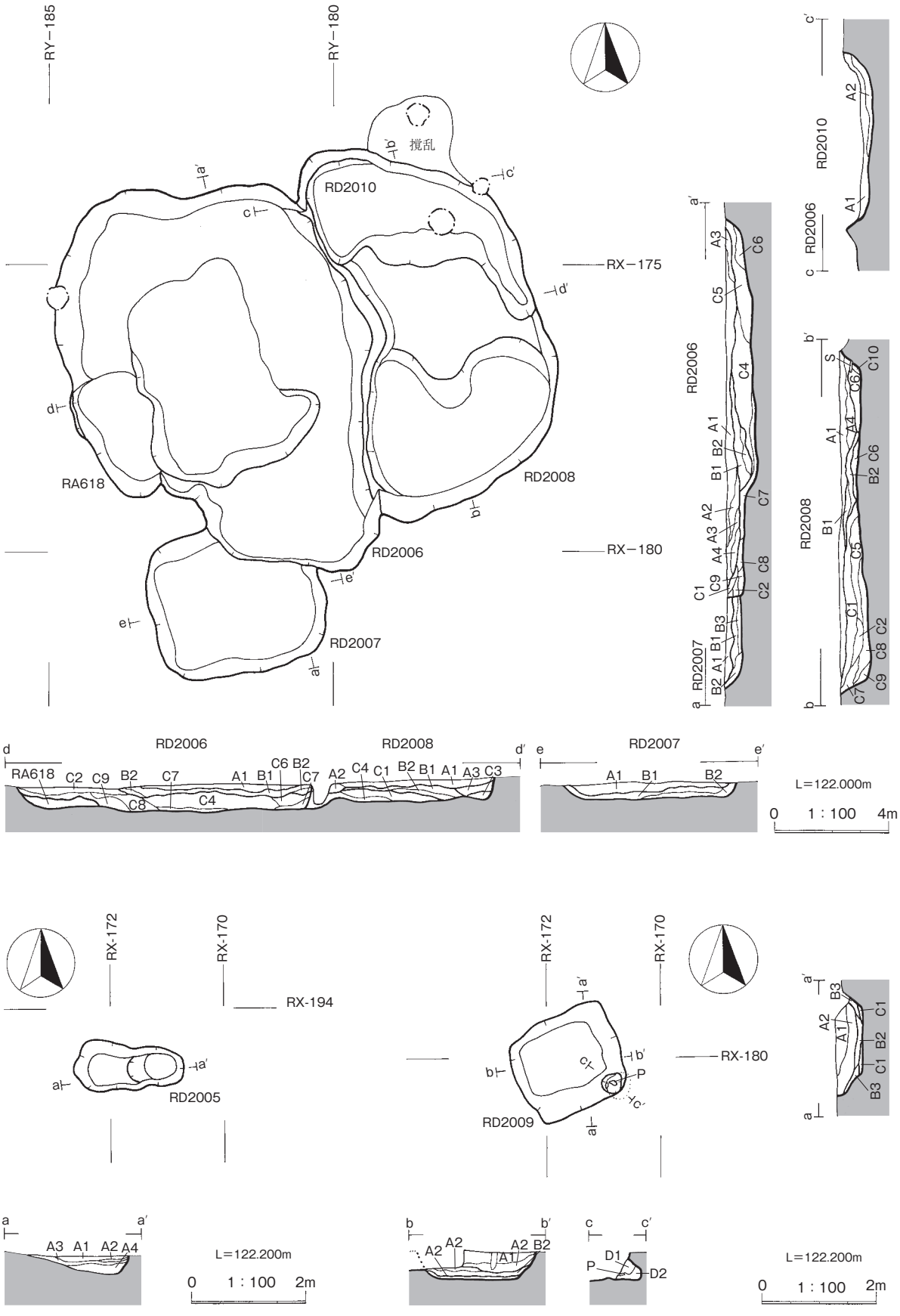
第 62 図　第 57 次調査　RA617 竪穴住居跡



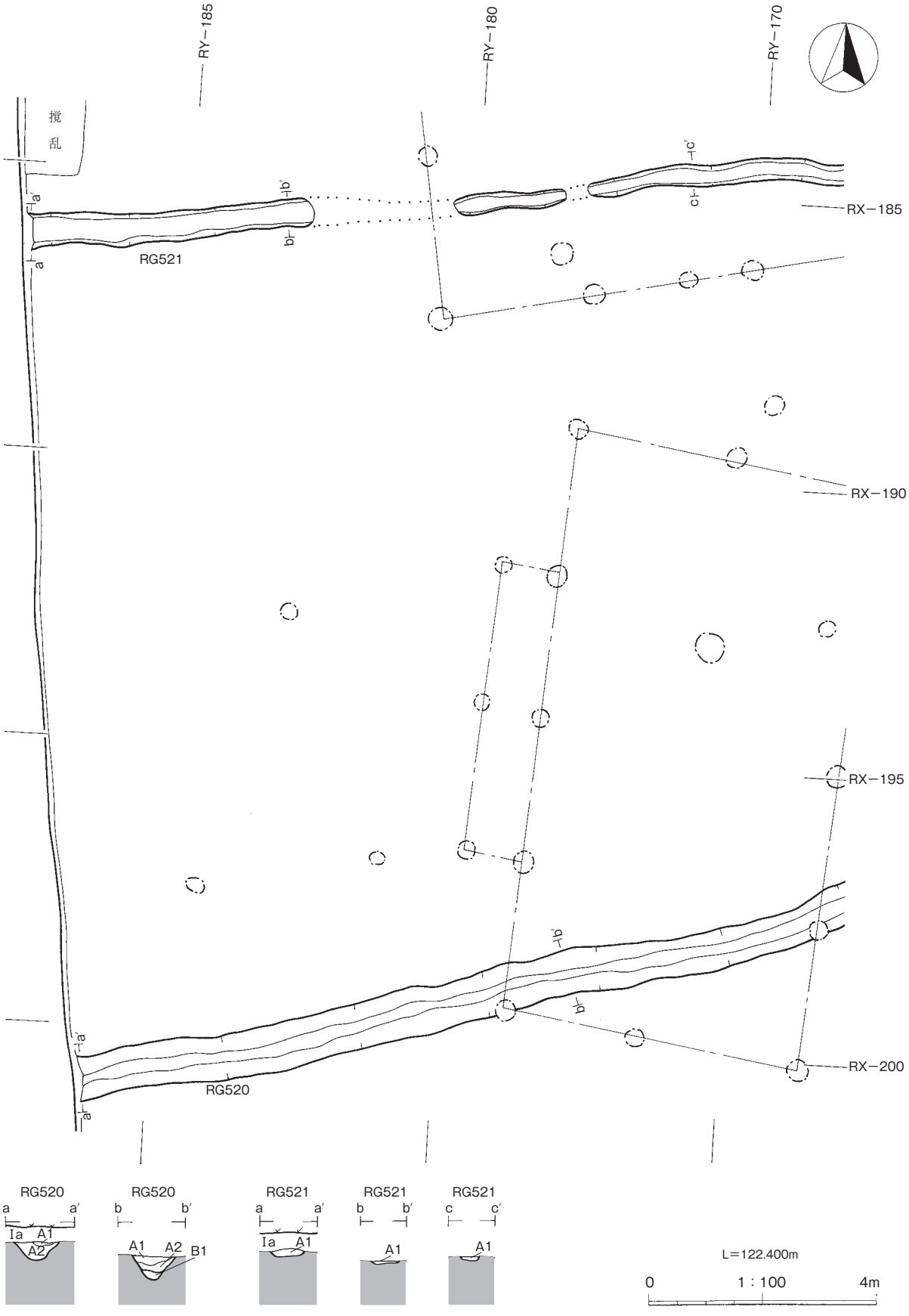
第 63 図　第 57 次調査　RA619 竪穴住居跡



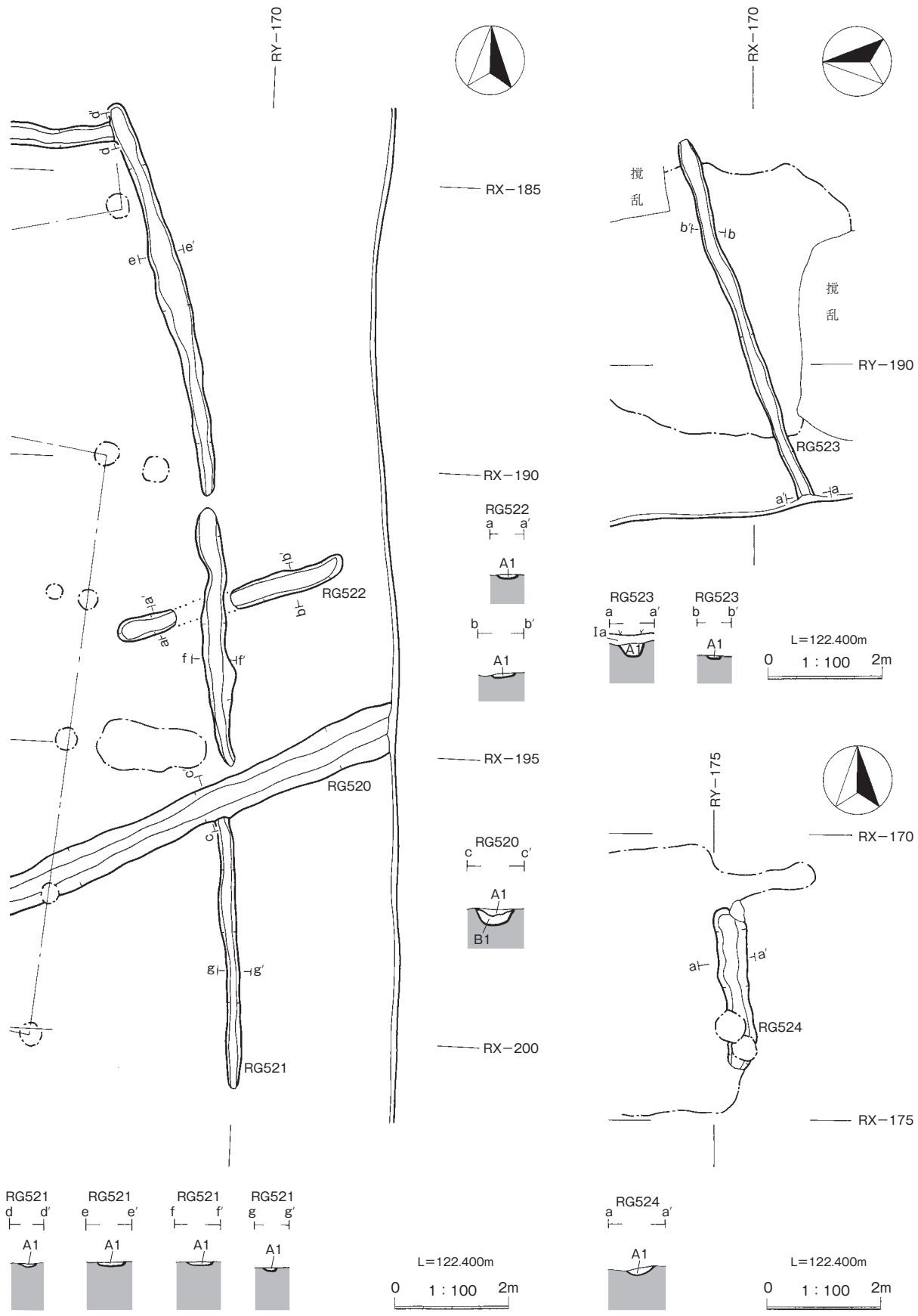
第 64 図　第 57 次調査　RB054・055 掘立柱建物跡



第 65 図　第 57 次調査　RD2005～2010 土坑

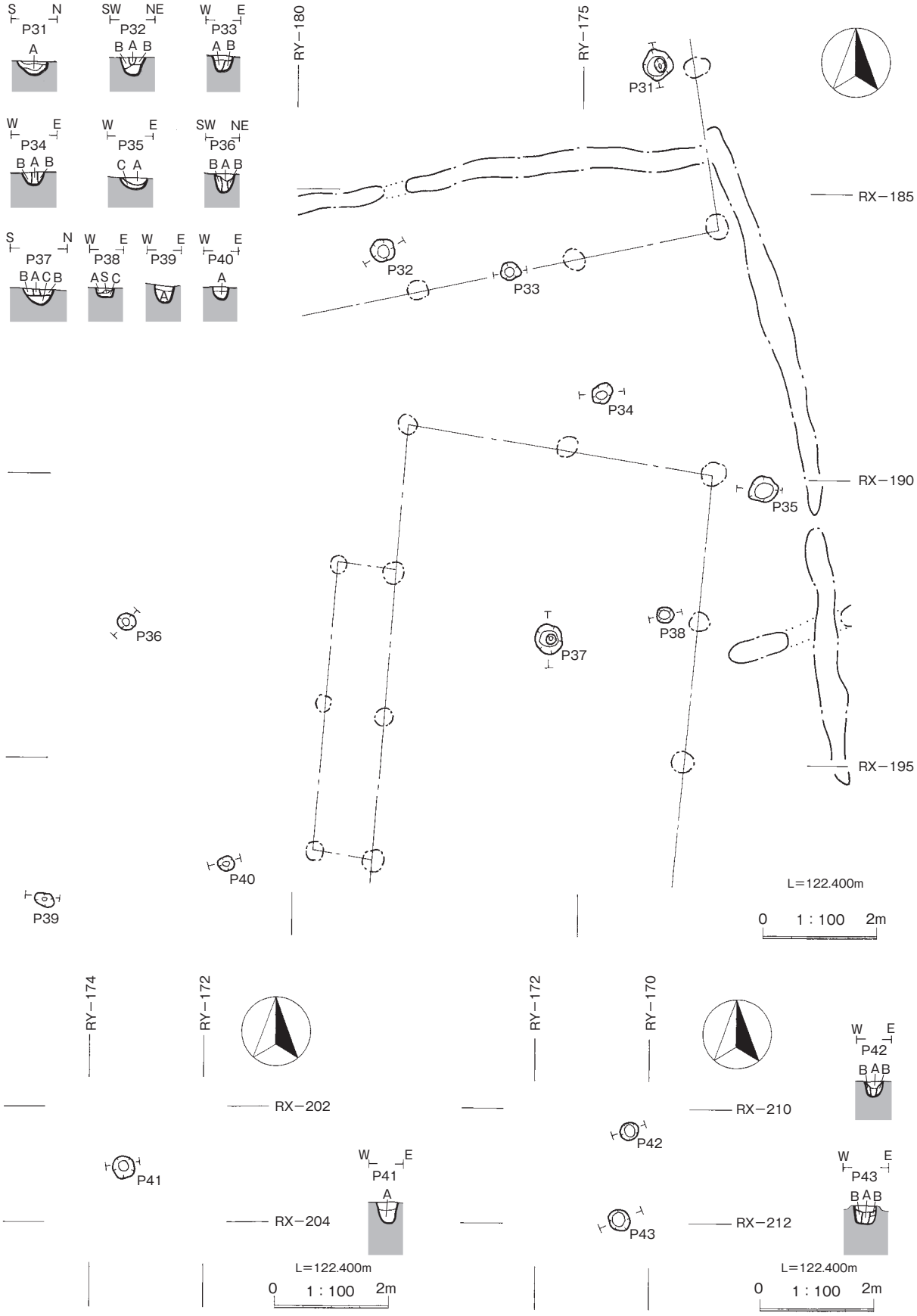


第 66 図　第 57 次調査　RG520・521 溝跡

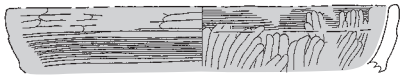


第 67 図　第 57 次調査　RG520〜524 溝跡

第 68 図　第 57 次調査ピット（1）

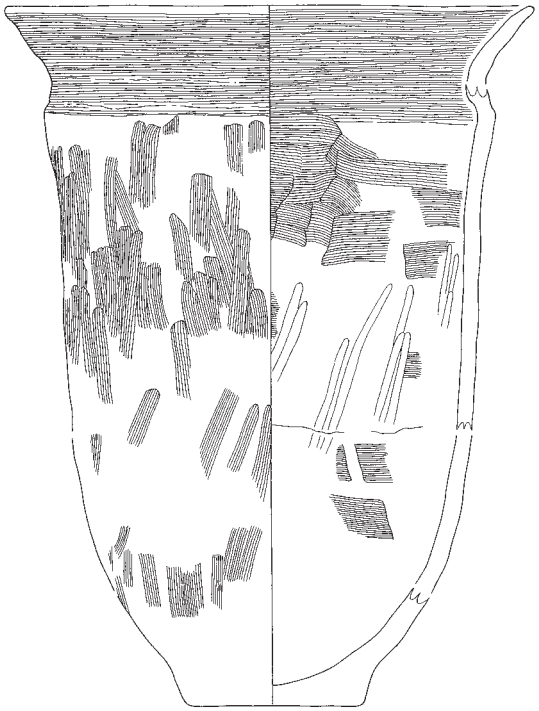


第 69 図　第 57 次調査ピット（2）

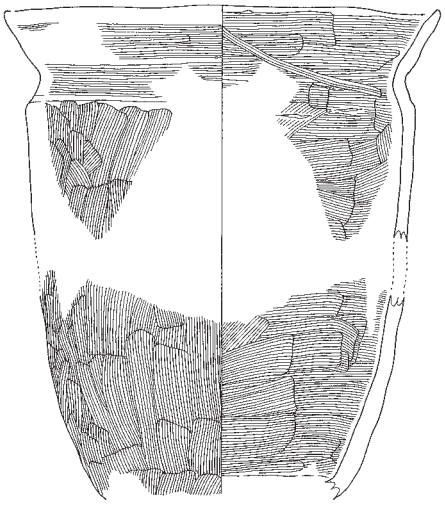


001　土師器坏－RA523－B 層

002　土師器坏－RA523－SW 区埋土



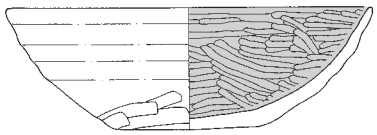
003　土師器甕－RA523－NW 区 A 層

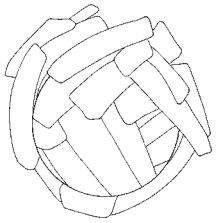


004　土師器甕－RA523－NW 区 A 層

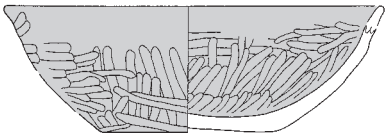
0　1：3　10cm

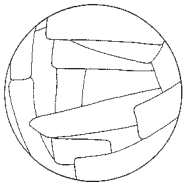
第 70 図　第 37 次調査 RA523 出土土器



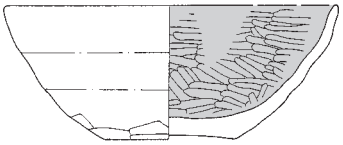


005　土師器坏－RA525－SE 区 L 層

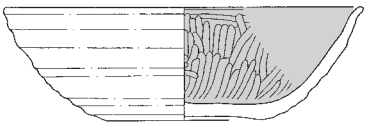




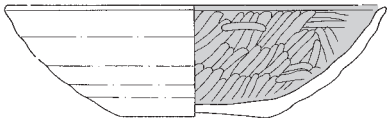
006　土師器坏－RA525－床面（No.2）



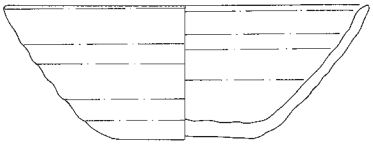
007　土師器坏－RA525－C 層



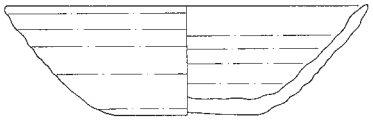
008　土師器坏－RA525－床面（No.3）



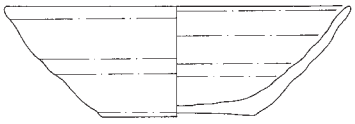
009　土師器坏－RA525－カマド右袖 K 層



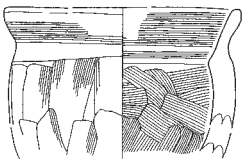
011　須恵器坏－RA525－床面（No.4）



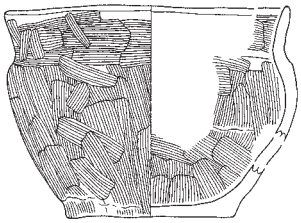
012　須恵器坏－RA525－床面（No.5）



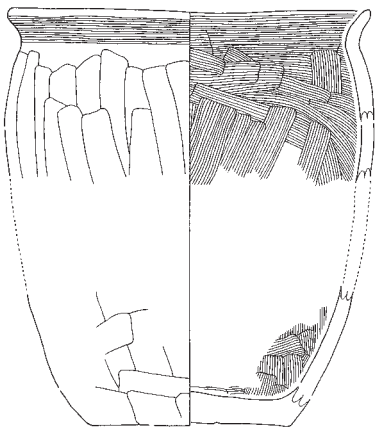
010　須恵器坏－RA525－B 層



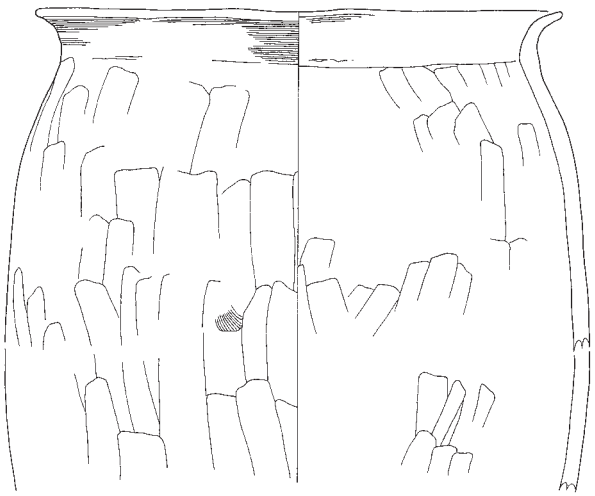
013　土師器小形甕－RA525－SE 区 B 層



014　土師器小形甕－RA525－B 層



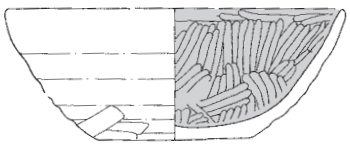
015　土師器甕－RA525－B 層



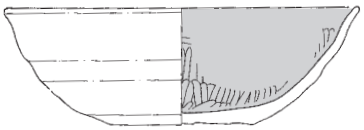
016　土師器甕－RA525－床面（No.1）

0　1：3　10cm

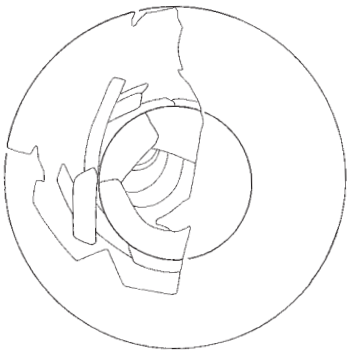
第 71 図　第 39 次調査 RA525 出土土器



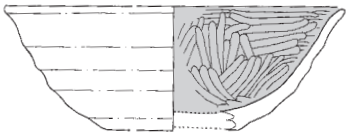
018　土師器坏－RA528－床面（No.2）



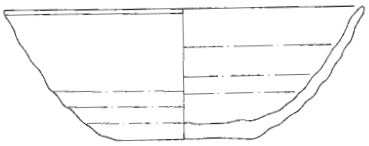
019　土師器坏－RA528－SW 区 A 層



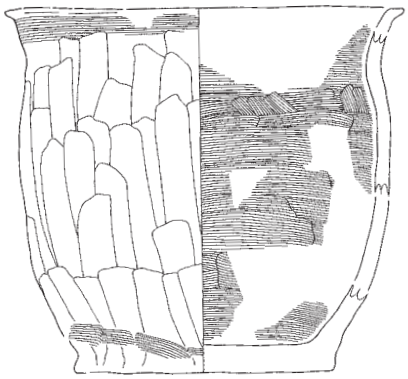
017　土師器坏－RA528－NW 区埋土



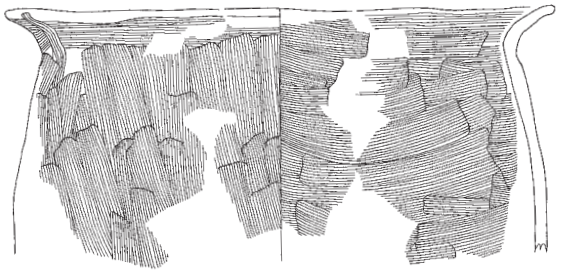
020　土師器坏－RA528－SW 区 A 層



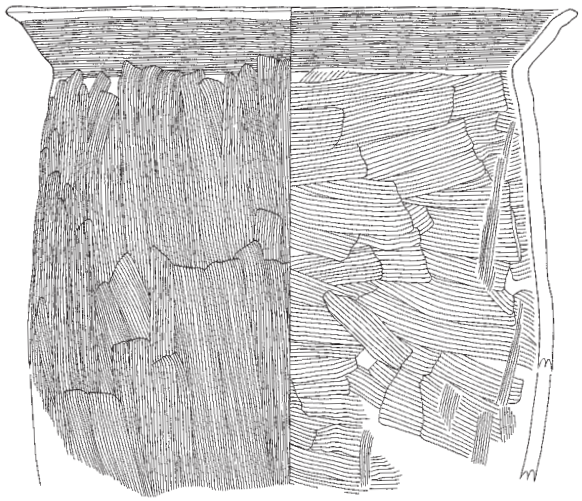
021　須恵器坏－RA528－NE 区埋土



022　土師器甕－RA528－NE 区埋土



023　土師器甕－RA528－SW 区 A 層

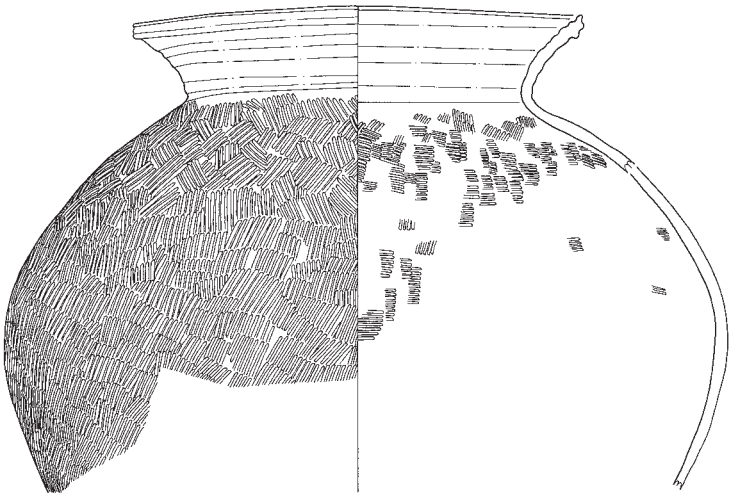


024　土師器甕－RA528－床面（No.3）

025a　須恵器大甕－RA528－床面（No.1）

0　1：3　10cm

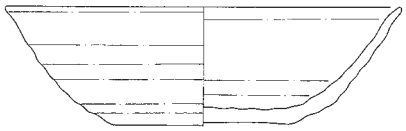
第 72 図　第 39 次調査 RA528 出土土器（1）



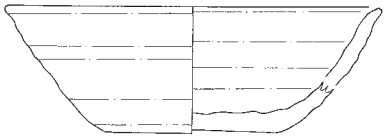
025b　須恵器大甕－RA528－床面（No.1）

0　1：6　20cm

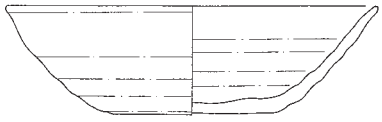
第 73 図　第 39 次調査 RA528 出土土器（2）



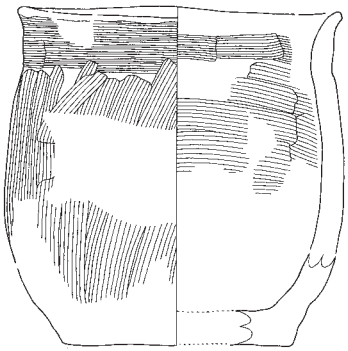
026　須恵器坏－RA535－床面



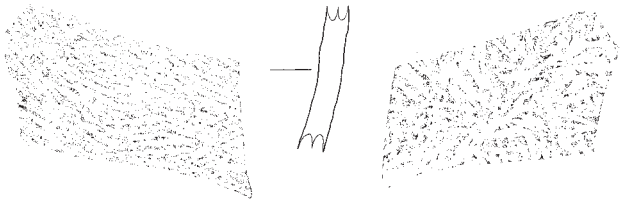
027　須恵器坏－RA535-SE 区 C 層



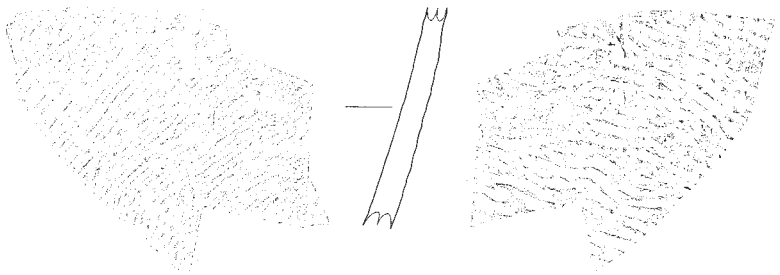
028　須恵器坏－RA535-SW 区 C 層



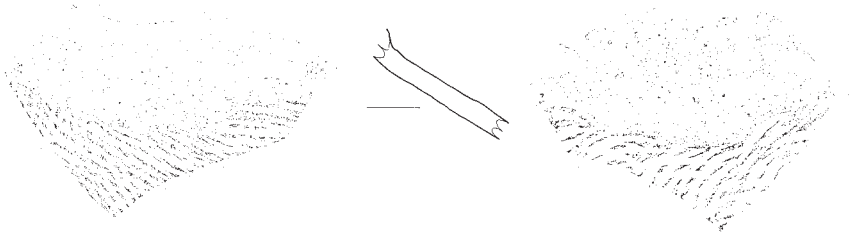
029　土師器坏－RA535－SE 区 B 層



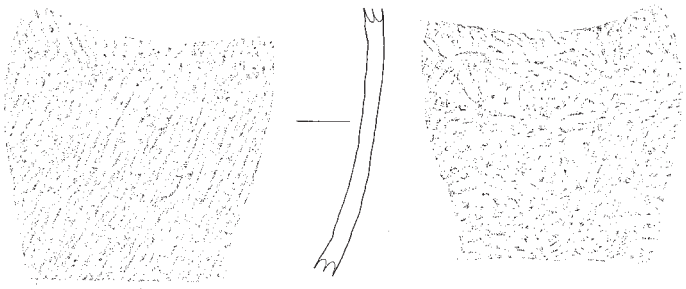
030　須恵器大甕－RA535－SE 区 C 層



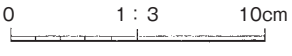
031　須恵器大甕－RA535－SE 区 C 層



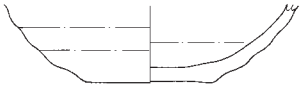
032　須恵器大甕－RA535－SE 区 B 層



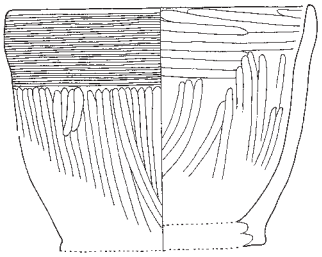
033　須恵器大甕－RA535－SE 区 B 層



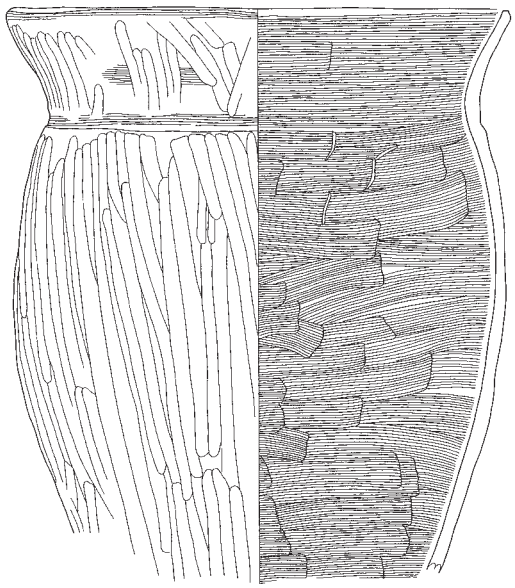
第 74 図　第 39 次調査 RA535 出土土器



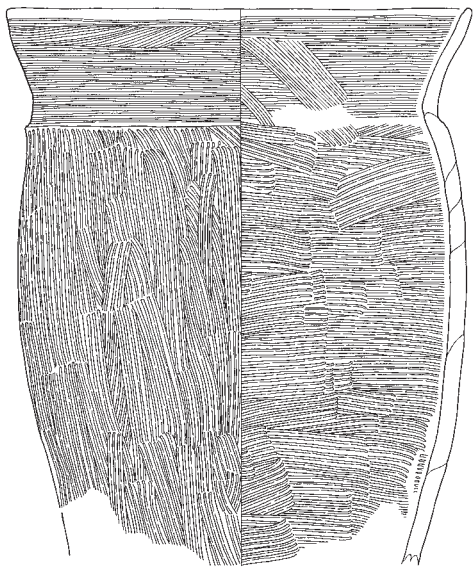
034　あかやき土器坏－RA534－NW 区 L 層



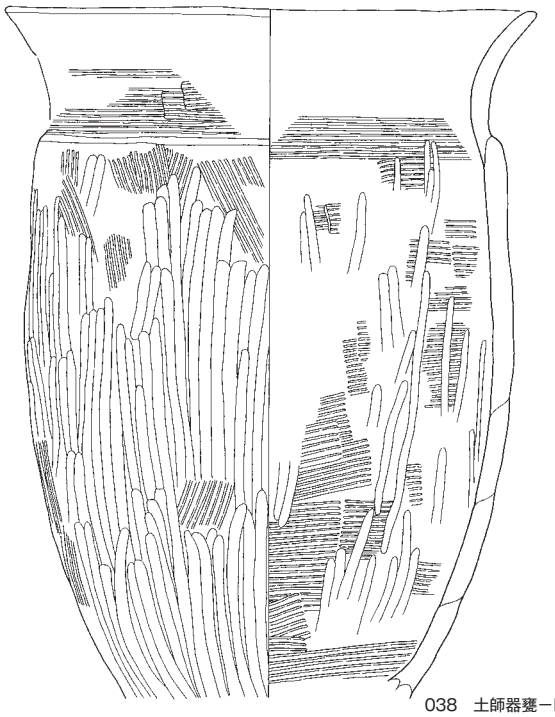
035　土師器小形甕－RA534－A 層



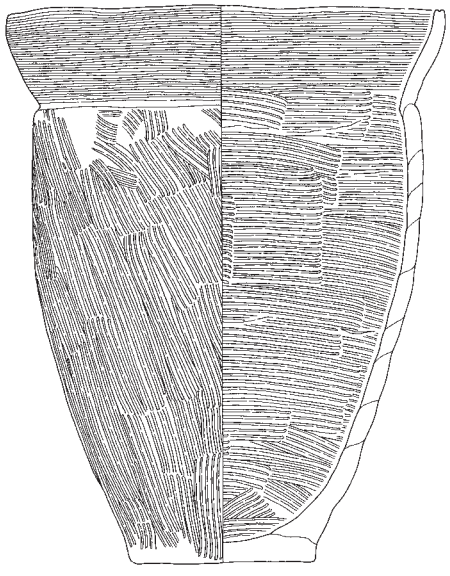
036　土師器甕－RA534－床面（No.4）



037　土師器甕－RA534－床面（No.5）



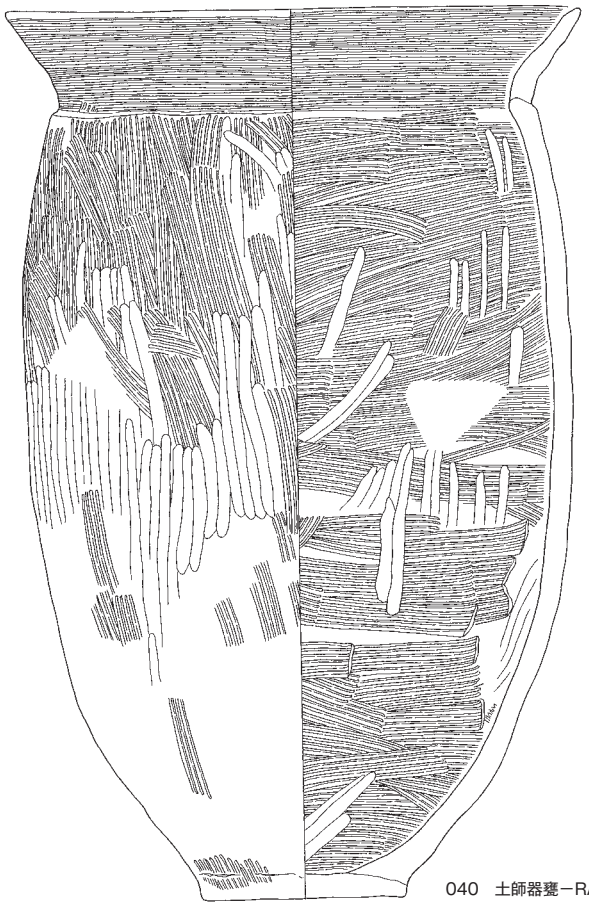
038　土師器甕－RA534－床面（No.3）



039　土師器甕－RA534－床面（No.6）

0　1：3　10cm

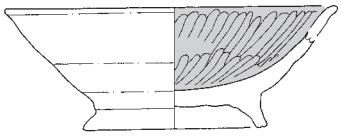
第 75 図　第 39 次調査 RA534 出土土器（1）



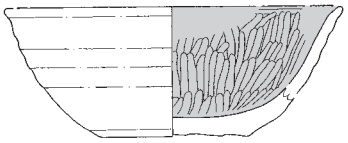
040　土師器甕－RA534－床面（No.2）

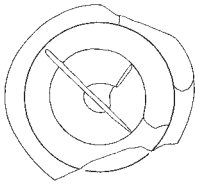
0　1：3　10cm

第 76 図　第 39 次調査 RA534 出土土器（2）

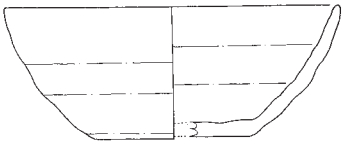


041　土師器高台付坏－RD971－埋土

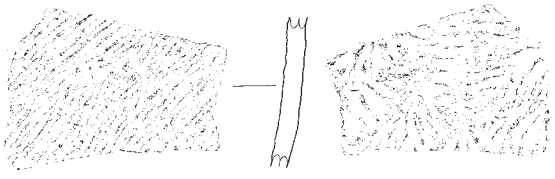




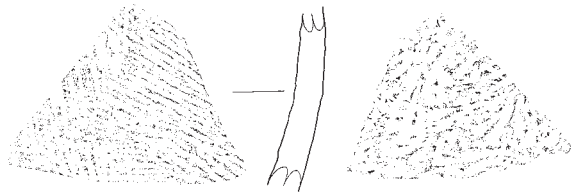
042　土師器坏－RG042－埋土



043　あかやき土器坏－RG042－A 層



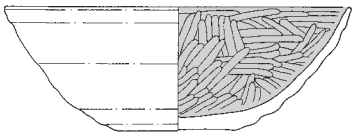
044　須恵器大甕－RG042－G 層



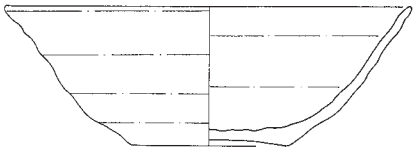
045　須恵器大甕－RG042－G 層

0　1：3　10cm

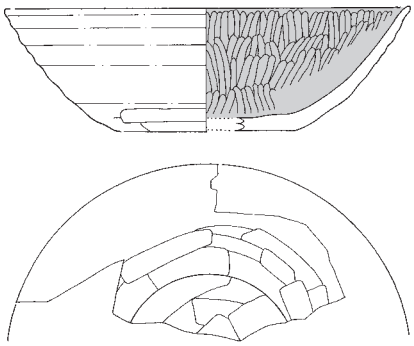
第 77 図　第 39 次調査 RD971・RG042 出土土器



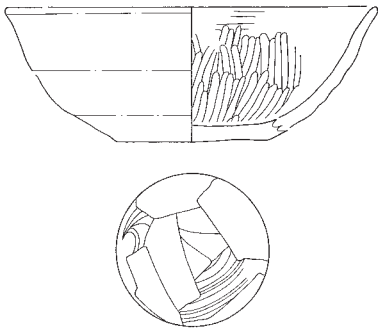
046　土師器坏－RA524－床面（No.1）



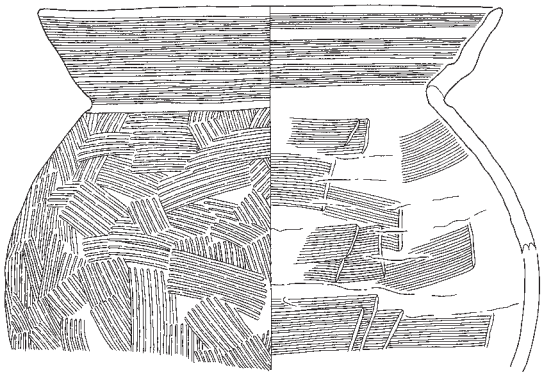
047　あかやき土器坏－RA526－煙道入口 B 層



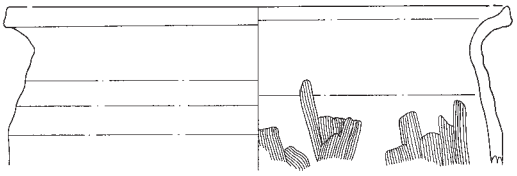
048　土師器坏－RA526－NE 区床面



049　土師器坏－RA526－NE 区 C 層



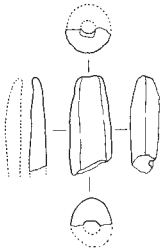
050　土師器球胴甕－RA529－床面



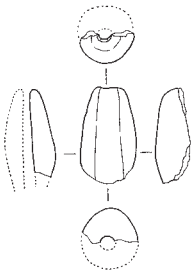
051　あかやき土器甕－RA533－A 層

0　1：3　10cm

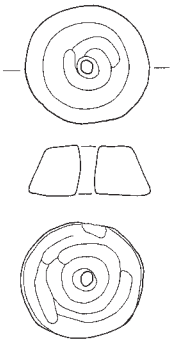
第 78 図　第 39 次調査 RA524・526・529・533 出土土器



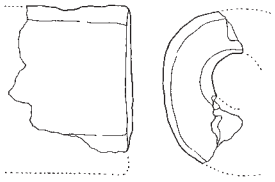
052　土錘－RA525
－SW 区 A 層



053　土錘－RG042－埋土



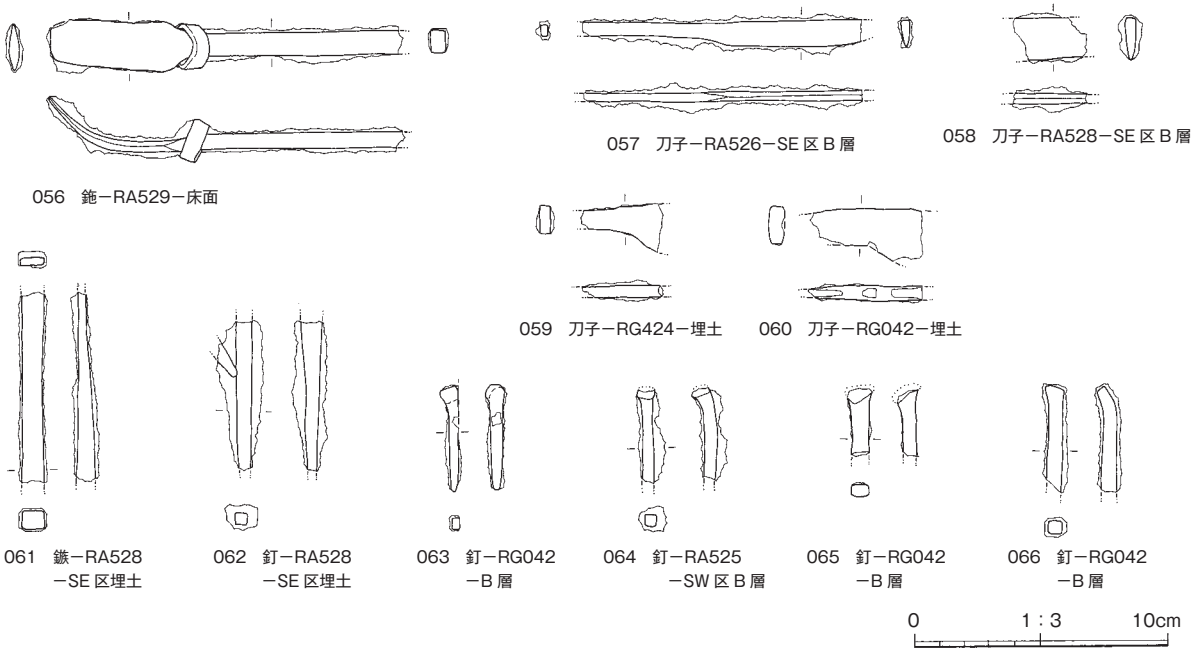
054　紡錘車－RA534－A 層



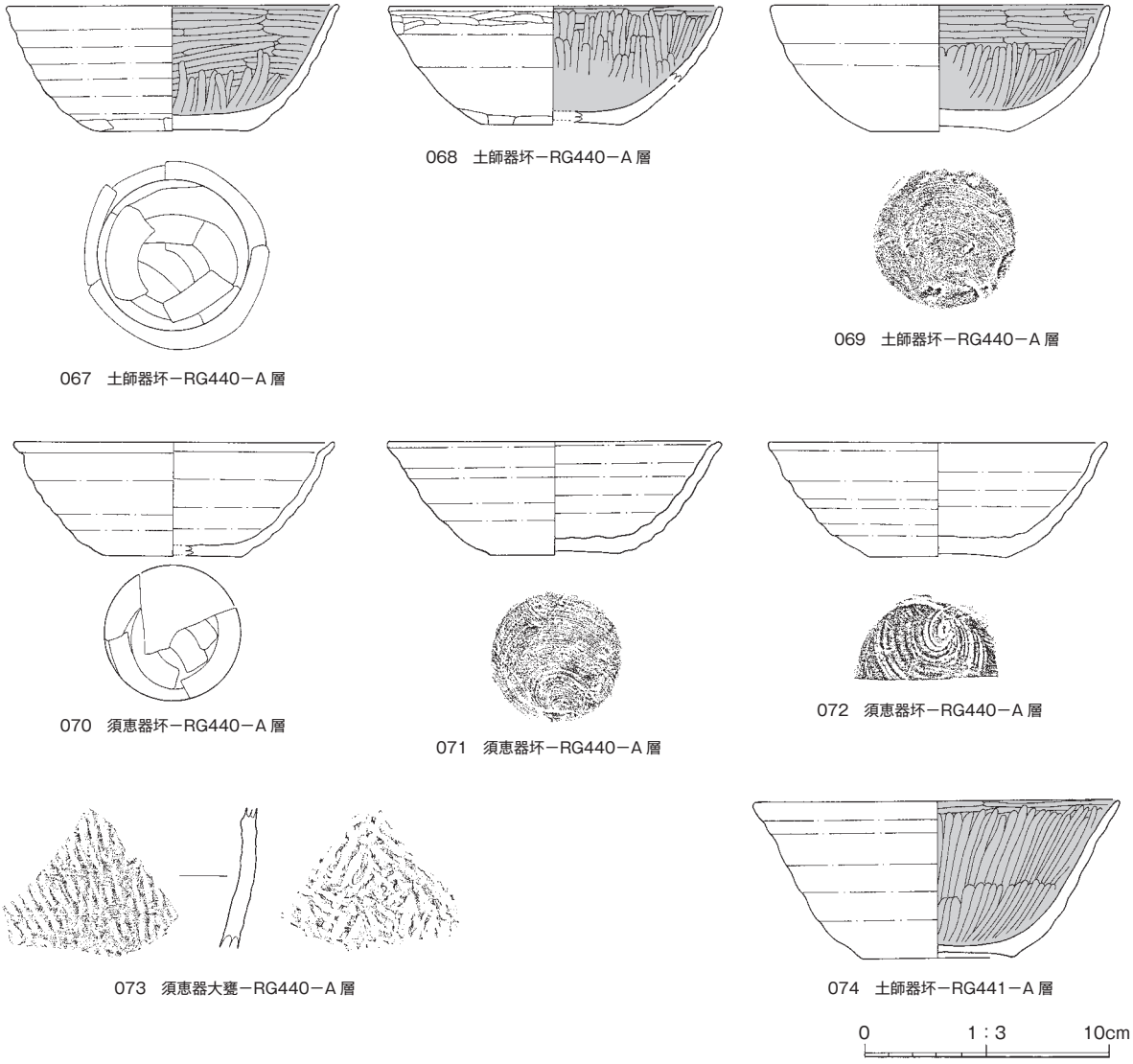
055　フイゴ羽口－RG409－A 層

0　1：3　10cm

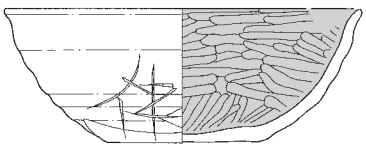
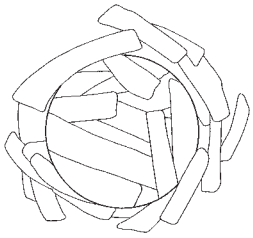
第 79 図　第 39 次調査出土土製品



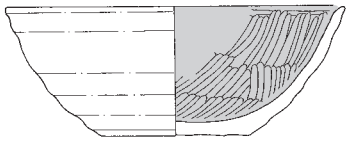
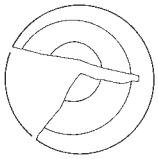
第 80 図　第 39 次調査出土鉄製品



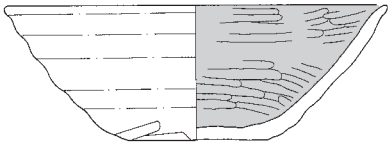
第 81 図　第 42 次調査 RG440・441 出土土器

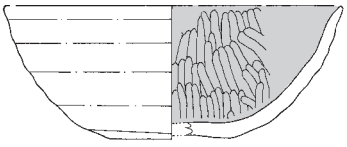
075　土師器坏－RA565c－煙道 J″層－刻書「体？」

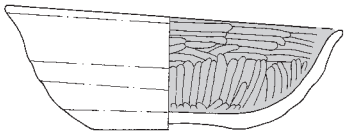
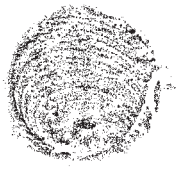
076　土師器坏－RA565－C 層



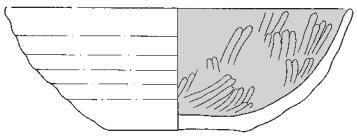
077　土師器坏－RA565－D 層



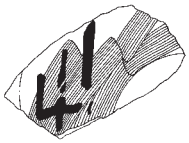
078　土師器坏－RA565c－煙道 C 層

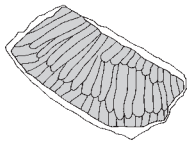



079　土師器坏－RA565－L 層

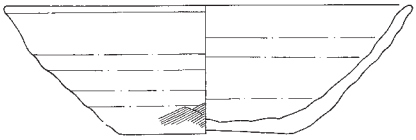


080　土師器坏－RA565－床面

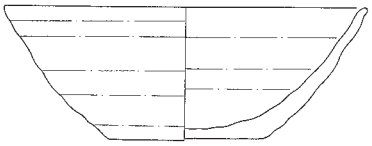




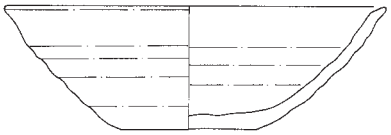
081　土師器坏－RA565－L 層－墨書「山？」



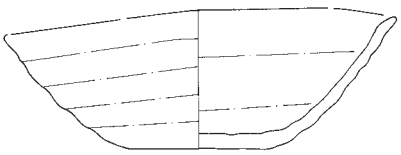
082　須恵器坏－RA565－L 層



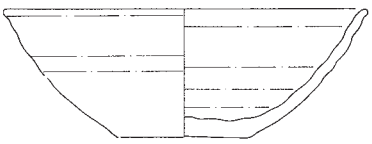
083　須恵器坏－RA565－L 層



084　須恵器坏－RA565－D 層



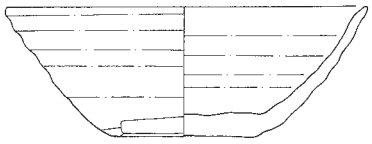
085　須恵器坏－RA565b－煙道焼土



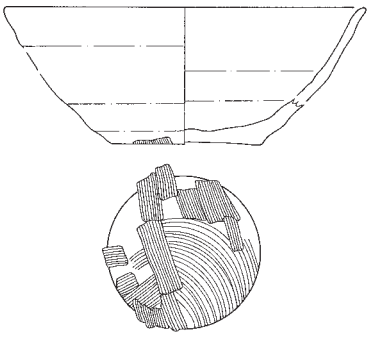
086　須恵器坏－RA565－C 層

0　1：3　10cm

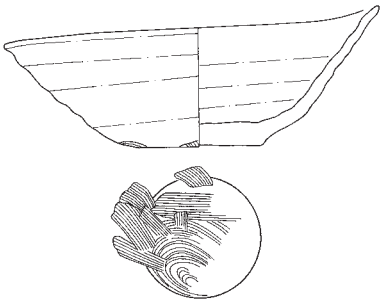
第 82 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（1）



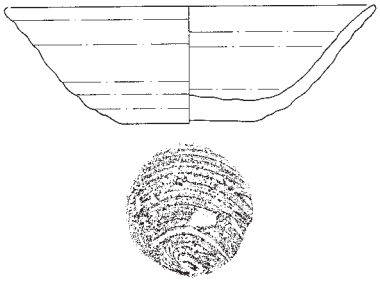
087　あかやき土器坏－RA565－C 層



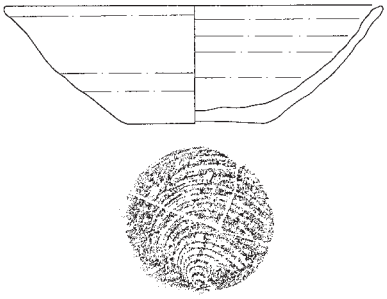
088　あかやき土器坏－RA565－C 層



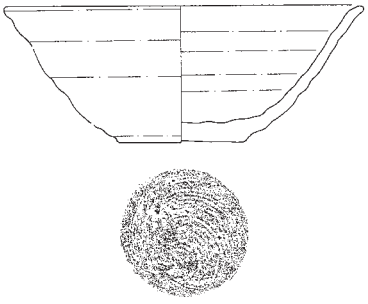
089　あかやき土器坏－RA565－C 層



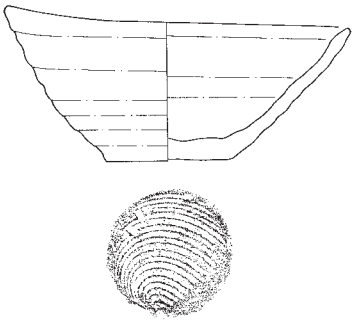
090　あかやき土器坏－RA565a－カマド右袖 K 層



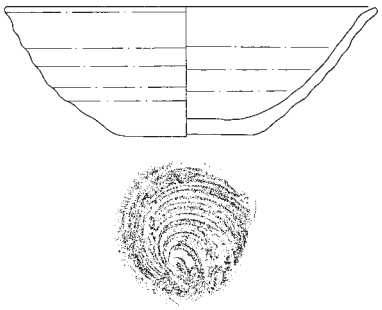
091　あかやき土器－RA565a－カマド J 層



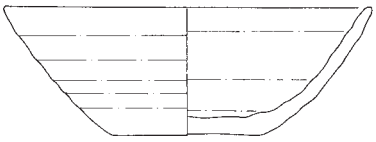
092　あかやき土器－RA565－D 層



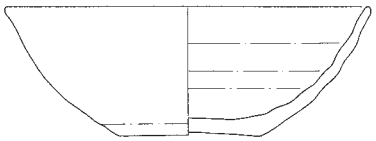
093　あかやき土器坏－RA565－C 層



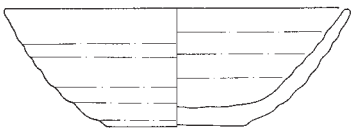
094　あかやき土器坏－RA565－A 層



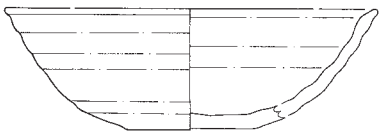
095　あかやき土器坏－RA565－L 層



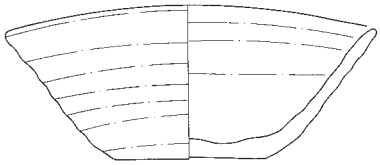
096　あかやき土器坏－RA565－L 層



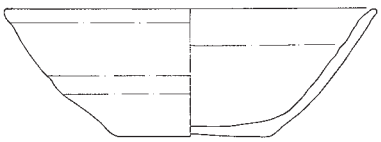
097　あかやき土器坏－RA565－床面



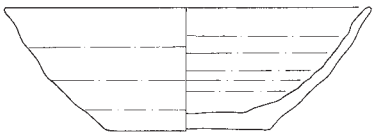
098　あかやき土器坏－RA565－床面



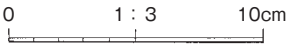
099　あかやき土器坏－RA565a－J 層



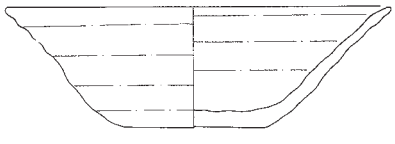
100　あかやき土器坏－RA565a－カマド右袖付近 L´層



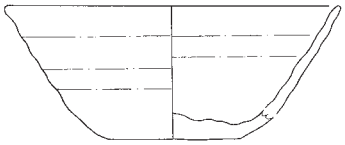
101　あかやき土器坏－RA565a－カマド右袖付近 L´層



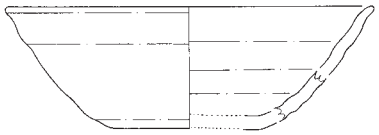
第 83 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（2）



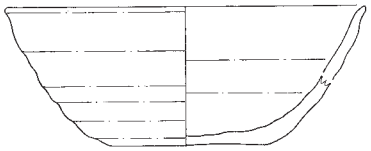
102　あかやき土器坏－RA565a－カマド脇 B 層



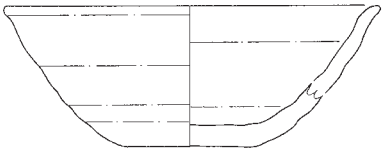
103　あかやき土器坏－RA565a－カマド右袖 K 層



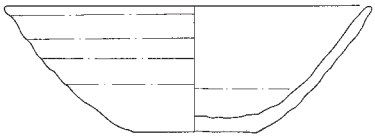
104　あかやき土器坏－RA565－C 層



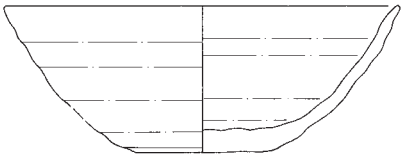
105　あかやき土器坏－RA565－C 層



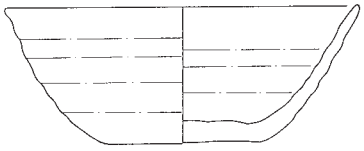
106　あかやき土器坏－RA565－C 層



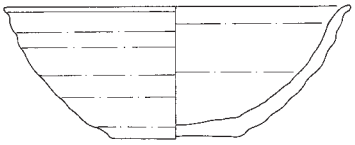
107　あかやき土器坏－RA565－C 層



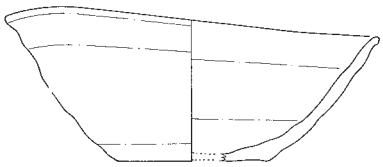
108　あかやき土器坏－RA565－C 層



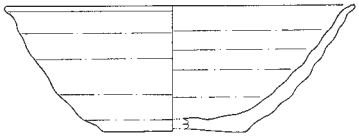
109　あかやき土器坏－RA565－C 層



110　あかやき土器坏－RA565－C 層

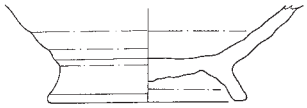


111　あかやき土器坏－RA565－C 層

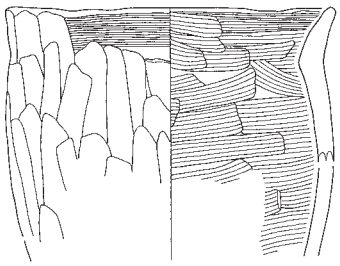


112　あかやき土器坏－RA565－B 層

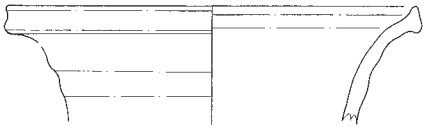
113　あかやき土器高台付坏－RA565－D 層



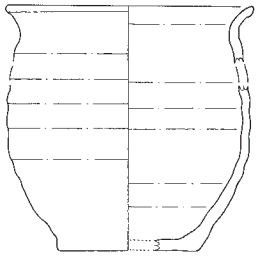
114　あかやき土器高台付坏－RA565－C 層



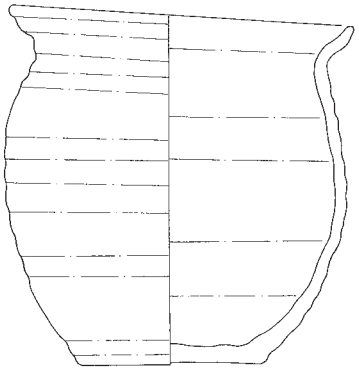
115　土師器甕－RA565a－カマド J 層



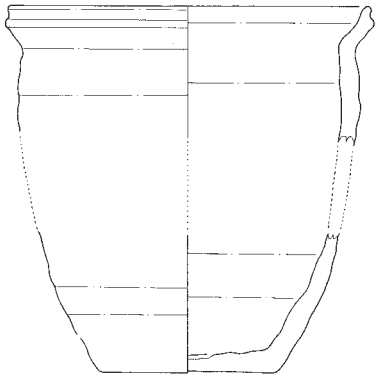
116　須恵器甕－RA565－C 層



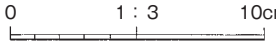
117　あかやき土師器小形甕－RA565－C 層



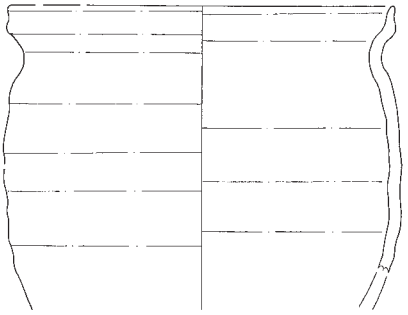
118　あかやき土器甕－RA565－C 層



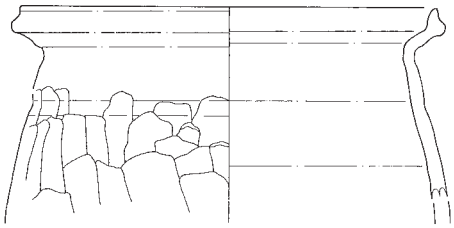
119　あかやき土器甕－RA565－L 層



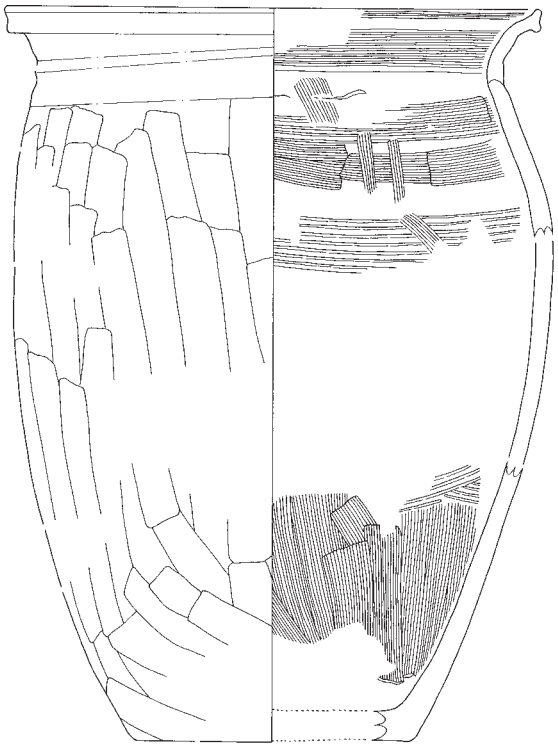
第 84 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（3）



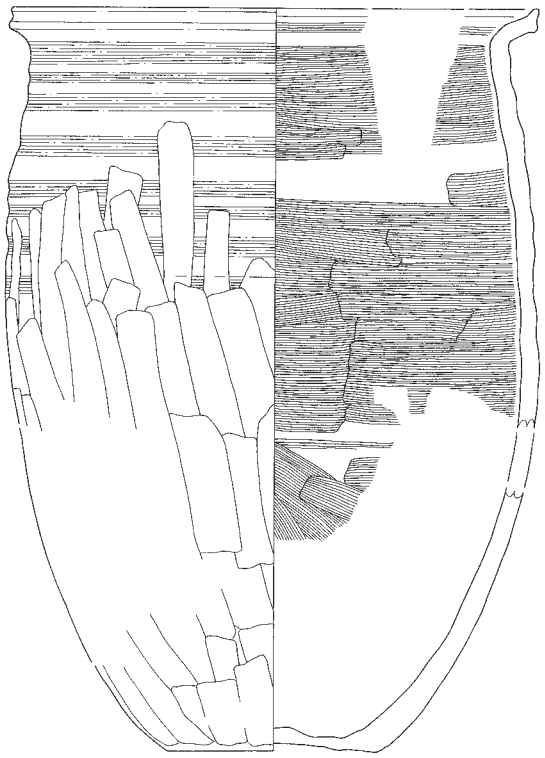
120　あかやき土器甕－RA565－C 層



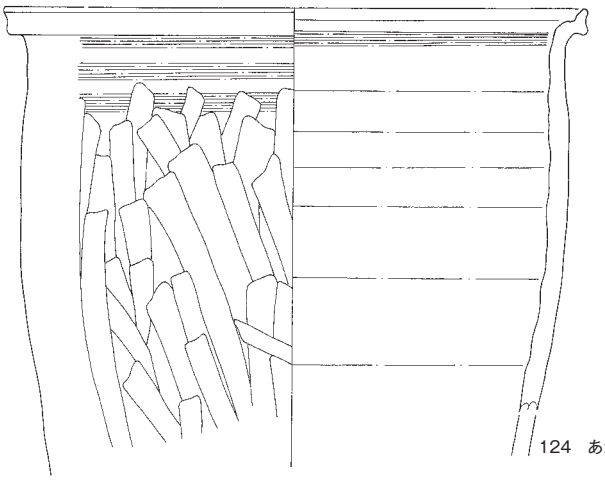
121　あかやき土器甕－RA565a－カマド右袖 K 層



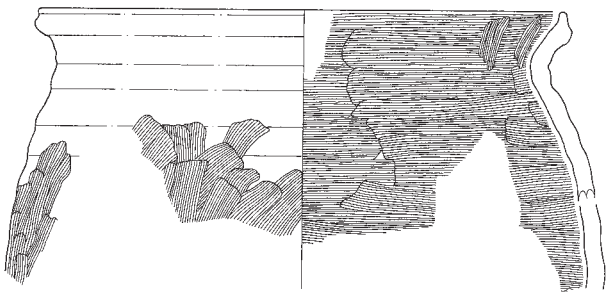
122　あかやき土器甕－RA565c－J″層



123　あかやき土器甕－RA565－C 層



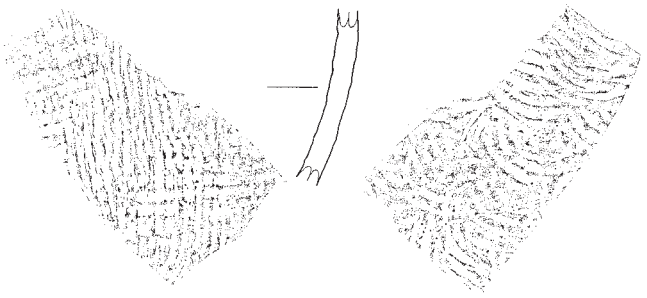
124　あかやき土器甕－RA565c－煙道 J″層



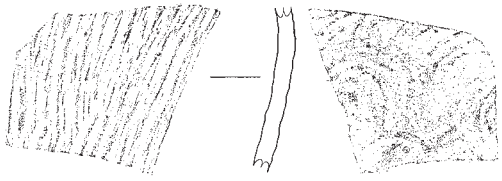
125　あかやき土器甕－RA565a－J 層

0　1：3　10cm

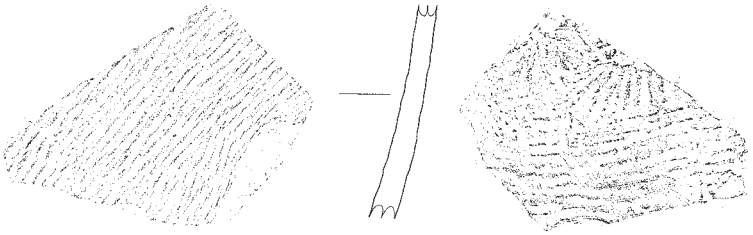
第 85 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（4）



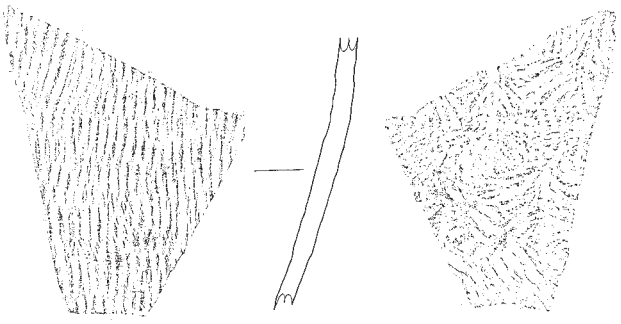
126　須恵器大甕－RA565－C 層



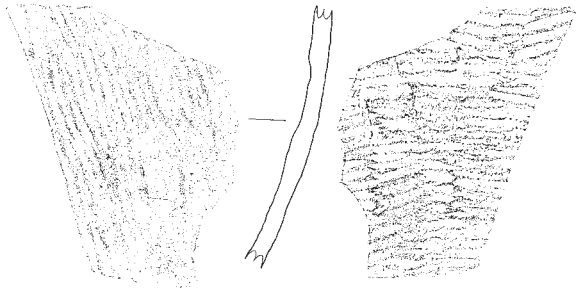
127　須恵器大甕－RA565－C 層



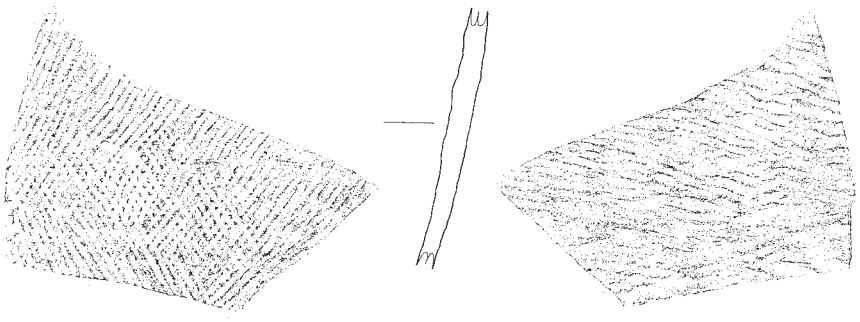
128　須恵器大甕－RA565－B 層



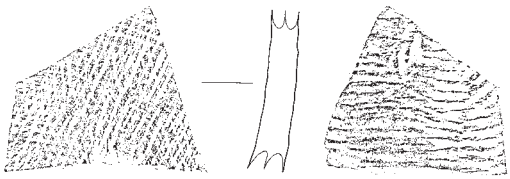
129　須恵器大甕－RA565a－煙道 J 層



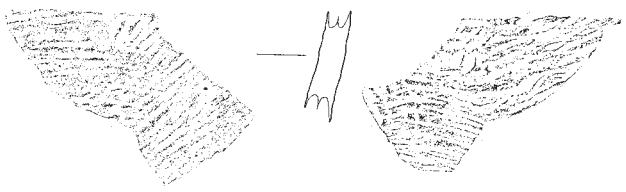
130　須恵器大甕－RA565－L 層



131　須恵器大甕－RA565－床面



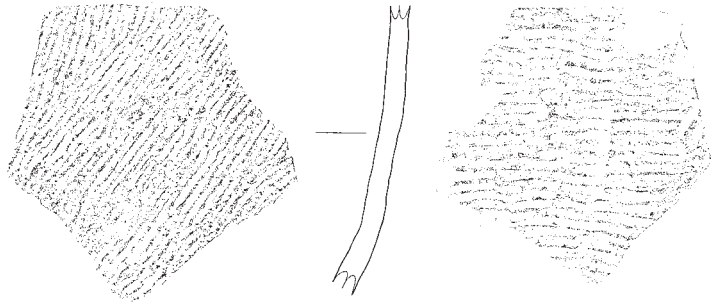
132　須恵器大甕－RA565－C 層



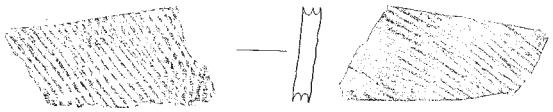
133　須恵器大甕－RA565－D 層

0　1：3　10cm

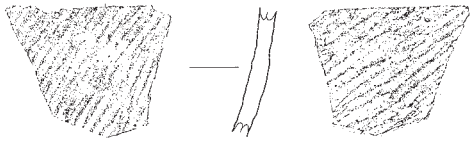
第 86 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（5）



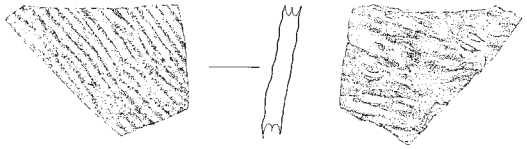
134　須恵器大甕－RA565－A 層



135　須恵器大甕－RA565－C 層

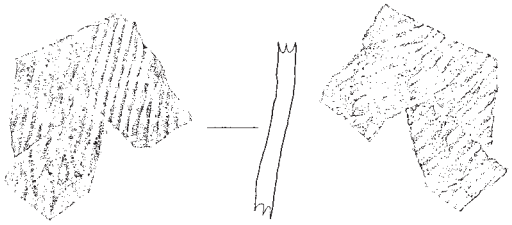


136　須恵器大甕－RA565－B 層

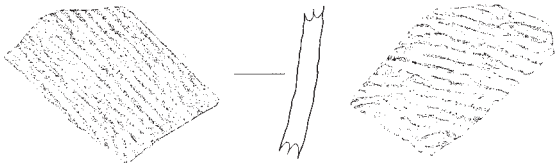


137　須恵器大甕－RA565－B 層

138　須恵器大甕－RA565－B 層



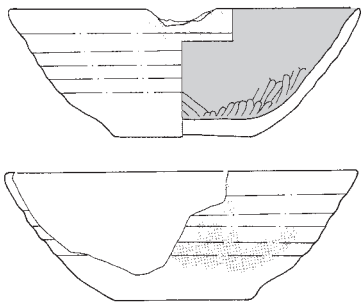
139　須恵器大甕－RA565－A 層



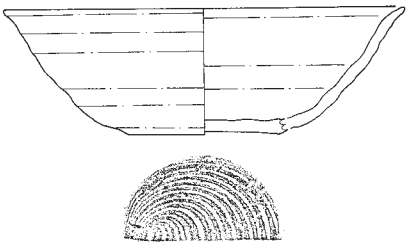
140　須恵器大甕－RA565－A 層

0　1：3　10cm

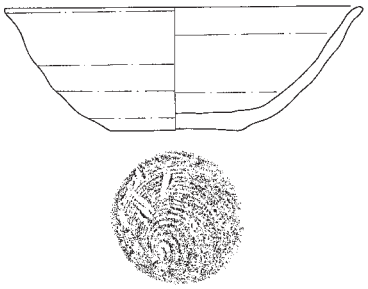
第 87 図　第 45 次調査 RA565 出土土器（6）



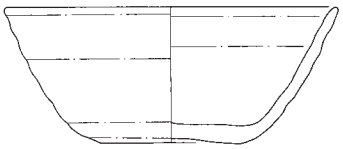
141　土師器坏－RA566－床面－灯明皿？



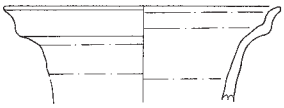
142　須恵器坏－RA566－B 層



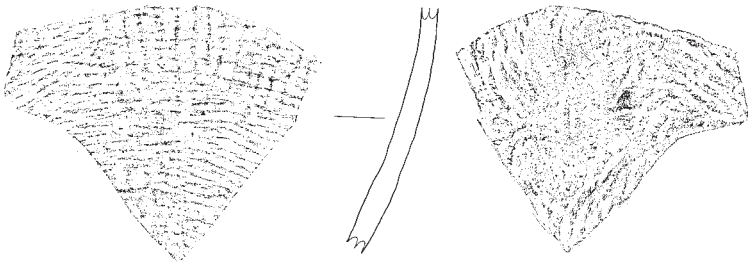
143　あかやき土器坏－RA566－床面



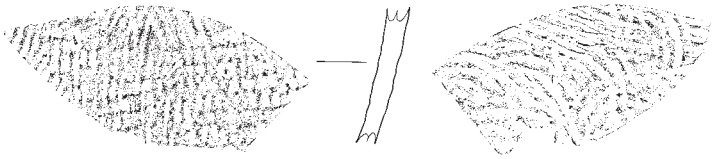
144　あかやき土器坏－RA566－C 層



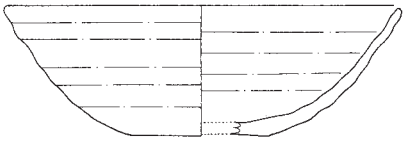
145　須恵器長頸瓶－RA566－B 層



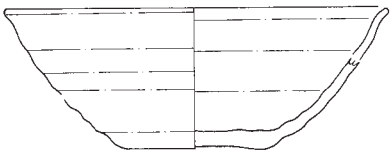
146　須恵器大甕－RA566－C 層



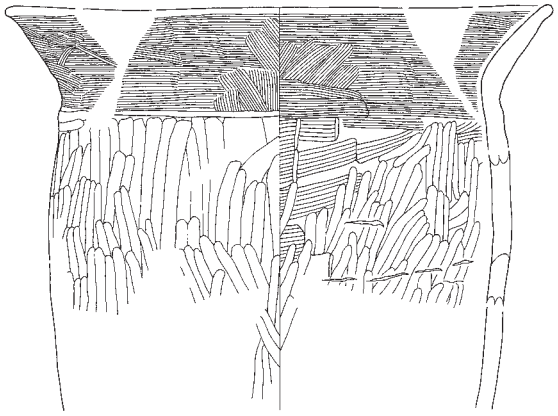
147　須恵器大甕－RA566－B 層



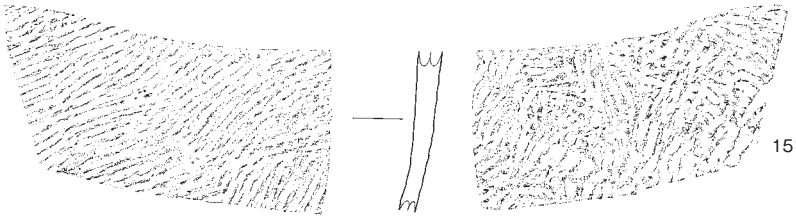
148　須恵器坏－RA567－B 層



149　あかやき土器坏－RA567－B 層



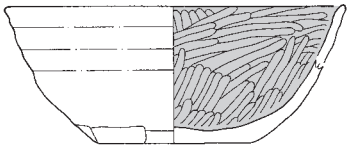
150　土師器甕－RA567－B 層



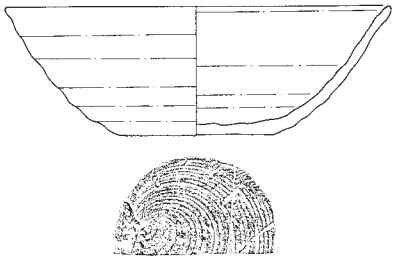
151　須恵器大甕－RA567－B 層

0　1：3　10cm

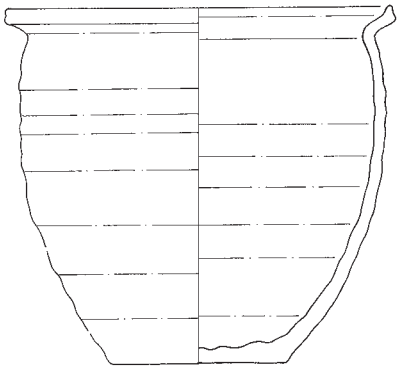
第 88 図　第 45 次調査 RA566・567 出土土器

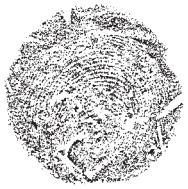


152　土師器坏－RA569a－煙道 J 層



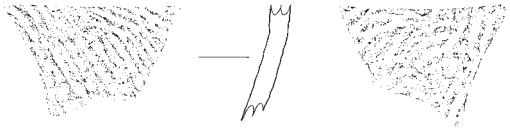
154　須恵器坏－RA569－A 層



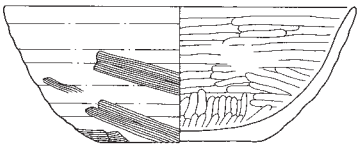


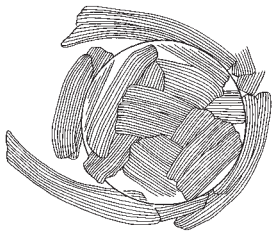
155　あかやき土器甕－RA569－A 層

153　土師器坏－RA569－A 層

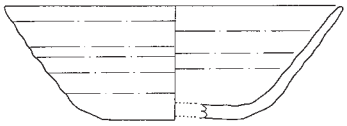


156　須恵器大甕－RA569－A 層

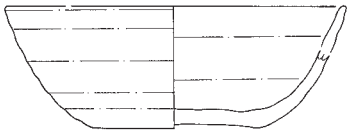




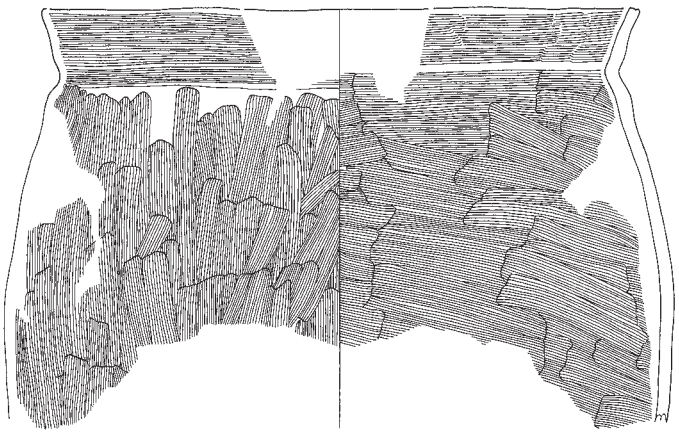
157　土師器坏－RA570－Pit1 埋土



158　須恵器坏－RA570－A 層



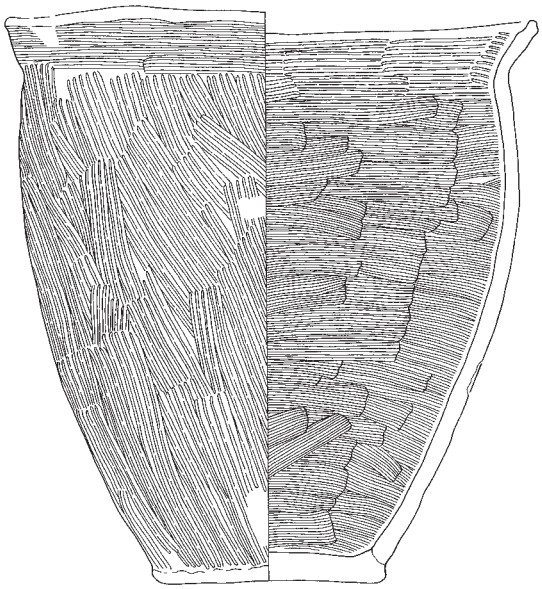
159　あかやき土器－RA570－A 層



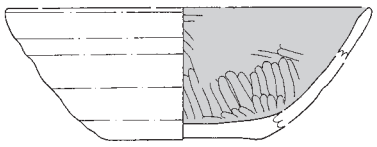
160　土師器甕－RA570－埋土

0　1：3　10cm

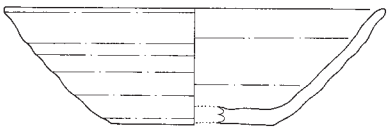
第 89 図　第 45 次調査 RA569・570 出土土器



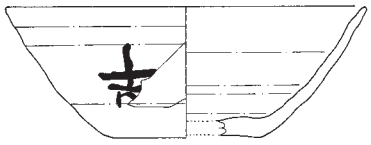
161　土師器甕－RA571－床面



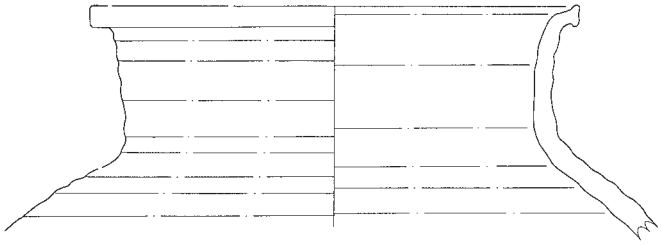
162　土師器坏－RA572－B 層



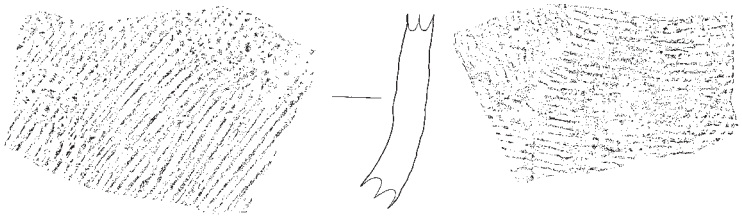
163　須恵器坏－RA572－B 層



164　須恵器坏－RA572－B 層－墨書「志？」



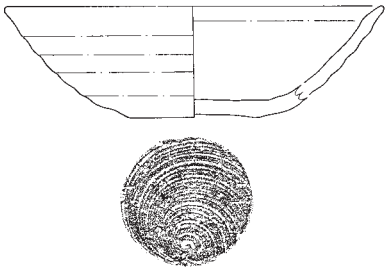
165　須恵器甕－RA572－B 層



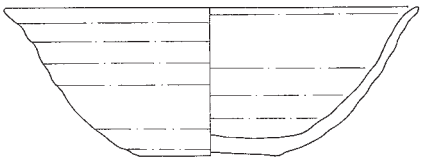
166　須恵器大甕－RA572－B 層

0　1：3　10cm

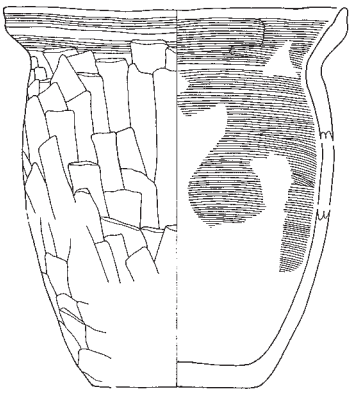
第 90 図　第 45 次調査 RA571・572 出土土器



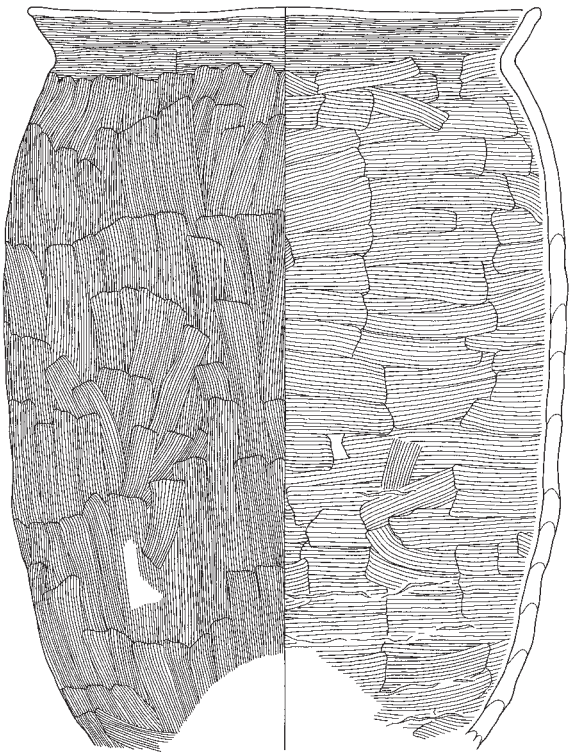
167　須恵器坏－RA573－SE 区 L 層



168　あかやき土器坏－RA573－Pit1 埋土

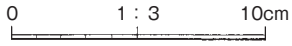


169　土師器甕－RA573－A 層

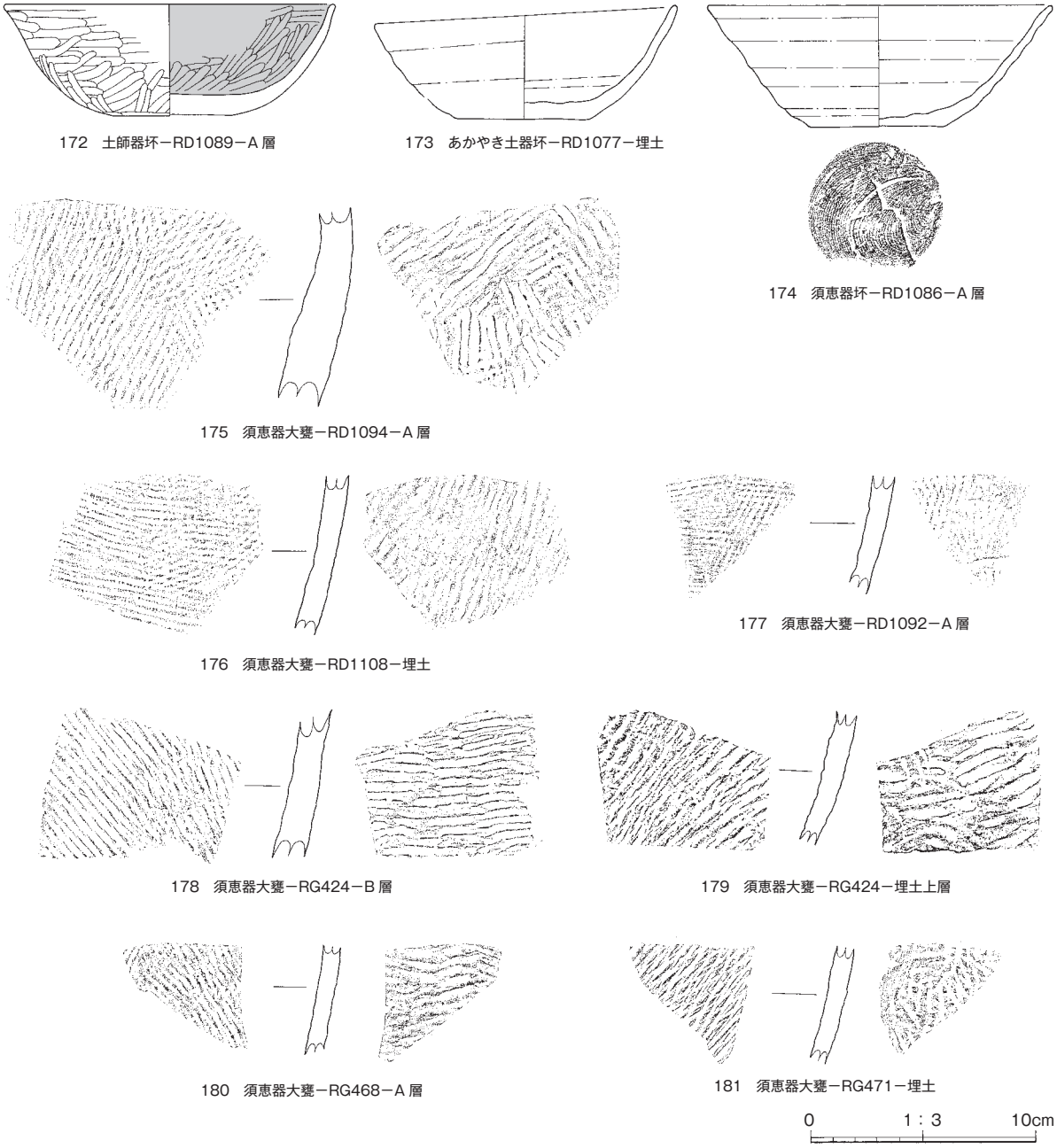


170　土師器甕－RA573－Pit2 埋土

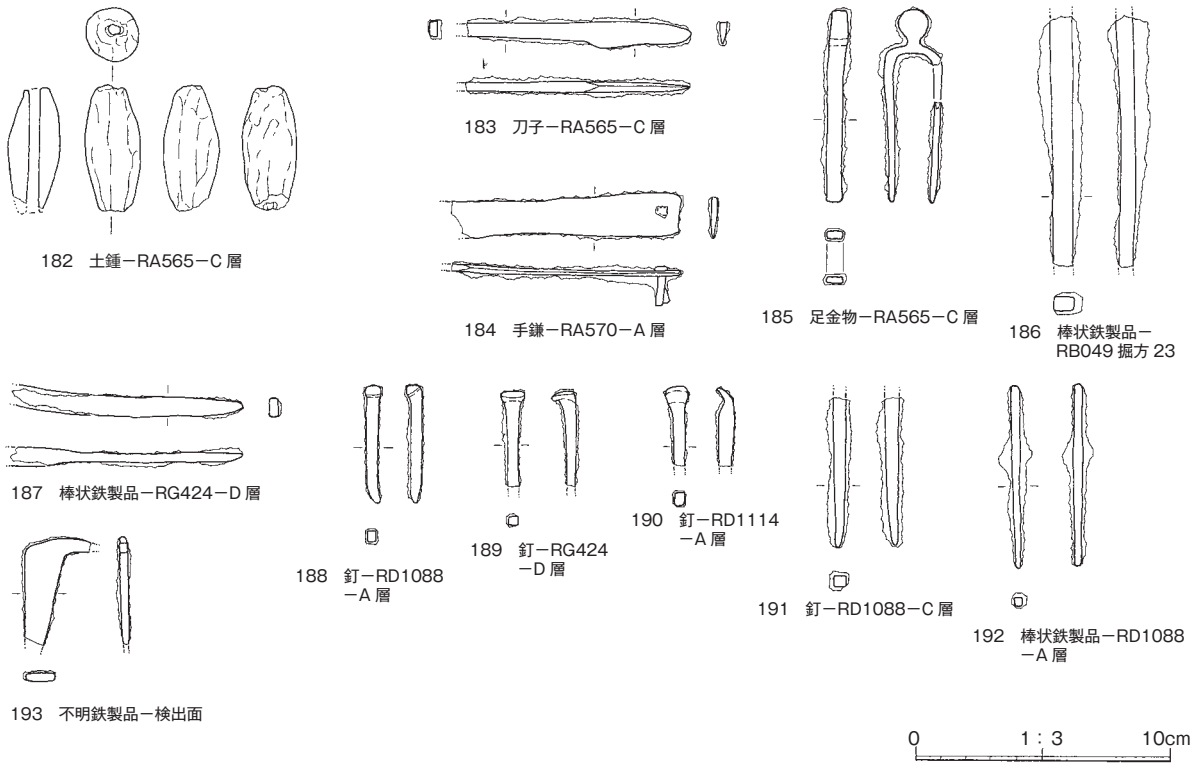
171　須恵器甕－RA575－A 層



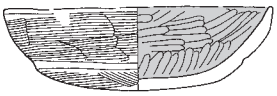
第 91 図　第 45 次調査 RA573・575 出土土器



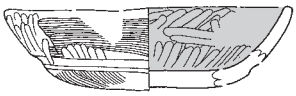
第 92 図　第 45 次調査 RD1077・1086・1089・1092・1094・1108、RG424・468・471 出土土器



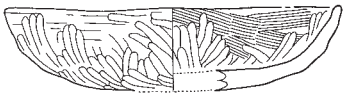
第 93 図　第 45 次調査出土土製品・鉄製品



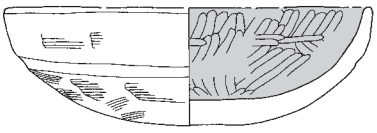
194　土師器坏－RA578－L 層



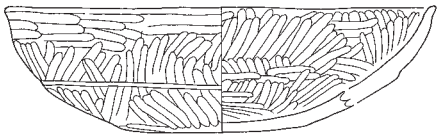
195　土師器坏－RA578－NE 区 A 層



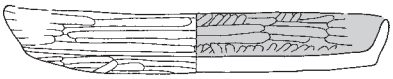
196　土師器坏－RA578－NE 区 A 層



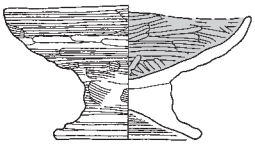
197　土師器坏－RA578－NE 区 C 層



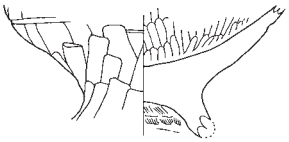
198　土師器坏－RA578－Pit3 埋土



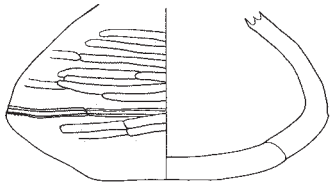
199　土師器坏－RA578－Pit3 埋土

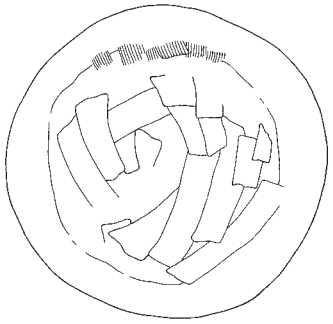


200　高台付坏－RA578－煙道埋土

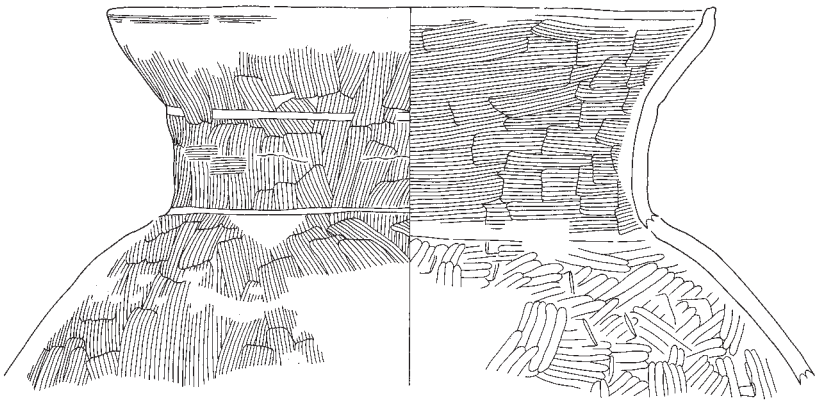


201　高台付坏－RA578－床面 No.4

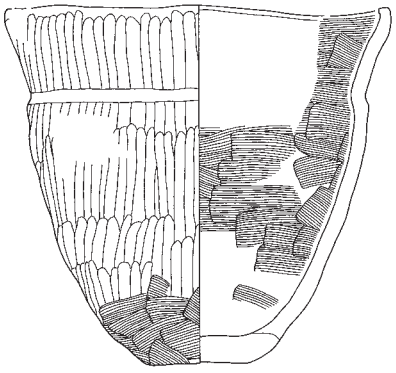




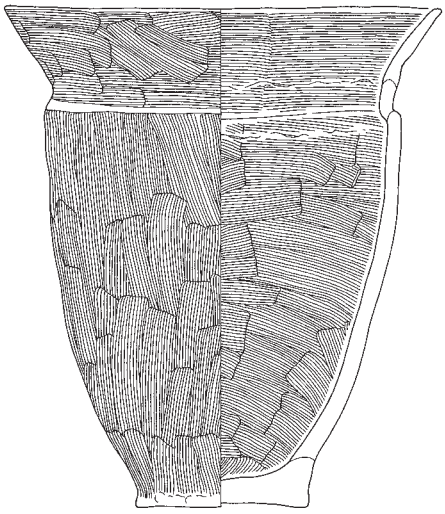
202　小形壺－RA578－Pit2 埋土－朱彩



203　土師器球胴甕－RA578－床面 No.3－朱彩



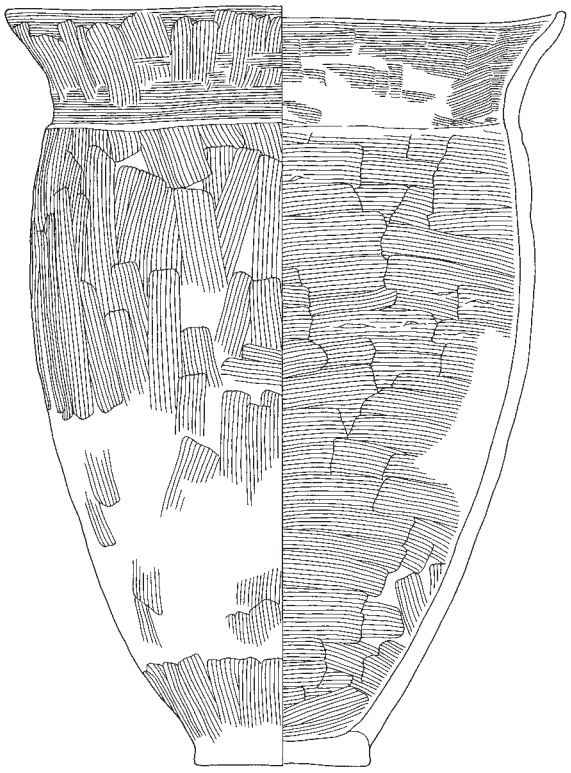
204　土師器甕－RA578－B 層



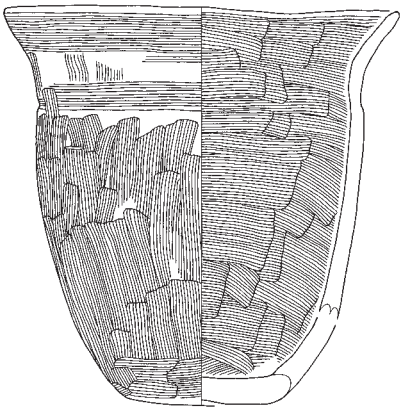
205　土師器甕－RA578－Pit1 埋土

0　1：3　10cm

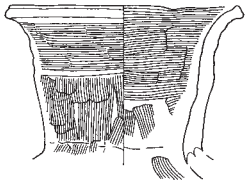
第 94 図　第 46 次調査 RA578 出土土器



206　土師器甕－RA578－床面 No.2



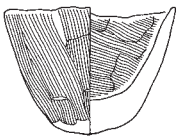
207　土師器甕－RA578－床面 No.1



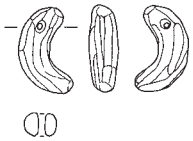
208　土師器長頸瓶－RA579－NE 区 B 層

0　1：3　10cm

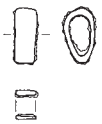
第 95 図　第 46 次調査 RA578・579 出土土器



209　ミニチュア土器－RA578
－NE 区 B 層



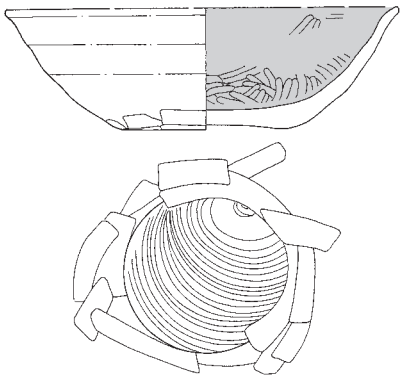
210　土製勾玉－RA578
－NE 区 B 層



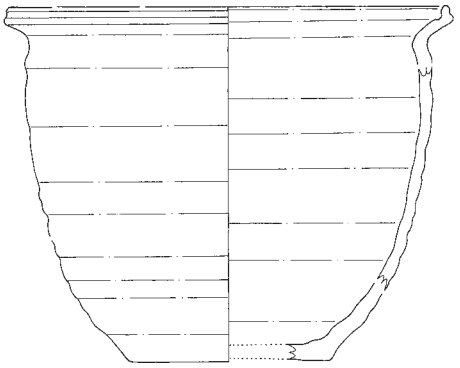
211　切羽－RA578－NE 区床面

0　1：3　10cm

第 96 図　第 46 次調査出土土製品・鉄製品

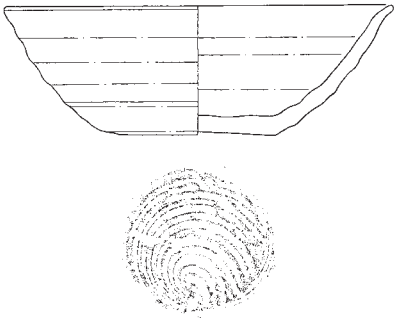


212　土師器坏－RA614－床面 No.1

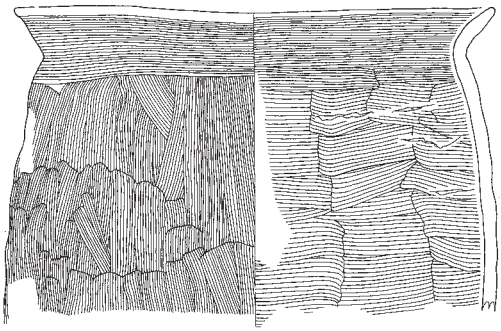


214　あかやき土器甕－RA614－SW 区 A 層

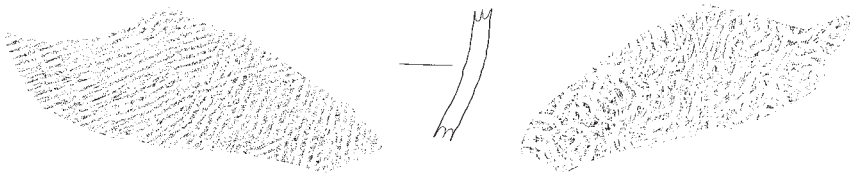
213　土師器坏－RA614－NW 区 A 層



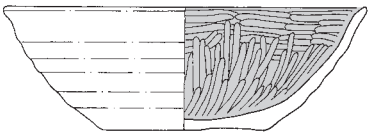
215　須恵器坏－RA615－NW 区 B 層



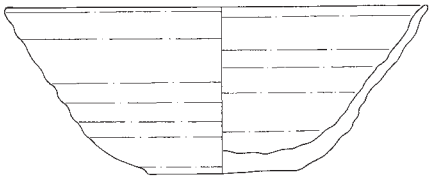
216　土師器甕－RA615－カマド付近 B 層



217　須恵器大甕－RA615－NW 区 A 層



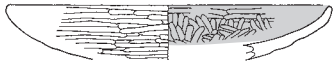
218　土師器坏－RA616－床面



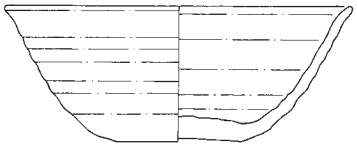
219　須恵器坏－
RA619－NW 区 B 層

0　1：3　10cm

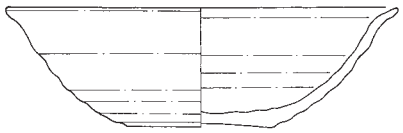
第 97 図　第 57 次調査 RA614・615・616・619 出土土器



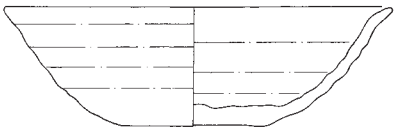
220　土師器坏－RA617－NE 区 C 層



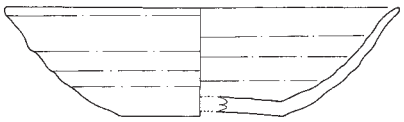
221　須恵器坏－RA617－SW 区床面



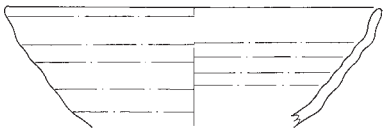
222　須恵器坏－RA617－NE 区 B 層



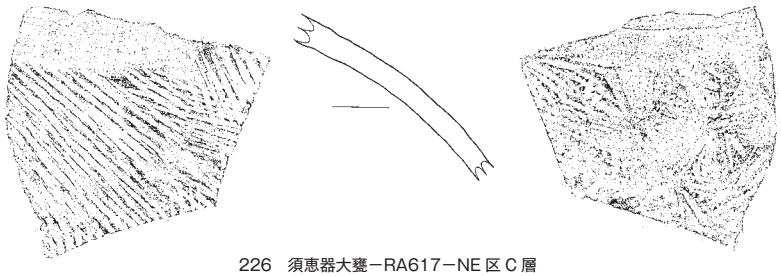
223　須恵器坏－RA617－NE 区 B 層



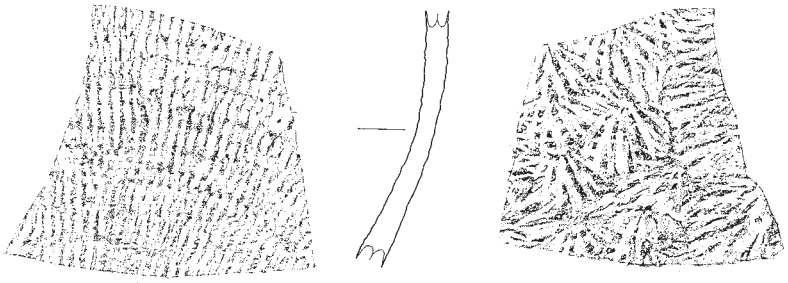
224　須恵器坏－RA617－NE 区 B 層



225　あかやき土器坏－SW 区－C 層



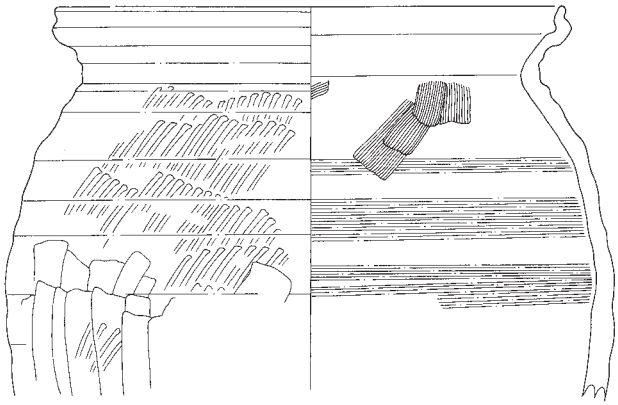
226　須恵器大甕－RA617－NE 区 C 層



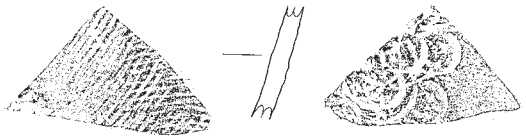
227　須恵器大甕－RA617－SW 区床面

0　1：3　10cm

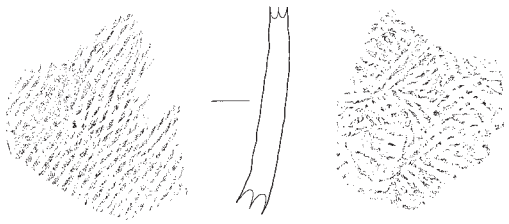
第 98 図　第 57 次調査 RA617 出土土器



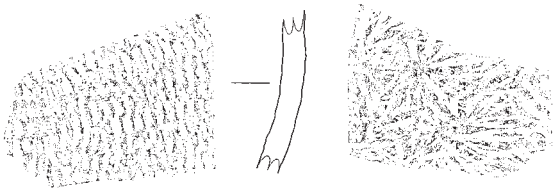
228　あかやき土器甕－RD2009－埋土



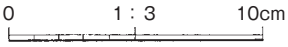
229　須恵器大甕－RD2006－C 層



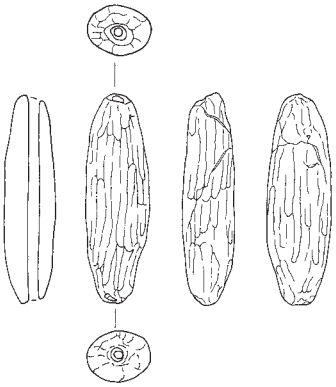
230　須恵器大甕－RD2006－C 層



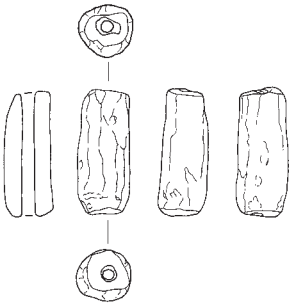
231　須恵器大甕－RD2008－A 層



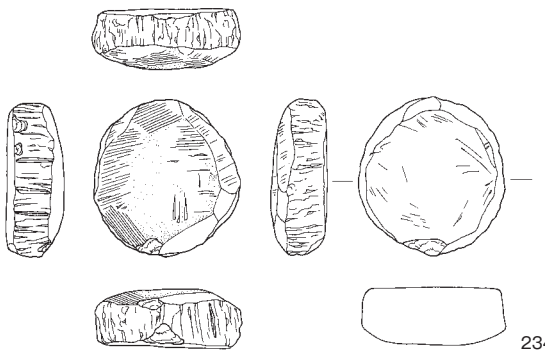
第 99 図　第 57 次調査 RD2006・2008・2009 出土土器



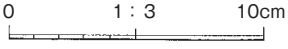
232　土錘－RA615－NW 区床面



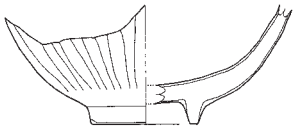
233　土錘－RA617－NE 区 L 層



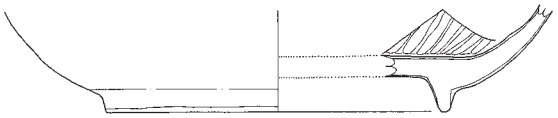
234　砥石－RD2006－B 層



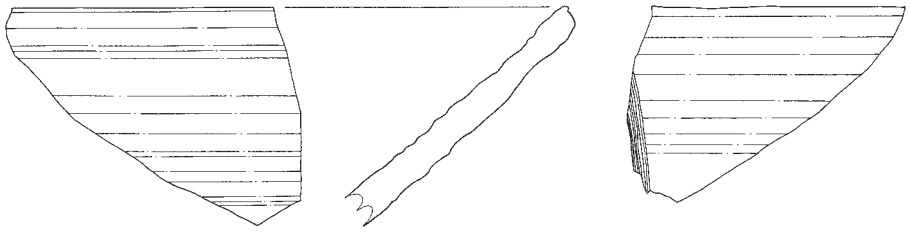
第 100 図　第 57 次調査出土土製品・石製品



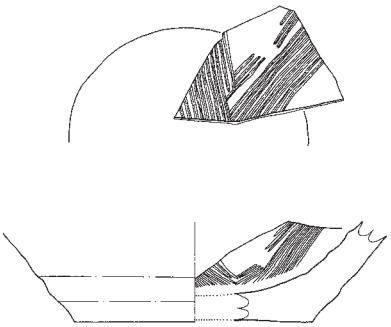
235　青磁碗－RG042－C 層



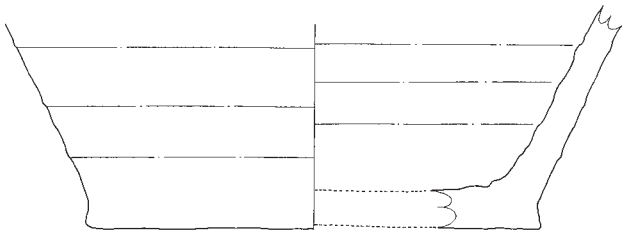
236　青磁盤－RG042－C 層



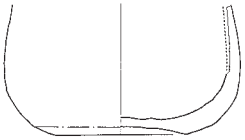
237　須恵器系陶器擂鉢－RG042－埋土



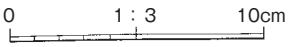
238　須恵器系陶器擂鉢－RG042－B 層

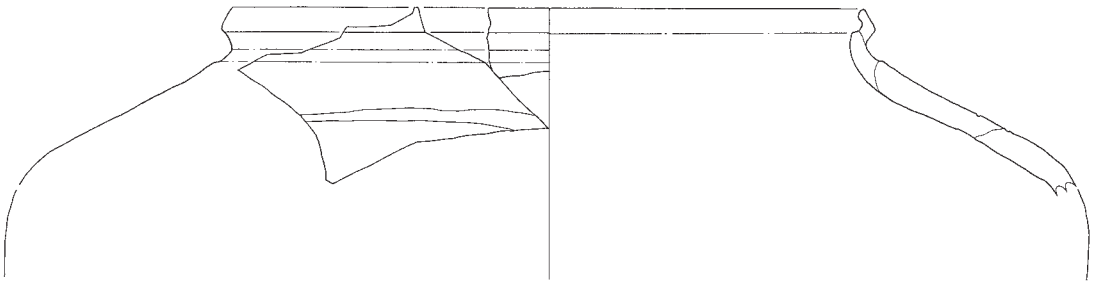


239　須恵器系陶器壷（甕）－RG042－D 層

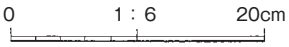


240　須恵器系陶器埦－RG042－D 層－緑釉





241　瓷器系陶器大甕－RG042－B 層

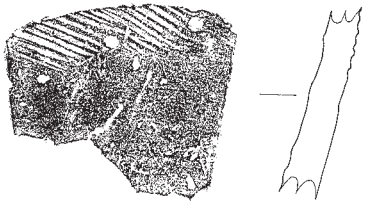


第 101 図　第 39 次調査出土陶磁器

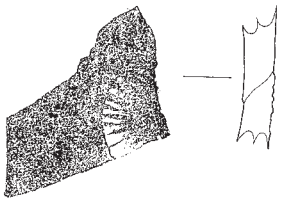
242　瓷器系陶器大甕－RG042－D 層

243　瓷器系陶器大甕－RG042－C 層

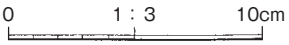
244　瓷器系陶器－RG042－C 層



245　瓷器系陶器甕－RG042－B 層



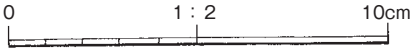
246　常滑甕－RG042－B 層



第 102 図　第 39 次調査出土陶器

247　天聖元寶－RD1088－A 層

248　大観通寶－RD1088－B 層



第 103 図　第 45 次調査出土古銭

249　開元通寶

250　祥符元寶

251　天聖元寶

252　景祐元寶？

253　皇宋通寶

254　熙寧元寶

255　熙寧元寶

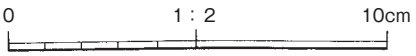
256　元豊通寶？

257　元祐通寶

258　元祐通寶

259　元祐通寶

260　紹聖元寶



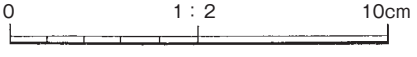
第 104 図　第 46 次調査出土古銭

261　寛永通寶－RA615－撹乱

262　天聖元寶－RB054 掘方 b－底面

263　祥符通寶？－検出面

264　寛永通寶－検出面



第 105 図　第 57 次調査出土古銭

写　真　図　版

第 1 図版　盛南開発地区航空写真（北から）※ UR 都市機構ホームページより (2009 年 9 月撮影)

調査区北西部全景（南西から）

調査区南東部全景（西から）

RA523 竪穴住居跡（南東から）

第 2 図版　台太郎遺跡第 37 次調査

調査区全景（北から）

調査区全景（垂直）

第 3 図版 台太郎遺跡第 39 次調査（1）

RA524 竪穴住居跡（東から）

RA525 竪穴住居跡（北西から）

RA525 竪穴住居跡カマド付近（西から）

第 4 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（2）

RA526 竪穴住居跡（北東から）

RA528 竪穴住居跡（西から）

RA528 竪穴住居跡遺物出土状況（西から）

第 5 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（3）

RA529 竪穴住居跡（西から）

RA529 竪穴住居跡遺物出土状況（南から）

RA530 竪穴住居跡（南東から）

第 6 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（4）

RA534 竪穴住居跡（南東から）

RA534 竪穴住居跡遺物出土状況（南から）

RA535 竪穴住居跡（東から）

第 7 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（5）

RG042E 堀跡（東から）

RG042E 堀跡断面（西から）

RG042W 堀跡断面（南から）

第 8 図版　台太郎遺跡第 39 次調査（6）

調査区全景（東から）

RA546 竪穴住居跡焼土・貯蔵穴
（北西から）

RG440 溝跡・RD983 土坑（南から）

第 9 図版　台太郎遺跡第 42 次調査

調査区全景（南から）

調査区全景（垂直）

第 10 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（1）

RA565 竪穴住居跡（南から）

RA565a 竪穴住居跡カマド付近
（南東から）

RA565 竪穴住居跡床構築土内
遺物出土状況

第 11 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（1）

RA566 竪穴住居跡（南東から）

RA567 竪穴住居跡（東から）

RA568 竪穴住居跡（東から）

第 12 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（3）

RA569 竪穴住居跡（北から）

RA570 竪穴住居跡（南から）

RA571 竪穴住居跡（西から）

第 13 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（4）

RA572 竪穴住居跡（南から）

RA573 竪穴住居跡（南西から）

RA573 竪穴住居跡遺物出土状況
（南西から）

第 14 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（5）

RA574 竪穴住居跡 (南から)

RA575 竪穴住居跡（南から）

RA576 竪穴住居跡（南西から）

第 15 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（6）

RE060 竪穴状遺構（東から）

RB049 掘立柱建物跡（東から）

RB052 掘立柱建物跡（北から）

第 16 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（7）

RG042 堀跡（南から）

RA042 堀跡断面（北から）

RA424W 堀跡（北から）

第 17 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（8）

RG424W 堀跡断面（北から）

RG424E 堀跡（西から）

RG424E 堀跡断面（西から）

第 18 図版　台太郎遺跡第 45 次調査（9）

調査区全景（北西から）

RA578 竪穴住居跡（南東から）

RA579 竪穴住居跡（北西から）

第 19 図版　台太郎遺跡第 46 次調査

調査区全景（南から）

RD2004 土坑（西から）

RD2004 土坑断面（南から）

第 20 図版　台太郎遺跡第 56 次調査

調査区全景（南から）

調査区全景（北から）

第 21 図版　台太郎遺跡第 57 次調査（1）

RA614 竪穴住居跡（北東から）

RA615 竪穴住居跡（南から）

RA617 竪穴住居跡（東から）

第 22 図版　台太郎遺跡第 57 次調査（2）

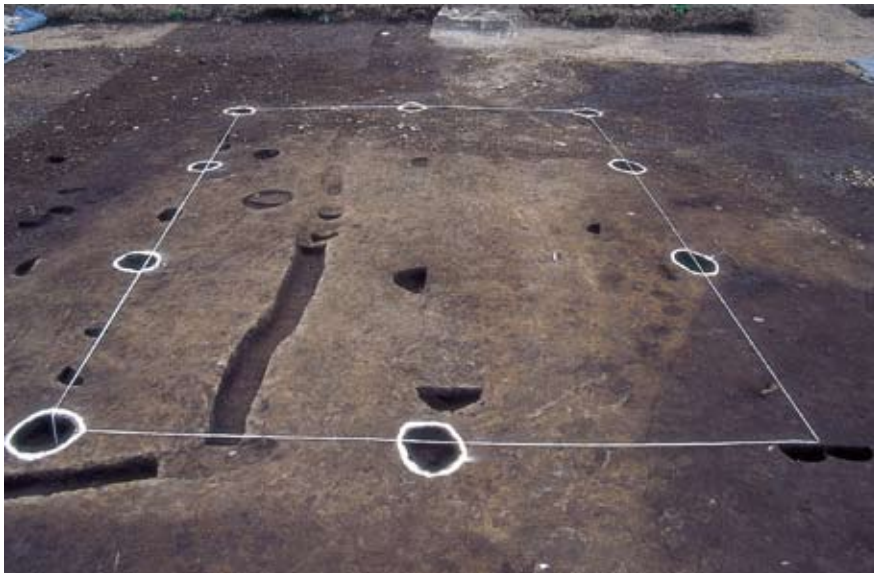
RA619 竪穴住居跡（西から）

RD2009 土坑（北西から）

RD2009 土坑袋状ピット

第 23 図版　台太郎遺跡第 57 次調査（3）

RB054 掘立柱建物跡（北から）



RB055 掘立柱建物跡（東から）

第 24 図版　台太郎遺跡第 57 次調査（4）

RA525 竪穴住居跡出土土器

RA528 竪穴住居跡出土土器

第 25 図版　台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（1）

RA534 竪穴住居跡出土土器

RA535 竪穴住居跡出土土器

第 26 図版 台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（2）

005　土師器坏 -RA525

006　土師器坏 -RA525

007　土師器坏 -RA525

008　土師器坏 -RA525

011　須恵器坏 -RA525

012　須恵器坏 -RA525

017　土師器坏 -RA528

018 土師器坏 -RA528

021　須恵器坏 -RA528

026　須恵器坏 -RA535

027　須恵器坏 -RA535

028　須恵器坏 -RA535

041　土師器高台付坏 -RD971

046　土師器坏 -RA524

047　あかやき土器坏 -RA526

049　土師器坏 -RA526

第 27 図版　台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（3）

014 土師器小形甕 -RA525

016 土師器甕 -RA525

022 土師器甕 -RA528

029 土師器甕 -RA535

035 土師器小形甕 -RA534

036 土師器甕 -RA534

037 土師器甕 -RA534

038 土師器甕 -RA534

039 土師器甕 -RA534

第 28 図版　台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（4）

040 土師器甕 -RA534

050 土師器球胴甕 -RA529

025 須恵器大甕 -RA528

第 29 図版　台太郎遺跡第 39 次調査出土土器（5）

RG440 溝跡出土土器

067 土師器坏 -RG440

068 土師器坏 -RG440

069 土師器坏 -RG440

070 須恵器坏 -RG440

071 須恵器坏 -RG440

074 土師器坏 -RG441

第 30 図版　台太郎遺跡第 42 次調査出土土器

RA565 竪穴住居跡出土土器

075 土師器坏 -RA565

076 土師器坏 -RA565

077 土師器坏 -RA565

079 土師器坏 -RA565

080 土師器坏 -RA565

082 須恵器坏 -RA565

083 須恵器坏 -RA565

084 須恵器坏 -RA565

085 須恵器坏 -RA565

第 31 図版　台太郎遺跡第 45 次調査出土土器（1）

087 あかやき土器坏 -RA565

088 あかやき土器坏 -RA565

089 あかやき土器坏 -RA565

091 あかやき土器坏 -RA565

092 あかやき土器坏 -RA565

093 あかやき土器坏 -RA565

095 あかやき土器坏 -RA565

096 あかやき土器坏 -RA565

097 あかやき土器坏 -RA565

099 あかやき土器坏 -RA565

100 あかやき土器坏 -RA565

104 あかやき土器坏 -RA565

106 あかやき土器坏 -RA565

107 あかやき土器坏 -RA565

108 あかやき土器坏 -RA565

109 あかやき土器坏 -RA565

110 あかやき土器坏 -RA565

113 あかやき土器高台付坏 -RA565

第 32 図版　台太郎遺跡第 45 次調査出土土器（2）

114 あかやき土器高台付坏 -RA565

141 土師器坏 -RA566

143 あかやき土器坏 -RA566

152 土師器坏 -RA569

154 須恵器坏 -RA569

157 土師器坏 -RA570

159 あかやき土器坏 -RA570

162 土師器坏 -RA572

168 あかやき土器坏 -RA573

172 土師器坏 -RD1089

173 あかやき土器坏 -RD1077

174 須恵器坏 -RD1086

118 あかやき土器甕 -RA565

120 あかやき土器甕 -RA565

122 あかやき土器甕 -RA565

第 33 図版　台太郎遺跡第 45 次調査出土土器（3）

123 あかやき土器甕 -RA565

150 土師器甕 -RA567

155 あかやき土器甕 -RA569

161 土師器甕 -RA571

169 土師器甕 -RA573

165 須恵器甕 -RA572

第 34 図版　台太郎遺跡第 45 次調査出土土器（4）

第 46 次調査 RA578 竪穴住居跡出土土器

195 土師器坏 -RA578

197 土師器坏 -RA578

198 土師器坏 -RA578

199 土師器坏（Ⅲ）-RA578

200 土師器高台付坏 -RA578

201 土師器高台付坏 -RA578

第 35 図版　台太郎遺跡第 46 次調査出土土器（1）

202 土師器小形壷（朱彩）-RA578

203 土師器球胴甕（朱彩）-RA578

204 土師器甕 -RA578

205 土師器甕 -RA578

206 土師器甕 -RA578

207 土師器甕 -RA578

第 36 図版　台太郎遺跡第 46 次調査出土土器

212 土師器坏 -RA614

213 土師器坏 -RA614

215 須恵器坏 -RA615

218 土師器坏 -RA616

219 須恵器坏 -RA619

223 須恵器坏 -RA617

225 あかやき土器坏 -RA617

214 あかやき土器甕 -RA614

216 土師器甕 -RA615

第 37 図版　台太郎遺跡第 57 次調査出土土器

075 刻書「体？」（土師器坏），
第 45 次調査 RA565

081 墨書「山？」（土師器坏），
第 45 次調査 RA565

164 墨書「志？」（須恵器坏），
第 45 次調査 RA572

第 38 図版　台太郎遺跡出土刻書土器・墨書土器

勾玉・紡錘車・フイゴ羽口・土錘・ミニチュア土器・砥石

鉇・手鎌・刀子・釘・足金物

第 39 図版　台太郎遺跡出土土製品・石製品・鉄製品

第 39 次調査出土中世陶磁器

第 45 次調査出土中世陶磁器

第 45 次調査出土近世陶磁器

第 40 図版　台太郎遺跡出土陶磁器

第 45 次調査 RD1088 土坑出土古銭
（北宋銭）

第 46 次調査遺構外出土古銭
（唐銭・北宋銭）

第 57 次調査出土古銭
（北宋銭・寛永通宝）

第 41 図版　台太郎遺跡出土古銭

報 告 書 抄 録

ふりがな	せいなんちくいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ4
書名	盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅳ
副書名	盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成13～18年度発掘調査①　台太郎遺跡
編著者名	津嶋知弘
編集機関	盛岡市遺跡の学び館（刊行：独立行政法人都市再生機構・盛岡市･盛岡市教育委員会）
所在地	〒020－0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1　　電話　019－635－6600
発行年月日	2012年９月30日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	（世界測地系）			(㎡)	
だいたろういせき	いわてけんもりおかし	03201		39°	141°	37次:2001.5.28-6.22	872	土地区画整理事業等
台太郎遺跡	岩手県盛岡市			40′	08′	38次:2001.6.1-6.15	309	
	むかいなかの			57″	25″	39次:2001.8.1-11.2	1,302	
	向中野					42次:2001.11.26-12.12	123	
	だいたろう･ようかいちば					43次:2001.11.26-12.12	112	
	台太郎･八日市場ほか					43次補足:2002.4.22	42	
						45次:2002.5.7-8.9	1,618	
						46次:2002.10.11-11.12	334	
						47次:2002.11.6	184	
						48次:2002.11.21-11.22	326	
						49次:2002.12.24-12.25	49	
						56次:2005.6.20-6.21	50	
						57次:2005.6.6-8.5	1,047	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台太郎遺跡	集落				
第37次調査		古代 古代以降	竪穴住居跡1 土坑5,溝跡2	土師器	
第38次調査		なし			
第39次調査		古代 中世 近世以降	竪穴住居跡12, 土坑10,溝跡18, 焼土遺構1 掘立柱建物跡1,堀跡2 溝跡1	土師器,須恵器,あかやき土器,土錘, 紡錘車,フイゴ羽口,鉋,刀子,釘,鉄鏃 中国青磁,須恵器系陶器,瓷器系陶器	
第42次調査		古代	竪穴住居跡1,土坑2,溝跡2	土師器,須恵器	
第43次調査		なし			
第43次補足調査		なし			
第45次調査		古代 古代以降 中世	竪穴住居跡13, 竪穴状遺構4 土坑36,溝跡11 掘立柱建物跡5, 掘立柱列跡1,堀跡2	土師器,須恵器,あかやき土器, 土錘，足金物,手鎌,釘 北宋銭 中国青磁・白磁・瓷器系陶器	
第46次調査		古代 中世	竪穴住居跡2	土師器,ミニチュア土器，土製勾玉 切羽 唐銭,北宋銭	
第47次調査		なし			試掘確認調査
第48次調査		古代	竪穴住居跡,土坑,溝跡		試掘確認調査（保存）
第49次調査		なし			試掘確認調査
第56次調査		古代	土坑1		
第57次調査		古代 近世	竪穴住居跡6,土坑1 掘立柱建物跡2, 土坑5,溝跡5	土師器,須恵器,あかやき土器,土錘, 砥石 北宋銭,寛永通宝	

要約	盛南地区遺跡群は，平安時代初頭の延暦 22 年（803）に朝廷が造営した古代城柵「志波城」の南東方に位置し，7 世紀より続く一大勢力「志波エミシ」が 10 世紀まで拠点とした古代集落群が主に確認されている。台太郎遺跡は，古代の竪穴住居跡が約 660 棟を数え，盛南地区遺跡群で最大の集落である。本書掲載の調査では奈良・平安時代の竪穴住居跡 35 棟を精査し，多数の遺物が出土しており，主に遺跡中央部と西部の集落の様相を明らかにすることができた。また，不整五角形に堀が囲む中世の居館跡の西部を精査し，堀跡及び掘立柱建物を確認することができた。

盛南地区遺跡群発掘調査報告Ⅳ

－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成 13 ～ 18 年度発掘調査①－
台太郎遺跡

平成 24 年 9 月 30 日

編集　盛岡市遺跡の学び館
〒 020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1
電話 019-635-6600　ﾌｧｸｽ 019-635-6605
URL http://www.city.morioka.iwate.jp/
moriokagaido/rekishi/manabikan/index.html

発行　独立行政法人都市再生機構
盛岡市・盛岡市教育委員会

印刷　株式会社 光文社
〒 020-0106 盛岡市東松園 3-12-1

＜表紙の色＞
浅縹（あさはなだ）：奈良・平安時代の律令国家では，儀式において官人は位階に応じた色の袍（ほう：ロングジャッケトのようなもの）を着用しました。浅縹は，初位の色でした（延喜式等）。